ISSN　1883-132X

沖縄県立博物館・美術館年報

（令和３年度　実績報告）

No. 15

２０２２

沖縄県立博物館・美術館

目　次

概要・・ 1

Ⅰ　沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
Ⅱ　日誌抄・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
Ⅲ　施設・設備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
Ⅳ　組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
Ⅴ　沖縄県立博物館・美術館協議会・・・・・・・・・・・・・ 20
Ⅵ　予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 21
Ⅶ　収蔵資料現在高・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22

利用統計・・ 23

Ⅰ　入館者統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
１．総入館者集計　２．団体別入館者集計　３．展覧会別入館者集計
４．2021年度（令和３）月間別入館者数　５．年間入館者数の年次推移　６．減免申請集計
７．団体入館内訳
Ⅱ　施設利用者統計・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・28
１．月別施設利用集計　２．当館主催事業及び施設貸出内訳　３．県民ギャラリー貸出件数

博物館・・・ 43

Ⅰ　調査研究等の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
１．調査研究の概要　２．博物館総合調査　－宮古諸島総合調査－
３．博物館共同研究事業　４．「一括交付金」活用事業
５．博物館収蔵品WEB図鑑製作発信事業　６．調査・研究・講演・著作論文等
７．職員研修
Ⅱ　展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
１．展示活動概要　２．常設展
３．常設展　部門展示替え／ミニ企画 ／エントランスホール展示
４．特別展　「みんなの進化展　～命はつながっている～」
５．企画展　「新収蔵品展　令和二年度収蔵資料」
６．企画展　「海とジュゴンと貝塚人　－貝塚がかたる9000年のくらし－」
７．企画展　「大嶺薫コレクション展」
８．企画展　「ゆる～いかたつむり展　ラセンに秘められた沢山の不思議」
９．琉球王国文化遺産集積・再興事業　巡回展「手わざ展」
Ⅲ　教育普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
１．博物館教育普及活動の概要　２．学校連携事業　３．博物館体験学習教室
４．博物館文化講座　５．学芸員講座　６．学芸員による常設展示解説会
７．学芸員によるバックヤードツアー　８．夏休み！こどもフェスタ2021　９．博物館ボランティア活動
10．ふれあい体験室　11．常設展に関する取り組み　12．普及資料の活用
13．ボランティアによる展示ガイド
Ⅳ　資料の収集・保存管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
１．収蔵資料現在高　２．2021年度（令和３）新収蔵資料高
３．2021年度（令和３）新収蔵資料目録　４．所蔵指定文化財　５．修理事業
６．資料保存管理事業　レプリカ・剥製製作（生物資料）　７．資料収集事業
８．資料貸出　９．写真貸出

美術館・・・ 93

Ⅰ　調査研究等の活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 94
１．調査研究の概要　２．調査・研究・講演・著作論文等
Ⅱ　展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 97
１．展示活動概要　２．コレクション展（常設展）
３．企画展　「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」
４．企画展　「琉球の横顔　－描かれた「私」からの出発」
Ⅲ　教育普及活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 102
１．美術館教育普及活動の概要　２．鑑賞活動支援　３．ミュージアム・ツアー
４．コレクション・企画展関連催事　５．ワークショップ　６．アートコンクール
７．教職員講座・実技研修会　８．職場体験　９．ニシムイ出前講座

10. 慰霊の日関連催事　11. 複製画使用報告
Ⅳ　資料収集・保存管理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 113
1．収蔵作品現在高　2．2021年度（令和３）新収蔵作品高
3．2021年度（令和３）新収蔵作品目録　4．作品収集事業　5．保存管理事業
6．作品貸出

一般財団法人　沖縄美ら島財団（指定管理者）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・117

Ⅰ　沖縄美ら島財団概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
Ⅱ　運営方針・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 118
1．管理運営の基本方針　2．管理運営方針
Ⅲ　組織・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 120
1．管理組織図　2．職員構成
Ⅳ　展示活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
1．展示活動概要
Ⅴ　教育・イベント活動・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 121
1．ワークショップ・イベント等
Ⅵ　広報事業に関する業務・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 126
Ⅶ　調査・研究・講演・著作論文等の活動・・・・・・・・・・ 129
1．調査・研究等　2．職員研修（研修会）

全館共通事業・・132

Ⅰ　学芸員実習・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 133
1．博物館実習　2．美術館実習　3．職場体験
Ⅱ　国際博物館の日・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 134
Ⅲ　移動展・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
Ⅳ　燻蒸・消毒処理・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
Ⅴ　刊行物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 135
Ⅵ　展示会一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 137

その他の活動・・139

Ⅰ　沖縄県博物館協会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
Ⅱ　全国の組織との関わり・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 140
1．日本博物館協会　2．九州博物館協議会　3．全国歴史民俗系博物館協議会
Ⅲ　沖縄県立博物館友の会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・141
Ⅳ　特定非営利活動法人沖縄県立美術館支援会happ・・・・・142

関係法規抄録・・144

○博物館法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 145
○博物館法施行令・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
○博物館法施行規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 150
○博物館の登録に関する規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 156
○沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及び
その管理に属する行政機関の長に委任する規則・・・・・・・・・・・ 160
○沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための
組織に関する規則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例・・・・・・・・ 162
○沖縄県立博物館・美術館管理規則・・・・・・・・・・・・・・・・・ 165
○沖縄県立博物館・美術館保管資料の利用に関する取扱要領・・・・・・ 174
○沖縄県立博物館・美術館共催及び後援等に関する取扱要領・・・・・・ 181
○沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会設置要綱・・・・・・・・ 184

・2022年度（令和２）総入館者集計（訂正版）

【沖縄県立博物館・美術館年報（令和３年度　実績報告）№15　正誤表】

頁	誤	正
83	「１　収蔵資料現在高」表　歴史資料：購入「2,933」	「2,932」
83	「１　収蔵資料現在高」表　総計：購入「8,674」	「8,673」
83	「１　収蔵資料現在高」表　歴史資料：寄贈「10,431」	「10,432」
83	「１　収蔵資料現在高」表　総計：寄贈「81,521」	「81,522」
83	「２　2021 年度（令和３）新収蔵資料高」表　歴史資料：購入「1」	「0」
83	「２　2021 年度（令和３）新収蔵資料高」表　総計：購入「36」	「35」
83	「２　2021 年度（令和３）新収蔵資料高」表　歴史資料：寄贈「104」	「105」
83	「２　2021 年度（令和３）新収蔵資料高」表　総計：寄贈「128」	「129」
85	【購入】一覧表　「歴史　木像「大黒様」　１　琉米歴史研究会　中城村」→　【寄贈】一覧表へ訂正	

概　要

Ⅰ　沿革
Ⅱ　日誌抄
Ⅲ　施設・設備
Ⅳ　組織
Ⅴ　沖縄県立博物館・美術館協議会
Ⅵ　予算
Ⅶ　収蔵資料現在高

Ⅰ 沿革

【前史】

1936年（昭和11）、旧首里城北殿に沖縄県教育会附設郷土博物館が創設されたが、沖縄戦により全焼した。終戦後、米国海軍軍政府ウィラード・Ａ・ハンナ少佐とＪ・Ｔ・ワトキンス少佐が、アメリカに沖縄の歴史文化を紹介するために焼土の中から仏像や陶器などの文化財を収集し、1945年（昭和20）８月石川市（現うるま市）東恩納に沖縄陳列館を創設した。

一方、首里城周辺では、廃墟の中から残欠文化財の収集が行われ、1946年（昭和21）３月頃、首里市汀良に首里市立郷土博物館が設立された。

【創設】

1946年（昭和21）４月24日、沖縄陳列館は沖縄民政府に移管され、東恩納博物館と改称した。また、1947年（昭和22）12月には、首里市立郷土博物館も沖縄民政府に移管され、首里博物館と改称した。

【発展】

1953年（昭和28）、東恩納博物館が移転して、首里博物館と合併した。５月には、龍潭池畔に赤瓦屋根の本館とペルリ記念館が建設され、落成式の当日、戦後アメリカに持ち去られていた「おもろさうし」等の文化財が返還された。

1955年（昭和30）９月、沖縄民政府立首里博物館から琉球政府立博物館に改称した。さらに、1966年（昭和41）には首里大中町の旧中城御殿跡に新館を建設して移転した。

1972年（昭和47）の日本復帰に伴い、名称を沖縄県立博物館と改め、1973年（昭和48）に２階部を増築し、展示スペースを拡充した。

1980年代末（昭和60年代）頃から建物の老朽化が顕著になり、新館建設・移転が具体的に計画される。

2004年（平成16）、那覇新都心（おもろまち）に新館の建設を着工した。首里在の博物館（旧博物館）は新館への移転準備のため、2006年（平成18）３月に閉館した。

2007年（平成19）11月１日、美術館を併設した沖縄県立博物館・美術館として開館した。

【あゆみ】

1946（昭和21）	４月	沖縄陳列館を「東恩納博物館」と改称し、沖縄民政府の所管となる。（24日）
1947（昭和22）	12月	前年３月に首里汀良町に設立された「首里市立郷土博物館」が民政府に移管され、「沖縄民政府立首里博物館」に改称する。
1953（昭和28）	３月	「東恩納博物館」を「首里博物館」に移転合併する。
	５月	「首里博物館」は汀良町から当蔵町に移り、龍潭池畔に瓦葺の本館が完成した。 米国民政府によりペルリ来琉百周年記念事業の一環として、「ペルリ記念館」を附設して落成、贈呈される。 落成当日、米国大統領から戦後にアメリカに渡っていた「おもろさうし」等文化財が返還された。（26日）
1954（昭和29）	８月	ハワイから三線「江戸与那」が返還される。
1955（昭和30）	９月	「首里博物館」の名称を「琉球政府立博物館」に改称する。
1963（昭和38）	４月	米国民政府から河島コレクションが贈呈される。
1965（昭和40）	９月	大中町の旧尚家屋敷跡（中城御殿）を購入する。
1966（昭和41）	10月	米国による援助で鉄筋コンクリート建の新館を新敷地に建設し移転する。
	11月	新館開館記念「現代美術展」が開催され、同時に尚家所蔵文化財も特別陳列された。（３日）
1968（昭和43）	９月	太宰府天満宮から鄭元偉書「徳高」扁額が寄贈される。（30日）
1970（昭和45）	10月	沖縄タイムス社及びG. H. カー博士より前庭に花園を贈呈される。
1971（昭和46）	２月	八重山出土の陶器類約500点、検察庁より譲渡される。
1972（昭和47）	２月	サントリー美術館との共催で、『50年前の沖縄』写真展が開催される。 サントリー美術館寄贈の植樹造園譲与式が行われた。（27日）
	５月	琉球切手原画及び切手類、郵政庁より譲渡される。（13日） 日本への復帰に伴い「沖縄県立博物館」と改称する。
1973（昭和48）	２月	国庫補助により２階部を増築し、展示室を３室増設する。
	５月	「田名家文書」の寄託をうける。（９日）
	７月	琉球切手原画が沖縄郵政管理事務所より譲渡される。（16日）
	12月	琉球新報社から映画フィルム「沖縄」「海の民・沖縄島物語」「南の島・琉球」の３巻を寄贈される。（17日）

1973（昭和48）　12月　多和田真淳氏考古資料の寄託をうける。（19日）
1974（昭和49）　11月　大阪天満宮から浦添王子朝熹書「徳馨」の寄託をうける。（27日）
糸満市摩文仁の平昌博物館から全資料譲与される。
1976（昭和51）　４月　創立30周年記念式典を行う。(24日)
７月　大英博物館から皇太子殿下に贈られた始祖鳥のレプリカ標本が寄贈される。
12月　『博物館30年の歩み展』開催。
1977（昭和52）　９月　玉陵石獅子を玉陵へ移管。
11月　円覚寺の鐘、前庭に展示。
1978（昭和53）　３月　Ｇ．Ｈ．カー博士より資料寄贈。
７月　円覚寺の鐘楼が前庭に完成。
1979（昭和54）　２月　尚裕氏より玉陵石獅子レプリカ２体が寄贈される。
６月　特別展『沖縄の洞穴と洞穴生物』開催。
1980（昭和55）　１月　特別展『日本の美－救世熱海美術館名品展－』及び『沖縄県立博物館名品展』開催。
２月　「移動博物館」を久米島の具志川・仲里両村で開催する。以後、離島市町村で毎年実施する。（2008年度からは「移動展」に改称）
８月　特別展『琉球のシダ植物』開催。
11月　特別展『失われた生物たち－大恐竜展』開催
1981（昭和56）　３月　博物館法に基づき「登録博物館」として登録される。（３月30日付け）
５月　仲嶺俊子氏より貝類標本約2,000点が寄贈される。
８月　Ｇ．Ｈ．カー博士より図書、写真等が寄贈される。
10月　特別展『沖縄の美－日本民芸館蔵－』及び『戦前の沖縄写真展』開催。
1982（昭和57）　５月　新たに常設展として自然部門を設置。
７月　企画展『沖縄の昆虫』開催。
10月　特別展『熊本県・沖縄県交流展－熊本の歴史と文化』開催。
1983（昭和58）　５月　企画展『琉球の漆工芸』開催。
11月　特別展『沖縄県・熊本県交流展－沖縄の美 風土と美術工芸』を熊本県立美術館にて開催。
1984（昭和59）　６月　企画展『玉城朝薫生誕三百年記念展－琉球芸能の世紀』開催。
７月　企画展『沖縄のシダ・貝・昆虫標本展』開催。
10月　企画展『今帰仁グスク展』開催。
1985（昭和60）　２月　企画展『紅型衣装と型紙展』開催。
３月　大嶺薫コレクションが贈呈される。
11月　特別展『グスクーグスクが語る古代琉球の歴史とロマン』開催。
1986（昭和61）　２月　特別展『大嶺薫コレクション－美術工芸の美を求めて』開催。
12月　天野鉄夫コレクション1,588点の寄贈をうける。
1987（昭和62）　７月　「旧大安禅寺の鐘」が米国より返納寄贈され、泊高校で贈呈式が行われる。
天野ハル氏より亡夫鉄夫氏収集コケ類1,562点が寄贈される。
10月　スポーツ芸術・特別展『沖縄の自然･歴史･文化』『沖縄近代の絵画－物故作家』開催。
企画展『田名家収蔵品展－ある首里士族の400年』開催。
12月　企画展『現代沖縄の陶芸－天野鉄夫コレクション』開催。
1988（昭和63）　８月　特別展『ヤンバルの自然』開催。
11月　特別展『三線名器100挺展』開催。
1989（平成元）　11月　特別展『岡田コレクション・インドネシア更紗展』開催。
12月　企画展『真境名由康生誕100年記念「芸能資料展」』開催。
1990（平成２）　１月　特別展『大アンデス文明展』開催。
６月　湧田窯搬入。
８月　企画展『沖縄の野鳥』開催。
11月　企画展『沖縄の祭り』開催。
1991（平成３）　２月　企画展『技と美－大城志津子の世界－』開催。
８月　企画展『沖縄のチョウ展』開催。
９月　企画展『壺屋陶工遺作展』開催。
10月　特別展『アジアの祭りと芸能』開催。
1992（平成４）　２月　企画展『琉球の香り・あわもりの歴史と文化』開催。
３月　仲嶺俊子氏より貝類コレクションを寄贈される。
４月　旧中城御殿の石牆整備工事に伴う第１次埋蔵文化財発掘調査開始。（～７月３日）
６月　特別展『古代メキシコ至宝展』開催。

1992（平成４）　８月　特別展『沖縄の貝類ー海からの贈りもの』開催。
　　10月　復帰20周年記念特別展『琉球王国ー大交易時代とグスク』開催。
1993（平成５）　１月　特別展『尚家継承琉球王朝文化遺産展』開催。
　　２月　企画展『謝花雲石展』開催。
　　３月　ハワイ在住の伊福盛寿氏から50点余のコレクションが寄贈される。
　　７月　旧中城御殿石垣工事にかかる第２次発掘調査開始。（～９月２日）
　　企画展『芭蕉布と平良敏子』開催。
　　８月　特別展『沖縄の川と生きもの』開催。
　　10月　企画展『刻まれた歴史ー沖縄の石碑と拓本』開催。
　　企画展『琉球王朝時代の楽器ー三線と御座楽』開催。
1994（平成６）　７月　特別展『子どもの世界』開催。
　　旧中城御殿石垣工事にかかる第３次発掘調査開始。（～８月20日）
1995（平成７）　３月　横浜国立大学教授長谷川善和氏より鹿類の化石約25,000点が寄贈された。
　　６月　戦後50周年記念特別展『甦る沖縄・戦災文化財と戦後生活資料展』開催。
1996（平成８）　３月　栗田文子氏よりワラザン資料を寄贈される。
　　７月　特別展『大久米島展ーしぜん・ひと・もの』開催。
　　10月　『新収蔵品展・ワラザン展』開催。
　　福田経子氏より「フクダコレクション」贈呈
　　12月　企画展『沖縄県立博物館50年の歩み』開催、創立50周年式典を行う。
1997（平成９）　４月　特別展『アルゼンチンの大恐竜展』開催。
1998（平成10）　７月　企画展『琉球王国時代の植物標本ーペリーが持ち帰った植物たち』開催。
　　11月　特別展『包むこころ　ふろしき』開催。
1999（平成11）　８月　特別展『三線のひろがりと可能性』開催。
　　10月　企画展『日本の技ー伝統のかたち』開催。
　　（第７回全国重要無形文化財保持団体秀作展『日本の伝統美と技の世界』巡回展）
　　11月　ホノルル美術館からG.H.カー博士コレクション（考古資料6,000点余）寄贈。
2000（平成12）　２月　企画展『工芸王国ーきらめく手わざの世界を沖縄から』開催。
　　７月　サミット開催記念特別展『大琉球展』開催。
　　11月　ハワイ移民100周年記念特別展『日系移民１世紀展ーFrom Bento to Mixed Plate』開催。
2001（平成13）　２月　企画展『沖縄の繊維・染料植物展』開催。
　　３月　企画展『工芸王国ー人・技・心』開催。
　　11月　特別展『かざりとかたち』開催。
2002（平成14）　８月　特別展『港川人展』開催。
　　10月　企画展『沖縄の文化財展』開催。
2003（平成15）　２月　企画展『おきなわナースものがたり』開催。
　　７月　企画展『旅する種子ー運ばれるための巧妙なしかけ』開催。
　　10月　企画展『あじまぁ　沖縄の伝統とくらしー沖縄県立博物館収蔵資料展』を国立民族学博物館で開催。
　　特別企画展『沖縄織物へのメッセージー田中俊雄の研究』開催。
2004（平成16）　２月　企画展『戦前・戦後の文化財保護ー仲座久雄の活動をとおして』開催。
　　３月　企画展『工芸王国ーてわざの今、そして未来へ』開催。
　　８月　企画展『沖縄歴史を綴る秘宝展』（沖縄コレクター友の会主催）開催。
　　11月　企画展『自然界のエイリアンー海をこえて持ちこまれた動物たち』開催。
2005（平成17）　２月　特別展『いま・むかし、おもちゃ大博覧会ー入江正彦　児童文化史コレクション』開催。
2006（平成18）　２月　閉館記念特別展『柳宗悦の心と眼ー柳宗悦の民藝と巨匠たち展』開催。
　　３月　『ありがとう・さよなら』キャンペーン。（22日～31日　無料入館）
　　企画展『わたしの宝もの展』（博物館友の会主催）開催。
　　４月１日から博物館新館移転準備のため2007年（平成19）10月末まで休館する。
　　７月　博物館新館展示工事安全祈願祭。（於：波之上）
　　８月　宮城宏友氏より鳥籠７点寄贈。（11日）
　　10月　尚順男爵関係資料寄贈。（19日）
　　謝花雲石書「萬國陽和」屏風の寄贈。（26日）
　　12月　稲嶺一郎関係資料寄贈。（26日）
2007（平成19）　２月　坂口總之輔氏カメラ寄贈。（16日）

2007（平成19）　３月　新館へ事務所移転(29日)。首里在の沖縄県立博物館閉館式(30日)を行い、全ての組織・機能等は教育庁文化施設建設室に、また首里の博物館敷地及び建物の管理は教育庁文化課にそれぞれ引き継ぐ(31日)。
４月　新館での事務を開始する。（１日）
７月　沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として文化の杜共同企業体が指定を受ける。
８月　指定管理者・文化の杜共同企業体が開館事前準備のため事務をはじめる。
11月　那覇市おもろまちに沖縄県立博物館・美術館が開館する。（１日）
同時に、博物館新館開館記念展『人類の旅－港川人の来た道－』と美術館開館記念展『沖縄文化の軌跡 1872-2007』を開催する。
2008（平成20）　２月　博物館企画展『新収蔵品展－平成17・18年度収蔵資料』開催。
３月　指定管理者企画展『世界の現代アーティスト50人展』開催。
美術館常設展開会式。（25日）
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成19年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『情熱と戦争の狭間で－無言館・沖縄・画家たちの表現』開催。
美術館企画展『新収蔵品展　ポリエドールー沖縄・アジアの多様性』開催。
７月　指定管理者特別展『恐竜ミュージアム2008』開催。
指定管理者企画展『しまくとぅば』開催。
９月　博物館企画展『ずしがめの世界』開催。
開館一周年記念博物館特別展『甦る琉球王国の輝き』開催。
11月　美術館企画展『美術家たちの「南洋群島」』開催。
2009（平成21）　１月　博物館企画展『発掘された日本列島2008』開催。
博物館企画展『沖縄考古学ニュース』開催。
美術館企画展『移動と表現－変容する身体・言語・文化』開催。
４月　指定管理者企画展『アトミックサンシャインの中へ　in　沖縄』開催。
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成20年度資料』開催。
指定管理者自主事業『王昭展』開催。
７月　指定管理者企画展『豊潤の美を求めて－金城安太郎と高畠華宵』開催。
指定管理者企画展『琉球絵画展』開催。
９月　指定管理者企画展『オキナワデザインの現在』開催。
10月　博物館特別展『琉球使節、江戸へ行く！』開催。
美術館企画展『名渡山愛順展－名渡山愛順が愛した沖縄』開催。
12月　博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
2010（平成22）　１月　美術館企画展『タカエズトシコ展』開催。
２月　博物館企画展『造礁サンゴ展－楽園をつくった偉大な建築家』開催。
博物館企画展『ものづくり今昔』開催。
４月　総務班が設置され、３班体制となる。
指定管理者企画展『いわさきちひろ』展開催。
指定管理者自主事業『石川直樹写真展』開催。
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成21年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『遠き道－はて無き精進の道程』開催。
７月　指定管理者企画展『沖縄マンガ』展開催。
９月　指定管理者企画展『風土と建築』開催。
博物館特別展『海のクロスロード　八重山展』開催。
11月　美術館企画展『母たちの神－比嘉康雄』展開催。
12月　博物館・指定管理者企画展『アイヌ－美を求める心』開催。
2011（平成23）　１月　美術館企画展『安谷屋正義』展開催。
博物館企画展『琉球陶器の来た道』開催。
２月　博物館企画展『骨の科学』開催。
３月　博物館企画展平成22年度『大嶺薫コレクション展』開催。
４月　博物館企画展平成23年度『大嶺薫コレクション展』開催。
指定管理者企画展『國吉清尚』開催。
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成22年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『生誕100年記念展　岡本太郎と沖縄－ここが世界の中心だ』開催。
７月　指定管理者企画展『ロボット展』開催。
指定管理者企画展『印象派の誕生展』開催。
９月　美術館企画展『東松照明展＜太陽へのラブレター＞』開催。

2011（平成23）　10月　博物館企画展『第19回全国重要無形文化財保持団体秀作展「日本の伝統美と技の世界」』開催。
博物館企画展『沖縄県無形文化財工芸技術保持団体協議会設立10周年記念「工芸王国ー受けつがれる琉球のわざと美」』開催。
11月　博物館特別展『宇宙ー遙かなるロマンを求めて』開催。
2012（平成24）　１月　博物館企画展『檀王法林寺開創400年記念「琉球と袋中上人ーエイサーの起源をさぐる」』開催。
美術館企画展『沖縄の美術シリーズ３　玉那覇正吉』開催。
３月　指定管理者企画展『本土復帰40周年記念「田中一村展ー琉球弧で開花した美の世界」』開催。
４月　博物館企画展『沖縄復帰40周年記念「紅型BINGATA　琉球王朝のいろとかたち」』開催。
５月　指定管理者企画展『土門拳の昭和と沖縄』開催。
６月　博物館企画展『新収蔵品展ー平成23年度収蔵資料』開催。
博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
７月　指定管理者企画展『旅する仮面』開催。
指定管理者自主事業『お化け屋敷で科学する』展開催。（沖縄テレビ共催）
９月　美術館企画展『山田實展ー人と時の往来』開催。
博物館特別展『本土復帰40年記念「OKINAWAから沖縄へ」』開催。
11月　美術館企画展『復帰40周年記念「アジアをつなぐー境界を生きる女たち1984-2012」』開催。
12月　博物館企画展『大山盛保生誕100年記念　発見への情熱』開催。
2013（平成25）　２月　指定管理者自主事業『マリー・アントワネット物語』展開催。（沖縄タイムス共催）
指定管理者企画展『スタジオジブリ・レイアウト展』開催。
５月　博物館企画展『大嶺薫コレクションー探求する心とその世界ー』展開催。
博物館企画展『新収蔵品展ー平成24年度収蔵資料』開催。
指定管理者企画展『佐川美術館蔵　平山郁夫ー大唐西域画への道ー』開催。
７月　博物館特別展『海山川のおくりもの　目からウロコの大生き物展ー生物多様性ホットスポットJAPAN』開催。
指定管理者自主事業『ジミー大西作品展ー挑戦と革新ー』開催。
９月　美術館企画展『沖縄の美術シリーズ４　安次嶺金正展ー緑の抒情ー』開催。
11月　指定管理者企画展『京都　清水寺展』開催。
2014（平成26）　１月　美術館企画展『森山大道　終わらない旅　北/南』開催。
２月　博物館企画展『サキタリ洞遺跡発掘調査速報展』開催。
博物館企画展『三線のチカラー形の美と音の妙ー』開催。
４月　指定管理者企画展『木下晋展　生命の旅路』開催。
５月　指定管理者企画展『麗しき琉球の記憶ー鎌倉芳太郎が発見した“美”』開催。
博物館企画展『新収蔵品展ー平成25年度収蔵資料』開催。
７月　指定管理者企画展『20世紀フランス絵画展ー山形美術館　服部コレクションー』開催。
９月　博物館企画展　久米崇聖会創立100周年記念『久米村（クニンダ）ー琉球と中国の架け橋ー』開催。
美術館企画展『色彩と風のシンフォニー　内間安瑆の世界』開催。
11月　博物館企画展『大嶺薫コレクションーアジアへの眼差しー』開催。
博物館特別展『水中文化遺産～海に沈んだ歴史のカケラ～』開催。
2015（平成27）　１月　美術館企画展『ゴー・ビトゥイーンズ展　こどもを通して見る世界』開催。
２月　博物館企画展『イノシシとブタと私たち』開催。
３月　指定管理者企画展『報道カメラマン大城弘明×山城博明写真展ー二人が撮らえた沖縄・終わらない戦後』開催。
４月　博物館企画展『うちくいー沖縄のふろしきー』開催。
指定管理者企画展『ディズニー 夢と魔法の90年展ーミッキーマウスからピクサーまで』開催。
６月　美術館特別企画展『戦後70年 特別企画展　ニシムイ 太陽のキャンバス』開催。
７月　指定管理者企画展『深海探検　海底二万里の世界』開催。
指定管理者自主事業『大哺乳類展　ぼくらのなかまたち』開催。
９月　美術館企画展『石田尚志　渦まく光』開催。
博物館特別展『琉球弧の葬墓制ー風とサンゴの弔いー』開催。

2015（平成27）　11月　美術館企画展『沖縄の美術シリーズ５　大嶺政寛展－情熱の赤瓦　沖縄の原風景を求めて－』開催。
12月　博物館企画展『新収蔵品展－平成26年度収蔵資料－』開催。
博物館企画展『大嶺薫コレクション－探求する心とその世界－』開催。
2016（平成28）　１月　博物館企画展『大気と気象～見えない空気の“力と技”～』開催。
九州歴史資料館×沖縄県立博物館・美術館　企画展『沖縄の旧石器人と人類の起源』を九州歴史資料館にて開催。
２月　美術館企画展『木梨憲武展×20years』開催。
沖縄県立芸術大学×沖縄県立博物館・美術館 コラボ企画展『芸大の御宝展～ものとひとを つくる～』開催。
３月　美術館企画展『パブロ・ピカソ　ゲルニカ（タピスリ）沖縄特別展－戦後70年、今ゲルニカで考える－』開催。
４月　沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として一般財団法人沖縄美ら島財団が指定を受ける。
美術館企画展　文化勲章受章記念『志村ふくみ－母衣への回帰－』開催。
５月　博物館企画展『大嶺コレクション展－美をもとめて－』開催。
博物館企画展『新収蔵品展－平成27年度収蔵資料－』開催。
７月　博物館企画展『目からウロコの生物実験展～今年の夏は、ジッケン、タイケン、大ハッケン！』開催。
９月　博物館企画展　日本民藝館80周年『沖縄の工芸展－柳宗悦と昭和10年代の沖縄』開催。
11月　博物館特別展『港川人の時代とその後－琉球弧をめぐる人類の起源と展開－』開催。
12月　美術館企画展『夢の美術館－めぐりあう名画たち－　福岡市美術館・北九州市立美術館名品コレクション』開催。
2017（平成29）　１月　博物館企画展『琉球・沖縄の地図展～時空を超えて沖縄がみえる～』開催。
２月　博物館常設展示の充実強化を図るため、県指定文化財の梵鐘７口を加えて展示をリニューアル。屋外に大聖禅寺鐘（実物）を設置。
３月　美術館企画展　沖縄の美術シリーズⅥ『山元恵一展－まなざしのシュルレアリスム－』開催。
４月　美術館特別展『写真家が見つめた沖縄1972～2017』開催。
美術館特別企画展『開館十周年企画　安次富長昭展』開催。
５月　指定管理者企画展『やんばるの森の美』開催。
博物館企画展『新収蔵品展－平成28年度収蔵資料－』開催。
博物館企画展『博物館70年のあゆみ』開催。
美術館『《今帰仁城盛衰記》－知られざる金城安太郎の仕事』開催。
指定管理者企画展『やんばるの森の美－写真展－』開催。
７月　美術館『ベトナム絵画展』開催。
指定管理者企画展『水族館でも出会えない、海のビックリ生物展』開催。
大阪府立弥生博物館共催『沖縄の旧石器人と南島文化』（場所：弥生博物館）開催。
９月　博物館企画展『ウィルソンが見た沖縄』開催。
11月　博物館特別展『開館10周年特別展　海の沖縄』開催。
美術館企画展『開館10周年特別企画展　彷徨の海－旅する画家・南風原朝光と台湾、沖縄』開催。
12月　美術館企画展『開館10周年特別企画展　邂逅の海－交差するリアリズム』開催。
2018（平成30）　１月　人間国宝島袋正雄氏より県指定有形文化財「三線　与那城型　名玉城與那」の寄贈を受ける。
２月　博物館企画展『大嶺コレクション展－かざる－』開催。
美術館『大和コレクションⅧ』開催。
４月　美術館企画展『涯テノ詩聲　詩人　吉増剛造展』開催。
５月　博物館企画展『新収蔵品展－平成29年度収蔵資料－』開催。
７月　美術館『儀間比呂志の世界』開催。
９月　美術館企画展『宮城健盛展』開催。
11月　博物館特別展『縄文と沖縄－火焔型土器のシンボリズムとヒスイの道』開催。
サキタリ洞遺跡の発掘調査で、県内最古となる5500年前（縄文時代前期）の赤色顔料を確認。
12月　新島ユキ氏より、亡き夫で植物学者の新島義龍氏の植物関係写真資料9,881点が寄贈される。

2019（平成31）　１月　美術館『伊志嶺隆と平敷兼七』開催。
博物館企画展『大嶺薫コレクション展－吉祥－』開催。
2019（平成31）　２月　博物館企画展『琉球三線楽器保存・育成会創立30周年記念事業　沖縄が誇る家宝の三線展』開催。
３月　指定管理者企画展『ホキ美術館名品展』開催。
４月　博物館企画展『新収蔵品展－平成30年度収蔵資料－』開催。
博物館企画展『大嶺薫コレクション展－探求する心とその世界－』開催。
2019（令和元）　７月　美術館コレクション展『金城安太郎展』、『沖縄を描いた画家　1930 - 1950’s』開催。
９月　博物館企画展『台湾－黒潮でつながる隣（とぅない）ジマー』開催。
美術館企画展『上條文穂と波多野泉　現代彫刻展』開催。
美術館コレクション展『真喜志勉　ドローイング展』開催。
10月　美術館コレクション展『作家の視点、作品の視点』開催。
11月　博物館特別展『グスク・ぐすく・城－動乱の時代に生み出された遺産－』開催。
12月　美術館企画展『作家と現在』開催。
2020（令和２）　２月　博物館特別展『手わざ－琉球王国の輝き－』開催。
美術館コレクション展『石田尚志展』開催。
美術館コレクション展『大城精徳の仕事』開催。
指定管理者企画展『みんなのレオ・レオーニ展』開催。
４月　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、４月10日から臨時休館。（～５月20日）
５月　博物館企画展『激動の明治・大正の沖縄　第11代齋藤用之助の足跡から』開催。
博物館企画展『新収蔵品展－令和元年度収蔵資料－』開催
８月　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止により、８月２日から臨時休館。（～９月５日）
９月　博物館特別展『岩石　THE ROCK　－石ころから見える地球のダイナミズム－』開催。
美術館企画展『稲嶺成祚　The Exhibition of INAMINE Seiso』開催。
12月　博物館企画展『沖縄の藍　－自然と人の織りなす製藍の技－』開催。
博物館企画展『大嶺薫コレクション展』開催。
指定管理者企画展『名画を読み解く－珠玉の東京富士美術館コレクション－』開催。
2021（令和３）　２月　指定管理者企画展『よみがえる正倉院宝物　－再現模造にみえる天平の技－』開催。
３月　美術館企画展『石川真生展　醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。』開催。
５月　博物館企画展『新収蔵品展－令和２年度収蔵資料－』開催。
新型コロナウイルス感染症拡大防止により、５月23日から臨時休館。（～７月11日）
７月　博物館特別展『みんなの進化展～命はつながっている～』開催。
新型コロナウイルス感染症拡大防止により、７月22日から臨時休館。（～９月30日）
９月　琉球王国文化遺産集積・再興事業、模造復元品「円覚寺仁王像」（初公開）に関する記者発表。（17日）
10月　博物館企画展『海とジュゴンと貝塚人』開催。
サキタリ洞遺跡調査成果記者発表「日本最古の着色された装飾品の発見について」。（21日）
11月　釣鐘（米国フロリダ州）の返還式典。（２日）
美術館企画展『琉球の横顔－描かれた「私」からの出発』開催。
NPO法人琉米歴史研究会寄贈、「米国から返還された大黒様」に関する記者発表。（24日）
12月　博物館企画展『かたつむり展－ラセン館巡回展－』開催。
2022（令和４）　３月　今良子氏より、今英男資料（平成の首里城復元資料〈木彫〉）が寄贈され、感謝状贈呈式を行う（知事出席）。（６日）

【歴代館長】

東恩納博物館
大嶺　　薫（1946年４月～1953年３月）

首里博物館
豊平　良顕（1947年12月～1948年３月）
原田　貞吉（1948年８月～1953年３月）

沖縄民政府立首里博物館
原田　貞吉（1953年３月～1955年５月）

琉球政府立博物館

山里　永吉（1955年５月～1958年８月）　金城増太郎（1958年９月～1961年12月）
大城　知善（1962年２月～1969年11月）　外間　正幸（1969年12月～1972年４月）

沖縄県立博物館

外間　正幸（1972年５月～1981年３月）　大城徳次郎（1981年４月～1983年３月）
大城　立裕（1983年４月～1986年３月）　大城　宗清（1986年４月～1992年３月）
宜保榮治郎（1992年４月～1994年３月）　糸数　兼治（1994年４月～1996年３月）
當間　一郎（1996年４月～1999年３月）　大城　将保（1999年４月～2000年３月）
平田　與進（2000年４月～2002年３月）　當眞　嗣一（2002年４月～2005年３月）
名嘉　政修（2005年４月～2006年３月）　宮城　清志（2006年４月～2007年３月）
新垣　隆雄（2007年４月～2007年10月）

沖縄県立博物館・美術館

牧野　浩隆（2007年11月～2011年３月）　白保　台一（2011年４月～2013年２月）
安里　　進（2013年５月～2016年３月）　田名　真之（2016年４月～　　）

Ⅱ　日誌抄（2021年４月１日～2022年３月31日）

2021年（令和３）

４月　１日　令和３年度定期人事異動発令式
５日　令和３年度全体顔合わせ会、消防設備説明会、IPM研修
６日　美術館コレクション展「沖縄美術の流れ(写真)」山田實作品＜こどもたちのオキナワ＞シリーズ開幕
15日　沖縄県立芸術大学 波多野学長来館（館長）
19日　委員監査
20日　明和津波襲来250年 博物館エントランスミニ展示「大津波の痕跡を探る」開幕
20日　指定管理者自主企画展「沖縄の船 サバニ －過去・現在・未来－」開幕
21日　ボランティア全体会（館長）
27日　美術館企画展「石川真生展－醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。－」後期展示開始

５月　11日　「国際博物館の日」パネル展開幕
14日　兵庫県立歴史博物館　藪田館長来館（館長）
17日　「新収蔵品展」マスコミ内覧会、感謝状贈呈式（博物館副館長）
18日　「新収蔵品展－令和２年度収蔵資料－」開幕
22日　「国際博物館の日」博物館常設展・美術館コレクション展無料開放
23日　臨時休館（新型コロナ初ウイルス感染症拡大防止のため）（～６月20日）
24日　在沖米国総領事館ロバート・ケプキー総領事来館・退任挨拶（館長）

６月　４日　滋賀大学国際文化システム特殊講義（世界遺産学）遠隔講義実施（館長）
21日　臨時休館の延長（新型コロナ初ウイルス感染症拡大防止のため）（～７月11日）

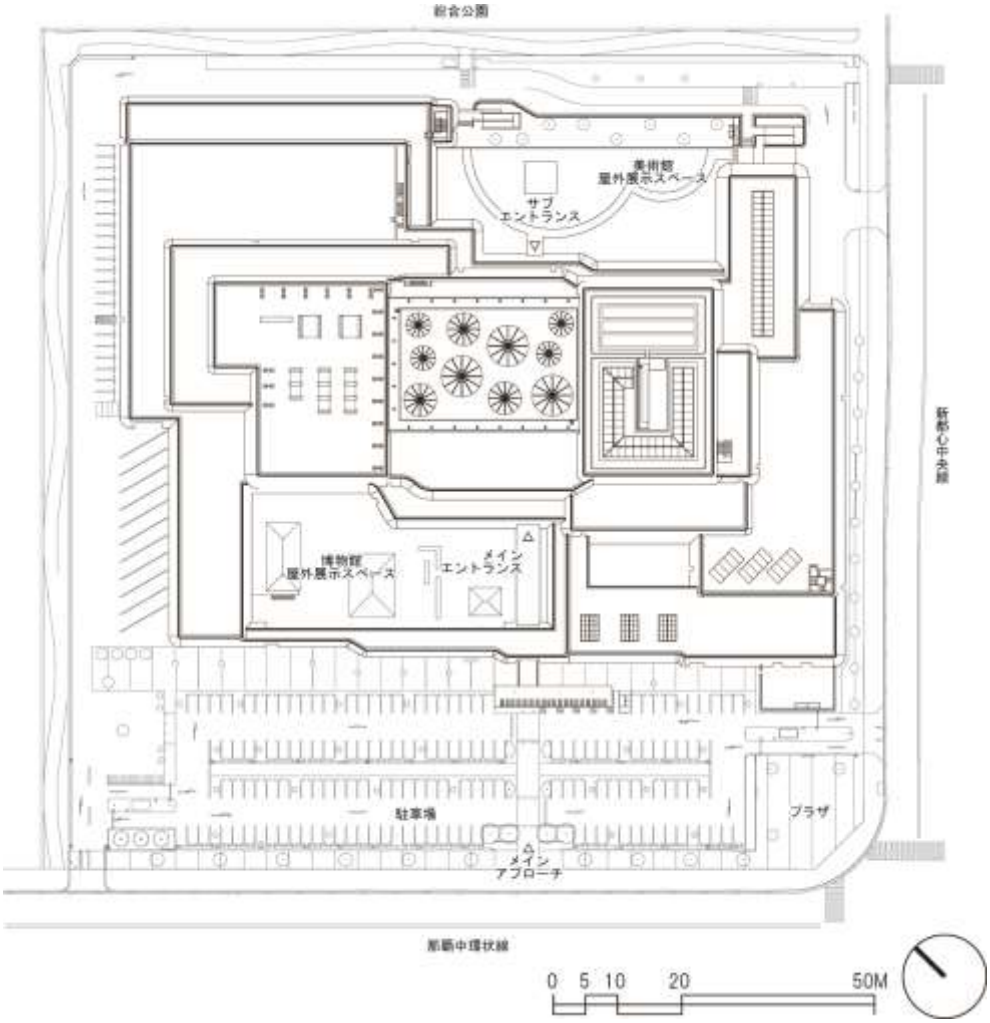
７月　１日　全館燻蒸消毒（７月４日まで館内立入禁止）
12日　美術館コレクション展内覧会
13日　開館（引き続き一部施設は当面の間休室・休業(ふれあい体験室、ミュージアムカフェ)及び当面の間一部イベントの中止又は延期）
13日　美術館コレクション展「沖縄美術の流れ(写真)石川文洋とベトナム戦争)」「川平惠造展」「沖縄美術の流れ(絵画・彫刻・工芸)」開幕
13日　アジア国際博物館オンラインフォーラム（第44回世界遺産大会）（館長）
19日　職員２名に新型コロナウイルス感染症対策業務関係課へ兼務人事発令
20日　みんなの進化展内覧会（博物館副館長）
21日　博物館特別展「みんなの進化展－命はつながっている－」開幕
22日　再度の臨時休館（新型コロナ初ウイルス感染症拡大防止のため）（～７月31日）
28日　在東京米国大使館広報・文化交流担当公使 キャロリン・グラスマン氏来館視察（館長）

８月　１日　臨時休館の延長（新型コロナ初ウイルス感染症拡大防止のため）（～８月15日）
２日　新型コロナウイルス感染症対応業務のため博物館班職員１名が兼務発令先へ着任
９日　新型コロナウイルス感染症対応業務のため美術館班職員１名が兼務発令先へ着任
16日　臨時休館の再延長（新型コロナ初ウイルス感染症拡大防止のため）（～８月31日）
23日　令和３年度博物館班 学芸員実習（前期）（～27日）

	30日	令和３年度博物館班 学芸員実習（後期）（～９月３日）
	30日	令和３年度美術館班 学芸員実習（～９月１日）
９月	１日	臨時休館の再々延長（新型コロナ初ウイルス感染症拡大防止のため）（～12日）
	13日	臨時休館の３度目延長（～30日）
	17日	琉球王国文化遺産集積・再興事業の成果（完成した円覚寺仁王像初公開）に関する記者発表（館長）
	30日	令和３年度第１回美術品等収集委員会（館長）
10月	１日	開館（引き続き一部施設は当面の間休室(ふれあい体験室)）
	15日	博物館企画展「海とジュゴンと貝塚人 ー貝塚が語る9000年のくらしー」開会式（館長）
	16日	第50回 沖縄県芸術文化祭開会式（館長）
	19日	琉球王国文化遺産・集積再興事業巡回展「手わざー琉球王国の文化ー」開幕（於：九州国立博物館）（館長）
	21日	サキタリ洞遺跡調査成果記者発表「日本最古の着色された装飾品」（館長）
	29日	和歌山県国民文化祭開会式視察出張（～31日）（館長）
11月	１日	琉球歴史文化の日 博物館常設展・美術館コレクション展無料開放
	２日	釣鐘（米国フロリダ州）返還式典（館長）
	２日	琉球の横顔展内覧会（館長）
	３日	おきみゅー誕生祭開催、博物館常設展・美術館コレクション展無料開放
	３日	美術館企画展「琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発」開幕
	３日	第５回アートコンクール表彰式（館長）
	４日	沖縄県文化功労者表彰式 出席（美術館副館長）
	８日	消防訓練
	15日	復帰50周年記念事業検討に向けた有識者会議（博物館副館長）
	20日	和歌山県国民文化祭閉会式視察出張（～21日）（館長）
	20日	比嘉春潮賞授賞式出席（博物館副館長）
	23日	美術館コレクション展「石川文洋とベトナム戦争」「沖縄美術の流れ」後期展示開始
	24日	NPO法人琉米歴史研究会寄贈「米国より返還された大黒様」記者発表（館長）
	30日	博物館常設展歴史部門展示室 中城城跡国史跡指定記念特集展「中城村のグスクー中城グスクと新垣グスクー」開幕
12月	14日	「ミニ軽石展「奇跡の大型漂着軽石」から1300kmを旅した軽石は何を語る？」開幕
	14日	指定管理者自主企画展「世界の切手でみるランの物語」開幕（館長）
	16日	令和３年度　沖縄県博物館協会秋研修会（ＷＥＢ開催）（館長）
	21日	博物館企画展「ゆる～い かたつむり展ーかたつむりミュージアム ラセン館巡回展ー」開幕
	27日	指定管理者制度運用委員会（館長）
	28日	仕事納め
	29日	年末年始休館（～１月３日）
2022年（令和４）		
１月	４日	仕事始め
	12日	指定管理者自主企画展「ザトウクジラ展」開幕
	15日	琉球王国文化遺産・集積再興事業巡回展「手わざー琉球王国の文化ー」開幕（於：東京国立博物館）（館長）
	19日	博物館常設展歴史部門展示室「平成の首里城復元ー彫刻家・今英男（いまひでお）ー」開幕
	29日	琉球王国文化遺産・集積再興事業巡回展「手わざー琉球王国の文化ー」開幕（於：久米島博物館）
	29日	美術館コレクション展「REFLECTIONSー時代を見る眼ー」開幕
２月	５日	琉球王国文化遺産集積・再興事業シンポジウム「甦る琉球王国の美と手わざー模造復元と技術継承のあり方ー」開催（館長）
	10日	行政評価事務所ヒアリング
	11日	指定管理者自主企画展「首里城美術工芸品の現状とこれから」開幕
	16日	沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科「第33回卒業・修了作品展」開幕
	16日	沖縄県立芸術大学卒展表彰式（館長）
３月	３日	沖縄県立博物館・美術館協議会
	６日	今英男資料（平成の首里城復元資料〈木彫〉）寄贈、感謝状贈呈式（知事出席）
	９日	定期監査
	18日	博物館常設展歴史部門展示室「復帰50年 沖縄復帰前展」開幕

22日　第２回消防訓練
28日　伝達式（紺綬褒章対象者）（館長）
29日　沖縄県文化財保護審議会（館長）

Ⅲ 施設・設備



建築概要

●敷地面積	31,287㎡
●建築面積	13,452㎡
●延床面積	23,721㎡
博物館専有面積	10,478㎡
美術館専有面積	7,537㎡
共有面積	5,708㎡
●高さ・最高高さ	GL＋21.8m
●駐車場	
一般駐車場	158台
（うち身障者用4台）	
大型バス駐車場	10台
駐輪場	25台
関係者駐車場	22台

供用施設

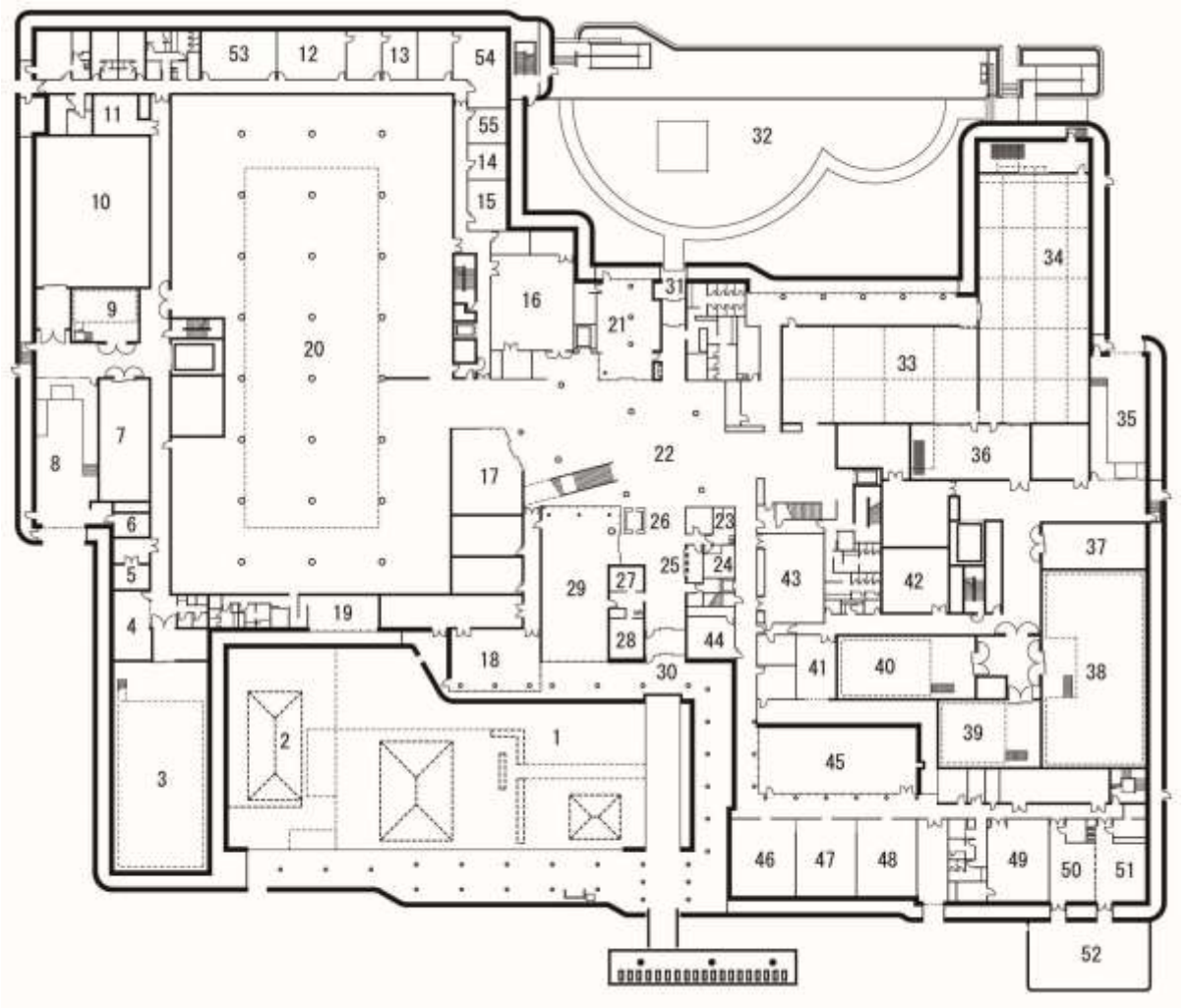
●エントランスホール	724㎡
●情報センター	217㎡
●講堂（212席）	349㎡

博物館の主たる施設

●展示施設	
総合展示室	1,252㎡
部門展示室	1,344㎡
自然史部門	360㎡
考古部門	262㎡
美術工芸部門	180㎡
歴史部門	120㎡
民俗部門	421㎡
屋外展示場	1,425㎡
企画展示室	351㎡
特別展示室	459㎡
●教育普及施設	
ふれあい体験室	110㎡
博物館講座室	191㎡
実習室	108㎡
●収蔵施設（ダブルデッキ含む）	
自然史収蔵庫	417㎡
化石収蔵庫	245㎡
考古・陶磁器収蔵庫	613㎡
特別収蔵庫	439㎡
民俗収蔵庫	668㎡
大型収蔵庫	358㎡
液浸標本室	97㎡
一時保管庫	119㎡
●調査研究施設	
研究室	176㎡
研究資料室	111㎡
会議室	72㎡

美術館の主たる施設

●展示施設	
企画ギャラリー１	394㎡
企画ギャラリー２	490㎡
コレクションギャラリー１	164㎡
コレクションギャラリー２	284㎡
コレクションギャラリー３	370㎡
県民ギャラリー（１～３）	277㎡
県民ギャラリー（スタジオ）	111㎡
県民アトリエ	65㎡
こどもアトリエ	70㎡
屋外展示場	1,368㎡
●教育普及施設	
美術館講座室	109㎡
●収蔵施設（ダブルデッキ含む）	
収蔵庫Ａ	683㎡
収蔵庫Ｂ	248㎡
収蔵庫Ｃ	204㎡
●調査研究施設	
研究室	98㎡
研究資料室	98㎡
会議室	58㎡



１階

１階

（博物館）

1　博物館野外展示
2　湧田古窯
3　民俗収蔵庫
4　写真撮影室
5　冷凍庫
6　石工室
7　一時保管庫
8　トラックヤード
9　液浸標本室
10　大型収蔵庫
11　修理修復室
12　博物館・美術館庶務室
13　館長室
14　支援会室
15　博物館ボランティア室
16　博物館講座室
17　博物館ふれあい体験室
18　博物館実習室
19　博物館常設展示休憩室
20　博物館常設展示室

（共有）

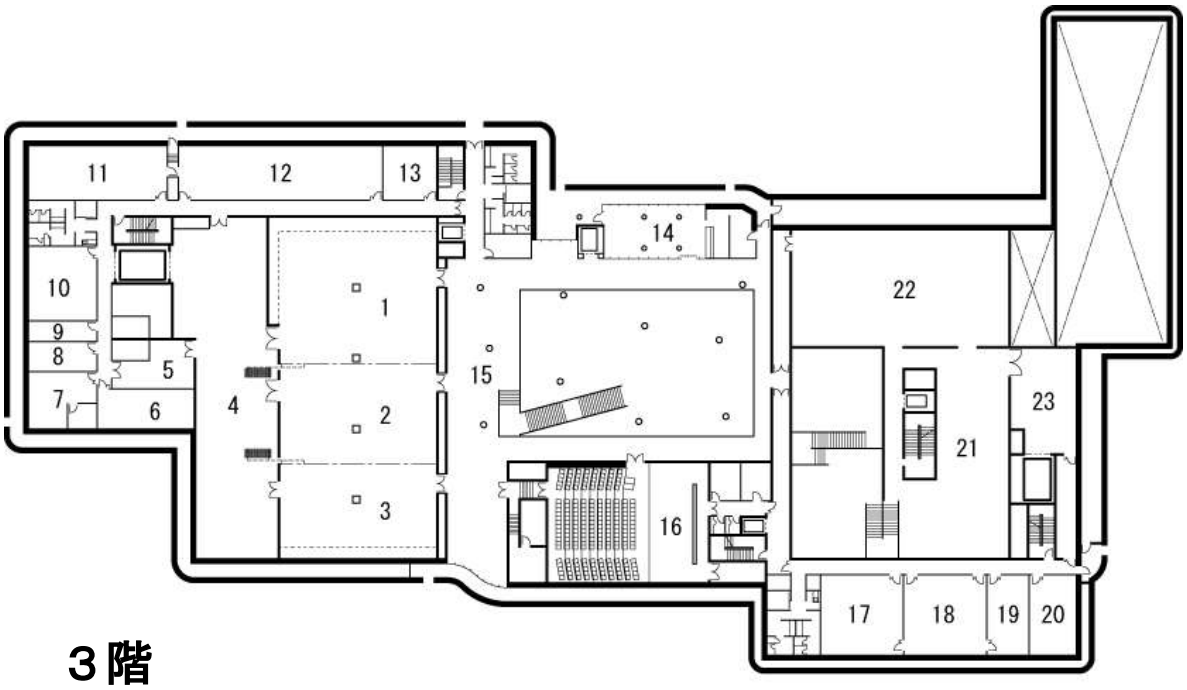
21　ミュージアムショップ
22　エントランスホール
23　授乳室
24　託児室
25　券売
26　総合案内
27　救護室
28　コインロッカー
29　情報センター
30　メインエントランス
31　サブエントランス

（美術館）

32　美術館野外展示
33　美術館企画ギャラリー１
34　美術館企画ギャラリー２
35　トラックヤード
36　展示準備室
37　一時保管庫
38　収蔵庫Ａ
39　収蔵庫Ｂ
40　収蔵庫Ｃ
41　保存修復室
42　工作室
43　美術館講座室
44　美術館ボランティア室
45　中庭
46　県民ギャラリー１
47　県民ギャラリー２
48　県民ギャラリー３
49　県民ギャラリー（スタジオ）
50　県民アトリエ
51　こどもアトリエ
52　屋外活動スペース

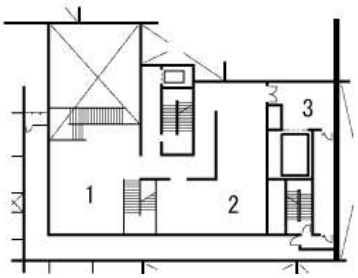
（指定管理者）

53　会議室
54　事務室
55　展示交流員控室



３階

地階



２階

３階

（博物館）

1　企画展示室
2　特別展示室１
3　特別展示室２
4　展示準備室
5　工作室
6　自然史実験室
7　保存科学室
8　フィルム保管庫
9　映像編集室
10　学芸員会議室
11　研究資料室
12　学芸員研究室
13　研修室

（共有）

14　喫茶室
15　ホワイエ
16　講堂

（美術館）

17　研究資料室
18　学芸員研究室
19　情報処理室
20　学芸員会議室
21　コレクションギャラリー２
22　コレクションギャラリー３
23　展示準備室

地階

（博物館）

1　特別収蔵庫
2　考古陶磁器収蔵庫
3　自然史収蔵庫
4　劣化フィルム収蔵庫
5　写真パネル収蔵庫
6　化石収蔵庫

２階

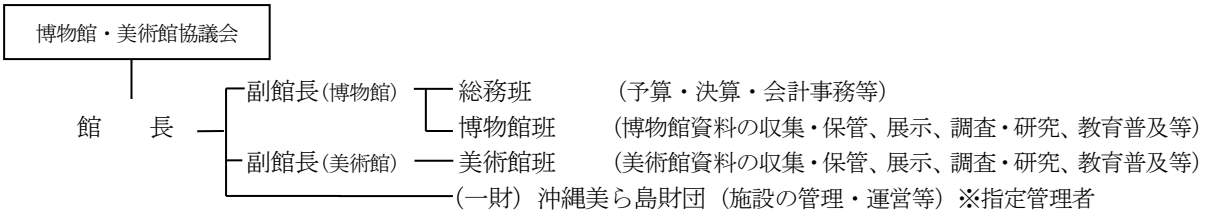
（美術館）

1　ホワイエ
2　コレクションギャラリー１
3　展示準備室

Ⅳ 組　織

【組織】

沖縄県立博物館・美術館の組織は、「総務班」「博物館班」「美術館班」の県組織と、指定管理者である（一財）沖縄美ら島財団の４つにより構成されている。なお、（一財）沖縄美ら島財団に関しては別項にて記述しているので参照頂きたい。



【職員構成】※◎は主担当業務、○は副担当業務。　　2021年４月１日現在

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
館　　長	田名　真之	◎博物館・美術館の総括に関すること。
博　物　館 副　館　長	上原　毅	◎博物館業務の統括に関すること。 ◎総務班・博物館班の指揮監督に関すること。
副　館　長 兼美術館班長	仲嶺　香代	◎美術館業務の統括に関すること。 ◎美術館班の総括に関すること。

（総務班）

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
総 務 班 長	具志　幸昌	◎総務班の総括に関すること ◎出納員に関すること ◎指定管理者との調整に関すること ◎組織・定数に関すること ◎沖縄振興推進特別交付金の計画・評価の取りまとめ ◎21世紀ビジョン、教育基本計画等施策とりまとめに関すること ◎博物館・美術館協議会に関すること ◎視察対応の総括に関すること ◎博物館・美術館広報宣伝に関すること ◎防災・危機管理に関すること ○その他、特に上司が命ずる事項に関すること
主　　査	當間　千春	◎出納業務に関すること ◎職員の給与、福利、服務及び研修業務に関すること ◎会計年度任用職員に関すること ◎博物館班の会計業務に関すること ◎監査に関すること ◎文書の管理業務に関すること ◎労働安全衛生業務に関すること ◎物品に関すること ○予算（歳入・歳出）及び決算に関すること（副） ○その他、特に上司が命ずる事項に関すること
主　　任	比嘉　友章	◎予算（歳入・歳出）及び決算に関すること（正） ◎博物館・美術館保全・修繕事業に関すること ◎美術館班の会計業務に関すること ◎施設・財産関連業務に関すること(施設利用許可、使用料関係) ◎公印の管理に関すること ◎公用車の管理業務（支出含む）に関すること ○その他、特に上司が命ずる事項に関すること
事務補助員	小早川　恵子	○文書受付に関すること。 ○業務補助に関すること。

（博物館班）

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
班　　長	外間　一先	◎博物館班の総括に関すること ◎令和３年度博物館班予算及び博物館活動の全体計画に関すること ◎県議会対応及び、視察対応に関すること ◎指定管理者との調整に関すること ◎学芸員実習・県職員研修等の受け入れに関すること ◎博物館特別展示室・企画展示室の管理・運営に関すること ◎沖縄県博物館協会、日本博物館協会、九州博物館協議会、全国歴史民俗系博物館協議会に関すること ◎令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」と「琉球」展に関すること ◎毒物劇物管理責任者（博物館班）に関すること ◎首里城被災資料の管理に関すること ○一括交付金事業「琉球王国文化遺産集積・再興事業」に関すること ○台湾国立故宮博物院の「万国津梁－琉球王国の歴史と文化」展に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ○学芸員ゼミの運営に関すること ○博物館友の会に関すること ○その他、上司が特に命ずる事項に関すること
主任学芸員 （人　類）	山崎　真治	◎自然史資料（先史人類学）の収集・整理・保管・港川人骨の管理・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（自然史「先史人類学」）に関すること ◎図書の受入・整理及び写真資料等の整理に関すること ◎令和３年度企画展「貝塚」展に関すること ◎広報連絡会議に関すること ◎科学研究費受託機関の認定に関すること ◎博物館ホームページに関すること ◎「国際博物館の日」関連事業に関すること ○公開承認施設の申請に関すること ○共同研究事業に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
学　芸　員 （人　類）	澤浦　亮平	◎自然史資料（先史人類学）の収集・整理・保管・港川人骨の管理・調査研究・公開等に関すること ◎収蔵品データの総括管理（データベース、収蔵品台帳）に関すること ◎博物館紀要の編集・発行に関すること ◎移動展に関すること ◎新収蔵品展に関すること ◎共同研究事業に関すること ◎常設展示室の不具合か所の修繕に関すること ◎令和５年度特別展に関すること ○IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関すること ○移動展（渡嘉敷村）に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ○民俗文化財調査（厨子甕）に関すること ○博物館ホームページに関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （地　質）	宇佐美　賢	◎自然史（生物・地学・人類）グループの統括に関すること ◎自然史資料（岩石・化石）の収集・整理・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門（地質化石等）・屋外展示に関すること ◎令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ◎化石資料の整理事業に関すること ◎博物館情報化推進リーダー（正）に関すること ◎博物館ホームページに関すること

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
主任学芸員 （地　質）	宇佐美　賢	◎IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒に関すること ○博物館班広報連絡調整に関すること ○沖縄県博物館協会に関すること ○日本博物館協会・九州博物館協議会に関すること ○収蔵品データの総括管理（データベース、収蔵品台帳）に関すること ○令和３年度特別展「進化」展に関すること ○毒物劇物管理担当者（博物館班担当） ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （生　物）	菊川　章	◎生物資料の収集・整理・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（自然史「動物・植物」）・屋外展示（植生）に関すること ◎「坂口総一郎植物標本整理・発信事業」に関すること ◎令和３年度特別展「進化展」に関すること ◎令和３年度企画展「かたつむり」展に関すること ◎総合調査に関すること ◎常設展モニターの修理に関すること ◎S－NETに関すること ◎毒物劇物管理に関すること ◎全国科学博物館協議会に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ○博物館紀要の編集・発行に関すること ○学芸研究資料室の図書に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （歴　史）	崎原　恭子	◎人文系（歴史・美術工芸）グループの統括に関すること ◎歴史資料（古琉球・近世）の収集・整理・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（歴史分野）・屋外展示（鐘楼）に関すること ◎令和４年度復帰50年「琉球」展に関すること ◎「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ◎台北国立故宮博物院「万国津梁－琉球王国の歴史と文化－」展に関すること ◎資料収集事業に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ○企画展示室・特別展示室の不具合か所の修繕に関すること ○沖縄県博物館協会に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （歴　史）	宮城　修	◎歴史資料（近・現代）の収集・整理・保存・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（歴史分野）に関すること ◎令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ◎「琉球王国文化遺産集積･再興事業」（一括交付金）の報告書作成に関すること ◎沖縄県博物館協会の事務に関すること ◎日本博物館協会・九州博物館協議会に関すること ◎劣化フィルム保管庫の空調設備の修理及び資料の管理に関すること ○「国際博物館の日」関連事業に関すること ○「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）令和３年度巡回展に関すること ○写真の貸出、博物館資料の撮影等に関すること ○常設展示室の不具合か所の修繕に関すること ○令和４年度復帰50年「琉球」展に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ○その他、上司が特に命ずる事項に関すること
主　　任 （美術工芸）	篠原　あかね	◎美術工芸（染織・陶芸・三線）の収集・整理・保存・調査研究・公開等に関すること ◎常設展総合・部門展示（美術工芸等）に関すること ◎「琉球王国文化遺産集積･再興事業」（一括交付金）令和３年度巡回展及び統括に関すること

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
主　　任 (美術工芸)	篠原　あかね	◎「琉球王国文化遺産集積･再興事業」（一括交付金）の報告書作成に関すること ◎博物館資料収集事業（美術品購入基金）に関すること ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影等に関すること ○令和４年度復帰50年「琉球」展に関すること ○首里城被災資料の管理に関すること ○博物館資料修復事業に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ○琉球三線楽器保存・育成会に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
学　芸　員 (美術工芸)	伊禮　拓郎	◎美術工芸（絵画・書跡・彫刻・漆芸）の収集・整理・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（美術工芸等）に関すること ◎「琉球王国文化遺産集積･再興事業」（一括交付金）の報告書作成に関すること ◎令和４年度復帰50年「琉球」展に関すること ◎博物館資料修理事業に関すること ◎大嶺薫コレクション展に関すること ◎首里城被災資料の管理に関すること ◎公開承認施設申請に関すること ○「琉球王国文化遺産集積･再興事業」（一括交付金）令和３年度巡回展に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ○博物館資料収集事業（美術品購入基金）に関すること ○企画展示室・特別展示室の不具合か所の修繕に関すること ○IPM及び博物館資料の保存環境、燻蒸・消毒、施設管理に関すること ○情報化推進リーダー（副）に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （考　古）	山本　正昭	◎民俗・考古・教育普及グループの統括に関すること ◎考古資料の収集・整理・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門（考古分野）・屋外展（湧田窯）に関すること ◎移動展（渡嘉敷村）に関すること ◎エントランスホールでの企画展に関すること ◎博物館『年報』の編集・発行に関すること ◎考古資料の複製・修復に関すること ◎令和５年度企画展に関すること ○琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の報告書作成に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」に関すること ○劣化フィルム保管庫の空調設備の修理及び資料の管理に関すること ○情報センターの図書・データに関すること ○令和４年度復帰50年「琉球」展に関すること ○全国歴史民俗系博物館協議会に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
学　芸　員 （民　俗）	阿利　よし乃	◎民俗資料の収集・整理・保管・調査研究・公開等に関すること ◎博物館総合・部門展示（民俗部門）・屋外展示（高倉・民家）に関すること ◎「デジタルミュージアム推進事業」の管理・運営に関すること ◎IPM及び、博物館資料の保存環境調査（展示室・収蔵庫）、くん蒸・消毒に関すること ◎企画展示室・特別展示室の不具合か所の修繕に関すること ◎民俗文化財調査（厨子甕）に関すること ◎全国歴史民俗系博物館協議会に関すること ◎琉球三線楽器保存・育成会に関すること ○令和４年度復帰50年「琉球」展に関すること ○新収蔵品展・大嶺薫コレクション展に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」に関すること ○その他、上司が特に命ずる事項に関すること

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
主任学芸員 （教育普及）	大城　久表	◎教育普及資料の収集・購入・受入・保管・整理に関すること ◎博物館学習等の調査研究に関すること ◎常設・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること ◎展示ガイド養成、博物館友の会・ボランティア活動事業に関すること ◎体験学習教室・夏休み子ども教室の企画及び野外展示の活用に関すること ◎文化講座・学芸員講座の企画調整に関すること ◎ふれあい体験室の運営に関すること ◎学校連携及び博物館教育普及モデル事業に関すること ◎移動展に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （学芸業務補佐）	與那嶺　一子	◎公文書（旧博物館資料）の整理に関すること ◎「琉球王国文化遺産集積・再興事業」（一括交付金）の報告書作成に関すること ○学芸員ゼミの運営に関すること ○博物館班業務全般の支援に関すること ○美術工芸資料の収集・整理・保管・調査研究・展示公開等の支援に関すること ○博物館総合・部門展示（美術工芸等）の支援に関すること ○写真資料等の整理の支援に関すること ○博物館資料修理事業の支援に関すること ○博物館資料収集事業（美術品購入基金）の支援に関すること ○「琉球王国文化遺産修正・再興事業」（一括交付金）の支援に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」の支援に関すること ○首里城火災資料の管理に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」及び、「琉球」展に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員 （学芸業務補佐）	大湾　ゆかり	◎公文書（旧博物館資料）の整理に関すること ○民俗資料の収集・整理・保管・調査研究・展示公開等の支援に関すること ○博物館総合・部門展示（民俗等）の支援に関すること ○博物館班業務全般の支援に関すること ○令和４年度復帰50年特別展「沖縄からOKINAWAへ」及び、「琉球」展に関すること ○「デジタルミュージアム推進事業」の管理・運営の支援に関すること ○民俗文化財調査（厨子甕）の支援に関すること ○企画展示室・特別展示室の不具合か所の修繕等、高倉の修繕の支援に関すること ○「在外琉球王国文化財里帰り事業」の支援に関すること ○首里城火災資料の管理に関すること ○学芸員ゼミの運営に関すること ○写真資料等の整理の支援に関すること ○劣化フィルム保管庫の改修工事の支援に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
学芸業務 補助員	勝連　涼子	◎『博物館・美術館年報』の編集・発行に関すること ◎写真資料の貸出、博物館資料の撮影等の受付に関すること ◎寄贈図書類の回覧に関すること ○学芸員業務の補佐に関すること ○展示公開事業の補佐に関すること ○写真資料等の整理に関すること ○学芸研究資料室の図書に関すること ○公文書の整理に関すること ○発送業務等の集約に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
教育普及業務 補助員	照屋　杏奈	○ボランティア活動の連絡調整に関すること ○視聴覚機器の整理・保管に関すること ○教育普及担当学芸員の補佐に関すること ○ふれあい体験室、実習室、講座等に関すること

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
教育普及業務補助員	照屋　杏奈	○教育資料の収集・購入・受入・保管・整理等に関すること ○博物館学習等の調査研究、照会事項対応の補助に関すること ○総合・部門展示の学習プログラムの策定・指導に関すること ○文化講座の企画等に関すること ○その他、上司が特に命じる事項に関すること
事務補助員	玉城　知子	○「琉球王国文化遺産集積・再興事業」の補助に関すること ○その他、上司が特に命じる事項に関すること
事務補助員	松本　芙多葉	○「坂口總一郎等当館植物標本整理・発信事業」に関すること ○その他、上司が特に命じる事項に関すること

（美術館班）

職　　名	氏　　名	担　　当　　業　　務
副館長 兼美術館班長	仲嶺　香代	◎美術館業務の総括に関すること ◎館長の補佐に関すること。 ◎外郭団体等への対応に関すること ◎指定管理者との連絡調整に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員	豊見山　愛	◎調査研究活動に関すること ◎「琉球の横顔展」、「川平惠造展」に関すること ◎近現代美術の研究に関すること ◎展覧会計画策定に関すること ◎調査研究の照会に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主任学芸員	玉城　早苗	◎教育普及活動に関すること ◎教育普及活動の調査・研究に関すること ◎移動展、「沖縄美術の流れ展」に関すること ◎教育普及事業・団体見学受入・出前授業等に関すること ○その他、特に上司の命じる事項に関すること
主　　任	梶原　正史	◎資料保存管理活動に関すること ◎保存修復の研究に関すること ◎「沖縄美術の流れ展」、移動展(副)に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
主　　任	亀海　史明	◎資料収集活動に関すること ◎写真・映像の研究に関すること ◎「石川真生展」、「沖縄美術の流れ展」、「復帰50周年展」に関すること ◎美術館資源発信基盤整備事業に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
学　芸　員	大城　さゆり	◎展示公開活動に関すること ◎共催、協力、後援事業に関すること ◎近現代美術の研究に関すること ◎「琉球の横顔展(副)」、「REFLECTIONS展」、「復帰50周年展(副)」に関すること ○その他、特に上司が命じる事項に関すること
美術品調査員	金城　知美	○作品の調査に関すること ○収蔵品のデータベース及び画像管理・貸出に関すること
学芸業務補助員	又吉　貴美子	◎展示公開事業の補佐に関すること ◎教育担当学芸員の補佐に関すること ◎保存修復担当学芸員の補佐に関すること ○美術館資料調査、収集及び整理に関すること
事務補助員	奥平　こずえ	◎文書の収受、発送に関すること ◎図書の受付、整理に関すること ○文書等の整理、保管に関すること ○業務補助に関すること
事務補助員	玉利　咲	○美術館二次資料の整理、データ化に関すること

【人事異動】　　2021年４月１日　現在

	班　名	職　名	氏　名	摘　要
転出	総務班	班長	古堅　陽子	早期退職（＊３月31日）
	総務班	主任	上原　隆大	建築指導課
	博物館班	班長	大湾　ゆかり	定年退職（※３月31日）
	美術館班	主任学芸員	富原　圭子	首里中学校
転入	総務班	班長	具志　幸昌	中小企業支援課
	総務班	主任	比嘉　友章	子ども未来政策課
	博物館班	主任学芸員	宮城　修	美東中学校
	博物館班	主任学芸員	大湾　ゆかり	再任用
	美術館班	主任学芸員	玉城　早苗	那覇中学校

Ⅴ 沖縄県立博物館・美術館協議会

日　時：2022年３月３日（木）　14:00～16:00
議　題（資料送付）
・令和３年度事業実績報告
・令和４年度事業計画

沖縄県立博物館・美術館協議会委員名簿　　（任期：2020年７月10日～2022年７月９日）

分　野		氏　名	所　属	職　名
学識経験者	自然史	濱口　寿夫	中城村護佐丸歴史資料図書館	館　長
	歴　史	里井　洋一	元琉球大学	名誉教授
	考　古	上原　静	元沖縄国際大学	名誉教授
	民　俗	稲福みき子	元沖縄国際大学	名誉教授
	人　類	○土肥　直美	元琉球大学医学部	元准教授
	美術（画）	◎宮城　篤正	元沖縄県立芸術大学	元 学 長
	美術（立体）	西村　貞雄	元琉球大学	名誉教授
	美術（写真）	仲本　賢	沖縄県立芸術大学美術工芸学部	教　授
	観光行政学	下地　芳郎	沖縄観光コンベンションビューロー	会　長
学校教育関係者	小学校教育	宮國　義人	沖縄県小学校長会	副 会 長
	中学校教育	與那嶺　剛	沖縄県中学校長会	副 会 長
	高校教育	大濵　裕司	沖縄県高等学校長会	副 会 長
社会教育・家庭教育関係者	社会教育	田端　一正	沖縄県社会教育委員連絡協議会	会　長
	家庭教育	下地　イツ子	沖縄県高等学校PTA連合会	副 会 長

（◎会長、○副会長　2022年３月31日現在）

Ⅵ 予　算

2021年度　歳出状況（決算）　　単位：千円

	博物館･美術館指定管理費	博物館･美術館費	博物館･美術館保全修繕事業	琉球王国文化遺産集積･再興事業	美術館資源発信基盤整備事業	在外琉球王国文化財里帰り事業	復帰50周年記念特別展開催事業	合　計
報　酬		12,372		1,722	1,722			15,816
報償費		162		138				300
旅　費		3,279		1,525	94		492	5,390
需用費		18,982			306		50	19,338
役務費		2,039						2,039
委託料	339,850	28,519	5,313	61,181			396	435,259
使用料及び賃借料		3,404		59			167	3,630
備　品購入費		13,880						13,880
負担金、補助及び交付金		88						88
公課費		23						23
繰出金		2						2
合　計	339,850	82,750	5,313	64,625	2,122	0	1,105	495,765

※本庁執行分を含む

2021年度　歳入状況（決算）　　単位：千円

	収入金額	説　　明
土地使用料	33	自動販売機土地使用料等
建物使用料	862	喫茶室、ミュージアムショップの建物使用料等
国庫補助金	51,996	沖縄振興特別推進交付金
雑　　入	1,235	土地使用に係る電気料金、雇用保険料等
文化財修復事業助成	3,500	文化財維持・修復事業助成金
展示会等助成金	4,881	海の学びミュージアムサポート、全国科学博物館活動等助成金
合　　計	62,507	※本庁収納分を除く

Ⅶ 収蔵資料現在高

当館が所蔵する資料の件数は以下の通りである。詳しい内訳は博物館、美術館それぞれの章において詳しく記述しているのでその頁をご参照頂きたい。

2022年３月31日　現在

	分　類	件　数	小　計
博物館	自然史	57,300	100,732
	人類	131	
	美術工芸	11,004	
	歴史	14,581	
	考古	9,770	
	民俗	7,946	
美術館	平面	1,904	4,814
	立体	283	
	写真・映像	2,598	
	その他	29	
総計			105,546

利用統計

Ⅰ　入館者統計
Ⅱ　施設利用者統計

Ⅰ 入館者統計

1 総入館者集計

（単位：人）

年	月	博物館												美術館									全体				総入館者	開館日数	一日平均入館者数
		常設展			企画展			特別展			全体			コレクション展			企画展			全体			展示室合計			展示以外（共有）			
		有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	合計				
2021（令和3）	4	1,630	612	2,242	0	0	0	0	0	0	1,630	612	2,242	757	198	955	1,031	111	1,142	1,788	309	2,097	3,418	921	4,339	5,787	10,126	26	389
	5	1,131	944	2,075	86	79	165	0	0	0	1,217	1,023	2,240	507	375	882	884	148	1,032	1,391	523	1,914	2,608	1,546	4,154	4,994	9,148	19	481
	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,400	1,400	0	
	7	532	163	695	−	−	0	86	57	143	618	220	838	356	96	452	0	0	0	356	96	452	974	316	1,290	3,695	4,985	8	623
	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,771	1,771	0	
	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,756	4,756	0	
	10	2,227	1,312	3,539	1,060	275	1,335	0	0	0	3,287	1,587	4,874	1,365	693	2,058	0	0	0	1,365	693	2,058	4,652	2,280	6,932	11,076	18,008	27	667
	11	2,740	4,763	7,503	1,465	458	1,923	0	0	0	4,205	5,221	9,426	1,070	2,749	3,819	1,026	211	1,237	2,096	2,960	5,056	6,301	8,181	14,482	7,279	21,761	26	837
	12	3,825	2,203	6,028	294	139	433	0	0	0	4,119	2,342	6,461	1,473	915	2,388	1,138	139	1,277	2,611	1,054	3,665	6,730	3,396	10,126	10,030	20,156	24	840
2022（令和4）	1	1,484	531	2,015	0	0	0	0	0	0	1,484	531	2,015	671	212	883	583	185	768	1,254	397	1,651	2,738	928	3,666	6,872	10,538	24	439
	2	2,054	1,036	3,090	0	0	0	0	0	0	2,054	1,036	3,090	1,249	413	1,662	0	0	0	1,249	413	1,662	3,303	1,449	4,752	15,057	19,809	24	825
	3	3,930	1,317	5,247	0	0	0	0	0	0	3,930	1,317	5,247	2,400	562	2,962	0	0	0	2,400	562	2,962	6,330	1,879	8,209	8,729	16,938	27	627
合計		19,553	12,881	32,434	2,905	951	3,856	86	57	143	22,544	13,889	36,433	9,848	6,213	16,061	4,662	794	5,456	14,510	7,007	21,517	37,054	20,896	57,950	81,446	139,396	205	680
目標		32,226			6,274			6,336			44,836			12,656			4,229			16,885			61,721						
達成率(%)		60.67%			46.30%			1.36%			50.28%			77.81%			110.24%			85.93%			60.03%						

2 団体別入館者集計

（単位：人）

項目	県内										県外										国外								合計	
	小中生		高大生		特別支援		その他		小計		小中生		高大生		特別支援		その他		小計		小中生		高大生		特別支援		小計			
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
4月	2	155	2	262	0	0	0	0	4	417	0	0	1	11	0	0	0	0	1	11	0	0	0	0	0	0	0	0	5	428
5月	2	223	1	15	0	0	0	0	3	238	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	238
6月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10月	9	544	6	455	0	0	0	0	15	999	1	28	0	0	0	0	0	0	1	28	0	0	0	0	0	0	0	0	16	1,027
11月	25	1,546	3	46	1	21	0	0	29	1,613	0	0	2	315	0	0	0	0	2	315	0	0	0	0	0	0	0	0	31	1,928
12月	20	1,202	3	236	1	4	3	46	27	1,488	2	102	7	992	0	0	0	0	9	1,094	0	0	0	0	0	0	0	0	36	2,582
1月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0	0	0	0	1	15	0	0	0	0	0	0	0	0	1	15
2月	4	286	1	6	1	17	0	0	6	309	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	309
3月	4	263	1	19	1	46	1	53	7	381	0	0	3	284	0	0	0	0	3	284	0	0	0	0	0	0	0	0	10	665
合計	66	4,219	17	1,039	4	88	4	99	91	5,445	3	130	14	1,617	0	0	0	0	17	1,747	0	0	0	0	0	0	0	0	108	7,192

※「その他」の団体に含まれるのは、保育園、幼稚園、学童クラブなどの教育施設団体

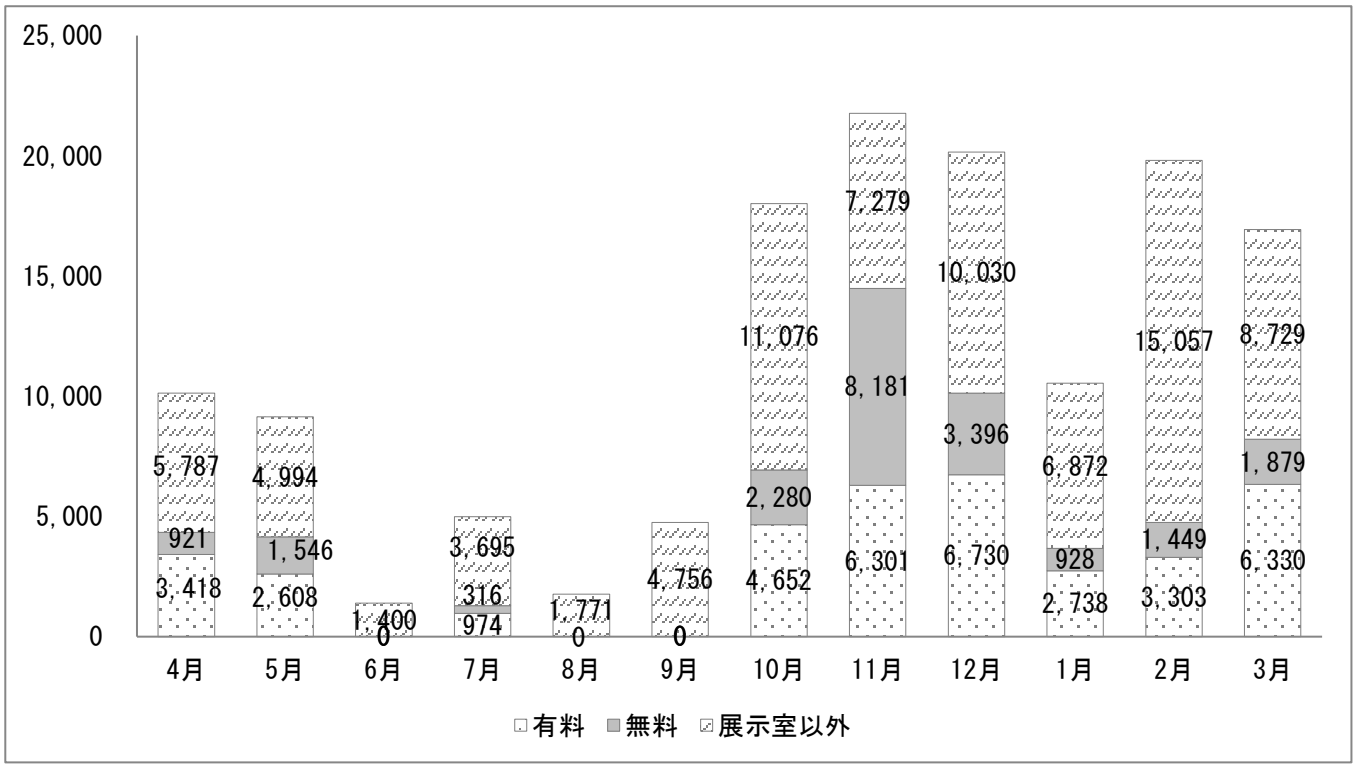
３ 展覧会別入館者集計

（単位：人）

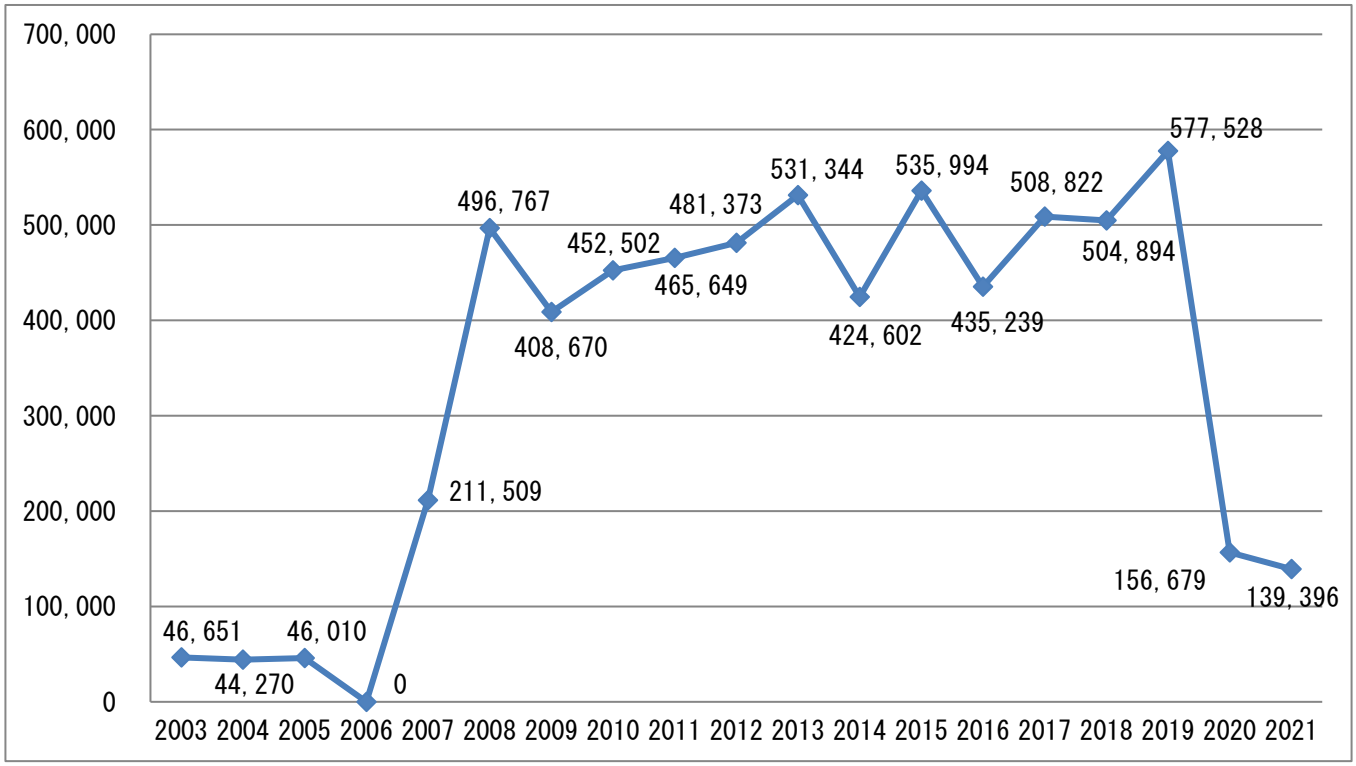
展覧会名		観覧者区分	当日券	団体券	前売券	1Day Passport	年間パス	その他割　引	優　待（障がい）	有料者合　計	優　待（障がい）	無料者数	総合計
博物館	企画展「新収蔵品展－令和２年度収蔵資料－」	一　　般	47	0	0	7	15	2	0	71	14	61	146
		高・大学生	6	0	0	0	0	9	0	15	0	0	15
		小・中学生	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	4
	特別展「みんなの進化展～命はつながっている～」	一　　般	27	0	3	32	2	12	0	76	0	19	95
		高・大学生	2	0	2	3	0	0	0	7	0	0	7
		小・中学生	0	0	0	3	0	0	0	3	0	38	41
	企画展「海とジュゴンと貝塚人 －貝塚が語る9000年のくらし－」	一　　般	1,158	0	9	850	162	33	0	2,212	287	389	2,888
		高・大学生	175	0	0	115	0	79	0	369	2	0	371
		小・中学生	193	0	2	37	0	6	0	238	15	179	432
美術館	企画展「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ」	一　　般	977	0	3	546	75	73	64	1,738	0	188	1,926
		高・大学生	42	0	0	62	0	37	0	141	0	0	141
		小・中学生	0	0	0	36	0	0	0	36	0	71	107
	企画展「琉球の横顔－描かれた「私」からの出発	一　　般	799	0	73	1,095	153	84	68	2,272	0	457	2,729
		高・大学生	149	0	0	161	0	60	2	372	0	0	372
		小・中学生	57	0	4	40	0	1	1	103	0	78	181
	合　　計	一　　般	3,008	0	88	2,530	407	204	132	6,369	301	1,114	7,784
		高・大学生	374	0	2	341	0	185	2	904	2	0	906
		小・中学生	250	0	6	116	0	7	1	380	15	370	765

※博物館企画展に関しては、優待（障がい者）は無料者数へ含む。

4　2021年度（令和３）月間別入館者数



5　年間入館者数の年次推移



6 減免申請集計

（単位：人）

項　目		学校関係（下見）		旅行社関係（視察・引率）		ﾏｽｺﾐ関係（視察）		福祉関係（引率）		博物館・美術館関係者（視察）		その他		合計	
		団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
2020	４月	7	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7	22
	５月	0	0	1	6	0	0	0	0	0	0	0	0	1	6
	６月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	７月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	８月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	９月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	10 月	6	19	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6	19
	11 月	10	31	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	11	34
	12 月	12	39	1	6	0	0	0	0	0	0	1	3	14	48
2021	１月	1	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	4
	２月	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
	３月	3	9	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	4	12
合　計		41	128	4	18	0		0	0	0	0	1	3	46	149

7 団体入館内訳

県内　小学校

のべ59校　3,805名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	28	仲井真小学校	104	21	11	17	古蔵小学校	133	41	12	9	瀬喜田小学校	16
2		30	曙小学校	51	22			美里小学校	169	42		10	曙小学校	44
3	5	13	松川小学校	99	23		18	南風原小学校	142	43			真喜屋小学校	14
4		21	小禄南小学校	124	24		19	室川小学校	33	44			石嶺小学校	155
5	10	8	比川小学校	6	25			屋我地小学校	21	45		15	真和志小学校	80
6		22	鳩間小学校	6	26			稲田小学校	16	46		16	天妃小学校	90
7			白保小学校	23	27		20	西表小学校・白浜小学校	18	47		17	上原小学校	25
8			中城小学校	75	28		25	真地小学校	88	48			与那国小学校	13
9			川崎小学校	74	29			漢那小学校	29	49			久部良小学校	20
10		26	高嶺小学校	38	30		26	宮里小学校	186	50			嘉芸小学校	42
11		29	豊見城小学校	117	31			本部小学校	94	51		21	津覇小学校	19
12			海星小学校	18	32		30	金城小学校	130	52		23	宇栄原小学校	115
13	11	2	安波小学校･安田小学校･奥小学校	14	33	12	1	玉城小学校	75	53	2	1	米須小学校	27
14		4	喜屋武小学校	20	34			若狭小学校	55	54		9	大原小学校	14
15		5	天底小学校	30	35		2	新川小学校	58	55		16	坂田小学校	144
16		9	天久小学校	53	36		3	座安小学校	87	56		18	安謝小学校	101
17		10	天久小学校	52	37			普天間第二小学校	102	57	3	1	沖縄ｱﾐｰｸｽｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	50
18		11	真壁小学校	66	38		7	那覇小学校	78	58		2	東江小学校	76
19			波照間小学校	12	39		8	銘苅小学校	108	59		8	泊小学校	132
20			渡嘉敷小学校	18	40		9	阿波連小学校	6					

県内　中学校

のべ７校　414名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	29	長嶺中学校	187	4	11	16	多良間中学校	10	6	11	23	知念中学校	50
2	11	2	沖縄ｸﾘｽﾁｬﾝｽｸｰﾙｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	39	5		20	久部良中学校	10	7	3	24	寄宮中学校	5
3		5	潮平中学校	113										

県内　高校

のべ11校　891名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	4	13	沖縄水産高校	19	5	10	15	読谷高校	336	9	12	17	北部農林高校	42
2		20	開邦高校	243	6	11	30	首里高校	7	10	2	22	星槎国際高校那覇学習センター	6
3	5	20	沖縄水産高校	15	7	12	9	普天間高校	115	11	3	4	石川高等学校	19
4	10	15	沖縄ｸﾘｽﾁｬﾝｽｸｰﾙｲﾝﾀｰﾅｼｮﾅﾙ	10	8		17	浦添工業高校	79					

県内　専門学校・大学

のべ６校　148名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	8	ｻｲﾃｸｶﾚｯｼﾞ那覇	30	3	10	20	ｻｲﾃｸｶﾚｯｼﾞ那覇	45	5	11	4	沖縄国際大学山川ゼミ	19
2		19	ｻｲﾃｸｶﾚｯｼﾞ那覇	17	4		22	沖縄国際大学山川ゼミ	17	6		18	沖縄国際大学島袋ゼミ	20

県内　特別支援学校　　のべ４校　88名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	11	18	美咲特別支援学校	21	3	2	17	沖縄盲学校	17
2	12	7	沖縄盲学校・沖縄ろう学校	4	4	3	18	沖縄高等特別支援学校	46

県内　幼稚園・保育園・その他　　のべ４校　99名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	12	8	保育園　与那原ベアーズⅡ	26	3	12	28	ほしぞら学童	8
2		28	琉大ハカセ塾	12	4	3	2	天久みらいこども園ぱんだ組	53

県外　中学校　　のべ３校　130名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	10	27	香里ヌヴェール学院中学校(大阪府)	28	2	12	10	東明館中学校（佐賀県）	62	3	12	21	金沢市立工業学校（石川県）	40

県外　高校学校　　のべ13校　1,606名

No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数	No.	月	日	学校名	人数
1	11	13	北海高校第１隊(北海道)	173	6	12	9	焼津高校(静岡県)	113	11	3	15	清泉女学院高校(神奈川県)	66
2		14	北海高校第２隊(北海道)	142	7		10	同朋高校(愛知県)	49	12		23	和光高校（東京都）	24
3	12	4	宇都宮短期大学附属高校(栃木県)	450	8		11	同朋高校(愛知県)	21	13		26	広島学院高校(広島県)	194
4		5	宇都宮短期大学附属高校(栃木県)	254	9		12	同朋高校(愛知県)	48					
5		7	宇都宮短期大学附属高校(栃木県)	57	10	1	8	日比谷高校(東京都)	15					

県外　専門学校・大学　のべ１校　11名

No.	月	日	学校名	人数
1	4	20	東洋きもの専門学校(大阪府)	11

Ⅱ 施設利用者統計

１ 月別施設利用集計

（単位：日数）

項目	博物館					美術館											共有		その他					
	企画展示室	特別展示室	博物館講座室	博物館実習室	博物館屋外展示場	企画ギャラリー1	企画ギャラリー2	美術館講座室	県民アトリエ	こどもアトリエ	スタジオ	県民ギャラリー1	県民ギャラリー2	県民ギャラリー3	美術館屋外展示場	中庭	講堂	エントランス	3階回廊	講堂前ホワイエ	正面玄関雨端	計	貸出可能日	貸出可能時間
４月	0	11	15	3	0	26	26	10	2	2	1	2	1	0	0	0	8	14	0	0	0	121	26	250
５月	11	19	8	4	0	19	19	8	1	1	3	8	10	6	0	0	7	19	0	0	0	143	26	254
６月	0	24	15	4	0	0	0	10	0	0	3	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	62	24	232
７月	8	8	6	3	0	0	0	15	0	0	1	3	3	3	0	0	11	8	0	8	0	77	22	210
８月	0	0	8	5	0	0	0	12	21	21	22	2	1	0	0	0	8	0	0	0	0	100	26	252
９月	0	0	11	3	0	0	0	9	2	1	0	17	19	8	0	0	7	0	0	0	0	77	26	250
10月	0	27	19	10	0	27	18	23	10	10	6	25	25	19	0	0	16	15	0	0	0	250	27	263
11月	0	26	19	15	1	26	26	20	9	6	9	17	17	17	0	0	17	26	0	0	0	251	26	250
12月	0	24	20	18	0	24	24	21	9	8	11	22	20	17	0	0	19	25	0	0	0	262	24	232
１月	0	24	13	7	0	21	21	11	2	1	8	9	13	10	0	0	12	24	0	0	0	176	24	232
２月	18	22	13	10	0	10	10	14	5	3	11	18	15	15	0	0	12	0	0	0	0	176	24	232
３月	12	0	15	13	0	0	0	19	1	1	12	23	18	17	0	0	17	28	0	0	0	176	27	259
貸出件数	49	185	162	95	1	153	144	172	62	54	87	146	142	112	0	0	140	159	0	8	0	1,871	302	2,916
今年度稼働率	16.2%	61.3%	53.6%	31.5%	0.3%	50.7%	47.7%	57.0%	20.5%	17.9%	28.8%	48.3%	47.0%	37.1%	0%	0%	46.4%	52.6%	0%	2.6%	0%			

※３階回廊、講堂前ホワイエ、正面玄関、博物館屋外展示場、美術館屋外展示場、中庭は県主催、指定管理者主催イベントのみ稼働。

※5/23～7/11、7/22～9/30は臨時休館。

博物館企画展示室・博物館とk別展示室・美術館企画ギャラリー１・２を除く稼働率は、臨時休館中も開館していたものとして算出した。理由は、臨時休館中も中止・延期が厳しい場合は施設利用を受け入れていたためである。しかし、実際には、緊急事態宣言や臨時休館の影響で大多数がキャンセルとなり、利用者は僅少であった。

2 当館主催事業及び施設貸出内訳

【2021年４月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	木	博物館講座室	沖縄県立博物館・美術館　人事異動発令式	26	17	土	共有講堂	博物館文化講座「災害に対して民俗学は何ができるのか―東日本大震災から学んだこと―」
2	1	木	美術館講座室	株式会社ピータイム　2021年度入社式	27	17	土	県民アトリエ	OKINAWAアートワークショップ「琉球漆器　沈金を楽しもう」
3	3	土	共有講堂	教育立国　アリガォー！シーサーの日　シンポジウム　沖縄環境スペシャル	28	17	土	こどもアトリエ	OKINAWAアートワークショップ「琉球漆器　沈金を楽しもう」
4	3	土	博物館講座室	株式会社ブリスジャパン　BGS（Be Gaming Station)事業説明会	29	18	日	博物館講座室	高良　明美/ECS総合研究所　健康セミナー
5	4	日	共有講堂	いしかわピアノ教室/石川文子　いしかわピアノ教室　ピアノ発表会	30	20	火	博物館講座室	国際博物館の日会議
6	4	日	博物館講座室	一般社団法人表千家沖縄支部　表千家同門会沖縄県支部　教授者連絡会議	31	21	水	共有講堂	博物館ボランティア全体会
7	6	火	博物館実習室	株式会社オカノ　　会議	32	21	水	博物館講座室	美術館ボランティア勉強会
8	6	火	美術館講座室	オム･ファム株式会社　第27期　経営計画発表会	33	22	木	美術館講座室	株式会社プレナスワールド　医療費削減協議会　健康セミナー
9	8	木	博物館講座室	琉球ファンド1号投資事業有限責任組合/株式会社琉球キャピタル　組合員集会	34	22	木	博物館講座室（C100%）	沖縄セルラー㈱　選考試験
10	9	金	博物館講座室	内閣府（政策統括官（沖縄政策担当）付企画担当参事官/内閣府大臣官房会計課長　沖縄振興審議会総合部会専門委員会	35	23	金	博物館講座室（C100%）	沖縄セルラー㈱　選考試験
11	9	金	博物館実習室	博物館班バックヤードツアー　事前準備	36	23	金	博物館講座室	ビーライフ・アシスト合同会社ATR6　準備
12	10	土	共有講堂	尚学院国際ビジネスアカデミー2021年度　留学説明会	37	23	金	県民アトリエ	沖縄県文化協会　令和3年度　定期総会
13	10	土	博物館実習室	博物館学芸員講座「博物館バックヤードたんけん」	38	24	土	博物館講座室	ビーライフ・アシスト合同会社　ATR6
14	10	土	美術館講座室	沖縄県立美術館支援会happ　理事会	39	24	土	美術館講座室	沖縄県立美術館支援会happ理事会
15	10	土	美術館講座室	日本皮膚科学会沖縄地方会/琉球大学医学部皮膚科日本皮膚科学会　第92回沖縄地方会	40	24	土	美術館講座室	沖縄県伝統作物生産事業協同組合　北部振興プロジェクト発足についての説明会
16	11	日	共有講堂	音楽ひろばPOPO・MOMO音楽教室　音楽発表会	41	24	土	こどもアトリエ	沖縄県造形教育連盟　役員会
17	11	日	博物館講座室	株式会社ブリスジャパン　BGS（Be Gaming Station)事業説明会	42	25	日	共有講堂	根路銘バイオリン教室　第7回発表会
18	11	日	美術館講座室	琉球岳風会　指導者研修及び吟和会	43	25	日	博物館講座室	ビーライフ・アシスト合同会社ATR6
19	11	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会	44	25	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会
20	13	火	博物館講座室	寺田良江／友寄鈴子　サンベール健康セミナー	45	27	火	美術館講座室	㈱地域科学研究所　コロナ時代の攻める公共施設マネジメント
21	15	木	博物館講座室	辻・本郷税理士法人　沖縄事務所相続ミニセミナー（4月開催）	46	1（木）～30（金）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。
22	15	木	スタジオ	EY税理士法人　【新人研修】チームビルディング・アクティビティー	47	1（木）～30（金）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ2	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。
23	15	木	美術館講座室	ヒューマンライツ㈱　2021最新版　企業防衛セミナー	48	1（木）～4（日）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	沖縄造型教育連盟　世界児童画展
24	16	金	共有講堂	㈱シーエーアドバンス株式会社　2021年ビジョンプレ	49	20（火）～30（金）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	明和津波パネル展
25	16	金	博物館講座室	大和ハウス工業九州地区協力会沖縄支部　安全衛生協議会・総会	50	18（日）～30（金）		博物館特別展示室2	沖縄の船　サバニ　過去・現在・未来　展示準備

【2021年５月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	土	共有講堂	石川真生展シンポジウム　リハーサル	10	9	日	美術館講座室	ECS総合研究所　健康セミナー
2	1	土	博物館講座室	株式会社ブリスジャパン　BGS（Be Gaming Station）事業説明会	11	13	木	博物館講座室	辻・本郷税理士法人沖縄事務所　相続ミニセミナー（5月開催）
3	3	月	博物館講座室	自主憲法制定沖縄県民会議　第16回「新しい憲法をつくる沖縄県民の集い」	12	13	木	美術館講座室	一般財団法人沖縄ITイノベーション戦略センター令和3年度　小規模事業者等IT導入支援事業　事業説明会
4	8	土	共有講堂	石川真生展シンポジウム　準備	13	14	金	スタジオ	(有)エー・ティー・サポート(有)エー・ティー・サポート社員研修会
5	8	土	博物館講座室	博物館学芸員講座「今、明かされる琉球王国の手わざⅡ －琉球王国文化遺産集積・再興事業について－」	14	14	金	博物館講座室	玉野総合コンサルタント㈱　令和3年度駐留軍用地跡地利用に関する市町村支援事業跡地利用推進懇談会
6	9	日	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　プロムナードコンサート控室	15	14	金	博物館実習室	寺田　良江/サンベール　健康セミナー勉強会
7	9	日	共有講堂	石川真生展シンポジウム　準備	16	15	土	共有講堂	博物館文化講座「沖縄の紅花～花染手巾について～」
8	9	日	共有講堂	石川真生展関連催事　シンポジウム	17	15	土	美術館講座室	沖縄県立美術館支援会happ理事会
9	9	日	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　プロムナードコンサート控室	18	16	日	スタジオ	㈱Eアファン　非分解プラセンタ勉強会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
19	16	日	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会	32	22	土	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS（Be Gaming Station）事業説明会
20	16	日	博物館講座室	公文教育研究会那覇事務局　公文式認定テスト	33	22	土	博物館講座室	沖縄県立美術館支援会 happ　令和３年度総会
21	16	日	博物館実習室	琉球岳風会　指導者研修及び吟和会	34	22	土	博物館実習室	美術館バックヤードツアー説明会
22	16	日	博物館実習室	公文教育研究会那覇事務局　公文式認定テスト	35	22	土	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　オンラインセミナー
23	16	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　通常総会	36	23	日	スタジオ	次世代生活研究会Ｑサイエンス　事業説明会
24	18	火	博物館講座室	沖縄県立博物館・美術館　会議	37	23	日	美術館講座室	クリスタル資産設計塾
25	20	木	博物館講座室	一般社団法人琉球びんがた普及伝承コンソーシアム琉球びんがた普及伝承コンソーシアム社員総会	38	29	土	共有講堂	（同）Tiruru 物産　黒潮ビーワントリニティーセミナー
26	20	木	博物館実習室	ヒューマンライツ株式会社　2021 最新版　企業防衛セミナー	39	1（土）～22（土）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ１	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。
27	20	木	博物館実習室	沖縄県立博物館・美術館　オリエンテーション／沖縄水産高等学校　海洋技術科	40	1（土）～22（土）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ２	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。
28	20	木	美術館講座室	株式会社プレナスワールド　医療費削減協議会	41	1（土）～22（土）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	明和津波パネル展
29	21	金	博物館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部/沖縄障害者職業センター　令和３年度ジョブコーチ支援事業推進協議会	42	1（土）～22（土）		博物館特別展示室２	沖縄の船　サバニ　過去・現在・未来（展示室２）
30	21	金	美術館講座室	大和ハウス工業九州地区協力会沖縄支部　安全衛生協議会	43	11（火）～16（日）		博物館企画展示室	博物館班新収蔵品展－令和２年度収蔵資料－　準備
31	21	金	美術館講座室	タマホーム沖縄支店安全協力会	44	16（日）～22（土）		博物館特別展示室１	新収蔵品展－令和２年度収蔵資料－

【2021年６月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	火	博物館講座室	㈱SRJ･㈱エデュケーショナルネットワーク共催教育セミナー	24	17	木	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団「ランの切手展」の打ち合わせ
2	1	火	美術館講座室	博物館学芸実習　開講式	25	18	金	共有講堂	ジブラルタ生命保険㈱ 社長杯表彰式および研修会
3	1	火	博物館実習室	ヒューイットリゾート那覇　～キックオフミーティング～	26	20	日	美術館講座室	日本秘書クラブ沖縄支部 ビジネス実格マナー検定試験
4	2	水	博物館実習室	ヒューイットリゾート那覇　～キックオフミーティング～	27	22	火	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団 IPM 会議
5	3	木	博物館講座室	博物館班 教育研修	28	23	水	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団 WEB 会議
6	3	木	博物館講座室	文化庁主催オンライン研修会「公開承認施設担当者会議」	29	23	水	スタジオ	ソニー生命保険株式会社　沖縄営業所　PA 養成プログラム
7	3	木	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　WEB 会議	30	23	水	美術館講座室	株式会社プレナスワールド 医療費削減協議会健康セミナー
8	4	金	博物館講座室	文化庁主催オンライン研修会「国宝・重要文化財の防犯・防災について」	31	24	木	共有講堂	株式会社ブリスジャパン BGS 事業説明会
9	4	金	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団 WEB 会議	32	24	木	博物館講座室	一般社団法人沖縄県貿易協会　第 30 回定時総会
10	5	土	博物館講座室	株式会社Ｅアファン 非分解プラセンタ説明会	33	24	木	博物館実習室	一般社団法人沖縄県貿易協会　第 30 回定時総会控室
11	6	日	博物館講座室	沖縄眼科集談会/琉球大学医学部眼科内 第 142 回沖縄眼科集談会	34	24	木	スタジオ	ソニー生命保険株式会社　沖縄営業所　PA 養成プログラム
12	10	木	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団 会議	35	25	金	共有講堂	復帰 50 年の映像確認及び打ち合わせ
13	11	金	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団 ふれあい体験室ワークショップ事前準備	36	25	金	博物館講座室	那覇新都心通り会 第 19 期定期総会
14	12	土	博物館講座室	株式会社シーヴィ・コンベンション 第 26 回初級ソフトウェア品質技術者資格試験	37	25	金	美術館講座室	タマホーム沖縄支店安全協力会　業者会
15	13	日	スタジオ	次世代生活研究会 Ｑサイエンス事業説明会	38	25	金	美術館講座室	オリックス保険コンサルティング㈱沖縄支社 FP 資格を活かしたマーケット展開
16	13	日	美術館講座室	琉球岳風会 指導者研修及び吟和会	39	26	土	共有講堂	ニライ・カナイぬ会琉球人遺骨返還問題に関する「対話」シンポジウム
17	13	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　第３回理事会	40	26	土	博物館講座室	シマクトゥバプロジェクトで語る戦世
18	15	火	共有講堂	ライフウェーブ 日本支社長による講演会	41	26	土	博物館講座室	株式会社未鈴来央/天国のおじい事務局 先祖供養セミナー
19	16	水	博物館講座室	県総務班　会議	42	27	日	共有講堂	ドリーム音楽教室 第 22 回ピアノ発表会
20	16	水	博物館講座室	博物館班 入札	43	27	日	博物館講座室	株式会社未鈴来央/天国のおじい事務局 天国おじい 10 周年記念特別セミナー
21	16	水	博物館講座室	琉球キャピタル　第１回定時株主総会	44	27	日	美術館講座室	日本秘書クラブ沖縄支部 ビジネス文書検定試験
22	16	水	美術館講座室	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団「琉球の横顔展」展示内容説明会	45	1（火）～27（日）		博物館特別展示室２	沖縄の船　サバニ　過去・現在・未来
23	17	木	博物館講座室	寺田　良江/サンベール健康セミナー勉強会					

【2021年７月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	7	水	美術館講座室	㈱東京リーガルマインド沖縄本社　沖縄県労働局委託事業若年者地域連携事業「令和３年度　職場定着セミナー」	23	20	火	美術館講座室	森ノ宮医療学園/株式会社ライセンスアカデミー大阪支社森ノ宮医療学園ウェルランゲージスクール　学校説明会
2	8	木	博物館講座室	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会　令和３年度第１層協議体	24	21	水	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（Be Gaming Station）事業説明会
3	8	木	博物館実習室	博物館ボランティア勉強会	25	22	木	共有講堂	沖縄県文化振興課/（有）サウスエリア　琉球歴史文化の日キックオフイベント沖縄の歴史や文化を学ぼう！！
4	9	金	共有講堂	㈱ブリスジャパン BGS（Be Gaming Station）事業説明会	26	22	木	美術館講座室	ロボロボの会　ロボットプログラミング入門講座ロボットを作ってプログラミングしてみよう！
5	9	金	共有講堂	沖縄県公共交通活性化推進協議会/沖縄県企画部交通政策課沖縄県公共交通活性化推進協議会　第１回ワークショップ	27	23	金	博物館講座室	博物館班　動画の動作チェック
6	10	土	博物館実習室	学校広島アニマルケア専門学校学校説明会	28	23	金	美術館講座室	ロボロボの会　ロボットプログラミング入門講座ロボットを作ってプログラミングしてみよう！
7	10	土	美術館講座室	有限会社ライブアップ　はじめての資産運用セミナー	29	25	日	共有講堂	起業サロン/株式会社スターディレクション人材育成家　辻敬太講演会
8	11	日	共有講堂	大韓民国民団沖縄県地方本部/在日本大韓民国民団沖縄県地方本部　第15回　韓国語弁論大会	30	25	日	美術館講座室	フリーベル天久新都心第２管理組合/有限会社松山ハウジング　フリーベル天久新都心第２管理組合住民説明会
9	11	日	美術館講座室	琉球岳風会　指導者研修及び吟和会	31	25	日	美術館講座室	高良明美/ECS総合研究所　健康セミナー
10	13	火	共有講堂	沖縄県交易促進事業協同組合　第３回定時総会	32	27	火	スタジオ	エキスティックエピセンター株式会社　令和３年度沖縄・ハワイ協力推進事業　審査会
11	13	火	博物館講座室	大阪中小企業投資育成株式会社　九州支社コロナ禍を生き残る労務トラブル対応と「賃金制度」の最新トレンド	33	27	火	博物館実習室	ソニー生命保険株式会社沖縄営業所　PA養成プログラム
12	14	水	博物館講座室	一般財団法人美ら島財団　サバニ展関連催事　講演会「サバニと文化財」」	34	28	水	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（Be Gaming Station）事業説明会
13	14	水	美術館講座室	株式会社プレナスワールド　医療費削減協議会健康セミナー	35	28	水	美術館講座室	ソニー生命保険株式会社沖縄営業所　PA養成プログラム
14	15	木	美術館講座室	琉球びんがた事業協同組合/沖縄県中小企業団体中央会琉球衣裳の再現（王家衣裳）柄付、寸法について	36	29	木	美術館講座室	一般社団法人沖縄観光コンベンションビューロー/㈱JTB沖縄「アドベンチャーツーリズムにおけるコーディネーター人材育成・環境整備事業」
15	16	金	共有講堂	博物館班　記者会見	37	30	金	美術館講座室	一般社団法人沖縄観光コンベンションビューロー/㈱JTB沖縄「アドベンチャーツーリズムにおけるコーディネーター人材育成・環境整備事業：事業」
16	16	金	博物館講座室	株式会社パスコ　固定資産セミナー　第一会場	38	31	土	共有講堂	小さなアトリエさえずり音楽教室　ピアノ・エレクトーン発表会
17	16	金	美術館講座室	株式会社パスコ　固定資産セミナー　第二会場	39	13（火）～21（水）		エントランスホール	博物館班/沖縄科学技術大学院大学 OIST進化展関連イベント「小さなエイリアン展」/「38億年の進化に学ぶ生きものたちの進化をまねる展」
18	17	土	共有講堂	博物館文化講座「絵を描くこころの起源を探る」	40	13（火）～21（水）		共有講堂前ホワイエ	進化展関連　パネル展
19	17	土	美術館講座室	特定非営利活動法人沖縄県立美術館支援会 happ理事会	41	13（火）～20（火）		博物館企画展示室	特別展「みんなの進化展」～命はつながっている～　準備
20	18	日	共有講堂	教育立国　沖縄環境スペシャル２	42	21	水	博物館企画展示室	特別展「みんなの進化展」～命はつながっている～
21	18	日	博物館講座室	一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会/琉球大学病院耳鼻咽喉科/沖縄県医科学研究財団　市民公開講座「頭頸部外科月間」講演会（ハイブリッド開催）	43	13（火）～20（火）		博物館特別展示室１	特別展「みんなの進化展」～命はつながっている～　準備
22	18	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　第４回理事会	44	21	水	博物館特別展示室１	特別展「みんなの進化展」～命はつながっている～

【2021年８月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	日	共有講堂	首里城再興研究会　第３回公開討論会	14	12	木	美術館講座室	美術館学芸員実習
2	1	日	美術館講座室	クリスタル/河合一郎　資産設計塾	15	13	金	美術館講座室	美術館学芸員実習
3	3	火	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（BeGamingStation）事業説明会	16	15	日	博物館実習室	なりたい私 研究所　本当の自分の才能に気づく１日
4	3	火	博物館実習室	美術館班　夏休み教職員向け講座	17	18	水	共有講堂	博物館班　リモート確認
5	4	水	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島　WEB会議	18	19	木	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（BeGamingStation）事業説明会
6	4	水	博物館実習室	美術館班/沖縄県造形教育連盟　第59回沖縄県造形教育研究大会	19	21	土	博物館講座室	博物館文化講座　オンライン講演会
7	4	水	美術館講座室	美術館班/沖縄県造形教育連盟　第59回沖縄県造形教育研究大会	20	24	火	博物館講座室	博物館学芸実習　開講式
8	5	木	博物館講座室	株式会社建通新聞社/一般社団法人建設技能人材機構「建設特定技能外国人制度の説明会」	21	24	火	博物館実習室	博物館班　実習
9	5	木	美術館講座室	㈱サンワコムシステムエンジニアリング㈱ フルハーネス特別講習会	22	24	火	美術館講座室	一般社団法人沖縄県労働基準協会　雇用管理研修会（基礎研修）
10	6	金	博物館講座室	（社福）若竹福祉会　令和３年度就労移行等連携調整事業	23	25	水	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（BeGamingStation）事業説明会
11	11	水	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（BeGamingStation）事業説明会	24	26	木	共有講堂	日本肝臓学会/琉球大学病院 第一内科　市民公開講座リハーサル
12	11	水	美術館講座室	美術館学芸員実習	25	26	木	美術館講座室	株式会社まちの人事部/RATIO株式会社　戦略総務と戦略経理　やるべき業務と任せる業務
13	12	木	博物館講座室	寺田良江　勉強会（健康セミナー）	26	27	金	博物館講座室	博物館班　教員講座

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
27	27	金	博物館実習室	博物館班　夏休み教職員講座	33	31	火	共有講堂	㈱ブリスジャパン　BGS（BeGamingStation）事業説明会
28	27	金	美術館講座室	博物館班　博物館学芸員実習	34	31	火	美術館講座室	美術館班　美術館学芸員実習
29	29	日	博物館講座室	沖縄県空手振興課/博物館班/株式会社チャイナゲートウェイ　令和３年度　聖地・沖縄空手ガイド養成事業	35	5（木）～28（土）		県民アトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課　R3 年度沖縄県芸術文化祭　審査会場・保管場所
30	29	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会	36	5（木）～28（土）		こどもアトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課 R3 年度　沖縄県芸術文化祭　審査会場・保管場所
31	29	日	美術館講座室	クリスタル　資産設計塾	37	5（木）～28（土）		スタジオ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課 R3 年度　沖縄県芸術文化祭　審査会場・保管場所
32	29	日	スタジオ	九州医療スポーツ専門学校　出張学校説明会沖縄現地開催					

【2021年９月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	水	美術館講座室	美術館学芸員実習	20	18	土	博物館講座室	博物館文化講座「キリン解剖記」　リモート配信
2	3	金	博物館講座室	博物館学芸員実習	21	18	土	こどもアトリエ	美術館　沖縄ワークショップ③
3	3	金	美術館講座室	アットモア株式会社　沖縄マンジェリュン完成報告会	22	18	土	県民アトリエ	美術館　沖縄ワークショップ③
4	4	土	博物館講座室	博物館学芸員講座（6 月振替）	23	19	日	博物館講座室	KAISALON　春木開　TikTok マーケティング講座
5	4	土	美術館講座室	美術館班　学芸員講座	24	19	日	博物館実習室	「進化展」関連催事　体験教室
6	5	日	美術館講座室	日本肝臓学会沖縄県支部　市民公開講座「肝臓の病気を正しく理解するために」	25	22	水	博物館講座室	博物館ボランティア連絡会
7	7	火	美術館講座室	美術館学芸員実習	26	22	水	博物館実習室	三線調査会
8	9	木	博物館講座室	寺田良江（サンベール）健康セミナー	27	23	木	共有講堂	博物館文化講座（8 月延期
9	9	木	博物館実習室	博物館班　展示解説会	28	23	木	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　島野菜講座
10	10	金	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会	29	24	金	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会
11	11	土	博物館講座室	博物館学芸員講座	30	24	金	美術館講座室	株式会社リベル　会社説明会
12	11	土	共有講堂	㈱おきなわ edu　テアトル edu 発表会	31	25	土	共有講堂	ニライ・カナイぬ会　琉球人遺骨返還問題に関する「対話」シンポジウム
13	12	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　第４回理事会	32	28	火	博物館講座室	株式会社プラスキャリア　労働環境課題改善セミナー
14	14	火	県民アトリエ	沖縄県文化協会　第二回　正副会長会議	33	29	水	博物館講座室	那覇市社会福祉協議会　那覇市訪問型サービス従事者要請研修
15	15	水	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会	34	30	木	博物館講座室	那覇市社会福祉協議会　那覇市訪問型サービス従事者要請研修
16	15	水	博物館講座室	沖縄県/株式会社プラスキャリア　ワークライフバランス推進リーダー養成講座	35	30	木	博物館講座室	美術館班　船越小学校オリエンテーション
17	15	水	美術館講座室	美術館ボランティア講座⑥	36	30	木	博物館講座室	博物館班　８月展示解説会
18	17	金	美術館講座室	株式会社リベル株式会社　会社説明会	37	30	木	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会
19	18	土	博物館実習室	株式会社リベル　会社説明会					

【2021年10月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	金	博物館講座室	博物館学芸員講座　準備	9	5	火	美術館講座室	㈱セルティックラボ　商品説明会
2	2	土	共有講堂	日本消化器病学会九州支部　市民公開講座	10	6	水	博物館講座室	辻・本郷税理士法人沖縄事務所　相続ミニセミナー（10 月開催）
3	2	土	博物館講座室	博物館学芸員講座「グスクの城壁に見る沖縄の独自性」	11	7	木	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会
4	2	土	美術館講座室	美術館班　川平惠造展 関連催事　ギャラリートーク	12	7	木	美術館講座室	ゆいまーる沖縄株式会社　令和３年度沖縄型産業中核人材育成事業第３回研修　ビジョン・工房運営研修①「タイプ別工房運営研修」
5	3	日	美術館講座室	クリスタル　資産設計塾	13	8	金	博物館講座室	株式会社学習受験社ガゼット　社内全体研修
6	5	火	こどもアトリエ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　アートコンクール審査会	14	8	金	美術館講座室	沖盛塾　定例会
7	5	火	県民アトリエ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　アートコンクール審査会	15	9	土	こどもアトリエ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　アートコンクール審査会
8	5	火	博物館講座室	沖縄県/株式会社プラスキャリア　ワークライフバランス推進リーダー養成講座	16	9	土	県民アトリエ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　アートコンクール審査会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
17	9	土	博物館講座室	博物館学芸員講座「復帰 49 年 沖縄の景色」	55	21	木	美術館講座室	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー/㈱JTB「アドベンチャーツーリズムにおけるコーディネーター人材育成事業」 第３回研修会
18	9	土	美術館講座室	㈱リベル　会社説明会	56	22	金	共有講堂	うるま市立川崎小学校　社会見学
19	10	日	スタジオ	㈱ジェフプランニング　研修会	57	22	金	共有講堂	沖縄県環境保全課　令和３年度　赤土等流出防止交流集会
20	10	日	博物館講座室	東京都下水道サービス株式会社　沖縄県下水道排水設備工事責任技術者　試験前講習会	58	22	金	博物館講座室	（一社）倫理研究所/沖縄県倫理法人会　令和４年度　事業報告会
21	10	日	共有講堂	㈱海燕社　戦後 76 年企画　チャップリンの「独裁者」上映×講演	59	22	金	博物館実習室	博物館班　こどもフェスタボランティア勉強会
22	10	日	共有講堂	沖縄工業高等専門学校　学校説明会	60	22	金	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　ふれたい博士の葉脈標本　事前準備
23	10	日	美術館講座室	ECS 総合研究所　ECS 総合研究所	61	22	金	美術館講座室	株式会社大鏡　CRE[企業と不動産」セミナー vol.11
24	10	日	美術館講座室	琉球岳風会　指導者研修及び吟和会	62	23	土	共有講堂	株式会社日建ハウジング　選挙応援会
25	12	火	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　社内会議	63	23	土	博物館実習室	夏休みはおきみゅーへ GO！「夏休み！こどもフェスタ 2021 博物館のこども教室！」
26	13	水	美術館講座室	株式会社プレナスワールド　医療費削減協議会健康セミナー	64	23	土	美術館講座室	石川文洋とベトナム戦争 関連催事　キュレーートーク
27	14	木	共有講堂	株式会社プリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会	65	24	日	スタジオ	ライオンズマンション新都心管理組合　住民説明会
28	14	木	博物館講座室	寺田良江（サンベール）健康セミナー勉強会	66	24	日	共有講堂	「大城立裕追悼記念シンポジウム」実行委員会 大城立裕追悼記念シンポジウム
29	14	木	美術館講座室	エキスティックエピセンター㈱　小渕教育プログラム奨学金説明会	67	24	日	博物館講座室	大山孝夫　日本・沖縄・台湾の友好のつどい
30	15	金	共有講堂	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課　R3 年度 沖縄県芸術文化祭　表彰式　準備	68	24	日	博物館実習室	博物館班　夏休みはおきみゅーへ GO！「夏休み！こどもフェスタ 2021 博物館のこども教室！」
31	15	金	博物館講座室	沖縄労働局　令和３年度経済団体に対する障害者雇用要請	69	24	日	美術館講座室	㈱国際旅行社・沖縄県交流支援課　支援交流連携事業実行委員会友愛キャンプ　事前交流会
32	15	金	博物館実習室	県総務班/沖縄県文化振興課　国文祭関係会議	70	26	火	博物館講座室	博物館班　民具体験/高嶺小学校
33	15	金	美術館講座室	一般社団法人沖縄県産業資源循環協会　令和３年度 離島廃棄物ワンストップ構築業務　研修会	71	26	火	博物館実習室	博物館班　民具体験/高嶺小学校
34	15	金	美術館講座室	タマホーム沖縄支店安全協力会　業者会	72	26	火	美術館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　沖縄支部　沖縄障害者職業センター　令和３年度　就業支援基礎研修　１日目
35	16	土	こどもアトリエ	美術館班　秋のこどもフェスタ　美術館のこども教室！	73	27	水	共有講堂	沖縄県人権擁護委員連合会　沖縄県人権擁護委員制度創設 50 周年記念式典・講演会
36	16	土	博物館実習室	沖縄県立美術館支援会 happ　理事会	74	27	水	博物館実習室	琉球三線楽器保存育成会/博物館班　琉球三線楽器保存育成会 役員会
37	16	土	共有講堂	博物館文化講座「沖縄の貝塚と貝類」	75	27	水	美術館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　沖縄支部　沖縄障害者職業センター　令和３年度　就業支援基礎研修　２日目
38	16	土	共有講堂	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課　R3 年度 沖縄県芸術文化祭　表彰式	76	28	木	共有講堂	株式会社プリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会
39	16	土	共有講堂	株式会社 Join　アクセルモバイル１周年セミナー（リハーサル）	77	28	木	博物館講座室	沖縄労働局/独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部　令和３年度高年齢者雇用支援セミナー
40	16	土	県民アトリエ	美術館班　秋のこどもフェスタ　美術館のこども教室！	78	28	木	博物館実習室	博物館班　天久小学校下見
41	16	土	博物館講座室	治安維持法国賠同盟沖縄県支部　講演と総会	79	28	木	美術館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構　沖縄支部　沖縄障害者職業センター　令和3年度　就業支援基礎研修　3日目
42	16	土	博物館講座室	株式会社シナジープラス　沖縄タイムス連載中 専門家による軍用地相続無料セミナー（仮称）	80	29	金	博物館講座室	博物館班　こどもフェスタ事前準備
43	16	土	美術館講座室	フリーベル天久新都心第２管理組合/(有)松山ハウジング　フリーベル天久新都心第２管理組合	81	29	金	博物館実習室	博物館班　こどもフェスタ事前準備
44	17	日	こどもアトリエ	美術館班　秋のこどもフェスタ　美術館のこども教室！	82	29	金	美術館講座室	㈱リベル　会社説明会
45	17	日	共有講堂	株式会社 Join　アクセルモバイル１周年セミナー	83	30	土	共有講堂	一般財団法人沖縄美ら島財団「深層サメ学」出版記念講演会
46	17	日	県民アトリエ	美術館班　秋のこどもフェスタ　美術館のこども教室！	84	30	土	博物館講座室	博物館班　夏休みはおきみゅーへ GO！「夏休み！こどもフェスタ 2021　博物館のこども教室！」
47	17	日	博物館講座室	博物館学芸員講座「郷土を教材にした歴史教育について」	85	30	土	博物館講座室	博物館班　沖縄の民話を楽しもう♪ウチナーの民話上映会
48	20	水	博物館講座室	沖縄県空手振興課/㈱サン・エージェンシー　沖縄空手ユネスコ登録推進事業　第１回検討委員会	86	30	土	博物館実習室	博物館班　夏休みはおきみゅーへ GO！「夏休み！こどもフェスタ 2021　博物館のこども教室！」
49	20	水	博物館講座室	OKAAP 労働組合　第１回執行委員会（会議）	87	30	土	美術館講座室	㈱リベル　会社説明会
50	20	水	博物館実習室	博物館班　こどもフェスタボランティア勉強会	88	30	土	美術館講座室	沖縄朝鮮友好の会　勉強会
51	20	水	博物館実習室	博物館班　民具実演	89	30	土	美術館講座室	㈱and more　Special T hanks Project
52	20	水	美術館講座室	OKAAP 労働組合　第１回執行委員会（会議）	90	31	日	こどもアトリエ	沖縄県高等学校文化連盟美術工芸専門部　沖縄県高等学校総合文化祭　美術工芸部門　顧問会議
53	21	木	共有講堂	株式会社プリスジャパン　BGS(BeGamingStation)事業説明会	91	31	日	共有講堂	沖縄環境部/一般財団法人国立沖縄自然史博物館設立準備委員会/特定非営利活動法人仕事人倶楽部/　特別講演会「進化から自然史を語る」
54	21	木	博物館講座室	沖縄県/株式会社プラスキャリア　ワークライフバランスセミナー	92	31	日	県民アトリエ	沖縄県高等学校文化連盟美術工芸専門部　沖縄県高等学校総合文化祭　美術工芸部門　顧問会議

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
93	31	日	美術館講座室	那覇市女性の翼の会　講演会	100	11（月）～15（金）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課 R3 年度　沖縄県芸術文化祭　準備
94	31	日	美術館講座室	有限会社ライブアップ　第 3 弾ライブアップセミナー	101	15（金）～31（日）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	博物館班　世界のウチナーンチュパネル展/企画展　海とジュゴンと貝塚人　関連パネル展
95	26（火）～30（土）		県民アトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課 R3 年度　沖縄県芸術文化祭　作品保管・返却場所	102	15（金）～31（日）		博物館特別展示室 1･2	博物館班　海とジュゴンと貝塚人　ー貝塚が語る 9000 年のくらしー
96	26（火）～30（土）		こどもアトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課 R3 年度　沖縄県芸術文化祭　作品保管・返却場所	103	16（土）～24（日）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	R3 年度　沖縄県芸術文化祭
97	28（木）～31（日）		スタジオ	沖縄県高等学校文化連盟　美術・工芸部門第 44 回沖縄県高等学校総合文化祭　美術・工芸部門	104	26（火）～27（水）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	R3 年度　沖縄県芸術文化祭　片付け
98	1（金）～10（日）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1	一般財団法人沖縄美ら島財団夏休みイベント「世界の名画に親しもう」　※10 日は片付け	105	28（木）～31（日）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	美術館班琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　準備
99	1（金）～14（木）		博物館特別展示室 1･2	博物館班　海とジュゴンと貝塚人　ー貝塚が語る 9000 年のくらしー　準備					

【2021年11月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	月	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　大人のための島野菜・伝統野菜講座「消えゆく沖縄の島野菜・在来作物を救え！」	30	9	火	博物館講座室	一般社団法人ウチナーグチスクール インセンティブ旅行オンライン商談会(マレーシア・フィリピン)
2	1	月	博物館講座室	博物館班　会議	31	9	火	スタジオ	一般社団法人ウチナーグチスクール　インセンティブ旅行オンライン商談会（マレーシア）
3	1	月	博物館実習室	博物館班　鐘の返還セレモニー控室	32	10	水	博物館実習室	博物館班　民具体験/天久小学校
4	2	火	博物館屋外展示場	博物館班　鐘の返還セレモニー	33	10	水	博物館実習室	昭和株式会社　沖縄事業部会議
5	2	火	博物館実習室	博物館班　鐘の返還セレモニー控室	34	10	水	美術館講座室	沖縄県立博物館友の会　11 月理事会
6	2	火	博物館講座室	公益財団法人沖縄県産業振興公社　実践で役立つ商談スキルアップセミナー	35	10	水	スタジオ	一般社団法人ウチナーグチスクール　豪州「Japan VirtualRoadshow2021［（オンライン訪日旅行商談会）
7	2	火	美術館講座室	一般社団法人ウチナーグチスクールインセンティブ旅行オンライン商談会（タイ）	36	10	水	博物館講座室	辻・本郷税理士法人沖縄事務所　相続ミニセミナー（11 月開催）
8	3	水	共有講堂	一般財団法人沖縄美ら島財団　おきみゅー誕生祭特別講演会「解体梵鐘 万国津梁の鐘のナゾに迫る」	37	11	木	博物館実習室	博物館班　真壁小 民具体験①
9	3	水	博物館講座室	一般社団法人沖縄県/一般社団法人プロモーションうるま　沖縄県移住定住促進事業「沖縄県在住者向け　2段階移住相談会」	38	11	木	県民アトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課　R3年度沖縄県芸術文化祭　作品保管・返却場所
10	3	水	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団おきみゅー誕生祭ワークショップ「ペン立てつくり」	39	11	木	共有講堂	株式会社ブリスジャパン　BGS事業説明会
11	3	水	美術館講座室	I life/IFA唐沢　親子で学ぶ正しい「株式投資」	40	11	木	博物館講座室	株式会社りゅうせきフロントライン　新入社員フォローアップ研修
12	4	木	博物館実習室	博物館班　民具体験（喜屋武小学校）	41	12	金	スタジオ	㈱インテリジェンス・アンリミテッド　セルフプロデュース・コーチング
13	4	木	共有講堂	内閣府沖縄総合事務局/沖縄県事業承継･引継ぎ支援センター　事業承継啓発セミナー	42	12	金	美術館講座室	沖盛塾　定例会
14	4	木	美術館講座室	内閣府沖縄総合事務局/沖縄県事業承継･引継ぎ支援センター　事業承継啓発セミナー(無料相談会)	43	12	金	県民アトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課　R3年度沖縄県芸術文化祭　作品返却
15	4	木	博物館講座室	沖縄県経営品質研究会　11月度定例会	44	12	金	共有講堂	株式会社かりゆしエンターテイメント　令和3年度内閣府「新たな沖縄観光サービス創出支援事業」
16	5	金	県民アトリエ	美術館沖縄ワークショップ　準備	45	13	土	博物館講座室	博物館学芸員講座「企画展『海とジュゴンと貝塚人』のみどころ紹介」
17	5	金	こどもアトリエ	美術館沖縄ワークショップ　準備	46	13	土	博物館実習室	博物館体験学習教室　「貝の矢じりをつくろう」
18	5	金	共有講堂	沖縄地域PPP/PFIプラットフォーム/沖縄振興開発金融公庫　第9回セミナー	47	13	土	スタジオ	㈱インテリジェンス・アンリミテッド　セルフプロデュース・コーチング
19	6	土	県民アトリエ	OKINAWAアートワークショップ2021「漆喰シーサーに挑戦！」	48	13	土	共有講堂	季刊誌「命どぅ宝」編集部／首里城火災の管理責任を問う沖縄県民の会　首里城火災の管理責任を問う沖縄県民の会
20	6	土	美術館講座室	石川文洋とベトナム戦争 関連催事　キュレータートーク	49	13	土	県民アトリエ	沖縄県文化振興会/沖縄県文化振興課　R3年度沖縄県芸術文化祭　作品返却
21	6	土	こどもアトリエ	OKINAWAアートワークショップ2021「漆喰シーサーに挑戦！」	50	13	土	美術館講座室	株式会社棟匠　沖縄業者会
22	6	土	共有講堂	宮城園子/園ピアノ教室　合同ピアノ発表会	51	14	日	共有講堂	株式会社Cross Core　MiningExpress事業説明会
23	6	土	博物館講座室	（同）Tiruru物産　地球環境再生セミナー	52	14	日	博物館実習室	友愛交流事業　国際旅行社友愛キャンプ　事後交流会
24	7	日	県民アトリエ	OKINAWAアートワークショップ2021「漆喰シーサーに挑戦！」	53	14	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会
25	7	日	こどもアトリエ	OKINAWAアートワークショップ2021「漆喰シーサーに挑戦！」	54	14	日	美術館講座室	指導者研修及び吟和会
26	7	日	博物館講座室	北星学園余市高等学校　教育相談会	55	16	火	スタジオ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　漆喰シーサー保管場所
27	7	日	スタジオ	クリスタル　資産設計塾	56	16	火	博物館講座室	博物館ボランティア連絡会
28	9	火	博物館実習室	博物館班　民具体験/天久小学校	57	16	火	美術館講座室	株式会社プレナスワールド医療費削減協議会　健康セミナー
29	9	火	美術館講座室	㈱オンデーズ　基礎研修	58	17	水	スタジオ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　漆喰シーサー保管場所

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
59	17	水	共有講堂	玉野総合コンサルタント㈱　跡地関係市町村個別会議	86	21	日	博物館講座室	一般社団法人沖縄県聴覚障害者協会　第18回 聴覚障害教育フォーラム in 沖縄
60	17	水	県民アトリエ	一般社団法人ウチナーグチスクール 豪州「JapanVirtualRoadshow2021[(オンライン訪日旅行商談会)	87	23	火	共有講堂	九州大学　浅海底フロンティア研究センター「浅海底の戦争遺跡USSエモンズ　伝承プロジェクト」クラウドファンディング達成記念　講演会
61	17	水	博物館講座室	民具体験/古蔵小学校	88	23	火	博物館講座室	まぶいぐみ実行委員会「琉球弧の写真」と復帰50年写真展にむけて
62	17	水	博物館講座室	公益財団法人沖縄県産業振興公社　実践で役立たつ商談スキルアップセミナー	89	23	火	博物館実習室	株式会社かりゆしエンターテイメント　令和3年度内閣府「新たな沖縄観光サービス創出支援事業」
63	17	水	博物館実習室	博物館班　民具体験/古蔵小学校	90	23	火	美術館講座室	NPO法人沖縄伝承話資料センター　沖縄昔ばなし大学（ZOOM学習会）
64	17	水	美術館講座室	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー/株式会社JTB「アドベンチャーツーリズムにおけるコーディネーター人材育成・環境整備事業」	91	24	水	共有講堂	JCD沖縄支部　第二回JCD OKINAWA主催 空間デザイン賞+JCD 60周年記念イベント
65	18	木	スタジオ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　漆喰シーサー保管場所	92	24	水	博物館講座室	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会　令和3年度第2回　第一層協議会
66	18	木	博物館講座室	株式会社ワンスペースキャリア教育フォーラム	93	24	水	博物館実習室	琉球三線楽器保存育成会/博物館班　三線調査会
67	18	木	美術館講座室	一般財団法人沖縄観光コンベンションビューロー/㈱JTB沖縄「アドベンチャーツーリズムにおけるコーディネーター人材育成・環境整備事業」	94	24	水	美術館講座室	美術館ボランティア講座⑦
68	19	金	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　南大東村立南大東小学校/オリエンテーション	95	24	水	美術館講座室	㈱沖縄銀行　カトレアカレッジ
69	19	金	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　夜な夜なワークショップ　色であそぼう！「なないろカレンダー」	96	25	木	共有講堂	那覇市民生委員児童委員連合会　令和3年度　第1回那覇市民生委員児童委員協議会
70	19	金	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　夜な夜なワークショップ　色であそぼう！「なないろカレンダー」	97	25	木	美術館講座室	社会福祉法人若竹福祉会障害者就業・生活支援センターかるにあ　令和3年度　就労移行等連携調整事業　就業支援担当者研修
71	19	金	スタジオ	沖縄県消防長会　第42回沖縄県消防職員意見発表会　控室・審査室	98	26	金	共有講堂	日本洞窟学会「沖縄洞窟ウィーク2021」講演会
72	19	金	共有講堂	沖縄県消防長会　第42回沖縄県消防職員意見発表会	99	26	金	美術館講座室	株式会社東横イン　九州南部・沖縄エリア会議
73	19	金	博物館講座室	沖縄労働局/沖縄産業保健総合支援センター　職域新型コロナ対策セミナー	100	27	土	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　解体梵鐘Vol.2 万国津梁の鐘の音をサイエンス！
74	20	土	こどもアトリエ	OKINAWAアートワークショップ2021「沖縄の植物（クロトン）の押し花を楽しもう！」	101	27	土	美術館講座室	アルファステイツおもろまち管理組合　㈱穴吹ハウジングサービス　アルファステイツおもろまち管理組合　設立総会
75	20	土	県民アトリエ	OKINAWAアートワークショップ2021「沖縄の植物（クロトン）の押し花を楽しもう！」	102	28	日	美術館講座室	琉球の横顔オンライン対談
76	20	土	博物館講座室	石川文洋とベトナム戦争 関連催事　キュレータートーク「写真家・石川文洋　ドキュメンタリー上映会」	103	28	日	スタジオ	九州医療スポーツ専門学校　出張学校説明会　沖縄現地開催
77	20	土	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団・happ　定例会議	104	30	火	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　ふれたい博士の葉脈標本の事前準備
78	20	土	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　オンラインワークショップ リハーサル	105	30	火	共有講堂	第十一管区海上保安本部　海図150年記念講演会
79	20	土	スタジオ	NPO法人沖縄県マンション管理組合連合会　通常総会	106	30	火	博物館講座室	沖縄労働局/沖縄那覇公共職業安定所　ハロワDeカチトリ企業説明会
80	20	土	共有講堂	株式会社海燕社　海燕社の小さな映画会2021/9月会『坂網猟-人と自然の付き合い方を考える-『奥羽の鷹使い-日本の狩猟習俗-』	107	30	火	美術館講座室	沖縄労働局/那覇公共職業安定所　ハロワDeカチトリ企業説明会
81	20	土	共有講堂	沖縄県高等学校ユネスコ協議会/沖縄県ユネスコ協会　SDGs推進シンポジウム　沖縄県「SDGs未来都市」の可能性～私たちにできること～	108	1（月）～2（火）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1･2	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　準備
82	20	土	美術館講座室	タマホーム沖縄連絡協議会	109	1（月）～21（日）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	博物館班　企画展海とジュゴンと貝塚人　関連パネル展／美術館班　アートコンクール
83	21	日	こどもアトリエ	美術館班/一般財団法人沖縄美ら島財団　漆喰シーサー保管場所	110	1（月）～30（火）		博物館特別展示室1･2	海とジュゴンと貝塚人　ー貝塚が語る9000年のくらしー
84	21	日	博物館実習室	博物館体験学習教室　「貝塚の味」	111	3（水）～30（火）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1･2	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発
85	21	日	共有講堂	ダイアンサス／持永ひろえ様　デルファトラの意識に触れる会	112	23（火）～30（火）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	博物館班　企画展海とジュゴンと貝塚人　関連パネル展／美術館班　漆喰シーサー展示

【2021年12月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	水	博物館講座室	美術館班　玉城小学校　オリエンテーション	10	2	木	美術館講座室	ゆいまーる沖縄㈱　令和3年度沖縄型産業中核人材育成事業　第5回研修マーケティング研修
2	1	水	博物館実習室	博物館ボランティア連絡会	11	3	金	博物館実習室	博物館班　民具体験⑤
3	1	水	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　ふれたい博士の葉脈標本の事前準備	12	3	金	共有講堂	株式会社918　令和3年度沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業映画上映会およびシンポジウム
4	1	水	博物館実習室	博物館班　若狭小学校　民具体験	13	3	金	県民アトリエ	サン電通エンジニアリング株式会社　44期本社営業部全体予算報告会
5	1	水	美術館講座室	EY税理士法人　EY TAX GCR meeting	14	3	金	こどもアトリエ	サン電通エンジニアリング株式会社　44期本社営業部全体予算報告会
6	2	木	共有講堂	社会福祉法人夢工房　幼保連携型認定こども園　美ら夢　令和3年度　美ら夢こども園　生活発表会リハーサル	15	3	金	スタジオ	㈱リベル　会社説明会
7	2	木	博物館講座室	第一三共株式会社　第36回沖縄県内分泌代謝・血液・膠原病症例研究会	16	3	金	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　13才からのアート講座
8	2	木	博物館実習室	㈱リベル　会社説明会	17	4	土	共有講堂	社会福祉法人夢工房　幼保連携型認定こども園　美ら夢　令和3年度美ら夢こども園　生活発表会
9	2	木	美術館講座室	第一三共株式会社　帯状疱疹と痛みのコントロールを考える	18	4	土	美術館講座室	㈱リベル　会社説明会

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
19	5	日	博物館実習室	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　関連催事　オンライン対談	57	11	土	こどもアトリエ	第18回 イングリッシュフェスティバル実行委員会/尚学院国際ビジネスアカデミー 第18回 イングリッシュフェスティバル　スピーチ・ストーリーテリング部門　控室
20	5	日	共有講堂	キーナピアノスタジオ/赤嶺　涼子　キーナピアノスタジオ発表会	58	12	日	共有講堂	長田綾子・國吉裕子研究所　発表会「音連れ」
21	5	日	博物館講座室	（同）Tiruru 物産　森と食で発達改善	59	12	日	博物館講座室	ライオンズマンション新都心管理組合/大京アステージライオンズマンション新都心管理組合　通常総会
22	5	日	博物館講座室	一般社団法人表千家沖縄支部　教授者連絡会議	60	12	日	博物館講座室	まぶいぐみ実行委員会「阿波根昌鴻と平良孝七の写真」復帰 50 年写真展にむけて（仮題）
23	5	日	県民アトリエ	沖縄県煎茶道協会 役員会	61	12	日	博物館実習室	長田綾子・國吉裕子研究所　発表会「音連れ」　控室
24	5	日	美術館講座室	沖縄県中小企業団体中央会/全国中小企業団体中央会　令和 3 年度中小企業組合検定試験	62	12	日	県民アトリエ	ワールドピースキャンペーン　ヨブマタ瞑想の集い
25	7	火	博物館実習室	博物館班　自主民具体験/那覇小学校	63	12	日	こどもアトリエ	ワールドピースキャンペーン　ヨブマタ瞑想の集い
26	7	火	博物館実習室	日本コープ共済生活協同組合連合会　大学生協・地域生協　懇談会	64	12	日	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校　第 16 回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展
27	7	火	こどもアトリエ	創元会沖縄支部　展示前連絡会	65	12	日	美術館講座室	琉球岳風会指導者研修及び吟和会
28	7	火	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校　第 16 回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展	66	12	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会
29	7	火	県民アトリエ	一般社団法人ウチナーグチスクール　インセンティブ旅行オンライン商談会（シンガポール）	67	14	火	共有講堂	一般社団法人ウチナーグチスクール沖縄芝居「棒しばり」（文化庁令和 2 年度 第 3 次補正予算事業 ARTS for the future!）
30	7	火	博物館講座室	株式会社りゅうせきフロントライン　リーダー研修	68	14	火	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団企画展「世界の切手でみるランの物語」講演会
31	7	火	美術館講座室	日本コープ共済生活協同組合連合会　会議	69	15	水	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団オリエンテーション）真和志小学校
32	7	火	美術館講座室	株式会社プレナスワールド　医療費削減協議会健康セミナー	70	15	水	博物館講座室	寺田良江（サンベール）健康セミナー　勉強会
33	8	水	博物館実習室	博物館班　銘苅小学校　自主民具体験	71	15	水	美術館講座室	沖縄県立博物館友の会沖縄県立博物館友の会　12 月理事会
34	8	水	博物館実習室	ALIVEN　健康講演会	72	15	水	共有講堂	一般社団法人ウチナーグチスクール沖縄芝居「棒しばり」（文化庁令和 2 年度第 3 次補正予算事業 ARTS for the future!）
35	8	水	共有講堂	株式会社シーエー・アドバンス　エンジニア総会	73	15	水	博物館実習室	G-PEX㈱ みんなのたまご倶楽部普及会　研修会
36	8	水	博物館講座室	辻・本郷税理士法人沖縄事務所　相続ミニセミナー（12 月開催）	74	16	木	博物館実習室	博物館班 天妃小学校 民具体験
37	8	水	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校　第 16 回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展	75	16	木	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　R3 年度文化財保存修理講習会（オンライン）
38	8	水	美術館講座室	㈱りゅうせきライフサポート　経営者向け事業保障セミナー	76	16	木	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　R3 年度文化財保存修理講習会（オンライン）
39	9	木	博物館講座室	内閣府沖縄総合事務局エネルギー・燃料課　沖縄地域エネルギー・温暖化対策推進シンポジウム	77	16	木	美術館講座室	株式会社 E アファン　非分解プラセンタ勉強会
40	9	木	博物館実習室	株式会社 JTB 沖縄「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャツーリズムのモデルツアー造成等事業」	78	17	金	スタジオ	沖縄美ら島財団財団 Web 会議
41	9	木	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校　第 16 回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展	79	17	金	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　夜な夜なワークショップ
42	9	木	美術館講座室	（一社）沖縄県労働基準協会（㈱労働調査会）　コミュニケーションスキル研修（向上コース）	80	17	金	共有講堂	国立大学法人琉球大学　沖縄のデータサイエンスの現状と展望　準備
43	9	木	県民アトリエ	有限会社テレマーケティング　沖縄報告会議	81	17	金	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　夜な夜なワークショップ
44	10	金	共有講堂	沖縄県倫理法人会　感謝報告の会	82	17	金	博物館講座室	日本人間工学学会　九州・沖縄支部会/九州大学（村木研究室）日本人間工学学会　第 42 回大会
45	10	金	博物館講座室	九州障害者アートサポートセンター/NPO 法人まる　アートサポーター養成講座「レクチャー＆相談会＠沖縄」	83	17	金	博物館実習室	美術館班浦添工業デザイン科 オリエンテーション
46	10	金	博物館実習室	株式会社 JTB 沖縄「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャツーリズムのモデルツアー造成等事業」	84	17	金	博物館実習室	大度室内楽団大度室内楽団プロムナードコンサート通し稽古
47	10	金	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校　第 16 回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展	85	17	金	美術館講座室	美術館班　浦添工業デザイン科　オリエンテーション
48	10	金	県民アトリエ	㈱リベル　会社説明会	86	17	金	美術館講座室	株式会社玄米酵素　食地健康セミナーin 那覇
49	10	金	美術館講座室	社会福祉法人那覇市社会福祉協議会　令和 3 年度第 3 回　生活支援サポーター養成講座	87	18	土	共有講堂	博物館班　博物館文化講座「古代末～中世の喜界島」
50	11	土	博物館講座室	博物館学芸員講座「OkiMu 収蔵のクバ製民具」	88	18	土	共有講堂	琉球大学グリーバル教育支援機構/琉球大学学生部教育支援課沖縄のデータサイエンスの現状と展望　シンポジウム
51	11	土	博物館講座室	全日本年金者組合沖縄県本部　第 33 回県本部大会	89	18	土	こどもアトリエ	美術館班　OKINAWA アートワークショップ 2021「干支紅型でお正月支度」
52	11	土	博物館実習室	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　関連催事　オンライン対談	90	18	土	スタジオ	NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ　理事会
53	11	土	共有講堂	一般社団法人沖縄県発明協会　第 38 回　未来の科学の夢絵画展（県内展）	91	18	土	博物館講座室	日本人間工学学会九州・沖縄支部会/九州大学（村木研究室）日本人間工学学会　第 42 回大会
54	11	土	共有講堂	長田綾子・國吉裕子研究所長田綾子・國吉裕子研究所発表会「音連れ」　準備	92	18	土	博物館実習室	日本人間工学学会九州・沖縄支部会/九州大学（村木研究室）日本人間工学学会　第 42 回大会
55	11	土	スタジオ	沖縄県立真和志高等学校第 16 回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展	93	18	土	美術館講座室	税理士法人グローアップサポート　生前贈与対策セミナー
56	11	土	美術館講座室	第18回 イングリッシュフェスティバル実行委員会/尚学院国際ビジネスアカデミー 第18回 イングリッシュフェスティバル　スピーチ・ストーリーテリング部門	94	18	土	美術館講座室	株式会社 and more　Special Thanks Project

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
95	19	日	博物館実習室	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　関連催事　オンライン対談	113	23	木	美術館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部　沖縄障害者職業センター　令和３年度　就業支援基礎研修　３日目
96	19	日	共有講堂	沖縄県子ども生活福祉部女性力・平和推進課/沖縄平和貢委員会/(有)アイディー・ブランド 第２回ちゅらうちなー草の根平和貢献賞表彰式及び沖縄平和貢シンポジウム	114	23	木	スタジオ	株式会社ラ・フォーエス・カンパニー　ラフィーユアカデミー修了式
97	19	日	博物館講座室	琉球大学病院がんセンター　がん医療における正しい情報を得るには	115	24	金	共有講堂	㈱中央建設コンサルタント　公共交通重視型の地域社会への転換を目指して
98	19	日	スタジオ	九州医療スポーツ専門学校　出張学校説明会　沖縄現地開催	116	24	金	博物館講座室	沖縄県立学校教育教育課/㈱近畿日本ツーリスト沖縄/グローバルリーダー育成海外短期研修事業　令和３年度　事前研修
99	19	日	美術館講座室	㈱Cross Core　Mining Express 事業説明会	117	24	金	博物館実習室	ゆいまーる沖縄株式会社　令和３年度沖縄型産業中核人材委育成事業「沖縄染織の名産地を牽引する次世代人材育成プログラム」第３回
100	21	火	博物館講座室	博物館ボランティア連絡会	118	25	土	共有講堂	株式会社ウィンメディック　末期がん患者を救った男　著者白木茂沖縄講演
101	21	火	共有講堂	一般社団法人ウチナーグチスクール　沖縄芝居「棒しばり」（文化庁令和２年度第３次補正予算事業 ARTS for the future!）	119	25	土	博物館講座室	シマクトゥバプロジェクト「学校教育での方言継承は可能か」
102	21	火	美術館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部　沖縄障害者職業センター　令和３年度　就業支援基礎研修　１日目	120	26	日	共有講堂	ミュージックステップ　ピアノ発表会
103	22	水	博物館実習室	琉球三線楽器保存育成会/博物館班　三線調査会	121	26	日	博物館講座室	小林春彦全国行脚講演会実行委員会　小林春彦全国行脚講演会 in 沖縄
104	22	水	博物館実習室	博物館班　くばおうじづくり	122	26	日	美術館講座室	（独）国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成活動/ロボロボの会　自律型ロボット・プログラミング　初心者無料体験教室
105	22	水	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　アートコンクール作業	123	28	火	美術館講座室	㈱リベル　会社説明会
106	22	水	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団　アートコンクール作業	124	1（水）～5（日）		博物館特別展示室 1･2	海とジュゴンと貝塚人　ー貝塚が語る 9000 年のくらしー
107	22	水	共有講堂	一般社団法人ウチナーグチスクール　沖縄芝居「棒しばり」（文化庁令和２年度第３次補正予算事業 ARTS for the future!）	125	1（水）～5（日）		エントランスホール	中城城跡展/企画展　海とジュゴンと貝塚人　関連パネル展
108	22	水	博物館講座室	沖縄労働局　キャリアコンサルティング研修　１日目	126	1（水）～28（火）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発
109	22	水	美術館講座室	独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構沖縄支部　沖縄障害者職業センター　令和３年度　就業支援基礎研修　２日目	127	7（火）～14（火）		博物館特別展示室 1･2	海とジュゴンと貝塚人　ー貝塚が語る 9000 年のくらしー　撤収
110	23	木	博物館実習室	美術館班　宇栄原小学校　オリエンテーション	128	7（火）～28（火）		エントランスホール	中城城跡展/海図 150 年記念パネル展
111	23	木	共有講堂	一般社団法人ウチナーグチスクール　沖縄芝居「棒しばり」（文化庁令和２年度第３次補正予算事業 ARTS for the future!）	129	15（水）～19（日）		博物館特別展示室２	博物館班かたつむり展　準備
112	23	木	博物館講座室	沖縄労働局　キャリアコンサルティング研修　２日目	130	21（火）～28（火）		博物館特別展示室２	かたつむり展

【2022年１月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	4	火	博物館講座室	県立博物館・美術館　新年仕事はじめ挨拶	19	10	月	美術館講座室	沖縄自主の会　研修会
2	4	火	エントランスホール	中城城跡展	20	10	月	美術館講座室	國吉功　アライヴンセミナー
3	5	水	美術館講座室	㈱リベル会社説明会	21	12	水	スタジオ	沖縄県立博物館友の会　１月理事会
4	7	金	共有講堂	全国共済農業協同組合連合会　沖縄県本部　令和３年度　JA 共済全国小・中学生書道・交通安全ポスター　沖縄県コンクール表彰式　準備	22	12	水	スタジオ	ラ・フォーエスカンパニー　ラフィーユアカデミーオリエンテーション
5	8	土	共有講堂	全国共済農業協同組合連合会　沖縄県本部　令和３年度　JA 共済全国小・中学生書道・交通安全ポスター　沖縄県コンクール表彰式	23	12	水	博物館実習室	博物館班　自主民具体験
6	8	土	博物館講座室	首里城公園友の会　文化講演会	24	12	水	美術館講座室	辻・本郷税理士法人沖縄事務　所相続セミナー
7	8	土	博物館実習室	㈱リベル　会社説明会	25	13	木	美術館講座室	（公社）青年海外協力協会　おきなわ世界塾
8	8	土	美術館講座室	博物館班　学校団体見学（日比谷高校）	26	14	金	スタジオ	アーケイド・沖縄こども美術教室　生徒作品展
9	8	土	美術館講座室	美術館班　キューレタートーク	27	14	金	共有講堂	G-PEX㈱　みんなのたまご倶楽部普及会 研修会
10	9	日	スタジオ	沖縄自主の会　研修会	28	14	金	共有講堂	株式会社沖縄教弘/日本教育公務員弘済会/ジブラルタ生命　2021（令和３）年度第３回 LC 連絡会
11	9	日	共有講堂	沖縄朝鮮友好の会　芸術公演	29	14	金	博物館講座室	内閣府沖縄総合事務局/株式会社ブレーン沖縄地域エネルギーセミナー（基礎篇）
12	9	日	県民アトリエ	沖縄朝鮮友好の会　芸術公演会 控室	30	14	金	博物館実習室	内閣府沖縄総合事務局経済産業部エネルギー・燃焼課/株式会社ブレーン　沖縄地域エネルギーセミナー　控室
13	9	日	博物館講座室	沖縄朝鮮友好の会　チェチュ思想新春セミナー	31	15	土	スタジオ	アーケイド・沖縄こども美術教室　生徒作品展
14	9	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会	32	15	土	共有講堂	博物館文化講座「復帰 50 年、女性記者が見た基地沖縄」
15	10	月	こどもアトリエ	沖縄自主の会　研修会	33	15	土	美術館講座室	㈱リベル　会社説明会
16	10	月	スタジオ	沖縄自主の会　研修会	34	15	土	美術館講座室	出ユーラシアの統合的人類史学 B01 班「民族誌調査に基づくニッチ構築メカニズムの解明」/同志社女子大学　出ユーラシアの統合的人類史学 B01 班沖縄スタディツアー講演
17	10	月	県民アトリエ	沖縄自主の会　研修会	35	16	日	スタジオ	アーケイド・沖縄こども美術教室　生徒作品展
18	10	月	博物館講座室	まぶいぐみ実行委員会　復帰 50 年写真展に向けて	36	16	日	美術館講座室	なりたい私研究所/持田　卓子　2022 年は直感を信じて自分の人生の羅針盤を手に入れよう

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
37	18	火	スタジオ	オリックス生命保険㈱　代理店研修会	58	25	火	博物館講座室	ヨギパートナーズ　沖縄県中小企業向け給与・賞与の決め方勉強会
38	18	火	共有講堂	沖縄税理士協同組合共済会/大同生命　沖縄税理士協同組合共済会　研修会	59	25	火	博物館講座室	金城達也税理士事務所　TKC 経営支援セミナー
39	18	火	美術館講座室	内間　幸子　SDGs に基づく健康セミナー	60	25	火	美術館講座室	㈱東京リーガルマインド　令和３年度第２回中小企業等支援機関連携会議
40	19	水	スタジオ	一般財団法人沖縄美ら島財団　aini オンラインワークショップ	61	26	水	博物館講座室	博物館班　沖縄考古学会リモート会議事前確認
41	19	水	共有講堂	一般財団法人沖縄美ら島財団　音声ガイド音入れ作業	62	26	水	博物館講座室	有限会社テレマーケティング　沖縄社員研修
42	19	水	博物館講座室	ビーライフ・アシスト合同会社　ATR9	63	28	金	共有講堂	内閣府沖縄総合事務局/株式会社ブレーン　沖縄地域エネルギーシンポジウム
43	19	水	博物館実習室	琉球びんがた事業協同組合　臨時総会	64	28	金	博物館講座室	一般社団法人沖縄県損害保険代理業協会　九州南ブロック協議会
44	19	水	美術館講座室	合同会社パワーアンドカンパニー　LVP　ATR1	65	28	金	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　三社会議
45	20	木	博物館講座室	ビーライフ・アシスト合同会社　ATR 9	66	29	土	共有講堂	沖縄総合事務局/一般社団法人日本公園緑地協会　首里城復元に向けた技術検討委員会報告会　準備
46	20	木	美術館講座室	合同会社パワーアンドカンパニー　LVP　ATR1	67	30	日	共有講堂	沖縄総合事務局１国営沖縄記念公園事務所/一般社団法人日本公園緑地協会　首里城復元に関する新たな知見等に関する報告会
47	21	金	共有講堂	内閣府沖縄総合事務局経済産業部エネルギー・燃料課エネルギー対策係/株式会社ブレーン沖縄　地域エネルギーセミナー（応用篇）	68	30	日	博物館講座室	沖縄総合事務局国営沖縄懸念公園事務所/（一社）日本公園緑地協会　首里城復元に関する新たな知見等に関する報告会　控室
48	21	金	博物館講座室	第一三共㈱　第 27 回　沖縄心血管エコー図研究会	69	30	日	博物館実習室	内閣府沖縄総合事務局/一般社団法人日本公園緑地協会　首里城復元に向けた技術検討委員会　報告会
49	21	金	博物館実習室	博物館班　民具体験⑩	70	30	日	美術館講座室	ちゃれんじ友の会　会員向けセミナー
50	21	金	美術館講座室	まぶいぐみ実行委員会　復帰 50 年写真展にむけて	71	4（火）～16（日）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発
51	22	土	スタジオ	沖縄県立美術館支援会 happ　理事会	72	4（火）～30（日）		博物館特別展示室２	かたつむり展
52	22	土	共有講堂	沖縄県小禄高等学校　芸術教養コース　第 20 回音楽専攻コース発表会	73	5（水）～10（月）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	博物館班　中城城跡展/（一財）沖縄美ら島財団　ザトウクジラ展
53	22	土	博物館講座室	公益社団法人沖縄県理学療法士協会　指定管理者研修（職域別）	74	12（水）～30（日）		ｴﾝﾄﾗﾝｽﾎｰﾙ	（一財）沖縄美ら島財団　琉球古刺繍/ザトウクジラ展
54	22	土	美術館講座室	有限会社おきなわ教育ラボ　令和３年度グローバル・リーダー育成海外短期研修事業海外サイエンス体験短期研修	75	18（火）～20（木）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　撤収
55	23	日	共有講堂	沖縄県/丸正印刷㈱　沖縄らしい景観まちなみづくりシンポジウム～古都に学ぶ風景づくりと SDGs	76	25（火）～26（水）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	沖縄県社会福祉協議会第 12 回　沖縄ねんりんピック　かりゆし美術展　準備
56	23	日	美術館講座室	有限会社おきなわ教育ラボ　令和３年度グローバル・リーダー育成海外短期研修事業海外サイエンス体験短期研修	77	27（木）～30（日）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ 1･2	第 12 回　沖縄ねんりんピック　かりゆし美術展
57	25	火	共有講堂	一般財団法人沖縄美ら島財団　音声ガイドの音入れ					

【2022年２月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	火	共有講堂	ブルームーンパートナーズ株式会社　農林水産物流通条件不利性解消事業意見交換会	16	9	水	県民アトリエ	一般社団法人ウチナーグチスクール　インセンティブ旅行オンライン商談会（台北）
2	1	火	博物館実習室	博物館班　民具体験⑫	17	9	火	博物館講座室	辻・本郷税理士法人　相続セミナー
3	2	水	美術館講座室	ゆいまーる沖縄株式会社　令和３年度沖縄型産業中核人材委育成事業成果報告会	18	9	水	博物館実習室	沖縄県立博物館友の会　理事会　２月理事会
4	3	木	共有講堂	尚学院国際ビジネスアカデミー　こども未来本科２年次　卒業制作発表	19	9	水	美術館講座室	ALIVEN　健康講演会
5	3	木	博物館講座室	沖縄県土木建築部都市公園課/㈱国建　第２回首里杜地区整備基本計画検討委員会	20	10	木	博物館講座室	沖縄県三線製作事業協同組合　三線に関する講話
6	3	木	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　総合研究センター財団　会議	21	10	木	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」公開シンポジウム
7	3	木	美術館講座室	（公社）沖縄県シルバー人材センター連合　シルバー人材センター会計担当者研修会	22	10	木	美術館講座室	㈱and more　Special　Thanks　Project
8	4	金	博物館実習室	博物館班　民具体験	23	10	木	美術館講座室	足管理健康協会/フットバランスともり　足から健康ウォーキング
9	5	土	共有講堂	博物館班　琉球王国文化遺産集積・再興事業シンポジウム「蘇る琉球王国の美と手わざ－模造復元と技術継承のあり方－」	24	11	金	スタジオ	九州医療スポーツ専門学校　出張学校説明会
10	6	日	県民アトリエ	沖縄県三線製作事業協同組合　動画撮影	25	11	金	共有講堂	公益社団法人沖縄県地域振興協会　地域づくり活動シンポジウム
11	6	日	博物館講座室	公文教育研究会那覇事務局　認定テスト	26	11	金	博物館講座室	美術館班　REFLECTIONS-時代を見る眼-　関連催事　福地リコ作品上映《クリア》《BOUNDARIES》
12	6	日	美術館講座室	アイ・サポート　世界経済セミナー	27	12	土	県民スタジオ	NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ　理事会
13	6	日	美術館講座室	沖縄県三線製作事業協同組合　沖縄県三線文化協議会設立準備委員会	28	12	土	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団（琉文研）講演会「文化財修理の財前線」
14	8	火	博物館講座室	沖縄県土木建築部土木総務課　令和３年度 第３回沖縄県公共事業評価監視委員会	29	12	土	博物館実習室	沖縄県手話通訳問題研究会　おしどり学校
15	8	火	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　WEB 会議	30	12	土	美術館講座室	まぶいぐみ実行委員会　復帰 50 年写真展にむけて

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
31	13	日	スタジオ	スマイル／岡野和久　Eアファン非分解プラセンタ勉強会	59	20	日	共有講堂	おきみゅーシネマラボ《吉屋チルー物語》（日本語字幕版）
32	13	日	スタジオ	㈱Eアファン　非分解プラセンタ勉強会	60	22	火	博物館講座室	㈱染と織 琉藍　全国つくりべ全国大会
33	13	日	共有講堂	G一PEX㈱ みんなのたまご倶楽部　研修会	61	23	水	共有講堂	城間びんがた工房/㈱染と織 琉藍　城間栄順 米寿記念「紅の衣」展　記念鼎談会　（光冠(ころな)鼎談）沖縄の染織の明日へ～
34	13	日	美術館講座室	沖縄県交通推進課(友愛交流構築事業実行委員会)/㈱国際旅行社　友愛交流構築事業　事前交流会	62	23	水	共有講堂	沖縄県写真協会　創立40周年記念　写真フォーラム
35	15	火	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団財団　産廃保管場所	63	23	水	博物館講座室	琉球先住民族ネットワーク会議　先住民族でいせーぬーやいびーが？まじゅん、習ていんだな！！～みんなで学ぼう。琉球先住民のあゆみ～
36	15	火	共有講堂	みやび認定こども園　第18回　生活発表会(リハーサル)	65	23	水	美術館講座室	株式会社みなと食品　沖縄2022年新入社員　内定式
37	15	火	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団財団　産廃保管場所	66	25	金	スタジオ	（公社）沖縄県シルバー人材センター連合　高齢者活躍人材確保育成事業　連絡会議
38	15	火	博物館講座室	博物館ボランティア連絡会	67	25	金	共有講堂	内閣府沖縄総合事務局/㈱ブレーン沖縄　令和3年度エネルギー使?合理化シンポジウム
39	15	火	美術館講座室	沖縄県立芸術大学/美術館班沖縄県立芸術大学選考会	68	25	金	博物館講座室	㈱染と織 琉藍　琉球びんがた城間栄順米寿記念「紅の衣」展　主催者取引先の写真研修会
40	15	火	美術館講座室	ヨギパートナーズ　従業員のリフレッシュ モチベーションUP勉強会	69	25	金	美術館講座室	㈱JTB沖縄　交流営業課　保全利用協定制度の推進に向けた締結している地域（事業者）の方々との交流会
41	16	水	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団財団　産廃保管場所	70	25	金	美術館講座室	タマホーム沖縄支店安全協力会　業者会
42	16	水	共有講堂	尚学院国際ビジネスアカデミー「卒業製作発表会」	71	26	土	スタジオ	㈱玄米酵素　食と健康セミナーin那覇
43	16	水	共有講堂	一尚学院国際ビジネスアカデミー「卒業製作発表会」	72	26	土	共有講堂	RYU：XTOWER管理組合　第8期「通常総会」
44	16	水	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団財団　産廃保管場所	73	26	土	博物館講座室	シマクトゥバプロジェクト「学校教育での方言継承は可能か」
45	16	水	博物館実習室	民具体験⑭	74	26	土	博物館講座室	公益財団法人沖縄県理学療法士協会　令和3年度協会指定管理者研修会（初級）
46	16	水	美術館講座室	寺田良江　健康セミナー勉強会	75	26	土	美術館講座室	沖縄県立学校教育課/㈱近畿日本ツーリスト沖縄グローバルリーダー育成海外研修（雄飛）
47	16	水	美術館講座室	美術館ボランティア勉強会	76	27	日	スタジオ	NPO法人沖縄伝承話資料センター　沖縄昔ばなし大学（ZOOM学習会）
48	17	木	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団財団　産廃保管場所	77	27	日	博物館講座室	沖縄県立学校教育課/㈱近畿日本ツーリスト沖縄グローバルリーダー育成海外研修（雄飛）
49	17	木	県民アトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団財団　産廃保管場所	78	1（火）～2（水）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1･2	沖縄県社会福祉協議会　第12回　沖縄ねんりんピック　かりゆし美術展　片付け
50	17	木	博物館講座室	沖縄県立博物館・美術館/（一財）沖縄美ら島財団連絡調整会議	79	1（火）～15（火）		博物館特別展示室2	かたつむり展
51	17	木	博物館実習室	博物館班　沖縄盲学校　校外学習	80	8（火）～27（日）		博物館企画展示室1	一般財団法人沖縄美ら島財団（琉文研）「首里城美術工芸品 の現状とこれから」展
52	17	木	博物館実習室	内間幸子　SDGSに基ずく健康セミナー	81	12（土）～15（火）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1･2	公立大学法人沖縄県立芸術大学　第33回（令和3年度）沖縄県立芸術大学　卒業・修了作品展　準備
53	17	木	美術館講座室	㈱りゅうせきフロントライン　入社意欲を上げるノウハウ「企業の魅力発信サポートセミナー」	82	15（火）～20（日）		スタジオ	沖縄県立芸術大学美術工芸学部・大学院造形芸術研究科 第33回 卒業・修了作品展
54	18	金	共有講堂	那覇市民生委員児童委員連合会　会議	83	16（水）～18（金）		博物館特別展示室2	かたつむり展　片付け
55	18	金	博物館実習室	博物館班　民具体験／安謝小学校	84	16（水）～20（日）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1･2	第33回（令和3年度）沖縄県立芸術大学　卒業・修了作品展
56	18	金	博物館実習室	BACH SOLISTEN OKINAWA（有限会社ギカン文化施設研究所）おきみゅーコンサート打合せ　リハーサル	85	21（月）～22（火）		美術館企画ｷﾞｬﾗﾘｰ1･2	第33回（令和3年度）沖縄県立芸術大学　卒業・修了作品展　撤収
57	18	金	美術館講座室	公立大学法人沖縄県立芸術大学「第33回卒業・修了作品展」授賞式	86	22（火）～27（日）		博物館特別展示室1･2	城間びんがた工房/㈱染と織 琉藍　城間栄順米寿記念「紅（いろ）の衣」展
58	19	土	共有講堂	博物館文化講座「琉球孤のマグマ活動」					

【2022年３月】

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
1	1	火	博物館講座室	電子情報通信学会（EA、SIP、SP）研究会　1日目	9	4	金	共有講堂	那覇商工会議所　事業承継セミナー
2	1	火	美術館講座室	沖縄県立博物館友の会　企画部会	10	4	金	博物館講座室	沖縄県交通政策課/㈱エマエンタープライズ　令和3年度公共交通の利用環境改善に係る広報活動業務わった～バス党「公共交通の利用促進セミナー」
3	2	水	博物館講座室	電子情報通信学会（EA、SIP、SP）研究会　2日目	11	4	金	博物館実習室	（一財）沖縄美ら島財団仮）オリエンテーション/南大東小学校
4	2	水	美術館講座室	沖縄県営農支援課　令和3年度題2回農業環境コーディネーター意見交換会	12	4	金	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　13才からのアート講座「 画題で楽しむ日本の絵画」
5	3	木	博物館講座室	ゆいまーる沖縄株式会社　沖縄県委託事業令和3年度工業製品新ニーズモデル創出事業成果報告会	13	5	土	こどもアトリエ	一般財団法人沖縄美ら島財団 万國津梁の鐘プロジェクト「解体梵鐘vol.4 万国津梁の鐘、銘文の秘密」
6	3	木	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　面接会場	14	5	土	共有講堂	音楽教室ぴあのあ/上原明美　第16回ピアノ発表会
7	3	木	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　Web会議	15	5	土	博物館講座室	有限会社おきなわ教育ラボ　令和3年度グローバルリーダー養成海外短期研修事業　海外サイエンス体験短期研修
8	3	木	美術館講座室	沖縄県立博物館・美術館　令和3年度協議会	16	5	土	美術館講座室	美術館班　REFLECTIONS-時代を見る眼-　関連催事　学芸員講座＋キュレータートーク

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
17	6	日	スタジオ	ピースポート　地球一周の船旅説明会	55	16	水	博物館実習室	沖縄県文化協会　シマ de シンポジウム　首里クウェーナ×しまくとぅば
18	6	日	共有講堂	合同会社ｉサポグループ　箕輪厚介講演会 in 沖縄「コロナ時代の価値観の変化とこれからの働き方」	56	17	木	共有講堂	ワクチン後遺症映画沖縄実行委員会　ワクチン後遺症上映会＆トークショー
19	6	日	博物館講座室	博物館班　特別講座「彫刻家 今 英男（いま ひでお）―沖縄と石川の工芸交流史を辿って―」	57	17	木	博物館講座室	沖縄コカ・コーラボトリング株式会社　てだこ塾・沖縄コカ・コーラボトリング株式会社
20	6	日	博物館講座室	一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会　市民公開講座「耳鼻咽喉科月間」講演会	58	17	木	博物館実習室	一般社団法人沖縄県貿易協会　地域産業デジタル化支援事業「成果報告会」
21	6	日	博物館実習室	一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会市民公開講座「耳鼻咽喉科月間」講演会	59	17	木	美術館講座室	株式会社大鏡　CRE「企業と不動産」セミナー Vol.11
22	6	日	美術館講座室	一般社団法人日本耳鼻咽喉科学会沖縄県地方部会　市民公開講座「耳鼻咽喉科月間」講演会	60	18	金	共有講堂	宮良長包協会　宮良長包の日 映画鑑賞とミニコンサート
23	8	火	スタジオ	一般社団法人那覇市身体障碍者福祉協会　第 20 回令和 3 年度那覇市障がい者美術展　準備	61	18	金	博物館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団オリエンテーション／沖縄県立沖縄高等特別支援学校
24	8	火	共有講堂	沖縄県企画調整課 SDGs 推進室/㈱エマエンタープライズ　沖縄県 SDGs　シンポジウムの開催(仮称)	62	18	金	博物館講座室	EY 税理士法人　法人説明会
25	9	水	スタジオ	一般社団法人那覇市身体障碍者福祉協会　第 20 回令和 3 年度那覇市障がい者美術展　準備	63	19	土	スタジオ	NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ　理事会
26	9	水	共有講堂	G-PEX㈱ みんなのたまご倶楽部 研修会	64	19	土	共有講堂	博物館文化講座「琉球の座敷飾（ざしきかざり）について」
27	9	水	博物館講座室	辻･本郷税理士法人沖縄事務所　相続ミニセミナー（3 月開催）	65	19	土	共有講堂	㈱おきなわ edu　第 3 回おきなわ edu 祭り
28	9	水	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　シルクロード展会議	66	19	土	博物館講座室	沖縄県企画部交通政策課/沖縄広告株式会社　沖縄鉄軌道高校生向け論文コンテスト　表彰式
29	9	水	美術館講座室	美術館ボランティア講座⑧	67	19	土	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　【解体梵鐘 ワークショップ】万國津梁の鐘、銘文の秘密
30	9	水	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　班長・主任会議	68	19	土	美術館講座室	NPO 法人沖縄県マンション管理組合連合会　第 7 回マンション管理講座
31	10	木	スタジオ	一般社団法人那覇市身体障碍者福祉協会　第 20 回令和 3 年度那覇市障がい者美術展　準備	69	19	土	美術館講座室	D’クラディア新都心ラックスヒルズ管理組合通常総会
32	10	木	共有講堂	みやび認定こども園　第 18 回　生活発表会（リハーサル）	70	20	日	スタジオ	ブロードバンド予備校那覇本校沖縄県中小塾連絡協議会　年度報告会
33	10	木	県民アトリエ	沖縄県文化協会　第三回正副会長会議	71	20	日	共有講堂	ローププロジェクト/宮城知子　Manan トモコのピアノ＆トーク（沖縄とフランスの空の下で）
34	11	金	スタジオ	一般社団法人那覇市身体障碍者福祉協会　第 20 回令和 3 年度那覇市障がい者美術展	72	20	日	博物館講座室	一般財団法人職業技能振興会　第 17 回給与計算実務能力検定 2 級
35	11	金	共有講堂	一般財団法人沖縄美ら島財団　万國津梁の鐘プロジェクト「解体梵鐘 vol.5 講演会」	73	20	日	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　プロムナードコンサート控室
36	11	金	共有講堂	みやび認定こども園　第 18 回生活発表会	74	20	日	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　13 才からのアート講座
37	11	金	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　プロムナードコンサート控室	75	21	月	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　プロムナードコンサート控室
38	11	金	美術館講座室	沖盛塾　定例会	76	23	水	スタジオ	沖縄県立博物館友の会　理事会
39	12	土	スタジオ	一般社団法人那覇市身体障碍者福祉協会　第 20 回令和 3 年度那覇市障がい者美術展	77	23	水	共有講堂	株式会社ディック学園　令和 3 年度　マイン高等学院　卒業式
40	12	土	博物館講座室	博物館学芸員講座「戦後文化復興の礎 大嶺薫 ―東恩納博物館旧蔵資料と大嶺薫コレクション―」	78	23	水	博物館講座室	一般財団法人教育支援グローバル基金　BEYOND To morrow スプリング・プログラム
41	12	土	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団 万國津梁の鐘プロジェクト「解体梵鐘 vol.4 万国津梁の鐘、碑文の秘密」	79	23	水	博物館実習室	琉球三線楽器保存育成会事務局　三線調査会
42	12	土	博物館実習室	一般社団法人倫理研究所　未来教育フォーラム実行委員会	80	23	水	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　シルクロード展会議
43	12	土	美術館講座室	美術館学芸員講座　展覧会とアーカイブ -美術館の現場から-	81	24	木	共有講堂	一般財団法人教育支援グローバル基金　BEYOND To morrow スプリング・プログラム
44	13	日	スタジオ	一般社団法人那覇市身体障碍者福祉協会　第 20 回令和 3 年度那覇市障がい者美術展	82	24	木	美術館講座室	内間幸子　SDGs に基ずく健康セミナー
45	13	日	共有講堂	ピティナ那覇ミュージアムステーション　ピティナ・ピアノステップ那覇春季地区	83	25	金	共有講堂	那覇市文化協会　2022 清ら遊び＆功労者祝賀会
46	13	日	博物館実習室	一般社団法人倫理研究所　家庭倫理の会沖縄県ニ役会	84	25	金	博物館講座室	税理士法人添石総合会計事務所　TKC 経営支援セミナー「まったなし！令和 4 年 1 月 1 日から帳簿や請求書等の保存法がこう変わる」
47	13	日	美術館講座室	琉球岳風会　指導者研修及び吟和会	85	25	金	美術館講座室	アグレアーブル印象美人㈱　士業・医療業・サービス業トップリーダー向けイメージマネジメントセミナー
48	13	日	美術館講座室	一般社団法人沖縄県美術家連盟　理事会	86	25	金	美術館講座室	一般財団法人沖縄美ら島財団　13 才からのアート講座(自主事業)
49	15	火	スタジオ	株式会社おきなわ edu　生活発表会	87	25	金	美術館講座室	株式会社プレナスワールド　医療費削減協議会健康セミナー
50	15	火	共有講堂	沖縄県立博物館・美術館　ピアノ保守点検	88	26	土	博物館実習室	一般財団法人沖縄美ら島財団　万国津梁の鐘プロジェクト「解体梵鐘 Vol.4 万國津梁の鐘、銘文の秘密」
51	15	火	博物館講座室	博物館ボランティア連絡会	89	27	日	スタジオ	NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ　理事会
52	15	火	美術館講座室	サンベール（寺田良江）勉強会	90	27	日	博物館実習室	（同）NEXT INNOVATON　LA レッスン
53	16	水	スタジオ	一般財団法人沖縄美ら島財団　シルクロード展会議	91	27	日	美術館講座室	高良明美/ECS 総合研究所　健康講座
54	16	水	博物館講座室	沖縄県社会保険労務士会（沖縄働き方改革推進支援センター）2022 年「働き方改革」推進に向けた情報提供セミナー	92	29	火	美術館講座室	MORROWS 株式会社　新入社員研修　入社式

No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）	No.	日	曜日	施設名	イベント情報または施設貸出情報（申込者）
93	31	木	共有講堂	沖縄県立博物館・美術館　県職員送別会	95	1（火）～13（日）		博物館企画展示室1	一般財団法人沖縄美ら島財団（琉文研）「首里城美術工芸品 の現状とこれから」展
94	1（火）～13（日）		エントランスホール	外来生物展	96	29（火）～31（木）		エントランスホール	一般財団法人沖縄美ら島財団　シーサー展

3 県民ギャラリー貸出件数

No.	使用ギャラリー	貸出期間	イベント名	主催者
1	県民ギャラリー1	４月29日（木）～５月２日（日）	公文大里仲間・那覇真嘉比・壷川書写教室成果発表会	公文大里仲間書写教室
2	県民ギャラリー1.2.3	５月11日（火）～５月16日（日）	第16回　龍賓・曹源書道会	龍賓・曹源書道会
3	県民ギャラリー2	５月25日（火）～５月28日（金）	眠りにつく街の記憶	山下　泰子
4	県民ギャラリー1.2.3	７月15日（木）～７月17日（土）	国際バカロレアディプロマプログラム　Visual arts 展覧会	沖縄尚学高等学校国際文化科学コース
5	県民ギャラリー1	８月28日（土）	絵本　個展	米須　聖
6	県民ギャラリー1.2	８月31日（火）～９月５日（日）	cosmic art 水華「宇宙点描画展」	水華cosmic art planning
8	県民ギャラリー1	９月16日（木）～９月19日（日）	沖縄初糸かけ曼荼羅展	稲嶺　聖子
9	県民ギャラリー2	９月14日（火）～９月19日（日）	それぞれの、	沖縄県立芸術大学絵画専攻卒業生有志
10	県民ギャラリー1	９月22日（水）～９月26日(日)	桑江良健絵画展	人形劇団かじまたあ
12	県民ギャラリー2.3	９月22日（水）～９月26日(日)	クマーマーヤガ　Qumamarllaga展	ハイサイベイベー現代美術企画
13	県民ギャラリー1.2.3	９月28日（火）～10月３日（日）	第32回　沖美連展	一般社団法人沖縄県美術家連盟
14	県民ギャラリー1.2	10月５日（火）～10月10日（日）	第28回　肢体不自由児・者の作品展	社会福祉法人沖縄肢体不自由児協会
15	県民ギャラリー1.2.3	10月12日（火）～10月24日（日）	第50回　沖縄県芸術文化祭	公益財団法人沖縄県文化振興会
16	県民ギャラリー1.2.3	10月28日（木）～10月31日（日）	第44回　沖縄県高等学校総合文化祭　美術・工芸部門	沖縄県高等学校文化連盟
17	県民ギャラリー1.2.3	11月２日（火）～11月７日（日）	沖縄県立開邦高等学校　芸術科　第12回美術コース作品展	沖縄県立開邦高等学校美術科・美術コース
18	県民ギャラリー1	11月９日（火）～11月14日（日）	くむくくる展	くむくくるの会
19	県民ギャラリー2.3	11月９日（火）～11月14日（日）	大坪葉子　絵画展	大坪葉子
20	県民ギャラリー1.2.3	11月25日（木）～11月28日（日）	「小さな絵本展　Vol.11」	My Piece Art project
21	県民ギャラリー1.2.3	11月30日（火）～12月５日（日）	沖縄県立浦添工業高等学校インテリア科展示	沖縄県立浦添工業高等学校インテリア科
22	県民ギャラリー1	12月７日（火）～12月11日（土）	第11回沖縄ふるさとづくりコンクール～中学・高校生写真コンクール2021～	（一社）沖縄しまたて協会
23	県民ギャラリー2	12月９日（木）～12月12日（日）	第38回未来の科学の夢　絵画展	一般社団法人沖縄県発明協会
24	県民ギャラリー3	12月７日（火）～12月12日（日）	第16回真和志高校クリエイティブアーツコース卒業記念展	沖縄県立真和志高等学校
26	県民ギャラリー1.2	12月14日（火）～12月26日（日）	世界のラン切手展	一般財団法人沖縄美ら島財団
27	県民ギャラリー3	12月14日（火）～12月19日（日）	宮里　昌信　絵画展	宮里　昌信
28	県民ギャラリー1.2	１月12日（水）～１月16日（日）	創元会沖縄支部展	創元会沖縄支部
29	県民ギャラリー3	１月14日（金）～１月16日（日）	沖縄こども美術教室　生徒作品展	アーケイド
30	県民ギャラリー1.2.3	１月20日（木）～１月23日（日）	第21回沖縄県立小禄高等学校　芸術教養コース発表会	沖縄県立小禄高等学校芸術教養コース
31	県民ギャラリー2	１月27日（木）～１月30日（日）	オリジナルアートフレーム　切手展	株式会社アートクロス
32	県民ギャラリー3	１月28日（金）～１月30日（日）	琉球大学ARTCULB　展示会～色の玩具箱～	琉球大学ARTCULB

№.	使用ギャラリー	貸出期間	イベント名	主催者
33	県民ギャラリー1	２月１日（火）～２月６日（日）	2021年　沖美連　新春展	一般社団法人沖縄県美術家連盟
35	県民ギャラリー2.3	２月４日（金）～２月６日（日）	「第52回沖縄県高等学校美術工芸教育生徒作品展　第21回沖縄県高等学校教員作品展」	沖縄県高等学校文化連盟美術・工芸専門部
36	県民ギャラリー1.2.3	２月８日（火）～２月９日（水）	公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会	公益社団法人沖縄県手をつなぐ育成会
37	県民ギャラリー1.2.3	２月15日（火）～２月20日（日）	第33回卒業・修了作品展	公立学校法人沖縄県立芸術大学
38	県民ギャラリー1.2.3	２月22日（火）～２月27日（日）	沖縄県写真協会　創立40周年記念　会員作品展	沖縄県写真協会
39	県民ギャラリー1.2	３月１日（火）～３月６日（日）	押し花＆グラスアート合同作品展	沖縄ガイア押し花会
40	県民ギャラリー3	３月１日（火）～３月３日（木）	Alaris Japan 202春夏展示会	and株式会社
41	県民ギャラリー1.2.3	３月８日（火）～３月13日（日）	第20回　那覇市障がい者美術展	那覇市身体障害者福祉協会
42	県民ギャラリー1.2.3	３月15日（火）～３月20日（日）	島　尚美の書	島　尚
43	県民ギャラリー1	３月23日（水）～３月27日（日）	数　浩一郎　展	数　朝子
44	県民ギャラリー3	３月23日（土）～３月24日（日）	第10回沖縄マシーネンクリーガー作品展示会	第10回沖縄マシーネンクリーガー作品展示会実行う員会

博 物 館

Ⅰ 調査研究等の活動
Ⅱ 展示活動
Ⅲ 教育普及活動
Ⅳ 資料収集・保存管理

Ⅰ 調査研究等の活動

１ 調査研究の概要

博物館の機能は、調査研究、資料収集・保管、資料の展示、教育普及活動という４つの大きな柱によって構成されている。これらは相互に関連しあっているが、その中でも調査研究は他の機能の基礎となる重要な部分である。当館（博物館班）における調査研究活動は大きく３つに分けられる。全学芸員が一地域を対象に実施する総合調査、他機関との共同研究、学芸員自身がテーマを設けて行う個別の調査研究である。

まず、「博物館総合調査」は、1980年から博物館の学芸員が県内離島各地の自然・歴史・文化について調査・研究し、その成果を記録・報告することを目的に実施しているものである。本調査が、他の学術調査と異なるのは、総合博物館の特性を活かし、自然史から人文まで各分野の学芸員を中心に調査員を構成することで、分野を越えた総合的な調査ができることにある。また、その成果は、報告書や展覧会という形で県民へ還元され、島々の自然・歴史・文化について学習する機会を提供するとともに、自然環境の保全や文化的資料の保存に対する理解を深めてもらうことに役立てられている。

これまでの「博物館総合調査」は、粟国島を皮切りに2018年度までに20の島々で実施し、各々調査報告書を刊行してきた。主な調査地は、粟国島（1980年）、渡名喜島（1981年）、座間味島（1983年）、伊計島（1987年）、瀬底島（1988年）、与那国島（1989年）、浜比嘉島（1990年）、古宇利島（1991年）、久米島（1992年）、波照間島（1995年）、西表島（1997年）、小浜島（2002年）、与那国島（2005年）、竹富島（2012年）、鳩間島・新城（上地・下地）島・黒島（2016年）、伊是名島・伊平屋島（2018年）である。

そして、2019年度から2023年度までは、宮古諸島（宮古島市および多良間村）を対象地とし、５か年計画で調査を実施する計画を立て、2019年度には、自然史分野（生物・地学・人類）と歴史、民俗分野が多良間島で、考古と民俗分野が宮古島での調査を行った。しかし、２年目にあたる2020年度は、新型コロナウイルス感染防止のため離島への渡航を自粛することになり、総合調査は１年延期することになった。2021年度以降、感染症対策を十分に講じた上で、まだ実現していない水納島での調査を含め、宮古諸島を広範囲かつあらゆる分野の視点で調査し、また、これまでに踏査されていない自然や歴史上の遺跡等を記録していく計画である。

つぎに、共同研究事業として、国立科学博物館及び東京大学と共同で、南城市玉城のハナンダガマ遺跡（2006・2007年度）、南城市玉城おきなわワールド内の武芸洞（2007～2010年度）、2011年度は武芸洞に加えて同敷地内のサキタリ洞を対象とした調査を行った。さらに、2012年度からは、沖縄振興特別推進交付金対象事業（一括交付金）「沖縄遺産のブランド開発・発信事業」を立ち上げ、サキタリ洞遺跡の本格的な調査を実施した。これまでに９千年前よりさらに前のものと考えられる人骨や、世界最古級（2.3万年前）の釣針、先史時代の貝器などが出土し、全国的にも世界的にも注目される貴重な成果をあげている。一括交付金による事業の終了後も、国立科学博物館等と連携して調査を継続している。

一括交付金を活用した事業は他にも２件ある。このうち「琉球王国文化遺産集積・再興事業」では、琉球王国時代の文化遺産を科学的根拠に基づいて現代の人々の手で模造復元するもので、そのための調査研究を８分野65件の資料を対象に実施した。2020年度は、木彫、漆芸、三線分野の５件の模造復元品完成によって製作事業は完了し、さらに「手わざ－琉球王国の美」の巡回展として宮古島市、石垣市、那覇市の３か所で展覧会を開催した。また、当館ホームページから模造復元における調査分析の結果や製作工程等を閲覧できるページを作成し、県内外への発信に努めた。2021年度は、本事業の最終年度として、九州国立博物館及び東京国立博物館、久米島博物館で展覧会や関連催事を開催した。

つぎに、2016年度から５か年計画で実施している「デジタルミュージアム推進事業」は、2020年度を最終年度とし、当初の計画通り80話の動画コンテンツを制作し公開した。本事業は、1973年から沖縄各地で収集された伝承話の音声資料を音源としたもので、無形文化財の活用を図る試みとして実施した。古老が語るオリジナル音源をもとに、制作した80話の動画コンテンツと約3.3万話の伝承話音声資料のデータベースを検索できるウェブサイト「ウチナー民話のへや」を開設した。これにより、沖縄の多様な言語文化や伝承話の世界を広く紹介することができた。今後は、制作したコンテンツを広く発信するため、上映会の開催や学校教育への普及啓発に努めることとする。

学芸員個別の調査研究事業は、学芸員自身がテーマを設定し自主的に実施しているものや外部から依頼を受けて行うもの等様々である。その成果は論文の形で発表されるとともに、講演等の形でも生かされている。
2021年度における学芸員個々の調査研究等の活動状況は、p47～p58で述べるとおりである。

（外間　一先）

２ 博物館総合調査　－宮古諸島総合調査－

博物館総合調査事業は、県内離島の自然・歴史・文化について博物館各分野の学芸員が総合的に調査を実施し、その成果を記録・報告するとともに、当館の展示会等をとおして、島々の自然や文化を多くの県民に伝えることを目的としている。これまで、久米島、波照間島、西表島、小浜島、与那国島、竹富島、鳩間島、新城

島、黒島、伊是名島、伊平屋島について現地調査をおこない、それらの成果をもとに、1996年に久米島展、2010年に八重山展を実施した。2019年度からは５年計画で宮古諸島の調査を実施することとしている。

【組織】
本調査の組織は、博物館班の学芸員（自然史・考古・歴史・美術工芸・民俗）によって構成することとしている。また、調査の精度を高めるため、予算の範囲内で館外の専門家を調査員として委嘱することがある。各調査員でテーマを設定し、適切な時期に調査を実施する。調査の際、テーマに沿ったデータの収集だけでなく、展示会を想定し、資料の収集（借用の可能性）や撮影にも努めている。

【宮古諸島調査の実施状況】
2019年度は多良間島を中心に調査を実施した。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大に伴う措置として、予算を本庁に返納したため、現地調査は実施できなかった。2021年度は、最小限度の予算は確保していたものの、感染状況に改善が見られず、離島への渡航が困難な状況にあったため、ほとんど現地調査ができなかった。

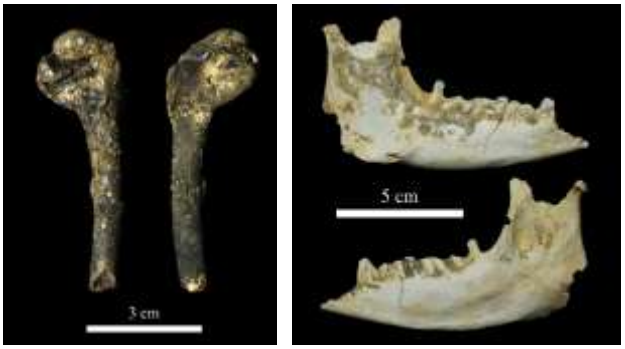
【2021年度調査実績】
山本　正昭（博物館班　主任学芸員）　　2021年９月30日（宮古島）
宇佐美　賢（博物館班　主任学芸員）　　2021年11月５日（宮古島）

（菊川　章）

３ 博物館共同研究事業

【趣　旨】
更新世の隆起サンゴ礁を起源とする石灰岩に広く覆われた沖縄では、約３万6000年前の日本最古の人骨である山下町第一洞穴人（那覇市）や、約２万2000年前の港川人（八重瀬町）など、旧石器時代の人類化石が数多く発見されている。旧石器時代の人類化石の発見例は、日本本土では１か所（浜北人：静岡県浜松市）のみのところ、本県からは10か所ほどが知られており、近年では白保竿根田原洞穴遺跡（石垣市）やサキタリ洞遺跡（南城市）において新たな発見が相次いでいる。
沖縄の旧石器時代人骨は、日本列島における人類のルーツを解明する重要な鍵となる資料であり、本県は旧石器時代人骨の調査場所として圧倒的に有利な立場にあることは明らかである。そこで、本事業では沖縄県立博物館・美術館による継続的な調査によって、多くの成果があげられてきたサキタリ洞遺跡の発掘と調査研究をいっそう推進し、沖縄の旧石器時代人とその文化に関する新たな知見を得るとともに、県立博物館の価値増大を図ることを目的とする。

【事業概要】
今年度のサキタリ洞の発掘調査は、2021年10月19日～11月５日の日程で実施した。調査区Iの発掘調査を進めたほか、西側洞口の洞外南側に新しい調査区IVを設定し、約６㎡の範囲の発掘調査を行った。調査区IVでは、調査区IIIの堆積物との対応から更新世～完新世以降期頃の土石流に由来すると考えられる堆積物、その上を覆うかつて洞窟内で生成されたと考えられるトラバーチンを確認した。土石流堆積物中には焼土や炭化物の集中する箇所が複数確認された。また、地表直下の暗褐色土層中に条痕文土器の伴う石組み炉と思われる遺構を確認した。過年度にサキタリ洞遺跡から出土した人骨の破壊を伴う理化学的な分析を進めるために形態情報の記録を目的としたX線CTスキャニングを2022年２月１日に国立科学博物館筑波研究施設で行った。この翌日の２月２日、国立科学博物館筑波研究施設の地学研究部において沖縄の洞窟遺跡から産出した更新世動物化石の資料調査を行った。



下地原洞穴遺跡TP２のIV層から出土した遺物
（左：リュウキュウジカの右下顎骨、右：カモ科の右上腕骨）

このほか、下地原洞穴遺跡（久米島町）の発掘調査を2022年２月14日～２月20日の日程で行った。南側の洞壁沿いに２か所の小さな試掘坑を設定した。試掘坑１（TP１）ではおよそ現洞床下70cmの深さまで発掘を行い、II層からは、シカ類、海棲貝類、陸棲貝類、サワガニ類、炭化物が出土した。試掘坑２（TP２）ではIV層からシカ類がまとまって出土したほか鳥類、サワガニ類が出土した。
共同研究事業の成果公開として2022年２月５日に日本動物考古学会主催のオンライン講演会で「旧石器時代の動物利用の北と南」と題する講演を行った。

（澤浦　亮平）

４ 「一括交付金」活用事業

（１） 琉球王国文化遺産集積・再興事業

一括交付金とは、国から地方への交付金のことで沖縄振興に資する沖縄の特殊性に基因する事業等を沖縄県が自主的に実施できる制度として創設された。本事業は、一括交付金を活用し、戦後70年余を経て、戦災等により失われた琉球王国時代の文化遺産を模造復元し、沖縄の手わざの力を琉球王国文化のブランドとし、モノ（模造復元品）を通して発信することで、沖縄をアピールする事業である。本事業には模造復元製作業務と発信業務があり、2015年度（平成27）から2021年度（令和３）までの７か年計画で、初年度の実施計画に沿って、模造復元製作（2016～2020年度：製作／2020年～2021年：報告書作成）を実施した。発信業務では、2019～2021年度に模造復元品を活用した展示会や報告会などを開催した。

2021年度（令和３）は、事業総括として総計1,560冊の『琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書』（令和４年３月25日付）を刊行した。本報告書の編集は、当館職員及び委託業者である一般財団法人沖縄美ら島財団・株式会社国建共同企業体が実施し、丸正印刷株式会社が印刷を行った。全６巻立てで、各巻の構成は次の通りである。

第１巻　総論編
第２巻　各論編～絵画・陶芸・金工～
第３巻　各論編～木彫・石彫・漆芸・三線～
第４巻　各論編～染織Ⅰ～
第５巻　各論編～染織Ⅱ～
第６巻　各論編～染織Ⅲ～

第１巻には、事業概要及び復元に関する趣旨・原資料情報、巡回展・講演会・報告会等の発信事業について記載した。第２巻以降は、各分野の模造復元製作に関する各論的な内容、科学分析や試作等から得られた知見、分野のまとめ等を記載した。47都道府県の公立博物館や図書館で閲覧することが可能になるように配布した。

また発信業務では、九州国立博物館（2021年10月19日～12月12日）、東京国立博物館（2022年１月15日～３月13日）、久米島博物館（2022年１月29日～２月20日）の３会場で、模造復元品の展示を通じて王国文化をアピールする巡回展を開催した。久米島博物館は、2020年８月に開催を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期となり、度重なる調整を経て開催が実現した。会期中には、各会場で感染症対策を講じ、手指消毒用アルコールの設置や、ソーシャルディスタンスを保つためのフロアマーカー設置などを行った。また各会場で関連イベントを予定していたが、感染拡大を受けて東京国立博物館および久米島博物館では、イベント開催を見送った。

（篠原　あかね・伊禮　拓郎）

（２） デジタルミュージアム推進事業

本事業は、2015年度に当館に寄贈された沖縄の伝承話音声資料の保存と活用を目的としている。2016年度から2020年度までの５か年計画でデジタルミュージアムを開設し、資料の体系的な保存・管理と80話の民話の動画コンテンツを制作してWeb上や常設展示室等で公開することにより、遠隔地へのサービス提供や来館者誘致、顧客満足度向上の実現を目指している。

題材とした伝承話音声資料は、1973年から故遠藤庄治とその協力者たちが沖縄各地で収集した76,000話余の音声記録のうち、デジタル化済みの33,000話分の記録（カセットテープとデジタルデータ）である。沖縄では、戦争や標準語励行運動、生活の画一化等で口承伝承されてきた民話や伝説等が急速に失われつつある。また、方言の話し手が減少し、地域性が薄くなった現代では、口承だけで民話を残すことが難しくなった。そのため、40年余をかけて収集された伝承話資料は沖縄県民にとって貴重な財産である。その貴重な資料の保存と活用は博物館の重要な使命である。当館では伝承話音声資料を無形文化遺産の一つとして捉え、適切な保管とデジタルデータを活用した展示コンテンツの開発を進めている。

2017年度から2020年度にかけて80話の民話の動画コンテンツを制作し、その成果を2019年度から博物館ホームページ内の「ウチナー民話のへや」で公開している。一括交付金に基づく制作事業は2020年度で完了し、2021年度は動画コンテンツ活用のための教育普及活動を実施した。新型コロナウイルス感染拡大によるイベント規模縮小の影響を受けたが、出前授業と民話上映会を実施することができた。

【出前授業】

南部農林高校生活デザイン科で保育と高齢者福祉を専攻している高校生（２年生）を対象に「沖縄の民話を語り継ごう」と題した出前授業を行った。民話動画コンテンツを視聴してワークショップを行うことで沖縄の民話の楽しみ方を伝えることができた。

・実施日：2021（令和３）年７月26日（月）
・場　所：南部農林高校

・対　象：南部農林高校生活デザイン科　２年生　11名

出前授業の様子（南部農林高校）

【上映会】

2021年度は館内での上映会を２回実施することを計画していたが、新型コロナウイルスの影響により、１回の実施となった。10月30日（土）に博物館の秋フェスタと連動して上映会を実施した。17名にご参加いただいた。

館内での上映会の様子

（阿利　よし乃）

５ 博物館収蔵品WEB図鑑製作発信事業

植物標本

当館には、大正から昭和初期に県立第一中学校（現首里高等学校）に在任していた和歌山県出身の生物学者、坂口總一郎氏が沖縄県を含む日本各地で採集した植物標本（以下「坂口資料」という）をはじめ、多くの植物標本が収蔵されている。また、昭和から平成にかけて生物教員で植物研究家の新島義龍氏により撮影された植物写真資料が収蔵されている。これらの標本資料や写真資料は県民の財産であり、その損失を防ぎ、広く一般に活用できる形にするためには、資料整理のための人員を確保し、適格に整理・保存するとともに、効果的に発信する必要がある。本事業は、当館所蔵の貴重な植物標本資料や植物写真資料を整理し、WEB図鑑として一般に公開することで、広く教育や研究に資することを目的とする。

本事業では、まず未整理の植物標本を整理し、台紙に貼り付け、保存・閲覧が可能な状態（さく葉標本）にする。その後、当該標本を写真に収め、種名や学名、生態写真などの情報を付加し、公開可能な状態にする。またアナログの写真資料についてはスキャンし、デジタル化する。最終的には、WEB図鑑として公開するためのシステムを構築し、当館ホームページ上で公開する。

令和３年度は、前年度に引き続き会計年度任用職員を雇用し、坂口資料のうち沖縄県産の植物標本について整理し、台紙に張り付ける作業を進め、全体の約３分の２程度を完了した。今後は、同作業を継続するとともに、WEB図鑑の製作・発信の方法についても情報を収集する。

（菊川　章）

６ 調査・研究・講演・著作論文等

外間　一先（博物館班班長／歴史：近・現代）

〇調査・研究等

・復帰展関連調査（糸満市・南風原町他県内各地）（2021年４月20日、５月12日、６月10日、７月24日）

・復帰展関連調査（東京都・京都府）（2021年11月30日～12月２日、2022年２月17～18日、２月25～26日）

・沖縄ガラス乾板共同研究（沖縄県内各地・東京都）（2021年４月７日～2022年３月31日）

〇講演等

・名　　称：博物館学芸員講座「復帰49年沖縄の景色」
　期　　日：2021年10月９日（土）
　場　　所：講堂

・名　　称：出前授業
　場　　所：宜野湾市立真志喜中学校「職業講演会　博物館で働く学芸員について」
　期　　日：2021年11月25日（木）
　依頼機関：宜野湾市立真志喜中学校

○著作論文等
・「1972年　復帰と沖縄」『沖縄県立博物館・美術館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月
・『琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書』第１巻　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

崎原　恭子（主任学芸員／歴史：古琉球・近世）
○調査・研究等
・令和４年度歴代宝案展（仮称）に係る事前調査・調整（県文化財課史料編集班）（2021年４月23日）
・NPO法人琉米歴史研究会による鐘のリモート返還セレモニー立ち会い（北中城村）（2021年６月22日）
・令和３年度博物館常設展示室歴史部門展示室特集展「平成の首里城復元－彫刻家・今英男－」に関する資料調査及び収集（石川県）（2021年11月９日～11日）
・令和３年度博物館学芸員講座（首里城周辺フィールドツアー）事前調査・調整（那覇市・首里城周辺）（2021年12月28日、2022年２月８日）
・令和４年度琉球展に係る事前調査・調整（静岡県）（2022年２月17日～18日）
・令和４年度復帰前展関連催事親子バスツアー（那覇・浦添）事前調査・調整（那覇市小禄・奥武山周辺）（2022年３月７日）
○講演等
・名　　称：万国津梁の鐘プロジェクト解体梵鐘vol.３「鐘の見どころ、徹底解説！」
期　　日：2021年11月20日、12月19日
場　　所：沖縄県立博物館・美術館
依頼機関：一般財団法人沖縄美ら島財団
・名　　称：令和３年度沖縄空手アカデミー「民芸の映画『琉球の風物』と1940年撮影の空手」
期　　日：2022年１月20日
場　　所：沖縄空手会館　道場棟研修室
依頼機関：沖縄県文化観光スポーツ部空手振興課
・名　　称：「博物館見学」※地学・歴史・教育普及分野合同実施
期　　日：2022年２月17日
場　　所：沖縄県立博物館・美術館　博物館実習室
依頼機関：沖縄県立沖縄盲学校
・名　　称：博物館学芸員講座「首里の大地と歴史を感じるフィールドツアー」
※地学・考古・歴史分野合同実施
期　　日：2022年２月12日
場　　所：首里城周辺
○著作論文等
・「（表紙写真解説）重要文化財『中山世鑑・蔡鐸本中山世譜・蔡温本中山世譜』」『博友』第33号、沖縄県立博物館友の会、2021年５月
・「沖縄県立博物館・美術館通信　琉球・沖縄の歴史を語る石碑」『那覇市商工会議所会報誌　NAHA CCI NEWS』№817、2021年６月
・博物館コラム「【国際博物館の日2021】海外調査を見据えて」沖縄県立博物館・美術館ホームページ、2021年５月
・博物館コラム「描かれ、記された中城グスク　～中城村のグスク展より～」沖縄県立博物館・美術館ホームページ、2021年12月
・博物館コラム「真珠湊碑文　～500年前の大工事を記した碑～」沖縄県立博物館・美術館ホームページ、2022年３月
・「王都としての首里の都市景観」『古地図で楽しむ　首里・那覇』（安里進・外間政明編著）、風媒社、2022年３月
・「博物館と盲学校協同による教育普及の取り組み」（共著）『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』№15、2022年３月
・「［資料紹介］『向姓家譜』（和宇慶家）について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』№15、2022年３月

宮城　修（主任学芸員／歴史：近・現代）
○調査・研究等
・歴史部門展示室特集展『平成の首里城復元-彫刻家・今英男-』に関する資料調査及び寄贈資料受領（石川県）（2021年11月９日～11月11日）
・令和４年度 博物館 特別展『沖縄復帰後展』事前調査・調整（ライジングプロダクション、外務省公文

書監理室、外務省外交史料館、東京沖縄県人会、NHK放送文化研究所、NHK放送博物館）（2021年11月30日～12月２日）
・令和４年度 博物館 特別展『沖縄復帰後展』事前調査・調整（山中貞則顕彰館）（2021年12月21日～12月22日）
・令和４年度 博物館 特別展『沖縄復帰後展』事前調査・調整（具志堅用高記念館、大濵信泉記念館）（2022年３月15日）

○講演等
・名　　称：博物館学芸員講座「郷土を題材にした歴史教育について」
期　　日：2021年10月17日（日）

○著作論文等
・「今英男が残した平成の首里城正殿復元資料」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

篠原　あかね（学芸員／美術工芸）

○調査・研究等
・染織資料クリーニング作業（2021年４月18日）
・染織調査（個人宅/那覇市）（６月６日）
・琉球展に係る調査：松坂屋美術館（2021年11月16日）、九州国立博物館所蔵染織品調査（12月11日）
・手わざ－琉球王国の文化－展に係る調整および展示作業：九州国立博物館（９月21日～22日、10月13日～19日、11月14日、11月19日～22日、12月11日～17日）東京国立博物館（12月19日～20日）

○講演・学会など
・名　　称：学芸員講座「今、明かされる琉球王国の手わざⅡ－琉球王国文化遺産集積・再興事業について－」
期　　日：2021年５月８日（土）
場　　所：博物館講座室
・名　　称：講座「８分野の手わざ解説」
期　　日：2021年11月20日（土）
場　　所：九州国立博物館１階ミュージアムホール

○著作論文等
・「現代の手わざでよみがえった琉球王国の三線」（『NAHA CCI NEWS』12月号　那覇商工会議所　2021年12月
・「都市の人々と装い」『古地図で読み解く首里と那覇』（監修：安里進、外間政明）風媒社　2022年３月

伊禮　拓郎（学芸員／美術工芸）

○調査・研究等
・大嶺薫コレクション展に係る調査：金武観音寺（2021年５月14日）/大嶺薫関係者聞き取り調査（2022年２月11日）
・琉球展に係る調査（2021年）個人所蔵資料調査（４月18日）/徳川美術館（７月１日、10月29日）/豊見城市教育委員会（９月30日）/九州歴史資料館（10月18日）/那覇市歴史博物館（11月18日）/浦添市美術館（11月19日）/斎場御嶽（11月20日）/宮内庁書陵部（11月25日）/九州国立博物館（12月14日）
・漆器調査（個人宅/那覇市）（2021年11月13日）
・書画調査（個人宅/西原町）（2022年２月２日）

○講演・学会など
・名　　称：常設展示解説会
日　　時：2022年２月10日（木）
場　　所：博物館常設展示室
・名　　称：学芸員講座「文化復興の礎　大嶺薫―東恩納博物館旧蔵資料と大嶺薫コレクション―」
日　　時：2022年３月12日（土）
場　　所：博物館講座室

○著作論文等
・「ニュースでよく見る「あの」表札～復帰50年の今注目したい書～」『NAHA CCI NEWS』１月号　那覇商工会議所　2022年１月
・「手わざ―琉球王国の文化―」『うえの』　上野のれん会　2022年２月
・「模造復元と技術継承」1089ブログ　東京国立博物館　2022年２月

・「士族の都市的ライフスタイル」『古地図で読み解く首里と那覇』（監修：安里進、外間政明）風媒社 2022年３月
・「文化復興の礎　大嶺薫－東恩納博物館旧蔵資料・大嶺薫コレクション再考－」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

與那嶺　一子（主任学芸員／美術工芸）

○調査・研究等
・九州国立博物館所蔵染織品調査：（2021年12月11日）

○講演・学会発表等
・名　　称：南風原の織物こぼれ話　－南風原の織物産業を支えた力－
期　　日：2021年５月８日（土）
依頼機関：南風原町立南風原文化センター
場　　所：同上
・名　　称：中核人材育成セミナー「沖縄の染織」
期　　日：2021年９月27日（月）
依　　頼：ゆいまーる沖縄株式会社
場　　所：ゆいまーる沖縄株式会社（リモート開催）
・名　　称：第５回テキスタイル産地ネットワーク in 沖縄「沖縄の染織」
期　　日：2021年11月13日（土）
依頼機関：ゆいまーる沖縄株式会社
場　　所：沖縄県立図書館

○著作論文等
・「沖縄県立博物館新館展示工事における伊平屋の阿母加那志人形模型衣裳の模様復元について」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

山本正昭（主任学芸員／考古）

○調査・研究等
・令和３年度移動展in渡嘉敷島事前調整（渡嘉敷村教育委員会、国立渡嘉敷青少年の家）（2021年５月11日）
・東恩納博物館跡の建物撤去立ち合い調査（うるま市東恩納）（2021年６月７日、14日、15日）
・東恩納博物館関係資料調査（うるま市立石川歴史民俗資料館）（2021年７月１日）
・令和４年度博物館特別展『沖縄、復帰後。展』資料調査（沖縄国際大学総合文化学部：2021年７月15日、27日、琉球大学考古学研究室：2021年10月14日、恩納村博物館：10月21日、11月10日、沖縄県立埋蔵文化財センター：11月10日、糸満市教育委員会資料室11月15日、12月１日、青山学院大学考古学研究室2022年３月17日～19日）
・沖縄復帰50年記念 特別展「琉球」資料借用（今帰仁村）（2021年１月12日）
・宮古諸島総合調査（宮古島市教育委員会）（2021年10月30日）
・令和４年度企画展『琉球―その美と背景―』資料調査（今帰仁村文化センターほか：2021年10月27日、豊見城村教育委員会：2021年）
・出前授業（宮古島市立鏡原中学校）（2022年２月22日）
・令和３年度与論城跡発掘調査指導（鹿児島県大島郡与論町）（2022年２月24日～25日）

○講演・学会発表等
・名　　称：令和３年度青少年教育施設職員研修会「沖縄の集落を知るⅡ」
期　　日：2021年４月２日
場　　所：沖縄県立糸満青少年の家、賀数集落
・名　　称：城西大学水田美術館2021年度展覧会『むんだすいぬやーぬ　首里城正殿の屋根』講演会「首里城の誕生」
期　　日：2021年９月３日
場　　所：リモート開催
・名　　称：沖縄県立博物館・美術館　７月学芸員講座「グスクの城壁に見る沖縄の独自性」
期　　日：2021年10月２日
場　　所：博物館講座室
・名　　称：首里城再興学術ネットワークシンポジウム2021「発掘調査成果から見る首里城正殿跡」
期　　日：2021年10月３日
場　　所：リモート開催
・名　　称：令和３年度沖縄空手アカデミー　第１回研究報告会「グスク時代の争いの様相と武器・武具

の実態」
期　　日：令和３年10月21日
場　　所：沖縄空手会館研修室
・名　　称：第100回沖縄文化協会研究発表会「首里城正殿の故実」
期　　日：2021年11月20日
場　　所：浦添市アイムユニバースてだこホール
・名　　称：令和３年度企画展『豊見城グスク発掘調査展』関連文化講座「グスクの石積みの構造と変遷」
期　　日：2021年12月12日
場　　所：豊見城市中央図書館

○ワークショップ等
・名　　称：令和３年度博物館夏フェスタ学芸員教室「琉球銭づくり体験」
期　　日：2021年10月23日
場　　所：博物館実習室
・名　　称：令和３年度　沖縄県立博物館・美術館　博物館ボランティア勉強会「博物館で学ぶ考古学のイロハ」
期　　日：2021年11月30日
場　　所：沖縄県立博物館・美術館常設展示室・考古部門展示室
・名　　称：博物館エントランス展示『中城村のグスク』展示解説会
期　　日：2021年12月26日
場　　所：沖縄県立博物館・美術館エントランス
・名　　称：沖縄県立博物館・美術館　2月学芸員講座「首里の大地と歴史を感じるフィールドツアー」
期　　日：2022年２月12日
場　　所：那覇市首里
・名　　称：令和３年度県立玉城青少年の家、南城市中央公民館共催事業『歴史散歩―當山集落　シーサーに護られた集落―』
期　　日：2022年２月６日、13日
場　　所：南城市中央公民館、當山集落
・名　　称：沖縄県立玉城青少年の家主催「琉球の銭をつくって尚泰久王に見せにいこう！」
期　　日：2022年３月６日
場　　所　南城市中央公民館、尚泰久王墓

○著作論文等
・「首里城正殿の遡源と象徴性－発掘調査成果を通して－」『南島考古』第40号　沖縄考古学会　2021年６月
・「沖縄県立博物館・美術館エントランスミニ展示『明和津波襲来250年　大津波の痕跡を探る』の実施概要と緊急事態宣言下における対応」『宮古郷土史研究会会報』№245　同研究会(共著　宇佐美賢)　2021年７月
・「コラム①　首里城正殿の原点とは－首里城跡の発掘調査成果から見る最も古い礎石・基壇建物跡－」『展示図録　むんだすいぬやーぬ　首里城正殿の屋根』城西大学水田美術館　2021年７月
・「阿麻和利に対抗するため名将護佐丸が修築　【琉球王国】中城グスク」『歴史群像』第168号　株式会社ワン・パブリッシング　2021年７月
・「首里城の原点についての一考察－グスク時代に遺跡で見られる隔離空間を再考する－」『首里城を解く－文化財継承のための礎を築く－』勉誠出版　2021年９月
・「明和津波以前の津波痕跡－遺跡と津波石、津波堆積物の年代から探る－」『しまたてぃ』№98　一般社団法人沖縄しまたてぃ協会　2021年10月
・「明朝が築いた福建省の城郭－城郭としてのグスクの特徴を考える－」『しまたてぃ』№98　一般社団法人沖縄しまたてぃ協会　2021年10月
・「【琉球王国】中城グスク」『ワイド&パノラマ　鳥瞰・復元イラスト　戦国の城』株式会社ワン・パブリッシング　2021年11月
・「グスクに見る石積み技法の変遷－石積み技法の編年化とその高層化を考える－」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月
・「博物館での珍しい特別イベントーバックヤードツアーー」『NAHA CCI NEWS』３月号　№826　那覇市商工会議所　2022年３月
・「書評『琉球の中世』」『宮古研究　宮古郷土史研究会設立45周年記念号』第14号　宮古郷土史研究会　2021年６月
・「書評　石井龍太著『ものがたる近世琉球　喫煙・園芸・豚飼育の考古学』」『琉球沖縄歴史』第３号　琉球沖縄歴史学会　2021年８月

・新聞記事（６月19日）「消えゆく戦禍の跡　開発で実態知れず消滅」『琉球新報』　琉球新報社　2021年６月
・新聞記事（４月22日）「大津波の痕跡を探る－発掘調査で確認された、いわゆる明和津波の痕跡－（上）」『八重山毎日新聞』　八重山新聞社　2021年４月
・新聞記事（４月23日）「大津波の痕跡を探る－発掘調査で確認された、いわゆる明和津波の痕跡－（下）」『八重山毎日新聞』　八重山新聞社　2021年４月
・新聞記事（８月29日）「書評　髙田徹著『絵葉書から分析する近世城郭の建築と空間』」『琉球新報』琉球新報社　2021年８月

○兼任
・国立歴史民俗博物館展示プロジェクト「海の帝国琉球―八重山・宮古・奄美からみた中世―」展示監修委員

○研究的競争資金の獲得状況
・「琉球列島の築城技術にみる土木史的研究」『日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究（C）（一般）令和３年度～令和６年度』（研究代表者）

阿利よし乃（学芸員／民俗）

○調査・研究等
・復帰後展調査：アイスキャンデー屋調査（４月27日）／諸見民芸館、沖縄市戦後文化資料展示館 ヒストリート調査（10月13日）／南風原文化センター見学（10月15日）、ディスコ調査①（10月16日）、ディスコ調査②（11月13日）、ディスコ調査③（12月４日）、諸見民芸館調査（２月17日）、アイスキャンデー屋調査（２月22日）
・貝塚展体験教室のための貝採集調査：予備調査（10月５日）、貝の採集、タコ捕り調査（泡瀬）（10月８日）、平安座島のタコ捕り（10月24日）
・新収蔵品調査：中城村当間の民具調査（10月８日）、琉球箏調査（10月22日）、宮古島のヘラ調査（２月13日）、タンス調査（１月14日）、門中墓改修工事映像の調査（２月18日）
・その他調査：クバオージ作り調査（豊見城市）（６月９日）、令和４年度琉球展資料調査（九州国立博物館）（10月21～22日）

○講演・学会発表等
・名　　称：国立歴史民俗博物館共同研究「水をめぐる生活世界－実用と信仰の視点から」第４回研究会「井戸の伝承と儀礼－沖縄県石垣島白保村落の事例－」
　日　　時：2021年７月17日（土）
　場　　所：オンライン
・名　　称：出前授業「沖縄の民話を語り継ごう」
　日　　時：2021年７月26日（月）
　場　　所：南部農林高校
・名　　称：こどもフェスタ2021「クバオージを作ってみよう！」
　日　　時：2021年10月23日（土）
　場　　所：アマハジ、屋外展示場
・名　　称：令和３年度ウチナーの民話上映会
　日　　時：2021年10月30日（土）
・名　　称：国立歴史民俗博物館共同研究「水をめぐる生活世界－実用と信仰の視点から」第５回研究会「資料紹介　歌謡・古写真・民具にみる沖縄の人と水－沖縄県立博物館・美術館収蔵資料を中心に－」
　日　　時：2021年11月６日（土）
　場　　所：オンライン
・名　　称：学芸員講座「Okimu収蔵のクバ製民具」
　日　　時：2021年12月11日（土）
　場　　所：博物館講座室
・名　　称：基幹研究「水をめぐる認知と技術と社会の連環からみた日本列島の歴史過程と文化の形成」「水をめぐる生活世界－実用と信仰の視点から－」合同研究会「沖縄の暮らしと水－沖縄県立博物館・美術館所蔵資料を中心に－」
　日　　時：2022年３月20日（日）
　場　　所：オンライン

○著作論文等
・「人々の健康を願う年中行事－うるま市勝連南風原のムーチーとシマクサラー」『沖縄県立博物館・美術館博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

大湾　ゆかり（主任学芸員／民俗）

○調査・研究等

・寄贈資料の事前調査（那覇市）（2021年４月27日）
・東恩納博物館見学（うるま市）（2021年６月７日）
・復帰50年特別展関連調査（沖縄市・名護市）（2021年10月13日、10月16日、12月４日、２月17日）
・三の丸尚蔵館収蔵作品展にかかる他県の先行事例調査（和歌山県）（2021年12月７日～８日）

○講演等

・名　　称：沖縄染織研究会「近代沖縄における琉球藍を取り巻く社会的背景」（オンライン）
　期　　日：2021年９月17日（金）
・名　　称：宜野湾市立博物館第11回市民講座「琉球藍の話」
　期　　日：2022年２月13日（日）

○著作論文等

・「沖縄の藍染料に関する史料紹介（1）－明治時代以前の史料－」『沖縄県立博物館・美術館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月
・「眞境名家の神主位牌について－『四本堂家礼』との比較検討を含めて」（共著）『沖縄史料編集紀要』第45号　沖縄県教育委員会 2022年３月

宇佐美　賢（主任学芸員／地学）

○調査･研究等

・東恩納博物館資料調査（2021年６月７日）
・首里城破損石材資料調査（2021年６月18日）
・大宜味村ビーチロック調査（2021年７月27日）
・中城村の岩石民俗資料調査（2021年10月８日）
・糸満市軽石漂着状況調査（2021年10月16日）
・恩納村軽石漂着状況調査（2021年10月21日）
・大宜味村～東村軽石漂着状況調査（2021年10月29日）
・復帰50年特別展資料調査（東村文化・スポーツ記念館）（2021年10月29日）
・国頭村軽石漂着状況調査（2021年11月４日）
・復帰50年特別展資料調査（宮古島地下ダム他）及び、総合調査（2021年11月５日）
・宜野湾市～浦添市軽石漂着状況調査（2021年11月10日）
・恩納村～名護市～本部町軽石漂着状況調査（2021年11月11日）
・糸満市～那覇市軽石漂着状況調査（2021年11月12日）
・与那原町～西原町軽石漂着状況調査（2021年11月14日）
・復帰50年特別展資料調査（万国津梁館）（2021年11月17日）
・読谷村～嘉手納町軽石漂着状況調査（2021年11月17日）
・南城市ジープ洞調査（2021年11月19日）
・復帰50年特別展資料調査（産業支援センター）（2021年12月６日）
・復帰50年特別展資料調査（鹿児島県山中貞則顕彰館）（2021年12月21日～22日）
・学芸員講座（フィールドツアー）の下見　首里城周辺（2021年12月28日）
・嘉手納町比謝川流域地質地形調査（2021年12月29日）
・学芸員講座（フィールドツアー）の下見　八重瀬町　ぐしちゃん浜（2022年１月５日）
・復帰50年特別展資料調査（沖縄観光コンベンションビューロー他）（2022年１月21日）
・復帰50年特別展資料調査（琉球新報新聞博物館）（2022年１月24日）
・復帰50年特別展資料調査（しまたて協会）（2022年１月26日）
・復帰50年特別展資料調査（RBC琉球放送）（2022年１月27日）
・嘉手納町比謝川流域地質地形調査（2022年２月１日）
・復帰50年特別展資料調査（県子ども未来政策課・土木総務課）（2022年２月３日）
・学芸員講座（フィールドツアー）の下見　首里城周辺（2022年２月８日）
・復帰50年特別展資料調査（万国津梁館）（2022年２月15日）
・復帰50年特別展資料調査・地質地形調査（渡嘉敷島）（2021年２月16日）
・復帰50年特別展資料調査（糸満市観光スポーツ振興課）（2022年２月22日）
・復帰50年特別展資料調査（沖縄都市モノレール・浦添市役所）（2022年２月24日）
・復帰50年特別展関連催事バスツアー下見（那覇市金城～奥武山）（2022年３月7日）
・復帰50年特別展資料調査（南部農林高等学校）（2022年３月16日）

○講演等

・名　　称：宜野湾市立博物館わらばー体験じゅく（沖縄の石と化石の不思議に迫ろう）

期　　日：2022年10月23日（土）30名
場　　所：宜野湾市立博物館、森川公園
依頼機関：宜野湾市立博物館
・名　　称：学芸員教室「石と友達になろう！石割り体験と黒曜石のアクセサリー作り」
期　　日：2022年10月24日（日）小･中学生　８名
場　　所：博物館実習室
・名　　称：コザしんきんスタジアム星空観察会
期　　日：2022年12月４日（土）30名
場　　所：コザしんきんスタジアム
依頼機関：おきなわスポーツイノベーション協会株式会社
・名　　称：博物館学芸員講座「学芸員といくフィールドツアー　沖縄本島南部の自然観察に行こう！」
期　　日：2022年１月８日（土）　20名
場　　所：八重瀬町　ぐしちゃん浜
・名　　称：博物館学芸員講座「首里の大地と歴史を感じるフィールドツアー」
期　　日：2022年２月12日（土）　15名
場　　所：首里城周辺
・名　　称：博物館見学　沖縄県立沖縄盲学校
期　　日：2022年２月17日（月）10名
場　　所：博物館実習室
・名　　称：慶良間諸島国立公園指定８周年記念　渡嘉敷島の石ころと地形・船越原遺跡観察会
期　　日：2022年３月５日（土）20名
場　　所：渡嘉敷島
依頼機関：環境省慶良間自然保護官事務所　共催：渡嘉敷村　後援：渡嘉敷村教育委員会
・名　　称：沖縄県軽石、海の環境問題交流プロジェクト　漂着軽石についての講演
期　　日：2022年３月29日（火）20名
場　　所：沖縄科学技術大学院大学
依頼機関：特定非営利活動法人ユナイテッドかながわ

○著作論文等
・「沖縄県立博物館・美術館エントランスミニ展示『明和津波襲来250年大津波の痕跡を探る』の実施概要と緊急事態宣言下における対応」『宮古郷土史研究会会報』№245　同研究会（共著　山本正昭）　2021年７月
・「大津波から250年を経て」『しまたてぃ』№98　一般社団法人沖縄しまたて協会　2021年10月
・「福徳岡ノ場 2021 年８月噴火による沖縄県における漂着軽石の記録」（共著）『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第 15 号　沖縄県立博物館・美術館　2022 年３月
・「博物館と盲学校協同による教育普及の取り組み」（共著）『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第 15 号　沖縄県立博物館・美術館　2022 年３月
・「仲泊海岸採集の偽黒曜石－溶解スラグ－」（共著）『恩納村博物館紀要』第 12 号　2022 年３月

菊川　章（主任学芸員／生物）

○調査･研究等
・学芸員講座（フィールドツアー）及び体験教室の下見
①那覇市　末吉公園（2021年10月27日）かたつむり観察会下見
②八重瀬町　ぐしちゃん浜（2022年２月４日）フィールドツアー下見
・資料調査：植物調査（名護市嘉津宇岳）（2021年12月７日）、国頭村与那覇岳（2022年３月25日）、シャジクモ採集　宜野座村（2021年５月21日、７月28日）、陸貝調査・採集　（2021年12月24日、2022年１月26日、31日、２月１日）
・令和３年度特別展に係る資料借用（６月）および返却（９～10月）
①茨城県（国立科学博物館）・千葉県（山階鳥類研究所、内山春雄氏宅）
②県内（琉球大学、GODAC、沖縄美ら島財団総合研究センター）

○講演等
・名　　称：みんなの進化論入門－進化の視点で身近な自然を見てみよう！
期　　日：2021年９月11日（土）無観客LIVE配信　視聴者数1,500人超
場　　所：博物館企画展示室・特別展示室１・２
・名　　称：夏休み学芸員教室「手羽先で骨格標本づくり～恐竜と鳥はどこが似ているの？～」
期　　日：2021年10月30日（土）　小･中学生　12名

場　　所：博物館実習室
・名　　称：特別講演会「進化から自然史を語る」
※「みんなの進化展を歩く」と題して講師の一人として登壇
期　　日：2021年10月31日（日）　一般　140名
場　　所：博物館講堂
・名　　称：かたつむり野外観察会　身近なかたつむりを探しに行こう！
期　　日：2021年12月26日（日）　20名
場　　所：末吉公園
・名　　称：博物館学芸員講座「学芸員といくフィールドツアー①　沖縄本島南部の自然観察に行こう！」
期　　日：2022年１月８日（土）　15名
場　　所：八重瀬町　ぐしちゃん浜
・名　　称：琉大ジュニアドクター育成塾　特別授業「バックヤード見学」
期　　日：2022年１月11日（土）　小中学生　10名
場　　所：博物館バックヤード
依頼機関：琉球大学

○著作論文等
・「沖縄県立博物館・美術館通信　特別展『みんなの進化展～命はつながっている～』にかける担当者の思い」那覇商工会議所会報誌（NAHA CCI NEWS）　7月号（通巻818号）p35
・令和３年度　博物館特別展「みんなの進化展～命はつながっている～」展示解説書　令和３年７月
・「博物館と盲学校協同による教育普及の取り組み」（共著）『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月
・「令和３年度　博物館特別展「みんなの進化展～命はつながっている～」のめざしたものと展示の工夫」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

山崎　真治（主任学芸員／人類）

○調査・研究等
・貝塚人展関連資料調査（伊波貝塚・地荒原貝塚・具志川グスクほか）うるま市与那城資料館（2021年４月21日・５月13日・８月６日）
・貝塚人展関連資料調査（前原遺跡ほか）宜野座村立博物館（2021年５月12日）
・貝塚人展関連資料調査（嘉門貝塚ほか）浦添市歴史にふれる館（2021年５月14日）
・資料調査（嘉数手テラガマ遺跡出土石器ほか）宜野湾市立博物館（2021年５月18日）
・日本最古の着色された装飾品解説動画撮影：ガンガラーの谷（2021年５月19日）
・貝塚人展関連資料調査（今帰仁城跡ほか）今帰仁村歴史文化センター（2021年７月７日）
・貝塚人展関連資料調査（室川貝塚）沖縄国際大学（2021年７月15日）
・貝塚人展資料借用：久米島博物館（借用：2021年８月31日／返却：12月18日）
・貝塚人展資料借用：沖縄県立埋蔵文化財センター（借用：2021年９月１日／返却：12月13日）
・貝塚人展資料借用：南城市教育委員会・八重瀬町教育委員会（借用：2021年９月３日／返却：12月10日）
・貝塚人展資料借用：浦添市教育委員会・沖縄市立郷土博物館（借用：2021年９月６日／返却：12月22日）
・貝塚人展資料借用：北谷町教育委員会（借用：2021年９月７日／返却：12月23日）
・貝塚人展資料借用：うるま市教育委員会（借用：2021年９月８日／返却：12月16日）
・貝塚人展資料借用：今帰仁村歴史文化センター・名護市教育委員会・宜野座村立博物館（借用：2021年９月10日／返却：12月15日・12月17日）
・文化庁YouTube動画撮影対応（2021年９月13日）
・貝塚人展資料借用：那覇市市民文化部・歴史博物館（借用：2021年９月14日／返却12月14日）
・貝塚人展資料借用：東京大学総合研究博物館（借用：2021年９月16日／返却：12月21日）
・貝塚人展資料借用：沖縄国際大学（借用：2021年９月21日／返却：12月14日）
・貝塚人展資料借用：伊江村教育委員会（借用：2021年９月23日／返却：2022年１月６日）
・貝塚人展資料借用：石垣市立八重山博物館（借用：2021年９月24日／返却：12月24日）
・TBS 世界ふしぎ発見　取材対応（2021年９月３日）
・貝塚人展イメージ写真撮影ロケ（2021年10月９～10日）
・サキタリ洞遺跡発掘調査：南城市サキタリ洞遺跡（10月19日～11月５日）
・嘉陽グスク発掘調査（名護市）現地見学（2021年11月12日）
・ツヅピスキアブ遺跡発掘調査（宮古島市）現地見学（2021年12月４日）
・宮城島シヌグ堂遺跡（うるま市）発掘調査現地見学（2022年１月７日）
・沖縄島洞窟現地調査（福岡大学石原与四郎氏立ち合い）（2022年１月20日、21日、23日）
・新型コロナ感染症対策関係動員（2022年２月７日～19日）

・八重山地区中学校出前授業（２月21日：川平中学校／２月22日：石垣第二中学校／２月25日：名蔵中学校／２月28日：伊原間中学校）
・石垣島名蔵貝塚群ほか現地調査：石垣市名蔵（2022年２月26日・27日）
・八重瀬町具志頭グスク崖下地点発掘調査：現地見学（2022年３月２日・17日・23日）
・徳之島下原洞穴遺跡発掘調査現地見学：鹿児島県天城町（2022年３月３日～５日）

○講演・学会など
・名　　称：胎土分析から見た「奄美系土器」の実態
日　　時：2021年５月
場　　所：日本考古学協会第87回総会（オンライン・ポスター発表）
・名　　称：「縄文時代後晩期のネットワークと腰岳産黒曜石」
日　　時：2021年10月９日
場　　所：シンポジウム『日本列島のなかの腰岳黒曜石原産地』（オンライン）
依頼機関：伊万里市教育委員会・腰岳黒曜石原産地研究グループ
・名　　称：「日本最古の着色された装飾品」（発掘成果解説動画）
日　　時：2021年10月22日配信開始
場　　所：YouTubeにて配信（2022年３月末現在　約400回再生）
依頼機関：ガンガラーの谷
・名　　称：「企画展『海とジュゴンと貝塚人』のみどころ紹介」
日　　時：2021年11月13日
場　　所：博物館講座室（現地開催・アーカイブYouTube配信）
・名　　称：「企画展『海とジュゴンと貝塚人』のみどころ紹介」
日　　時：2021年11月13日
場　　所：博物館講座室（現地開催・アーカイブYouTube配信）（2022年３月末現在　約160回再生）
・名　　称：「洞窟遺跡が語る人類史」日本洞窟学会第47回大会（沖縄大会）公開講演会：沖縄の洞窟とその魅力～沖縄のカルストと水、洞窟遺跡、観光資源の話題を中心に～
日　　時：2021年11月26日
場　　所：講堂
依頼機関：日本洞窟学会
・名　　称：【文化庁発】遺跡から地域の歴史を深掘り！「いせきへ行こう！」スペシャル　第１弾　前編「石器じゃないよ貝器だよ～南島の旧石器・縄文文化～」／後編「文化の結節点・下原洞穴～南島の旧石器・縄文文化」（YouTube配信）
日　　時：2021年11月29日配信開始
場　　所：YouTubeにて配信（2022年３月末現在　前編：約2900回再生　後編：約2300回再生）
依頼機関：文化庁

○著作論文等
・「知名町中甫洞穴出土海産貝類の放射性炭素年代」『奄美考古学』９　2021年４月（共著：宮城幸也・黒住耐二）
・「台湾中部番仔園文化の埋葬風習から見た先史人の交流」（翻訳）『南島考古』40　2021年７月
・『企画展「海とジュゴンと貝塚人－貝塚が語る9000年のくらし－」図録』　沖縄県立博物館・美術館　2021年10月
・「海とジュゴンと貝塚人－貝塚が語る9000年のくらし－」『那覇商工会議所会報誌』No. 821　那覇市商工会議所　2021年10月
・「サキタリ洞遺跡の貝製ビーズと顔料利用に関する新たな知見－沖縄の旧石器文化をめぐる特殊性と普遍性－」『旧石器研究』17　2021年５月（共著：澤浦亮平・黒住耐二・藤田祐樹・竹原弘展・海部陽介）
・Asami, R., Hondo, R., Uemura, R., Fujita, M., Yamasaki, S., Shen, C. C., Wu, C. C., Jiang, X., Takayanagi, H., Shinjo, R., Kano, A., & Iryu, Y. (2021). Last glacial temperature reconstructions using coupled isotopic analyses of fossil snails and stalagmites from archaeological caves in Okinawa, Japan. Scientific reports, 11(1), [21922]. https://doi.org/10.1038/s41598-021-01484-z

○競争的研究資金の獲得状況
・「更新世－完新世の環境激変期における人類適応史の解明」『（公財）住友財団2019年度環境研究助成』（2019年11月～2021年11月）

澤浦　亮平（学芸員／人類）

○調査・研究等
・【発掘調査】サキタリ洞遺跡（2021年10月19日～11月５日）／ツヅピスキアブ遺跡（2021年10月26日、11月30日～12月３日）／下地原洞穴遺跡（2022年２月14日～20日）

・【共同研究事業】サキタリ洞遺跡共同研究事業WEB会議（５月28日）／サキタリ洞出土遺物検討会（４月22～23日、１月14日）／科学研究費補助金関係WEB会議（４月17日、５月８日、６月10日、７月27日）
・【資料調査】沖縄県工業技術センターX線CT撮影（４月７日、５月20日、６月15日、７月８日、19日、12月10日）／勝連城出土人骨資料調査（与那城歴史民俗資料館）（５月６日）／ゴヘズ洞穴出土人骨の調査および村内洞穴遺跡の踏査（伊江村教育委員会）（１月25・26日）／国立科学博物館人類研究部 サキタリ洞出土人骨研究の調整等（２月１日）／国立科学博物館地学研究部 沖縄県内出土化石資料の調査（２月２日）
・【その他】復顔模型製作工程の確認　川崎市サンク・アール社工房（７月５日、８月12日（オンライン）、９月30日）

○展示活動
・名　　称：沖縄県立博物館・美術館　博物館企画展「新収蔵品展－令和２年度収蔵資料－」（主担当）
　期　　日：2020年２月18日（火）～６月20日（日）【新型コロナ感染拡大に伴い5月22日（土）で閉幕】
　場　　所：特別展示室１・企画展示室
・名　　称：沖縄県立博物館・美術館　博物館企画展「海とジュゴンと貝塚人　－貝塚が語る9000年のくらし－」（副担当）
　期　　日：2021年10月15日（金）～12月５日（日）
　場　　所：特別展示室１・２

○講演・学会発表等
・名　　称：86th Annual Meeting of the SAA「Hunting Activities of the Upper Paleolithic Humans in the Japanese Archipelago」（Takao Sato他との共著による発表）
　期　　日：2021年４月15日（木）
　場　　所：Zoomによるオンライン発表
・名　　称：日本哺乳類学会2021年度大会「絶滅した日本オオヤマネコの学際的調査・研究」（佐藤孝雄・米田穣・増田隆一との共著による発表）
　期　　日：2021年８月30日（月）
　場　　所：Zoomによるオンライン発表
・名　　称：学芸員講座「勝連城に眠る子ども」
　期　　日：2021年９月４日（土）
　場　　所：Zoomによるオンライン開催・YouTubeによるライブ配信
・名　　称：日本人類学会第75回大会「沖縄県うるま市勝連城跡東の曲輪地区から出土した中世幼小児」（土肥直美・横尾昌樹との共著による発表）
　期　　日：2021年10月８日（金）
　場　　所：LINC Bizによるオンライン発表
・名　　称：向陽高等学校 地歴・公民科巡検事前学習会「港川人はどのような人だったのか？」
　期　　日：2021年11月16日（火）
　場　　所：向陽高等学校
・名　　称：日本動物考古学会主催オンライン講演会　洞窟遺跡に残された動物骨とヒトの暮らし～沖縄における動物考古学研究の最前線～「旧石器時代の動物利用の北と南」
　期　　日：2022年２月５日（土）
　場　　所：Zoomによるオンライン発表

○著作論文等
・「サキタリ洞遺跡の貝製ビーズと顔料利用に関する新たな知見－沖縄の旧石器文化をめぐる特殊性と普遍性－」『旧石器研究』17号　2021年５月（共著：山崎真治ほか４名）
・「よみがえる貝塚人」『海とジュゴンと貝塚人』2021年10月
・「動物考古学からみた旧石器時代の狩猟と石製狩猟具」『九州旧石器』25号　2021年11月
・「琉球列島人の形成史の鍵を握る存在－グスク時代黎明期のヒトに関する新知見-」『しまたてぃ』99号　2022年１月
・「南城市武芸洞遺跡の石棺墓から出土した人骨に関する追加報告」『沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要』第15号　沖縄県立博物館・美術館　2022年３月（共著：藤田祐樹・山崎真治）

○競争的研究資金の獲得状況
・「後期更新世大型シカ類の動物考古学的研究」『日本学術振興会　科学研究費助成事業　若手研究　平成30年度～令和３年度』（研究代表者）
・「東南アジア大陸部における後期更新世人類の環境適応の解明」『日本学術振興会　科学研究費助成事業　国際共同研究加速基金　令和２年度～令和６年度』（研究分担者）
・「日本列島に棲息したオオヤマネコに関する学際的調査・研究」『日本学術振興会　科学研究費助成事業　基盤研究(B)　令和３年度～令和６年度』（研究分担者）

○兼任
・国立科学博物館　人類研究部　協力研究員
・東北大学大学院歯学研究科　口腔器官解剖学分野　大学院非常勤講師

7 職員研修

博物館法第４条の４において「学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる」と規定しており、学芸員に学問的専門性を要求している。また、博物館が独自の展示会や教育普及活動を行うためには、学芸員自身が調査研究を行い新たな知見を得ていく必要がある。そのため、学芸員は適宜研修を受講するとともに、平成23年度から毎週「学芸員ゼミ」を開催して互いの研究について情報共有や意見交換を行っている。

（1） 沖縄県博物館協会

総会及び春の研修会は、５月に予定されていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため、総会は書面決議とし、研修会は中止。秋の研修会は、感染予防のため参加人数を限定した対面と、オンラインで実施した。

○秋の研修会・現地研修
日　　時：2021年12月16日（木）・17日（金）
場　　所：沖縄こどもの国
参 加 者：田名真之（館長）、外間一先、宮城修、宇佐美賢

（2） 日本博物館協会

○第69回全国博物館大会「博物館法制定70周年記念大会　文化の多様性をつなぐ博物館」
日　　時：2021年11月17日(水)～11月18日（木）
場　　所：北海道札幌市「かでる2.7（北海道立道民活動センター）」
参 加 者：外間一先

（3） 博物館班学芸員ゼミ　以下「回、期日、担当者、題」の順に記す（原則毎週月曜日に実施）

回	累計回	月日	担当者	題
第１回	322	04/12	山崎 真治	日本最古の着色された装飾品
第２回	323	04/26	外間 一先	令和４年度博物館・美術館特別展「復帰50年展」について
第３回	324	05/24	宇佐美 賢	「復帰50年展」にむけて２　第５章各分野の展示について
第４回	325	05/31	勝連 涼子	祖先祭祀 -シジタダシの事例報告-
第５回	326	06/07	澤浦 亮平	勝連城に眠る子ども
第６回	327	06/14	與那嶺 一子	おうちミュージアムを視聴して博物館教育論のレポートからみえるWebプログラムの可能性と課題
第７回	328	06/21	篠原 あかね	陶製厨子の装飾について
第８回	329	06/28	伊禮 拓郎	文化復興の礎　大嶺薫　東恩納博物館旧蔵資料･大嶺薫コレクション再考　～前編　戦前、そして東恩納博物館長時代～
第９回	330	07/19	宮城 修	郷土の学習に関する学校現場と生徒の実態
第10回	331	07/26	崎原 恭子	新収蔵の向姓家譜について　～和宇慶家と内間家～
第11回	332	08/16	菊川　章	「みんなの進化展～命はつながっている～」工夫した点などについて
第12回	333	09/06	山本 正昭	「中城村のグスク展－中城グスクと新垣グスク－」実施概要
第13回	334	09/13	山崎 真治	企画展　海とジュゴンと貝塚人
第14回	335	10/04	阿利 よし乃	八重山の行事食と担い手たち
第15回	336	10/18	大城 久表	手のスケッチ【見て感じて描く】
第16回	337	11/01	田名 真之	近世琉球の「罪と罰」－流罪をめぐる諸相－（－ボーチラーは島流し－）
第17回	338	11/15	外間 一先	記録映画「沖縄」1960年代
第18回	339	11/29	宇佐美 賢	福徳岡ノ場2021年８月噴火 漂着軽石～沖縄県内の記録～
第19回	340	12/06	大湾 ゆかり	朝鮮王朝実録に見える近世与那国島の人びとの服装再現の試み
第20回	341	12/13	菊川　章	「みんなの進化展」をとおして学んだ画像コンテンツの収集・製作方法

回	累計回	月日	担当者	題
第21回	342	01/17	澤浦 亮平	復顔模型の制作と体験教室「貝塚の味」の報告
第22回	343	01/31	與那嶺 一子	Family history　仁助さんのソ連抑留記
第23回	344	02/14	伊禮 拓郎	文化復興の礎　大嶺薫　東恩納博物館旧蔵資料･大嶺薫コレクション再考　～中編　文化財保護、そして実業家としての歩み～
第24回	345	02/21	宮城 修	「平成の首里城復元－彫刻家・今英男－」
第25回	346	02/28	崎原 恭子	「辞令書の受入経緯について～県指定有形文化財２件～」
第26回	347	03/14	山本 正昭	明治日本の西洋建築を訪ねる-関西地区の非公開建物を中心に-
第27回	348	03/22	阿利 よし乃	『海南小記』とクバの民俗
第28回	349	03/28	上原　毅	八重山の伝統芸能

Ⅱ 展示活動

１ 展示活動概要

年間の展示活動としては、常設展示を中心に、特別展１本、企画展数本、大嶺薫コレクション展及び、新収蔵品展を開催することを基本としている。また、旧博物館において実施してきた「移動博物館」については、「移動展」と改称して2008年度（平成20）からは美術館と共同で開催している。

海洋性、島嶼性の地理的要因により、沖縄には豊かな自然環境が形成されるとともに、海を介して行われた日本本土や中国をはじめとするアジア諸国との交流により独自の歴史、文化が形成されてきた。常設展示では「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて」をテーマとし、沖縄の自然・歴史・文化に係る総合的かつ体系的な展示を行っている。

2021年度（令和３）は特別展１本と企画展を２本、ロビー展、部門展示の展示替えを行った。具体的には特別展「みんなの進化展～命はつながっている～」、企画展「海とジュゴンと貝塚人－貝塚が語る9000年のくらし－」を開催した。しかし新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、臨時休館したため「みんなの進化展」及び「新収蔵品展」は会期短縮、企画展「大嶺薫コレクション展」は中止となった。

２ 常設展

【総合展示】

常設展は、総合展示と部門展示からなり、沖縄の自然・歴史・文化を「海洋性」と「島嶼性」という二つの側面から読み解いている。古来より、沖縄の島々は海によって互いに隔てられると同時に、海によってアジア、太平洋地域と深く結びつけられてきた。島には固有の自然があり、人々の営みがあり、その一つ一つが沖縄県の特徴ある自然・歴史・文化を形成している。島に息づく豊かな自然と、島をとりまく海を媒介とした人々の営みを紹介するとともに、トー（唐：中国）とヤマト（日本）との間で花開いた琉球王朝文化、そして目まぐるしい世替わりを体験してきた沖縄の近代史と戦中・戦後史を射程に入れ、常設展のメインテーマを「海と島に生きる－豊かさ、美しさ、平和を求めて－」とした。

常設展のうち、総合展示は、開館以来展示替えを実施してこなかったが、開館10周年を節目に、2017年（平成29）２月に展示の魅力アップを図るため、旧首里城正殿鐘を単品で紹介する展示をはじめ、当館が所蔵する県指定文化財等の梵鐘７口を新たに加え、展示の充実強化を図る初めての展示リニューアルを行った。また、屋外（駐車場側）に鐘楼を設けて、現存する最古の鐘のひとつである大聖禅寺鐘（実物）を吊り、対外的に博物館の魅力発信につなげた。

常設展へのアプローチでは、イノー（ラグーン）に広がる珊瑚礁を足元に見ながら、あたかも島に上陸するような感覚を体験することができる。また、展示室中央に設けられた「シマの自然とくらし」のコーナーには、鹿児島から台湾まで東西1,000キロ、南北400キロの海域に散在する琉球列島の大小の島々を壮観できる大型ジオラマを配置し、島々の特徴ある自然・歴史・文化について情報端末機を用いて紹介している。また、人工衛星によって撮影された画像を用いて、島々を観察することができる。

○海で結ばれた人々～サークルホールの展示～

「化石の宝庫」沖縄から発見された様々な化石を展示している。クジラやアンモナイトなど、原始の海に暮らした生き物をはじめ、日本人のルーツとされる２万２千年前の「港川人」や、その頃に生きていたリュウキュウジカ、ヤンバルクイナなどの化石がステージ上に展開している。また、正面のスクリーンで

は、古生代から現在に至るまでの琉球列島の地史を映像で概観し、沖縄の自然・歴史・文化の旅へと誘う。

〇貝塚のムラから琉球王国へ

グスク時代、それぞれの地域に有力者が登場すると、防御などを目的とした様々なグスクが築かれるようになる。また、有力者たちは中国への朝貢を通して文化の移入や交易に努め、富を築いた。各地の勢力は、やがて北山・中山・南山の３つに収斂（しゅうれん）し、激しい抗争を繰り広げた。しかし、15世紀はじめ頃に、これらの３つの勢力は尚巴志によって統一され、琉球王国が築かれた。ここからおよそ500年の長きにわたり、首里を拠点とする王国の歴史が始まる。

〇王国の繁栄（古琉球）

尚巴志によって統一された琉球王国は国家として成立したが、国内の権力基盤は不安定な状態であった。そのため、第一尚氏から第二尚氏へ王統の交代が起きた。一方で、中国との冊封・進貢貿易によって富を蓄えた琉球王国は、中国・日本・東南アジアをつなぐ中継貿易を盛んに行った。東アジアの大海原の架け橋として船を操り、国際色豊かな産物が国中にあふれるさまを謳（うた）った旧首里城正殿鐘の銘文は、往時を偲ぶ貴重な資料である。この時代、琉球は東アジア有数の貿易国家として繁栄し、より強固な国家体制をつくりあげていった。平成28年度の展示一部リニューアルでは、常設展示に、旧首里城正殿鐘の単体の紹介を中心に、仏教文化と梵鐘や碑文に刻まれた王都の整備、円覚寺の創建、屋外には旧大聖禅寺鐘の展示を行った。

〇薩摩の琉球支配と王国（近世琉球）

1609年薩摩島津氏による琉球侵攻後、琉球王国は江戸幕府の影響下に置かれるようになる。しかし、中国との冊封・進貢関係は維持され、他方で江戸への謝恩・慶賀使の派遣が義務づけられた。

近世琉球期は、王国の危機を向かえて、羽地朝秀、蔡温などの強力な政治家による王国の経営が行われ、琉球独自の文化が花開く時代でもある。江戸文化の影響をうけ、組踊などの芸能が確立し、『中山世鑑』『球陽』等の歴史書が編纂され、首里王府内に多くの役職が確立した。さらに貝摺奉行所を中心に琉球漆器・紅型などの様々な工芸品が数多く製作された。

〇王国の衰亡

19世紀頃には、欧米諸国の船舶がアジア進出を目指して琉球近海に頻繁に来航し、首里王府にも開国をせまってきた。一方で、中国・日本との関係を保ちながら体制を維持してきた琉球王国だが、農村の疲弊や災害などが原因で、王府の財政難は顕著となっていった。

〇沖縄の近代

江戸幕府が崩壊し、明治政府が発足すると日本と琉球との関係性も変化した。1879年（明治12）に明治政府は琉球藩を廃し、沖縄県を設置した（琉球処分）。琉球王国は消滅し、近代日本国家の一部としての沖縄県が誕生した。

政府は旧慣温存政策を実施したが、その結果、沖縄県の土地所有権の確立や国政参加は大きく遅れ、教育制度の確立も大正期になってようやく整った。しかし、日本は次第に領土拡大と戦争へと突入していき、沖縄も戦争体制に組み込まれていった。1945年（昭和20）、沖縄では住民を巻き込んだ日米両軍による地上戦が展開され、24万人余りの尊い命が失われた。焦土と化した沖縄では、多くの貴重な文化財も焼失し、破壊された。

〇戦後の沖縄

沖縄戦によって大きな戦禍をこうむった沖縄。住民たちの生活はゼロからの出発であった。沖縄の施政権は日本からアメリカに移譲され、27年間のアメリカ統治下に置かれた。アメリカは東アジアの戦略基地として沖縄を重要視し、基地の機能強化を進めた。軍事優先の政策は、住民の生活を侵害し、米軍関係の事件・事故が多発したため、日本への復帰を望む運動が高まっていった。その結果、1972年（昭和47）に沖縄の施政権は日本に返還されたが、多くの基地が残されるなど未解決の問題が山積したままである。

〇沖縄の今、そして未来へ

復帰後、沖縄では大規模な公共事業のほか、沖縄国際海洋博覧会の開催を契機にリゾート開発が各地で始まった。豊かな社会の実現を目指して開発が進められたが、同時に環境の悪化も問題化した。2000年（平成12）には九州・沖縄サミットが名護市で開催され注目を集めた。同年には「琉球王国のグスク及び関連遺産群」が世界遺産に登録されるなど、沖縄文化の優位性が広く認知されてきている。今日では観光客や移住者の大幅増加とともに沖縄は新たな時代を迎えている。

エピローグの「沖縄の現代生活」は、開館時に募集した写真作品で構成され、まさに「現代生活」のドキュメント資料である。2022年度には新たに募集した写真を展示する予定である。

【部門展示】

総合展示室の周囲には、自然史、考古、美術工芸、歴史、民俗の５つの部門展示室を設け、沖縄の自然・文化・歴史・民俗の特徴をより深く理解していただくために、それぞれのテーマをより特化した形での展示している。部門展示で扱うテーマは可変性を持ち、頻繁に展示替えを行っている。

○自然史部門展示　「生物が語る沖縄２億年」

琉球列島の成り立ちや、島の環境に適応して独自の進化をとげた生き物の世界を展示するとともに、沖縄が世界に誇る化石人類である港川人の最新の研究成果を紹介している。またジオラマ展示では、ヤンバル（沖縄島北部）、宮古島、西表島、マングローブについて自然の成り立ちを重視した展示を行っている。

○考古部門展示　「沖縄考古学の世界」

発掘調査によって出土した実物資料を用いて、人々の暮らしぶりや地域的な特徴、時代の変化などをわかりやすく紹介している。

○美術工芸部門展示　「琉球の美」

島々に生きた先人たちは、自分たちの生活・文化に海外との交流によってもたらされた「モノ」や「文化」を取り入れることによって、琉球の美術工芸品を生み出した。ここでは王国時代の人々の美意識を伝えながら、現代に生きる私たちにとって、より親しみやすい形で、１年に数回テーマを決めて展示替えを行いながら、琉球の美を紹介する。

○歴史部門展示　「モノから読む歴史」

沖縄は、独立した国家であった琉球王国の歴史に加え、近代以降、日本やアメリカなど国際社会の動向の中で、何度も世替わりを経験した。ここでは年に数回のテーマ展示を通して、沖縄をはじめ各地の様々なモノから歴史をひもとき、歴史の醍醐味や楽しさを紹介する。

○民俗部門展示　「沖縄の伝統とくらし」

沖縄の島々に伝わる生活文化について紹介している。村落の成り立ち、信仰と祭り、人の一生、農耕と漁労、衣食住、職人の技、変容する民俗などのテーマを設けて、「観る」、「聴く」、「触る」、「調べる」といった体験的な要素を加えた展示を行っている。

３ 常設展　部門展示替え／ミニ企画／エントランスホール展示

【美術工芸部門】

沖縄は、湿潤亜熱帯の気候風土にあり、中国、朝鮮、日本、東南アジアの中継地点に位置している。かつては琉球王国として独自の文化を育んでいた。美術工芸部門展示室では、展示資料を通して琉球の美を紹介している。

令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い長期休館していたため、年間を通して一つのテーマで展示を行い、定期的に展示替えを行った。

展示資料：査丕烈筆「花鳥図」／義村朝義筆「軍鶏之図」／伝狩野愛信筆「雲龍図」／伝柴田義董筆「魚族図」／「虎之圖」／陳翼筆「釣漁舟」／毛世輝筆「暮春歸故山草堂」／翁維垣「日辺鳳舞天上龍飛」／鄭元偉筆　扁額「徳高」／黒漆花鳥螺鈿料紙箱／堆朱山水楼閣雲龍合子／旧円覚寺鳳凰欄間彫刻／模造復元 玉陵石獅子／白地霞に鶴松梅楓模様子ども着／薄水色地霞に鶴亀松竹梅模様衣裳／霞に鶴亀松竹梅模様白地型紙／木綿紺地手縞衣裳／浅地桐板白地経緯絣衣裳／芭蕉絽織経縞絣衣裳／白地読谷山花織ティサジ／朱地絞り染ティサジ／木綿白地絣ティサジ／木綿芭蕉交織絣ティサジ／赤絵魚文皿／藍釉撫子絵一輪差／竹梅文線彫抱瓶／動物浮彫耳付壺／屋根獅子／線彫魚文蓋物　金城次郎作／線彫海老文蓋物　金城次郎作／線彫竹文蓋物　金城次郎作

（伊禮　拓郎）

【歴史部門展示室】

歴史部門展示室では、様々な資料から歴史をひも解いていく展示を志し、「モノから読む歴史」という大テーマを設定している。また、様々なテーマに沿って年に数回の展示替えやトピック的な展示を行うなど、柔軟な展示を行う機能を備えている。

歴史部門では、「那覇港～往来する人とモノ～」というテーマの展示を通年で展示しつつ、令和３年度は中城村護佐丸歴史民俗資料館で開催された「中城城跡 新たな発見」と「もう一つのグスク 新垣グスク」を合わせたリバイバル展示や、平成の首里城復元において正殿の木彫を担当した石川県出身の彫刻家・今英男の資料を展示した。

また、令和４年が沖縄県の復帰50年という節目の年であるため、令和４年７月20日から特別展「復帰50年 沖縄復帰後展」の開催を予定している。特別展が復帰後50年間の沖縄県の歩みをたどる内容となっているため、復帰前の米国施政権下における沖縄をテーマにした「沖縄復帰前展」をプレ展覧会と位置付けて開催した。

以下に、それぞれの概要を紹介する。

（1）「那覇港～往来する人とモノ～」

展示期間：2021年（令和３）７月13日（火）～11月18日（木）

主　　旨：琉球王国から国内外への玄関口として機能し、様々な人やモノが行き交った那覇港の歴史のなかでも、17～19世紀を中心に取り上げ、３つのテーマに分けて紹介する。「１　王国の港・那覇港」では、琉球王国の王都であり政治の中心地であった「首里」と、海上交通の要所であった「那覇」の強い結びつきを示し、「２　往来する人・モノ」では、王国の玄関口である那覇港から行き来した様々な人やモノを紹介する。「３　那覇のマチ」では、歴史読史地図を手がかりとして、「那覇四町」とよばれる地域に隣接する久米村や辻・渡地・仲島という遊郭地区、女性によるマチ（市場）のようすなど、港をとりまく人々の姿を示す。

展示資料：首里那覇港図屏風、琉球国惣絵図（間切集成図）（真和志間切他）（複製）、「琉球国全図」（琉球列島并三十六島之図）、他

（2）中城城跡国史跡指定50周年記念特集展「中城のグスク～中城グスクと新垣グスク～」

展示期間：2021年（令和３）11月30日（火）～2022年（令和４）１月10日（月・祝）

主　　旨：令和２年度に中城村護佐丸歴史民俗資料図書館で開催された世界遺産登録20周年展『中城城跡　新たな発見』と『もう一つのグスク　新垣グスク』を基本に、当館所蔵資料を加えて特集展示として開催した。中城グスクが令和４年に国史跡に指定されて50年を迎えることや、近年において中城グスクと新垣グスクの発掘調査では新たな調査成果が出されていることから、両グスクを紹介すると共に新たに確認された発掘調査成果の紹介と出土遺物を中心に展示を行った。新垣グスクを第一部として博物館エントランスにて、中城グスクについては第二部として歴史部門展示室にて展示エリアを分けて行った。また今回は中城村教育委員会とも連携を図り、共催で本展を開催したほか、展示解説会についても中城村教育委員会の専門員の協力を得ながら実施した。

展示資料：当館所蔵中城グスク表採資料、中城グスクならびに新垣グスク発掘調査出土遺物、間切図（中頭南）、紙本淡彩沖縄風景絵図、中城城址公園計画プラン

関連催事：展示解説会

講　　師：渡久地真・新城卓也（中城村教育委員会）、山本正昭（県立博物館・美術館）

日　　時：2021年（令和３）12月26日（日）10:00～11:30、13:30～15:00

場　　所：常設展歴史部門展示室、１Ｆエントランス

参 加 者：午前25名、午後10名

（3）特集展「平成の首里城復元－彫刻家・今英男－」

展示期間：2022年（令和４）１月19日（水）～３月６日（日）

主　　旨：1992年（平成４）、復帰20周年記念事業として首里城公園が開園した。正殿の復元工事では、石川県出身の今英男氏が唐破風妻飾等の木彫を担当した。今氏は下絵や木型等の復元資料を多数残しており、ご遺族から資料をご寄贈していただいた。

　本展では、今氏の復元に向けた熱意とその技術の高さ、また首里城復興の機運を高めるために寄贈していただいた資料を展示・紹介した。

展示資料：首里城正殿２階御差床額木（原寸大木型４点、試作品１点、下絵１点、図面３点）、首里城正殿唐破風妻飾（図面２点）、獅子図１点、工事関係資料、写真16点、新聞資料５点、首里城被災資料10点　等

関連催事：

・特別講座「彫刻家 今英男-沖縄と石川の工芸交流史を辿って-」

　講　　師：鶴野俊哉（石川県立歴史博物館 普及課長）

　日　　時：2022年３月６日（日）9:30～11:30

　場　　所：博物館講座室　　参加者：52名

・感謝状贈呈式

参 加 者：今良子（寄贈者）、玉城デニー県知事他、来賓５名
日　　時：2022年（令和４）３月６日（日）11:30～12:00
場　　所：エントランスホール

（４）特集展「復帰50年 沖縄復帰前展」

展示期間：2022年３月18日（金）～８月21日（日）

主　　旨：戦後27年にわたり米国の施政権下にあった沖縄。米国の軍事優先政策や米軍に関連した事件事故により県民の自治・財産・権利などが軽視される中で、県民は平和を希求し復帰・反基地運動を展開した。県民の復帰に対する思いは強く、ついに1972年（昭和47）５月15日復帰が実現することになった。本展では米国統治の沖縄や復帰運動の様子を様々な資料を通して紹介した。また、令和４年度博物館特別展「復帰50年 沖縄復帰後展」と一体化させ、復帰について考える機会とした。

展示資料：サンフランシスコ平和条約、米国統治資料４点、琉球政府資料４点、陳情書、祖国復帰協議会資料25点、海上集会資料８点、主席公選資料４点、沖縄返還交渉資料36点、嬉野京子写真32点、映像２点　等

関連催事：
・学芸員教室親子バスツアー
　日　　時：2022年４月30日（土）
　場　　所：那覇市小禄・金城・奥武山、浦添市牧港　等
・復帰50年オリジンお笑いライブ in おきみゅー
　日　　時：2022年５月８日（日）
　場　　所：県立博物館・美術館３階講堂

（外間　一先・崎原　恭子・宮城　修・山本　正昭）

【民俗部門展示室】

民俗分野の「沖縄のすまい」コーナーでは、毎年季節の行事にあわせて仏壇前にお供え物等を展示している。令和３年度は以下のように行った。

主　　旨：沖縄では旧暦の1日・15日をはじめとして、季節の行事ごとに仏壇などに様々な供え物を飾って祖先を祀り、家族の健康などを願う習わしがある。民俗常設展示室の民家模型にある仏壇にも行事にあわせてお供え物や説明パネルを展示した。
展示期間：旧正月、清明祭、冬至、ムーチー　等

旧正月の仏壇

正月の膳には、クーブイリチーや豚肉、赤飯などが並ぶ

（阿利　よし乃）

【常設展示室入口ミニ企画／エントランスホール展】

（１）明和津波襲来250年　博物館エントランスミニ展示「大津波の痕跡を探る －発掘調査で確認された明和津波の痕跡－」

展示期間：2021年（令和３）４月20日（火）～６月13日（日）※臨時休館により５月19日で終了。
会　　場：パネル展／エントランスホールおよびパネル掲載情報を当館HP上での公開
開催趣旨：1771年に発生した八重山大波、通称「明和津波」による災害が発生して250年を経過した2021年に上記のテーマでミニ展示を沖縄県立博物館美術館エントランスホールにて実施する。近年において発掘調査で明らかになった明和津波の痕跡をパネルで紹介し、出土した遺物の展示をもってその実態を紐解いていくことを主なコンセプトとして展示を行っていく。また、考古学による成果

以外に明和津波に関する民話や各所に点在する津波石の紹介も行っていき、多角的に明和津波の実態に迫っていく。

実施内容：主に明和津波についての概要、関係する民話、先島諸島各地に見られる津波石、遺跡で確認された明和津波の痕跡、津波が発生するメカニズムについて解説、写真パネルで紹介すると共に、宮古島の友利元島遺跡ならびに石垣島の安良村跡、嘉良嶽東方古墓群で出土した津波に関連する考古資料約50点の展示を行った。また、明和津波より古い時期に発生した地震と津波について、嘉良嶽東貝塚の発掘調査成果を中心にして紹介した。

後援機関：宮古島市教育委員会、八重山毎日新聞

関連催事：①ギャラリートーク（リモート開催）2021年６月５日（土）
講　師：山本正昭、宇佐美賢（当館主任学芸員）
②明和津波の痕跡をさぐるフィールドツアーin宮古島　2021年５月29日（土）
講　師：山本正昭、宇佐美賢（当館主任学芸員）、久貝弥嗣（宮古島市教育委員会）
※沖縄県に緊急事態宣言が発令されたことにより中止。

エントランスホールでの展示の様子

（山本　正昭）

（２）生きものたちの進化をまねる展！

展示期間：2021年６月15日（火）～８月29日（日）
※７月22日より休館

展示場所：エントランスホール

展示内容：「みんなの進化展」関連催事として、バイオミメティクス（生物模倣）の例を当館所蔵の生物標本を活用して紹介した。

展示内容：特別展「みんなの進化展」関連催事として、バイオミメティクス（生物模倣）の例を当館所蔵の生物標本を活用して紹介した。

（菊川　章）

（３）小さなエイリアン展～沖縄に潜む小さな侵略者

展示期間：2021年7月７日（水）～８月29日（日）
※７月22日より休館

展示場所：エントランスホール

展示協力：沖縄科学技術大学院大学（OIST）

展示内容：特別展「みんなの進化展」関連催事として、外来アリに焦点を当て、進化や外来種問題について学べる展示とした。

（菊川　章）

（４）「国立自然史博物館を沖縄に」パネル展

展示期間：2021年７月20日（火）～９月20日（月）
※７月22日より休館

展示場所：３Ｆホワイエ

展示協力：沖縄県環境部、国立沖縄自然史博物館設立準備委員会展示内容：特別展「みんなの進化展」関連催事として、世界の自然史博物館について紹介し、自然史科学の現在と未来の姿をイメージできるような内容とし、進化生物学や自然史科学に興味を持った来

館者が「国立自然史博物館構想」について知ることで、未来に夢を持てるような内容とした。

（菊川　章）

（５）沖縄本島に持ち込まれた明朝の銭－明朝の銅銭を見る－

展示期間：2021年９月21日（火）～10月24日（日）

場　　所：博物館常設展示入口

内　　容：沖縄本島に見るグスク時代の遺跡から出土する明朝が発行した銅銭14枚と琉球王国が発行した銅銭２枚を展示し琉球と明朝との銭を中心にした交易の解説を行う。

（山本　正昭）

（６）海図150年記念 エントランスパネル展

共　　催：第十一管区海上保安本部

展示期間：2021年12月７日（火）～2022年１月10日（火）

展示場所：エントランスホール

展示内容：海上保安庁では、1871年（明治４）９月12日に兵部省海軍部水路局を設置し、組織的に我が国独自の海図の作製を開始した９月12日を「水路記念日」と定めており、令和３年は明治４年から150周年の節目を迎えるため「海図150年記念」と称し、全国各地で記念事業を展開する予定としています。本特別展は、記念事業の一環として、沖縄県内在住者や観光客を対象にして、設立初期の海図から現在までの海図の変遷を中心に、沖縄県立博物館・美術館の収蔵資料とともに紹介します。

主な展示品：海図150年のあゆみ、那覇港の海図の変遷、沖縄群島の海図の変遷（一部資料：県立博物館・美術館所蔵）、石垣港の海図の変遷、平良港の海図の変遷、映像（海図150 周年記念ビデオ）、沖縄県の海底地形鳥瞰図床面シート（県立博物館・美術館所蔵）

（宇佐美　賢）

（７）漂着軽石ミニ展示　奇跡の大型漂着軽石～1300㎞を旅した軽石は何を語る？～

展示期間：2021年12月14日（火）～2022年２月27日（日）

展示場所：エントランスホール・常設展示室入口・常設展自然観察コーナー展示内容：福徳岡ノ場海底火山の大規模噴火により、10月中旬から大量の軽石が漂着を始めました。県内各地で漁業や観光業、船舶にも大きな被害が出ました。一方で 100 年に一度、あるかないかと言われる大噴火に伴う自然現象であり、様々な分野の研究者が注目し、調査に訪れています。その結果、少しずつ漂着軽石の特徴が明らかにされてきました。今回の漂着軽石は、噴出してまだそれ程時間が経っていないため大変新鮮で、バリエーションがあり、軽石として一言でまとめられるものではなく、岩石学や火山学的にも大変貴重です。しかし、いずれは海岸の波等の作用により、細かくなり海底に沈んで無くなっていくと考えられています。まだ海岸に軽石が残る今、あらためて漂着軽石を見つめ、地球の活動と人間生活との関わりについて考えてみませんか。本ミニ展示では、当館に寄贈された最大級の軽石を中心に、漂着軽石からわかる岩石学的特徴についてご紹介します。

展示構成：（１）はじめに

（２）軽石たちはどこから来た？

（３）巨大軽石その大きさのヒミツ！

（４）軽石を観察してわかること

①軽石のできかた

②軽石に見られるゴマのようなものはなに？

③様々なバリエーション

④軽石は噴出した火山の情報を教えてくれる！

⑤軽石に付着し運ばれる生きものたち、

（５）軽石の化学組成

（６）今回だけではない軽石の漂着

（７）研究者も注目した今回の軽石漂着

主な展示品：（１）福徳岡ノ場から噴出した最大級の漂着軽石、Ｌ43cm×W36cm×H32cm　8.5kg
（２）福徳岡ノ場から噴出した様々な漂着軽石
（３）最初に沖縄県に漂着した軽石（北大東島にて採取）
（４）ルーペで見る軽石（軽石の構造と軽石中の鉱物、宝石に注目）
（５）以前に漂着した軽石たち
①1986年福徳岡ノ場噴火による漂着軽石
②阿嘉島（2017年）伊平屋島（2019年）で採取した漂着軽石

（宇佐美　賢）

（８）ミニ企画展「琉球古刺繍ってなあに？」

展示期間：2022年１月12日（水）～２月６日（日）
展示場所：エントランスホール

開催趣旨：琉球王国時代から神事を司る家系に、今も代々継承された遺品があり、そのなかに刺繍の衣裳がいく例か確認されている。科学的な分析の結果、15世紀頃の作品があることが分かってきたが、かつて行われていた刺繍は、琉球王国が終焉した後、長く途絶えてしまい、その工芸技術があったことも忘れられていた。
　平成27年度から令和３年度まで実施した琉球王国文化遺産集積・再興事業では、刺繍技法を復活させ、神女衣裳を模造復元し、それを契機に、琉球に伝えられた刺繍の継承と普及を進めるため、刺繍に関わった関係者で平成30年１月に保存会を立ち上げた。
　琉球古刺繍保存会と共催によりミニ企画展を実施することで、刺繍の存在、技法を周知するとともに、保存会の活動を紹介した。
展示内容：パネルを活用し、琉球古刺繍と古い作例、最も特徴的な「琉球千鳥繍い」を紹介し、会員の自習作品（４点）を披露した。

（與那嶺　一子）

（９）沖縄の生物多様性を守ろう展

展示期間：2022年２月22日（火）～３月13日（日）
展示場所：エントランスホール
展示協力：県自然保護課、沖縄科学技術大学院大学（OIST）

展示内容：沖縄県による希少種保全に関する取組や、外来種対策に関する取組などを紹介し、県民の希少種保全や外来種問題への意識向上に寄与することを目的にパネルや模型などを展示した。

（菊川　章）

(10) 漂着軽石展示 第２弾（軽石活用編）　ガローシ御抹茶碗・ぐい呑み、軽石原石と軽石粉末

展示期間：2022年３月１日（火）～３月21日（月）
展示場所：常設展示室入口

展示内容：ガローシとは、久米島真謝の方言で軽石を意味します。深黒に見える表面は光を当てると紺碧の宇宙空間に黄金色の星々が広がるように見えます。その美しい表面の正体は軽石がなすものです。作者の宇江城昌順氏は、陶土を久米島産の赤土にこだわる陶芸家で、本作品の釉薬には久米島に漂着した軽石だけを使用しています。県内産の素材を活用した焼物（やちむん）と、大量漂着した軽石の有効活用の一例として、ご紹介致します。
展 示 品：ガローシ御抹茶碗・ぐい呑み、軽石原石と軽石粉末

（宇佐美　賢）

【館外出張展示会】

（１）おきみゅーから出張展示　タッチカービングで学ぶ、沖縄の固有種たち

展示期間：2022年２月22日（火）～３月18日（金）

展示場所：沖縄県立沖縄盲学校理科室
展示協力：沖縄県立沖縄盲学校
展示内容：木彫りの鳥３種（ヤンバルクイナ・ノグチゲラ・ホントウアカヒゲ）を点字による解説や音声再生装置とともに設置し、視覚障害を持つ児童・生徒が、聴いて触って楽しめる展示とした。

（菊川　章）

４ 特別展「みんなの進化展　～命はつながっている～」

会　　期：2021年（令和３）７月21日（水）～９月20日（月）
※７月22日（木）より新型コロナウイルス感染拡大のため休館
会　　場：企画展示室、特別展示室１・２
観 覧 料：一般：1,200円（960円）高大生：600円（480円）小中学生：無料
※（　）内は前売料金ならびに20名以上の団体料金
※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方１名は当日料金の半額
観覧者数：143人（１日間）

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館
協　　力：（独）国立科学博物館、（公財）山階鳥類研究所、（公財）沖縄こどもの国、（一財）沖縄美ら島財団、（大）琉球大学、沖縄県環境部、（一財）沖縄県環境科学センター、国際海洋環境情報センター（GODAC）、（一社）国立沖縄自然史博物館設立準備委員会、岩国市ミクロ生物館、沖縄科学技術大学院大学（OIST）
後　　援：沖縄生物学会、沖縄生物教育研究会、沖縄県教育委員会、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄テレビ放送（株）、琉球放送（株）、（株）ラジオ沖縄、NHK沖縄放送局、琉球朝日放送(株)、FMレキオ、那覇新都心通り会

【開催趣旨】
本県が属する琉球列島は、各島で独自の「進化」を遂げた固有種たちの宝庫として、世界的にも注目を集めており、一部の地域は世界自然遺産に登録されようとしている。その価値を本当の意味で理解するためには、生きものたちが歩んできた「進化」の歴史について確かな理解が必要である。そこで本展覧会では、「進化」の視点で生きものたちを見つめ、ヒトと自然のつながりを感じ、その上で「琉球列島の自然価値」を再発見する機会の提供を目的とした。

【展示内容】
第１章　生命の樹　～命はつながっている～
この地球上には、知られているだけで170万種を超える多種多様な生きものたちが暮らしている。驚くことに、これらはすべて親戚関係にあり、たった１個の細胞から進化したと考えられている。ここでは、選りすぐりの140種類の生きものを配した系統樹を中心に、「生命の多様性とつながり」を感じられる空間を提供する。
〔主な展示物〕生命の樹（系統樹床展示）、分類群ごとの標本やレプリカなど

第２章　祖先のものがたり　～さかのぼり生命史～
すべての生きものは、時代をさかのぼると必ず共通の祖先にたどりつく。ここでは、絶滅した生きものたちの化石をとおして生命進化の歴史をさかのぼるとともに、私たちヒトの祖先がどのような姿をしていたのかイメージする。併せて、各時代でヒトと分岐し、別の道筋で進化した現生の生きものを

取り上げ、その知られざる素顔を紹介する。
〔主な展示物〕マンモス化石レプリカ、アンモナイト、三葉虫などの化石標本、ほか

第３章　ダーウィンは考えた　～意外に単純　進化のからくり～

ダーウィンは、生きものたちが長い年月をかけて進化する過程を「自然選択」の理論で説明した。その中で、すべての生命は祖先をたどればつながっていることを示唆した。その理論は、科学が進歩した今でも生物学を統合する理論としてゆるぎない地位を確立している。ここでは、ダーウィンの理論を中心に進化のしくみについて理解を深める。
〔主な展示物〕ガラパゴスゾウガメ本剥製、ウミイグアナ本剥製、ガラパゴスフィンチのレプリカ、ほか

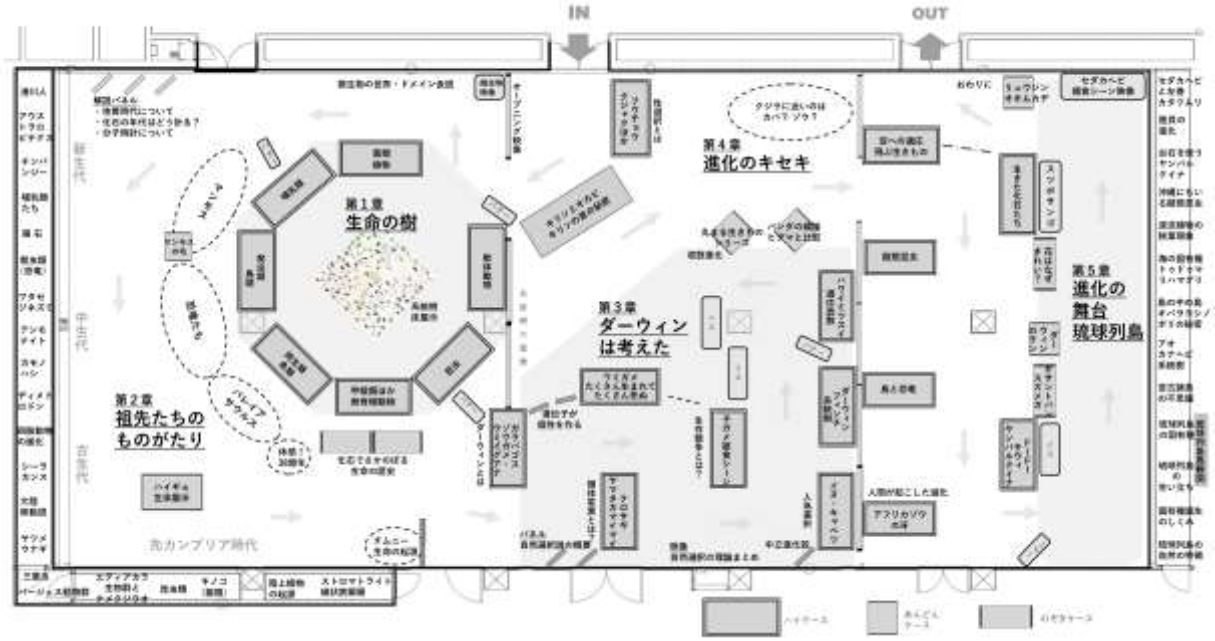
第４章　進化のキセキ　～進化っておもしろい！～

生きものたちはみな、想像を絶する驚くべき性質を持っている。数々の研究から、たとえどれほど並外れた特性も、それらはすべて、まぎれもなく進化の産物であることが分かっている。ここでは、進化が引き起こした奇跡の数々を標本資料とともに紹介し、進化の視点で生きものたちを見る感覚を楽しんでいただく。
〔主な展示物〕オオフウチョウ本剥製、ドードー復元模型、キサントパンスズメガ乾燥標本、ほか

第５章　進化の舞台『琉球列島』　～身近な生きものたちが教えてくれること～

琉球列島は、独自の進化を遂げた固有種たちの宝庫である。大陸から切り離され、島々に取り残された生きものたちは、生き残りをかけた競争の中で固有の性質を進化させてきた。ここでは、進化の視点で琉球列島の生きものたちを見つめ、その面白さ、貴さを再確認する。最後に、琉球列島における進化研究の最前線や自然保護の現状を紹介し、未来へバトンをつなぐ。
〔主な展示物〕ヤンバルクイナ本剥製、イリオモテヤマネコ本剥製、カンムリワシ本剥製など

【展示平面図】



（菊川　章）

５ 企画展「新収蔵品展　－令和２年度収蔵資料」

会　　期：2021年（令和３）５月18日（火）～６月20日（日）

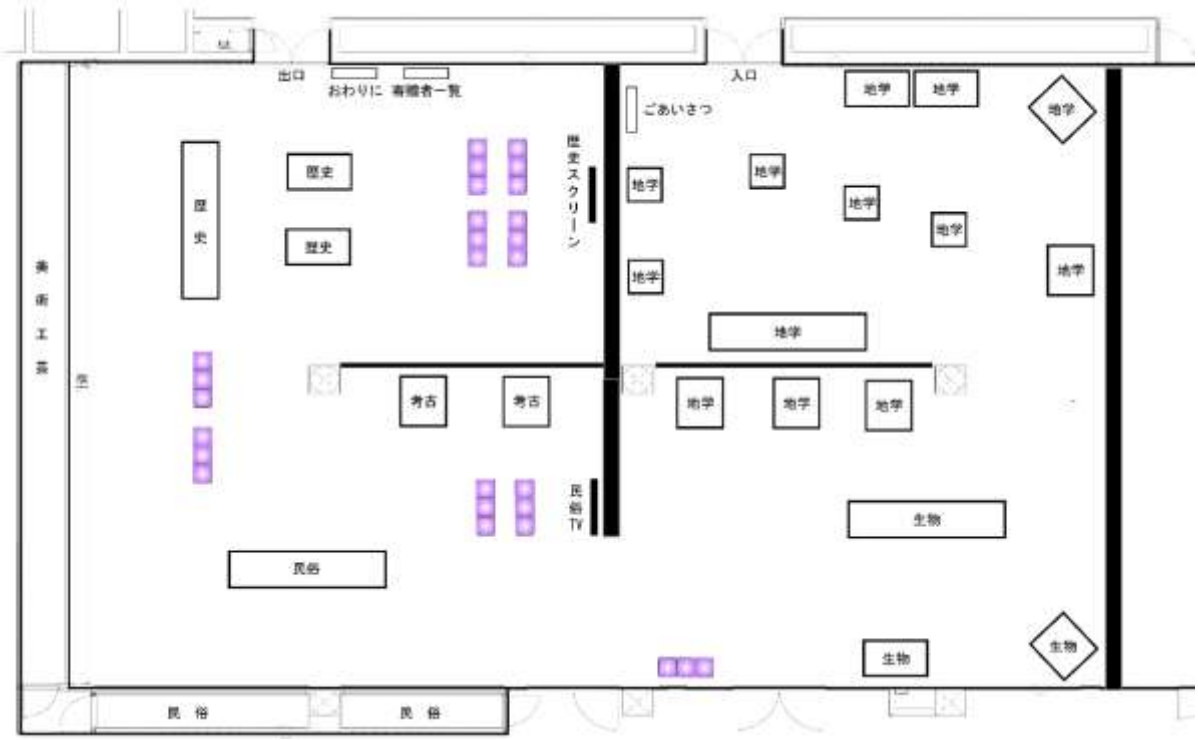
※新型コロナウイルスの感染拡大を受け、５月22日（土）に閉会した。
会　　場：企画展示室、特別展示室１
観 覧 料：一般500円（400円）、高校・大学生300円（240円）、小・中学生以下無料
※（　）は20名以上の団体料金

博物館企画展「新収蔵品展」は、前年度に寄贈・収集・購入・移管・修理された諸資料を一堂に集め、広く一般に公開するとともに、今後の博物館活動の充実と発展を目指して開催するものである。

【事業内容】
令和２年度に寄贈・収集・購入・修理された諸資料を地学、生物、考古、民俗、美術工芸、歴史の分野ごとに、博物館３階の企画展示室および、特別展示室１で展示・公開した。
開会日の前日に寄贈者への感謝状贈呈式と展示解説会を実施した。また、早期閉会を受け、学芸員による展示解説動画を作成しYouTube上で公開した。

【展示内容】
令和２年度は、寄贈・収集・購入等により143件の新資料を収蔵した。地学分野では、島根県津和野町産の日本最古の岩石といわれている花崗片麻岩（約25億年前）、生物分野では、視覚障害者の方々に触りながら鳥に親しんでもらえるよう作製した木彫りのヤンバルクイナ（バードカービング）を出品した。考古分野では、1960年代に伊波グスク（うるま市石川）の崖下周辺から採集された縄文時代後期の土器を展示した。民俗分野では、当館が近年精力的に整備を進めるWebアーカイブ「ウチナー民話のへや」の新コンテンツ24話を上映した。歴史分野では、沖縄観光を広報するために1975年頃に制作された映像フィルム「かりゆしの島　沖縄」を上映した。美術工芸分野では、城間榮順氏の手による生き生きとした力強い魅力にあふれた「古典文様芭蕉布 波にかえで」、故ルバース・ミヤヒラ吟子氏による星の瞬く夜空を想起させるような「首里花織手巾」を公開した。

【展示平面図】



【展示風景】

【新収蔵品展2021 学芸員展示解説動画】（計７本 約35分の動画をYouTube上で公開中）
https://www.youtube.com/playlist?list=PLWCiQeewo9XsQNXKpMR4AS-yMWA9Ar6rX

（澤浦　亮平）

６ 企画展「海とジュゴンと貝塚人－貝塚が語る9000年のくらし－」

沖縄県では2021年５月23日から９月30日まで新型コロナウイルス感染症対策に係る緊急事態宣言が発出され、本企画展も開催が危ぶまれたが、準備作業や資料借用等に支障が生じたものの、何とか開会・閉幕を迎えることができたのは幸いであった。また、開催にあたっては公益財団法人日本海事科学振興財団　船の科学館様より2021年度「海の学び ミュージアムサポート」プログラム１「海の企画展サポート」の助成をいただき、内容の充実をはかることができた。

会　　期：2021年10月15日（金）～12月５日（日）※月曜休館
開館時間：９:00～18:00（金、土は20:00まで）
会　　場：特別展示室１・２
観 覧 料：一般1,000（800円）、高校・大学生500（400）円、小・中学生200（160）円
※（　　）内は前売りおよび20名以上の団体料金。
※障がい者手帳か療育手帳をお持ちの方と介助者１名は無料。
入場者数：3,691名（46日間）

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館
共　　催：うるま市教育委員会
後　　援：沖縄県教育委員会／沖縄考古学会／日本動物考古学会／沖縄タイムス社／琉球新報社／NHK沖縄放送局／沖縄テレビ放送／琉球放送／琉球朝日放送／ラジオ沖縄／FM琉球
協　　力：安次富順子食文化研究所／天城町教育委員会／伊江村教育委員会／石垣市立八重山博物館／伊仙町歴史民俗資料館／一般財団法人 沖縄県環境科学センター／一般財団法人 沖縄美ら島財団　総合研究センター／浦添市教育委員会／沖縄県工業技術センター／沖縄県立埋蔵文化財センター／沖縄国際大学／沖縄市立郷土博物館／環境省／北区飛鳥山博物館／宜野座村立博物館／京都大学総合博物館／久米島博物館／公益財団法人古代学協会／佐賀市教育委員会／地底の森ミュージアム（仙台市富沢遺跡保存館）／千葉市立加曽利貝塚博物館／北谷町教育委員会／東京大学総合研究博物館／独立行政法人 国立文化財機構／奈良文化財研究所／鳥羽水族館／今帰仁村歴史文化センター／名護市教育委員会／那覇市市民文化部／那覇市歴史博物館／南城市教育委員会／東村立山と水の生活博物館／ひめゆり平和祈念資料館／平戸市文化観光商工部／八重瀬町教育委員会

赤嶺信哉／安次富順子／石垣金星／石丸恵利子／稲葉佳代子／伊庭　功／大岡素平／小澤宏之／勝連晶子／久場まゆみ／倉成多郎／幸喜　淳／近藤康久／島袋春美／妹尾裕介／当山昌直／戸真伊亀吉／土肥直美／中村雄紀／藤田祐樹／外間政明／丸山真史／宮城奈々／宮城弘樹／山崎　健／横尾昌樹／Francesco Genchi

【開催趣旨】
海に囲まれた沖縄の島々で、人々は古来より海の恵みを利用して豊かな海洋文化を育んできました。沖縄には、昔の人々が捨てた貝殻が堆積した遺跡としての貝塚が358か所あり、これは全国の中でも千葉県(744か所)、茨城県（376か所）に次いで第３位の数です。最も古い貝塚は藪地洞穴遺跡（うるま市）で見つかった約１万年前のもので、その後11世紀に農耕が始まるまで、9000年もの長きにわたって、海と人とが調和した貝塚文化のエコシステムが維持されました。

貝塚の貝には炭酸カルシウムが含まれ、アルカリ分に富むことから、当時の人々が食べた魚介類やウミガメ、イノシシの骨、そして時には人骨が出土することもあり、いわば古代の情報が詰まったタイムカプセルでもあります。現在絶滅の危機にあるジュゴンの骨も、沖縄の貝塚からは数多く出土しています。ジュゴンの肉は食料として、骨は道具の素材として、古代の人々に珍重されていたことがうかがえます。

本展覧会では、貝塚にまつわる出土品とその調査研究成果を展示公開し、貝塚が語る海と人との関わりをわかりやすく紹介します。

【展示構成】

第１章　貝塚の謎

貝塚とは何か、どんな特徴があるのか、これまでの貝塚の調査研究史を振り返り、貝塚が語る謎を紹介します。

1　貝塚って何？
沖縄の海とサンゴ礁／貝塚ができるわけ／いろいろな貝塚

2　貝塚人のくらし
沖縄人類史時計／貝塚人とは誰か／貝塚人の働き方／人口・寿命・遺伝子／農耕社会の豊かさ？

3　貝塚をめぐる人々
エドワード・モース／鳥居龍蔵・松村瞭・大山柏による黎明期の沖縄の貝塚調査

第２章　ウミサチ（海幸）の人類史

人類は食物連鎖の頂点に立ち、さまざまなものを食べてきました。沖縄の貝塚からは当時の人々が食べた貝殻や魚骨とともに、ジュゴンやウミガメなどさまざまな海の幸が見つかっています。中でもジュゴンはウミサチの頂点に位置する生き物で、食べ物としてだけでなく、蝶形骨製品など当時の人々の精神文化にも大きな影響を与えました。

1　人類の進化と食べ物
食物連鎖／旧石器時代の食べ物／貝塚時代の食べ物／グスク時代の食べ物／近現代の食べ物

2　ウミサチ・クワッチー
沖縄の貝塚から出土するさまざまなウミサチ(海幸)を紹介します。
貝類／魚類／海鳥／海棲哺乳類／甲殻類

3　ジュゴンの文化誌
ウミサチの頂点に位置するジュゴンについて紹介します／ジュゴン剥製・骨格／ジュゴンの骨で作られた骨製品

第３章　貝塚を掘る

貝塚の発掘ではどのようなものが見つかるのか、約100年前に沖縄の貝塚から発見された出土品をはじめ、発掘調査の方法や、最新の貝塚の調査についても紹介します。

1　ザクザク・ワクワク
貝塚の発掘調査、出土品について紹介します。発掘調査機材／調査風景／貝層はぎとり／埋葬犬

2　むかし掘った貝塚
100年ぶりの里帰りとして戦前に調査された荻堂貝塚・伊波貝塚出土品を展示します。

3　貝塚文化のその後
その後に受け継がれた貝塚文化の伝統を紹介します。貝錘／貝匙／ブラヤックヮン

第４章　サイエンスで見る海洋文化史

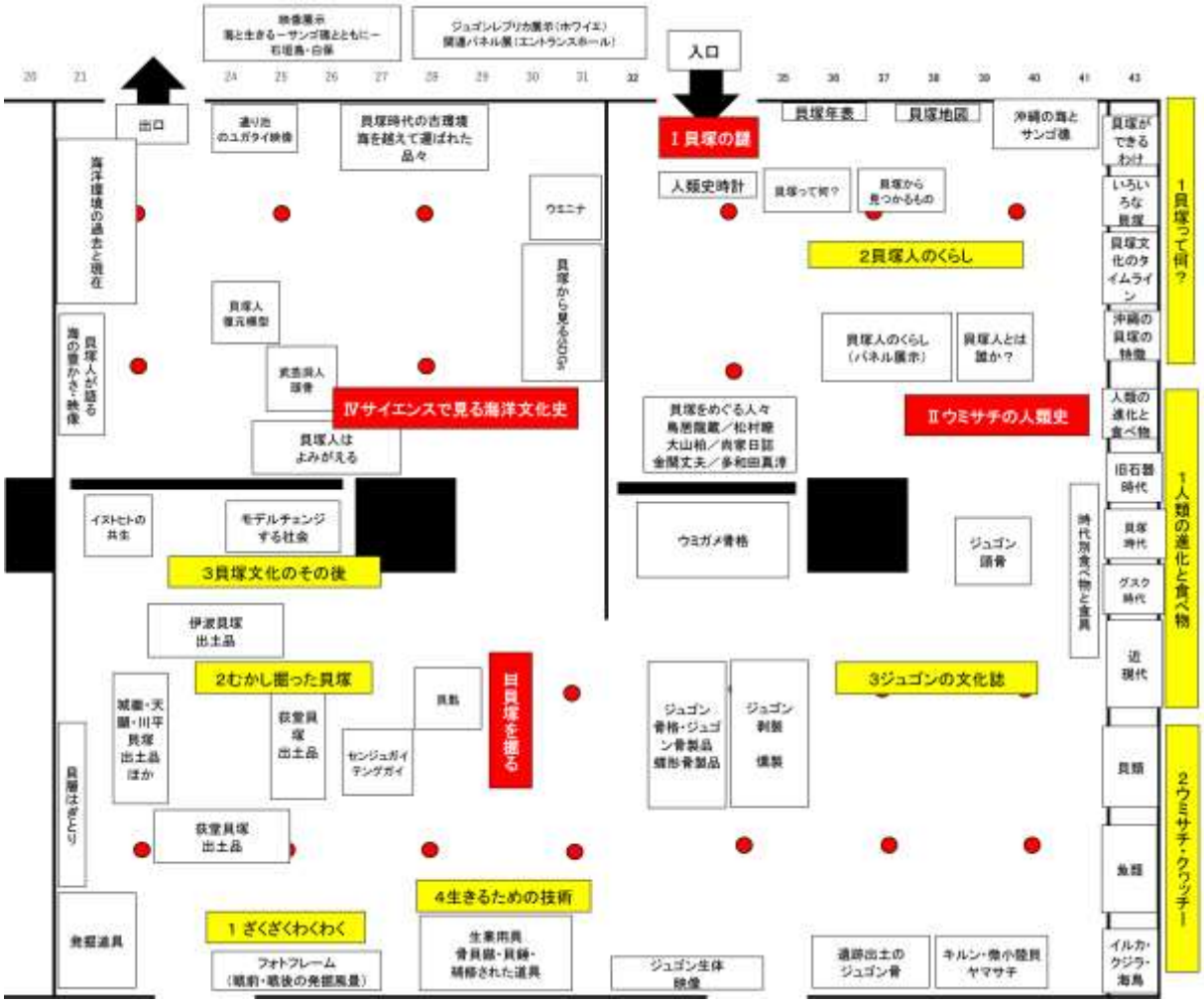
貝塚を調べることによって、どのようなことがわかるのか。古代の気候や環境、物資の流通や食べ物など、科学的調査から明らかになる貝塚の姿を紹介します。

1　サンゴとシャコガイが語る貝塚時代の古環境
シャコガイ・サンゴの同位体分析・成長線分析から見た古環境復元

2　貝塚から見るSDGs
貝塚人が食べた貝種の変遷、貝サイズの変化

3　古代の海上ネットワーク
土器の胎土分析から明らかになる古代の物流と情報のネットワークについて紹介します。
4　貝塚人はよみがえる
武芸洞遺跡出土の貝塚人骨の復元模型を紹介します。
5　海洋環境の過去と現在
貝塚時代以来数千年間にわたって維持されてきた豊かな海洋環境が、ここ100年ほどの間で急速に失われつつあることを、印象的な図表を通して紹介します。

【展示平面図】



（山崎　真治）

7　企画展「大嶺薫コレクション展」

会　　期：※新型コロナウイルス感染拡大に伴い中止
　　2021年（令和３）11月２日（火）～12月５日（日）
会　　場：企画展示室
観 覧 料：博物館常設展覧会料金と同じ
概　　要：戦後最大のコレクター・大嶺薫氏が収集したコレクションの数々を展示する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、企画展自体が中止となった。

（伊禮　拓郎）

8　企画展「ゆる～いかたつむり展　ラセンに秘められた沢山の不思議」

会　　期：2021年（令和３）12月21日（水）～2022年（令和４）２月15日（火）
会　　場：特別展示室２

観 覧 料：無料
観覧者数：4,214名（44日間）

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館
共　　催：かたつむりミュージアム　ラセン館
協　　力：橿原市昆虫館、公益財団法人　国際花と緑の博覧会記念協会

【開催趣旨】
かたつむりミュージアム「ラセン館」は、造形作家で陸生貝類研究家の河野甲氏が2019年に設立した「かたつむりリアルフィギュア」の展示を中心とした私設博物館である。当該館は設立以来、「より多くの地域でより多くの人々に陸産貝類の面白さを知ってもらい、布いては自然界と人間生活の距離を縮め、壁を低くする事に少しでも貢献する」ことを目的に、各地で精力的に巡回展を実施している。今回は当館主催で同巡回展を実施した。

【展示内容】
①世界の大型かたつむり（13点）
②かたつむりのなぞ（ジオラマやパネルによるかたつむりの生態解説）
③ヤマタニシの仲間、キセルガイの仲間（リアルフィギュア）
④奇妙な形のかたつむりたち（リアルフィギュア・立体造形）
⑤陸貝にまつわる遺物伝承めぐり（パネル展示）
⑥日本のかたつむりたち（約500点）
⑦かたつむりの工芸品（17点）
⑧かたつむりの絵画（８点）
⑨沖縄の身近なかたつむりたち（リアルフィギュア）

（菊川　章）

９ 琉球王国文化遺産集積・再興事業　巡回展『手わざ　－琉球王国の文化－』

2021年度（令和３）の琉球王国文化遺産集積・再興事業では、令和元年度に当館で実施した内容をベースにした巡回展を下記のとおり実施した。
新型コロナ感染拡大により、８月に予定していた久米島会場（久米島博物館）は１月に延期し、福岡会場（九州国立博物館）、東京会場（東京国立博物館）で開催した。

【開催趣旨】
琉球王国は、東アジアのなかで独自の文化を築いてきた。しかし、廃藩置県によって王国は解体し、それまでの有形・無形の文化は大和（日本）化と近代化のなかで急速に変容してきた。さらに、第二次大戦の戦禍により、王国時代の遺産の多くが失われてしまう。本事業は、上記のような背景を踏まえ、王国時代から相伝の

８つ分野の手わざによる模造復元製作を行い、その成果品を発信することによって、琉球王国の文化を県内外に広く普及することを目的としている。発信によって、琉球王国が東アジア文化史を語るうえで重要なポイントにある事をアピールし、今後の観光産業や工芸産業へ資することができる。

巡回展では、各会場において模造復元品の展示を通して王国のものづくりの様相を紹介し、王国文化の手わざの素晴らしさとともに琉球・沖縄の美意識を紹介した。

（1）福岡会場

会　　期：2021年（令和３）10月19日（火）～12月12日（日）
開催時間：9:30～17:00（入館は16:00まで）　毎週月曜日休館
会　　場：九州国立博物館　４階　文化交流展示室　第９・10・11室
観 覧 料：一般700円／大学生350円／高校生以下・18歳未満および満70歳以上の方は無料
※障害者手帳をご持参の方と介助者一名は無料
※留学生の日（11月３日）は留学生のみ無料
※家族の日（11月21日）中学生以下のお子様とお越しの方２名様まで無料
観覧者数：23,093名（開催日：48日）
主　　催：沖縄県立博物館・美術館／九州国立博物館・福岡県
後　　援：NHK沖縄放送局／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／沖縄テレビ放送株式会社／株式会社ラジオ沖縄／那覇市／琉球朝日放送株式会社／琉球新報社／琉球放送株式会社
協　　力：伊是名村教育委員会／一般財団法人沖縄美ら島財団／公益財団法人日本民藝館／サントリー美術館／女子美術大学美術館／南風原町立南風原文化センター

第９室の展示

第11室の展示

【関連催事】
○ワークショップ「琉球古刺繍をやってみよう」（参加者：10名）
日　　時：2021年10月31日（日）14:30～16:00　※ワークショップ終了後に展示解説
会　　場：九州国立博物館研修室
講　　師：寺田貴子（活水女子大学特別専任教授）
○展示解説「きゅーはく☆とっておき講座」（参加者：48名）
日　　時：2021年11月14日（日）14:30～15:00
会　　場：九州国立博物館1階ミュージアムホール
講　　師：桑原有寿子（九州国立博物館学芸員）
○展示解説「８分野の手わざ解説」（参加者：28名）
日　　時：2021年11月20日（土）14:30～15:00
会　　場：九州国立博物館1階ミュージアムホール
講　　師：篠原あかね
○報告会「手わざの秘密を探る」（参加者：33名）
日　　時：2021年11月21日（日）13:30～15:30
会　　場：九州国立博物館1階ミュージアムホール
講　　師：絵画：久下有貴（東京藝術大学非常勤講師）
木彫：岡田靖（東京藝術大学准教授）
杉浦誠（東京藝術大学非常勤講師）
漆芸：前田貴子（琉球漆紀行代表）
宇良英明（伝統工芸士）
○講演会「琉球の染織と模造復元について」（参加者：67名）
日　　時：2021年12月12日（日）13:30～15:00
会　　場：九州国立博物館1階ミュージアムホール
講　　師：山田葉子（那覇市歴史博物館主任学芸員）

ワークショップの様子

（2）東京会場

会　　期：2022年（令和４）１月15日（土）～３月13日（日）
開催時間：９:30～17:00（入館は閉館の30分前まで）　毎週月曜日休館
会　　場：東京国立博物館 平成館企画展示室
観 覧 料：一般1,000円／大学生500円
※入館はオンラインによる事前予約（日時指定券）推奨
※高校生以下及び満18歳未満、70歳以上の方は無料
※障がい者介助者一名は無料
観覧者数：27,440名（開催日：50日）
主　　催：沖縄県立博物館・美術館／東京国立博物館
後　　援：NHK沖縄放送局／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／沖縄テレビ放送株式会社／株式会社ラジオ沖縄／那覇市／琉球朝日放送株式会社／琉球新報社／琉球放送株式会社
協　　力：伊是名村教育委員会／一般財団法人沖縄美ら島財団／公益財団法人日本民藝館／サントリー美術館／女子美術大学美術館／南風原町立南風原文化センター

【関連催事】新型コロナ感染拡大により関連催事は実施しなかった

展示会場の様子１

展示会場の様子２

（3）久米島会場

会　　期：2022年（令和４）１月29日（土）～２月20日（日）
開催時間：９:00～17:00（入館は16：30まで）月曜日は休館日
会　　場：久米島博物館　特別展示室・講堂
観 覧 料：無料
観覧者数：525名（開催日：20日）
主　　催：沖縄県立博物館・美術館／久米島博物館
後　　援：NHK沖縄放送局／沖縄県教育委員会／沖縄タイムス社／沖縄テレビ放送株式会社／株式会社ラジオ沖縄／那覇市／琉球朝日放送株式会社／琉球新報社／琉球放送株式会社
協　　力：伊是名村教育委員会／一般財団法人沖縄美ら島財団／公益財団法人日本民藝館／サントリー美術館／女子美術大学美術館／南風原町立南風原文化センター

【関連催事】新型コロナ感染拡大により関連催事は実施しなかった

展示会場の様子１

展示会場の様子２

（與那嶺　一子）

Ⅲ 教育普及活動

１ 博物館教育普及活動の概要

博物館は資料をわかりやすく展示し、多くの人々に観覧していただくことを大きな使命としている。同時に、来館者の知的文化的な好奇心を充実させる地域の中軸施設であることも求められている。しかし、令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて各学校における校内外の諸行事が延期、または中止、当館においても６月から９月末にかけて臨時休館となり企画展の延期または中止が相次いで発表された。それに伴い、博物館班ボランティア活動も休止となり、感染症対策のため、これまでとは異なる形での活動を余儀なくされた。

博物館の教育普及活動では、学校の計画する授業・行事等で博物館を利用する際に支援する学校連携事業、博物館が企画運営する文化講座、学芸員講座、体験学習教室、ボランティア養成等、大きく２つの事業に分け推進してきた。

運営面では、指定管理者制度のもと、事業の計画を県職員が立案し事業の実施を指定管理者が行うことになっている。博物館が行う各種事業の中でも、県と指定管理者双方の連携が求められる分野の一つである。博物館教育普及事業の実施に際しては、指定管理者と定例の連絡会議を持ち、運営の方法を協議し事業を推進してきた。

また、すべての教育普及活動において「博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン」を踏まえて行った。

○県内学校団体の博物館来館目的（教科内容・自由学習など）　※重複あり

項　　目	小学校	中学校	高等学校	特別支援	大学	合計
下見（学習プログラム作成打合せ）	19	0	0	0	0	19
民具体験（小学校３年社会科）	14	0	0	0	0	14
教科（社会科、理科など）	30	0	7	1	0	38
領域（道徳、特活、総学の時間）	4	0	2	1	0	7
民俗ガイド（小規模校対応）	4	0	0	0	0	4
総合展示部門解説ガイド	0	0	0	0	0	0
修学旅行など	21	0	0	2	0	23
博物館活用学習（自由見学）	2	0	0	0	6	8
その他	5	2	2	0	0	9
合　　計	99	2	11	4	6	122

２ 学校連携事業

学校連携事業は、大きく二つの事業を実施した。

一つは、教育課程の一環として博物館を学習の場として利用する学校団体への学習支援がある。しかし、令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、「民具体験・展示解説等」に取り組んだ。「密」な環境になりやすい学校連携事業において、安全対策を第一に考えた教育・普及の在り方を模索しながら、博物館班の学芸員・施設職員・ボランティア等と連絡・調整をとりながら予定している事業に取り組んだ。

二つめは、『出前授業等』実施要項の作成及び、『教育普及報告書』『体験キットリーフレット・けんぱくキットリーフレット』を作成し、沖縄県内の小学校、中学校、高等学校、特別支援校に配布した。

（１）学校団体受入れ

９月頃から３月にかけて、県内の小学校から民具体験学習のために小学３年生が数多く来館する。この民具体験学習では、教師が生徒の実態に合わせて体験メニューを選択し、学習プログラムを組み立てることが出来る。しかし、令和３年度は、令和２年度に引き続き新型コロナ感染拡大の影響を受け、ボランティアサポート・ふれあい系の体験活動が休止となり、教師が主体の学習プログラムを組み立てることが出来なかった。よって学習プログラムの内容を一部変更して職員と指定管理者主体で行う民具解説・実演をはじめて実施した。

今年度は、９校が職員による民具実演・解説を活用した学習プログラムを行った。また、教職員による民具実演・解説によるボランティアサポートなし学習プログラムを５校が実施した。

（2）出前授業等

博物館のもつ資源（もの、情報）を学校教育の場で有効に活用することを趣旨とし実施している。しかし、令和３年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を十分に踏まえ安全対策を取りながら、小学校１校、中学校７校、高等学校２校、特別支援学校２校、合計12校で出前授業等を実施した。

３ 博物館体験学習教室

沖縄の自然や歴史、文化と結びつけた体験的な活動を通して、郷土について関心を持ち、先人の知恵等を学ぶ機会としている。博物館の各分野（自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗）の展示と関連する体験を実施し、総合博物館としての豊かな学びの場を提供している。（新型コロナウイルス感染拡大防止のため、参加人数を少人数にし、検温・消毒・野外で行うなど対策を十分に行ったうえで実施した。※県の緊急事態宣言発令により一部の教室は延期または中止。）

体験学習教室実施一覧

	題	講師名	内容	参加者
第１回講座 ９月12日（土）	タッチカービングで ダーウィンの進化論	内山　春雄	「みんなの進化展」 関連催事	中止
第２回講座 ９月19日（日）	キリンの骨を並べてみよう！	郡司　芽久	「みんなの進化展」 関連催事	中止
第３回講座 11月13日（日）	貝の矢じりをつくろう	山崎　真治	「海とジュゴンと貝塚人」 関連催事①	12名
第４回講座 11月21日（日）	貝塚の味	澤浦　亮平	「海とジュゴンと貝塚人」 関連催事②	11名
第５回講座 12月26日（日）	かたつむり野外観察会 身近な「かたつむりたっち」を探しに行こう！	河野　甲 菊川　章	「ゆる～いかたつむり展」 関連催事	20名

４　博物館文化講座

博物館文化講座は、博物館の展示内容と関連する自然史、人類、考古、歴史、美術工芸、民俗の各分野について分かりやすい内容で楽しく学習が出来ることを目的に1974年から始まった事業である。講演、展示解説、実技指導、現地研修などを通して、県民各層が楽しく有意義に学べる講座を実施している。

５月下旬から９月末まで沖縄県に緊急事態宣言が発令されたことを受け、当館は臨時休館となった。よって文化講座全12回のうち一部の講座において中止、または無観客でのWEB配信・リモート配信での開催となった。『博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン』に沿って受講者数の人数制限を行い実施した。なお、11月以降はガイドラインに伴い人数制限の緩和を行っている

文化講座開催一覧

回数	期日	演　　題	講師名	定員	参加 (視聴回数)
525	４月17日（土）	災害に対して民俗学は何ができるのか －東日本大震災から学んだこと－	政岡 伸洋	100	33
526	５月15日（土）	沖縄の紅花～花染手巾について～	崎原 克友	100	40
527	６月19日（土） ＊９月23日(木)実施	古文書からみる近世琉球	麻生 伸一	100	WEB配信：133
528	７月17日（土）	絵を描くこころの起源を探る	齋藤 亜矢	100	15 WEB配信：609
529	８月21日（土）	右利きのヘビ仮説	細 将貴	100	WEB配信：919
530	９月18日（土）	キリン解剖記	郡司 芽久	100	WEB配信：1439
531	10月16日（土）	沖縄の貝塚と貝類	黒住 耐二	100	84
532	11月20日（土）	フィールドツアー うるま市の貝塚と遺跡をめぐる	横尾 昌樹	12	12
533	12月18日（土）	古代末～中世の喜界島	野﨑 拓司	140	74

回数	期日	演　　題	講師名	定員	参加 (視聴回数)
534	１月15日（土）	復帰50年、女性記者が見た基地沖縄	島　洋子	140	54
535	２月19日（土）	琉球弧のマグマ活動	新城 竜一	140	82
536	３月19日（土）	琉球の座敷飾について	田丸 尚美	140	67

５ 学芸員講座

学芸員講座は、本館の学芸員が研究成果や収蔵品の調査成果等を報告すると共に、館を訪れる人々に博物館内部の紹介をする良い機会となっている。各分野の充実した講話は博物館をより身近に捉え、参観者の層を拡大する大切な役割を果たしている。

５月下旬から９月末まで沖縄県に緊急事態宣言が発令されたことを受け、当館は臨時休館となった。よって学芸員講座全12回の内一部の講座において中止、または無観客でのWEB配信・リモート配信や参加人数の制限をもうけ、検温・消毒・野外で行うなど対策を十分に行い実施した。『博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン』に沿って受講者数の人数制限を行い実施した。なお、11月以降はガイドラインに伴い人数制限の緩和を行っている。

学芸員講座開催一覧

回	期日	演題	講師名	定員	参加
1	４月10日（土）	博物館バックヤードたんけん	大城 久表	6	3
2	５月８日（土）	今、明かされる琉球王国の手わざⅡ －琉球王国文化遺産集積・再興事業について－	篠原　あかね	50	46
3	６月12日（土） ＊９/４(土)実施	勝連城に眠る子ども ※６/12→９/４延期	澤浦　亮平	50	WEB配信：264
4	７月10日（土） ＊10/２(土)実施	グスクの城壁に見る沖縄の独自性 ※７/10→10/２延期	山本　正昭	50	38 WEB配信：342
5	８月14日（土） ＊10/17(日)実施	郷土を教材にした歴史教育について ※８/14→10/17延期	宮城　修	50	26
6	９月11日（土）	みんなの進化論入門 －進化の視点で身近な自然を見てみよう！	菊川　章	50	WEB配信：1508
7	10月９日（土）	復帰49年　沖縄の景色	外間　一先	50	44
8	11月13日（土）	企画展 「海とジュゴンと貝塚人のみどころを紹介」 後半は展示解説	山崎　真治	60	40 WEB配信：150
9	12月11日（土）	OkiMu　収蔵のクバ製民具	阿利　よし乃	60	43
10	１月８日（土）	フィールドツアー① 沖縄本島南部の自然観察に行こう！	菊川　章 宇佐美　賢	20	15
11	２月12日（土）	フィールドツアー② 首里の大地と歴史を感じるフィールドツアー	宇佐美　賢 山本　正昭 崎原　恭子 宮城　修	20	20
12	３月12日（土）	「戦後文化復興の礎 大嶺薫－東恩納博物館旧蔵資料と大嶺薫コレクション再考－」	伊禮　拓郎	60	38

（大城　久表）

６ 学芸員による常設展示解説会

常設展の展示解説会は、展示資料を前に解説パネルだけでは補いきれない「博物館ならではの最新の調査報告や情報」を踏まえた内容を紹介している。初めて参加するお客様のみならず年間パスポートや友の会会員、個人のリピーターの参加が定着している。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部解説会が中止となったが、人数制限を設けるなど安全対策を講じて実施した。

学芸員による常設展示解説会開催一覧

	日　程	分　野	講師名	定　員	参加者数（名）
1	４月８日（木）	人　　類	澤浦　亮平	10	8
2	５月13日（木）	歴　　史	崎原　恭子		24
3	６月10日（木）	美術工芸	篠原　あかね		中止
4	７月８日（木） （延期）７月29日（木） （延期）９月30日（木）	民　　俗	阿利　よし乃		中止
5	８月12日（木）	歴　　史	外間　一先		中止
6	９月９日（木）	考　　古	山本　正昭		中止
7	10月14日（木）	地　　学	宇佐美　賢		15
8	11月11日（木）	人　　類	山崎　真治		11
9	12月９日（木）	生　　物	菊川　章		21
10	１月13日（木）	歴　　史	宮城　修		6
11	２月10日（木）	美術工芸	伊禮　拓郎		13
12	３月10日（木）	人　　類	澤浦　亮平	10	12
合　　計					110

（保久村　智恵）

7 学芸員によるバックヤードツアー

バックヤードツアーは、専門性を生かした内容とリピーターづくりを目指し、学芸員が月ごとに講師を務め、実施している。各分野以外にも、建物の構造やIPM（Integrated Pest Management：総合的有害生物管理）の取り組み、資料の修復について解説するなど、来館者に博物館の役割や使命を理解してもらう工夫をしている。2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部バックヤードツアーが中止となったが、参加者数を調整するなど安全対策を講じて実施した。

学芸員によるバックヤードツアー開催一覧

	日　程	分　野	講師名	定　員	参加者数（名）
1	４月24日（土）	人　　類	澤浦　亮平	10	3
2	５月22日（土）	歴　　史	外間　一先		6
3	６月26日（土）	美術工芸	篠原　あかね		中止
4	７月24日（土）	歴　　史	崎原　恭子		中止
5	８月28日（土）	民　　俗	阿利　よし乃		中止
6	９月25日（土）	美術工芸	伊禮　拓郎		中止
7	10月30日（土）	人　　類	山崎　真治		2
8	11月27日（土）	生　　物	菊川　章		10
9	12月25日（土）	考　　古	山本　正昭		8
10	１月22日（土）	歴　　史	宮城　修		6
11	２月26日（土）	地　　学	宇佐美　賢		10
12	３月26日（土）	教育普及	大城　久表		10
合　計					55

（保久村　智恵）

8 こどもフェスタ秋 2021

夏休み！博物館学芸員教室は、学芸員が夏休みの課題に取り組む子供たちに向けて、沖縄の自然・歴史・文

化に関する自由研究のテーマを提供する場である。しかし、５月下旬から９月末まで沖縄県に緊急事態宣言が発令されたことを受け、当館は臨時休館となった。よって「夏休み！こどもフェスタ2021」は７/23～７/25から10/23、24、30に延期し実施した。『博物館における新型コロナウイルス感染症拡大予防ガイドライン』に沿って募集者人数の制限を行うなど、検温、消毒等対策を徹底し実施した。

子どもフェスタ秋　博物館学芸員教室開催一覧

期日・教室内容・講師		参加者
【10月23日（土）】		
①『オリジナルの家系図を作ろう！』	宮城　　修【歴史担当】	４名
②『琉球の銭「世高通宝」を作ってみよう！』	山本　正昭【考古担当】	８名
③『クバオージを作ってみよう！』	阿利　よし乃【民俗担当】	８名
【10月24日（日）】		
③『香りを聞こう！匂袋作りと聞香体験』	伊禮　拓郎【美工担当】	10名
④『石と友達になろう！沖縄の石割体験と黒曜石の石器作り』	宇佐美　賢【地学担当】	５名
※『やきものに絵をかこう！』延期の為中止	篠原　あかね【美工担当】	＊中止
【10月30日（土）】		
⑤『旧石器人の貝のアクセサリーを作ってみよう』	山崎　真治【人類担当】	６名
⑥『手羽先骨格標本づくり～恐竜と鳥はどこが似ているの？～』	菊川 章【生物担当】	12名
⑦『この骨なんの骨？骨の鑑定に挑戦だ！』	澤浦　亮平【人類担当】	８名
『第１回民話上映会』	阿利　よし乃【民俗担当】	17名

定　員：　各分野10名程度（事前申込制）

９ 博物館ボランティア活動

博物館では、県民の自己啓発や学習発表の場の提供を行うと共に、博物館支援活動を目的とした「博物館ボランティア」を導入している。第9期博物館ボランティアを募集し、新規ボランティア員の登録が予定されていたが新型コロナ感染症防止対策のため中止となった。また、常設展示（総合展示部門）のガイド養成の募集は令和３年度に実施予定。現在は総勢57名のボランティアを登録している。
※ふれあい体験室専属ボランティアは、令和２年度より博物館ボランティアと統合になった

（大城　久表）

10 ふれあい体験室

（１）ふれあい体験室の位置づけと目的

「ふれあい体験室」は、ハンズ・オン展示の資料を通して来館者同士、来館者とスタッフ、また、ここで展示されている“おきなわ”との「ふれあい空間」創りをめざしている部屋である。この部屋は常設展示として、総合展示・部門展示と補完しあい、また、実習室や野外体験プログラムと連携し、効果的に運用できる機能を併せ持っている。さらに、この部屋は館内における教育普及活動の拠点施設となり、来館者に発見や感動の喜びを提供する場として、教育のさらなる向上に寄与する展示・プログラムの開発を行う場ともなる。

（２）体験キットの位置づけ

展示物（体験キット）は、沖縄の「自然のしくみ」と「先人の知恵」を触れる・見る・聞くなどの五感で体感できる操作や組立てなどの遊びを通じて、展示資料を深く学ぶことができる。体験キットは、教育普及資料して位置づけられるもので、沖縄の自然、考古、歴史、美術工芸及び民俗などの内容に基づき、すべてが触れることのできるものとする。

体験キットは、来館者が資料に触れあうことで目的が達成するものとして準備されている。来館者が自主的に触れることができるようにするために、職員や親子、一般の方々といった様々な人が参加する雰囲気作りを心がけていく。ふれあい体験室では、能動的に“沖縄の「自然のしくみ」や「先人の知恵」”を発見・再発見することができる展示を行う。

（３）ふれあい体験室・体験キットの対象者

基本的に小学校中学年（３年生以上）を対象とする。しかし、テーマに沿った展示手法の工夫により、幼児から就学年齢の子ども、または大人にとっても楽しめる空間創りを目指す。

（４）体験キットの分類

ふれあい体験室は、自由に体験キットを利用することを基本としている。しかし、体験キットによっては安全性や耐久性の面で使用時の注意や制限がかかるものもある。ふれあい体験室では、体験キットを分類し、配置されているゾーンによって、使用制限のランクを分けている。

（５）利用者状況

2021年度のふれあい体験室は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止のため休室措置をとっている。しかし、休室期間中も県と協力し、体験室内の清掃や体験キットのメンテナンスを行うなど、開室に向けての準備を進めている。

（比嘉　麻乃）

11 常設展に関する取り組み

（１）博物館常設展見どころマップ「ここだけは見逃すな！」の活用

博物館常設展の見学の手助けとして、2011年度に作成した見どころマップ「ここだけは見逃すな！」を継続して常設展入口のラックに設置した。2021年度は、約1,000枚を配布した。

（２）博物館常設展示室ワークシート

「アタクにアタック」（生物）、「飛べないとりのひみつ」（生物）、「港川人のひみつ」（人類）

常設展示室内で学芸員が見てほしい資料を紹介するために2019年度から設置しているワークシートは、2021年度も継続して常設展示室とおきみゅー誕生祭で配布し多くの来館者が参加した。

2021年度は、新たな分野の作成及び既存のワークシートを見直し、次年度の実施に向けて準備を進めている。

実施期間：2021年４月１日（木）～ 12月31日（金）

場　　所：博物館常設展示室

配 布 数：2,100枚（各700枚）

（大濵　萌子）

（３）博物館・美術館連携事業「博物館・美術館で平和を考えるイベント」

博物館・美術館連携事業として、慰霊の日に「博物館・美術館で平和を考えるイベント」を開催しているが、2021年度は、新型コロナウイルスの影響で臨時休館が長期に至ったため、中止となった。

実施期間：2021年６月15日(火)～６月27日（日）（中止）

（保久村　智恵）

12　普及資料の活用

令和３年度教育普及資料の活用について、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部使用方法の制限を設け貸出を行った。また、教育普及資料である体験キットにおいて、貸出可能なリーフレットを作成した。

教育普及資料貸出一覧（令和３年度）

	利用者	資料名	利用目的	貸出期間
1	那覇市立石嶺小学校	民具体験キット	社会科授業	６/28～７/５
2	沖縄県立大平特別支援学校	体験キット	社会科授業　学校行事	11/８～11/18
3	那覇市立城西小学校	民具体験キット	社会科授業	１/17～１/24
4	那覇市立宇栄原小学校	民具体験キット	社会科授業	１/18～１/26
5	糸満市立光洋小学校	民具体験キット	社会科授業	１/21～１/28

博物館の教育普及関係資料等を貸出している。令３年度の貸出団体数は５件であった。

（大城　久表）

13 ボランティアによる展示ガイド

博物館ボランティアの活動の一つに展示解説ガイドがある。これは、来館者へのサービス向上の一環として、博物館常設展示室の「民俗部門」と「総合展示部門」でボランティアがわかりやすく解説することを目指している。民俗部門展示では、沖縄県内の離島をはじめとする小規模校（20名以下）の子どもたちを対象に解説ガイドを実施している。歴史を中心とした総合展示部門解説ガイドは、県外専門学校、大学、一般を対象に、ガ

イドを行っているが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

（1）民俗部門解説ガイド

	利用区分	地域	日付	団体名	対象	人数	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ数
1	修学旅行	沖縄	11月11日（木）	渡嘉敷村立 渡嘉敷小学校	学生	18	3
2	修学旅行	沖縄	12月９日（木）	渡嘉敷村立 阿波連小学校	学生	6	2
3	修学旅行	沖縄	12月17日（金）	与那国町立 久部良小学校	学生	20	4
4	修学旅行	沖縄	12月17日（金）	竹富町立上原小学校	学生	22	3
合　　計						66	12

（2）総合展示部門解説ガイド

2021年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。

Ⅳ 資料の収集・保存管理

1 収蔵資料現在高

分　　類		購　入	寄　贈	収　集	移　管	分担管理	小　計	総　計
自然史	地　学	680	27,926	3,076	1	0	31,682	57,300
	動　物	1,536	18,811	523	141	0	21,011	
	植　物	40	4,563	0	0	0	4,603	
	菌　類	3	0	0	0	0	3	
人　類　資　料		93	30	6	0	2	131	131
美術工芸	絵　画	104	587	2	4	0	697	11,004
	書　跡	180	490	49	6	0	725	
	彫　刻	13	115	136	7	0	271	
	陶磁器	639	3,535	466	538	0	5,178	
	漆　器	238	370	195	19	0	822	
	染　織	1,304	1,822	51	27	0	3,204	
	その他	15	92	0	0	0	107	
歴　史　資　料		2,933	10,431	747	470	0	14,581	14,581
考　古　資　料		298	6,651	2,820	1	0	9,770	9,770
民　俗　資　料		598	6,098	1,072	178	0	7,946	7,946
総　　計		8,674	81,521	9,143	1,392	2	100,732	100,732

※昨年度の統計数値に間違いがありましたので、今年度分にて併せて修正いたしました。

2　2021年度（令和３）新収蔵資料高

分　　類		購　入	寄　贈	収　集	移　管	小　計	総　計
自然史	地　学	19	2	0	0	21	36
	動　物	13	0	0	0	13	
	植　物	2	0	0	0	2	
	菌　類	0	0	0	0	0	
人　類　資　料		1	0	0	0	1	1
美術工芸	絵　画	0	0	0	0	0	1
	書　跡	0	0	0	0	0	
	彫　刻	0	0	0	0	0	
	陶磁器	0	0	0	0	0	
	漆　器	0	1	0	0	1	
	染　織	0	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	0	
歴　史　資　料		1	104	55	14	174	174
考　古　資　料		0	0	0	0	0	0
民　俗　資　料		0	21	0	0	21	21
総　　計		36	128	55	14	233	233

3　2021年度（令和３）新収蔵資料目録

【購　入】

分　類		資　料　名	数量	提供者・所在地	
自然史	地学	エディアカラ生物群（カルニアディスクス）化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		エディアカラ生物群（マウソナイト）化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		ティラノサウルスBucky　鎖骨　化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		獣脚類（コエロフィシス）全身骨格　産状化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		単弓類（ディメトロドン）頭骨　化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		ジュラ紀のトンボ　化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		ジュラ紀のカブトガニ　化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		初期の魚類（ボスリオレピス）化石レプリカ	1	株式会社パレオサイエンス	東京都
		サーベルタイガー頭骨　化石レプリカ	1	医学モデル工業	新潟県
		獣脚類（コンプソグナトゥス）全身骨格　産状化石レプリカ	1	東京サイエンス	東京都
		シダ種子類（アレソプテリス）化石	1	東京サイエンス	東京都
		メタセコイア　化石	1	東京サイエンス	東京都
		エディアカラ動物群（ネミアナ）化石	1	東京サイエンス	東京都
		シダ種子類（グロッソプテリス）化石	1	東京サイエンス	東京都
		腕足類（キルトスピリファー）化石	1	東京サイエンス	東京都
		腕足類（リンギュレラ）化石	1	東京サイエンス	東京都
		腕足類（リンコネラ）化石	1	東京サイエンス	東京都
		コケムシ類（ダカイア）化石	1	東京サイエンス	東京都
		植物食恐竜の糞化石 断面	1	東京サイエンス	東京都
	生物	ホントウアカヒゲ　タッチカービング	1	委託製作：楽堂工房	千葉県
		ノグチゲラ　タッチカービング	1	委託製作：楽堂工房	千葉県
		ノグチゲラ（ひな）　タッチカービング	1	委託製作：楽堂工房	千葉県
		ハブ封入標本	1	委託製作：国陽工芸株式会社（素材提供：池原盛浩氏）	東京都
		ヤクシマスミレ封入標本	1	委託製作：国陽工芸株式会社（素材提供：沖縄美ら島財団）	東京都
		アングレカム（ダーウィンのラン）封入標本	1	委託製作：国陽工芸株式会社（素材提供：沖縄美ら島財団）	東京都
		イッシキマイマイを捕食するイワサキセダカヘビ模型	1	委託製作:立体造形 八月社	京都府
		オウムガイ　リアルフィギュア	1	委託製作:立体造形 八月社	京都府
		ヤツメウナギ　レプリカ	1	委託製作:株式会社 西尾製作所	京都府
		アオカナヘビ　レプリカ	1	委託製作:株式会社 西尾製作所	京都府
		ミヤコカナヘビ　レプリカ	1	委託製作:株式会社 西尾製作所	京都府
		サキシマカナヘビ　レプリカ	1	委託製作:株式会社 西尾製作所	京都府
		ニホンカナヘビ　レプリカ	1	委託製作:株式会社 西尾製作所	京都府

分　類		資　料　名	数量	提供者・所在地	
自然史	生物	チンパンジー　幼児期頭骨モデル11か月	1	医学モデル工業	新潟県
		ムカシトカゲ　ライフキャスト	1	医学モデル工業	新潟県
	人類	武芸洞人１号復顔模型	1	委託製作：株式会社 サンク・アール	東京都
歴　史		木像「大黒様」	1	琉米歴史研究会	中城村

【寄　贈】

分　類		資　料　名	数量	提供者・所在地	
自然史	地学	福徳岡ノ場2021年８月噴火に伴う大型漂着軽石	1	丸谷由、丸谷夏瑠沙	沖縄県
		福徳岡ノ場2021年８月噴火に伴う各種漂着軽石一式	1	中島求、美和	沖縄県
美術工芸	漆芸	朱漆丸花文堆錦重箱	1	河村玲子	東京都
歴　史		向姓家譜（和宇慶家）	1	和宇慶朝秀	沖縄市
		向姓家譜（内間家）	1	和宇慶朝秀	沖縄市
		毛姓家譜（譜久村家）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　修業証書（譜久村蒲戸宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里区首里尋常高等小学校　修業証書（譜久村蒲戸宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　修業証書（譜久村蒲戸宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　卒業証書（譜久村蒲戸宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　賞状（譜久村安正宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　修業証書（譜久村蒲戸宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　修業証書（譜久村蒲戸宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		首里尋常高等小学校　修業証書（譜久村安正宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		沖縄県立中学校　修了証書（譜久村安正宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		沖縄県立中学校　修了証書（譜久村安正宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		第一回国勢調査記念章之証（譜久村安正宛）	1	譜久村あや子	那覇市
		第一回国勢調査記念章（譜久村安正旧蔵）	1	譜久村あや子	那覇市
		明治21年製　日本赤十字社特別社員章（譜久村家旧蔵）	1	譜久村あや子	那覇市
		頭巾（冠）（譜久村家旧蔵）	1	譜久村あや子	那覇市
		戒名及び忌日帳（譜久村家）	1	譜久村あや子	那覇市
		繰出位牌（回出位牌）の札板（譜久村家）	18	譜久村あや子	那覇市
		位牌の札（譜久村家）	41	譜久村あや子	那覇市
		ジーファー（又吉誠敏作）	1	木脇貞子	那覇市
		今英男資料（平成の首里城復元資料〈木彫〉）一式	1	今良子	石川県
		琉球切手アルバム	1	大條雅弘	北海道
		新沖縄県発足式典案内状一式	1	金城辰三	那覇市
		《戦史シリーズ》８ミリ記録映画一式	1	平良雪子	那覇市
		崇元寺を記録したガラス乾板	6	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所	東京都
		崇元寺を記録したガラス乾板から焼き付けられた紙焼き写真	8	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所	東京都

分　類	資　料　名	数量	提供者・所在地	分　類
歴　史	崇元寺を記録したガラス乾板から作成したデジタル画像	6	独立行政法人国立文化財機構東京文化財研究所	東京都
	銘ガローシ御抹茶碗とぐい呑み一式	1	宇江城昌順	久米島町
	釣鐘（米国フロリダ州より返還）	1	メラニー・リー・カーティス／NPO法人琉米歴史研究会	米国ﾌﾛﾘﾀﾞ州／中城村
民　俗	壺型厨子甕	1	嘉手川　重三	那覇市
	位牌	1	嘉手川　重三	那覇市
	ディスコ ピラミッドのボトルメンバーズカード	1	稲福　昇	沖縄市
	チャーリーブラウンのボトルメンバーズカード	1	稲福　昇	沖縄市
	ニューヨーク　ニューヨークのボトルメンバーズカード	1	稲福　昇	沖縄市
	ディスコ ピラミッド オープンレセプションの案内状	1	稲福　昇	沖縄市
	アドベン企画　パンフレット	1	稲福　昇	沖縄市
	WHISKY A GOGO Tシャツ	1	稲福　昇	沖縄市
	DOWN TOWN ノースリーブアレンジTシャツ	1	稲福　昇	沖縄市
	ネオマンハッタン スタッフ用トレーナー	1	稲福　昇	沖縄市
	ネオマンハッタン トレーナー	1	稲福　昇	沖縄市
	マンハッタン トレーナー	1	稲福　昇	沖縄市
	WHISKY A GOGO トレーナー	1	稲福　昇	沖縄市
	両手鍋	1	前田　賢二	那覇市
	アイスキャンディー用液体容器	1	前田　賢二	那覇市
	鍋	1	前田　賢二	那覇市
	鍋	1	前田　賢二	那覇市
	氷旗	1	前田　賢二	那覇市
	ヘラ	1	下地　義雄	浦添市
	門中墓改修工事の映像DVD	1	長嶺　シゲ子	那覇市
	ティンゲー	1	Vivian Berg Crecelius （ヴィヴィアン・バーグ・クレセリウス）	アメリカ合衆国

【収　集】

分　類	資　料　名	数量	提供者・所在地	
歴　史	米国総領事館製手提げバッグ、人形、手帳、タンブラー一式	1	在沖米国総領事館	浦添市
	日本銀行券百円券（板垣退助）	2	一般財団法人沖縄美ら島財団	那覇市
	首里城火災破損石材一式	1	沖縄県土木建築部都市公園課	那覇市
	沖縄復帰記念メダル一式	45	沖縄県立小禄高等学校	那覇市
	東京2021オリンピック聖火リレーランナーユニフォーム	2	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市
	東京2023パラリンピック聖火リレーランナーユニフォーム	1	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市
	東京2020オリンピック・パラリンピック公式マスコットぬいぐるみ	2	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市
	アベノマスク	1	阿利よし乃	宜野湾市

【移　管】

分　類	資　料　名	数量	提供者・所在地	
歴　史	天蓋風飾り（芭蕉布）	10	沖縄県土木建築部都市公園課	那覇市
	東京2020オリンピック聖火リレートーチ	1	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市
	東京2022パラリンピック聖火リレートーチ	1	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市
	東京2023パラリンピック聖火リレー用ランタン	1	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市
	東京2024パラリンピック聖火集火皿	1	沖縄県文化観光スポーツ部スポーツ振興課	那覇市

4　所蔵指定文化財

【国指定文化財（重要文化財）】　　2021年３月31日　現在

種　別	名　　称		員 数	指定年月日	所有者
工芸品	銅鐘（旧首里城正殿鐘）		１口	昭53．6．15	沖縄県
	梵鐘（旧円覚寺殿前鐘・旧円覚寺殿中鐘・旧円覚寺楼鐘）		３口	〃	〃
典　籍	おもろさうし		22冊	昭48．6．6	〃
	混効験集		２冊	〃	〃
	中山世鑑		６冊	令２．９．30	〃
	蔡鐸本　中山世譜		７冊	令２．９．30	〃
	蔡温本　中山世譜		12冊	令２．９．30	〃
古文書	琉球国時代石碑	安国山樹華木之記	22基	令元．７．23	〃
		官松嶺記			
		円覚禅寺記			
		国王頌徳碑			
		真珠湊碑文			
		崇元寺下馬碑　西			
		一翁寧公之碑			
		ようとれのひのもん・極楽山碑文			
		壺川松尾墓碑			
		板敷橋記			
		勢理客橋碑			
		新濱那覇港碑文			
		琉球新建儒学碑記			
		琉球国創建天尊廟天后宮竜王殿関帝祠総記			
		板良敷村墓碑			
		龍潭浚渫碑			
		重修天女橋碑記			
		改造池城橋碑文			
		梵字碑			
		首里新建聖廟碑文			
		竜樋石額（飛泉漱玉）			
		竜樋之碑（霊脈流芬）			

種　別	名　　称		員 数	指定年月日	所有者
歴史資料	明孝宗勅諭　琉球国中山王尚真宛		１巻	平11．６．７	〃
	間切図	島尻南（兼城間切・高嶺間切・真壁間切・喜屋武間切・摩文仁間切・具志頭間切・東風平間切） 島尻東（玉城間切・知念間切・佐敷間切・大里間切） 町方・島尻西（首里・泊・久米・那覇・南風原間切・真和志間切・小禄間切・豊見城間切） 中頭南（西原間切・浦添間切・宜野湾間切・中城間切） 中頭中（北谷間切・越来間切） 国頭（国頭間切　西） 離れ（伊平屋島）	７枚	平28．８．17	〃

【県指定文化財（有形文化財）】　　2021年３月31日　現在

種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所有者
絵　画	絹本着色花鳥図殷元良筆	１幅	昭54．４．９	沖縄県
	紙本着色雪中雉子の図殷元良筆	〃	〃	〃
	紙本墨画竹の図殷元良筆	〃	昭57．３．４	〃
	紙本着色奉使琉球図	１巻	昭57．３．４	〃
	紙本着色冊封使行列図	１巻	平15．７．11	〃
彫　刻	木彫円覚寺白象並びに趣意書木札	１躯１枚	昭31.12.14	〃
	世持橋勾欄羽目	１括	〃	〃
	旧円覚寺関係木彫資料	35点	平15．７．11	〃
工芸品	黒塗螺鈿遊雁絵大文庫	１合	昭31.12.14	〃
	黒塗堆錦山水絵大文庫	〃	〃	〃
	黒塗螺鈿雲龍文内金箔蓋付椀	〃	〃	〃
	聞得大君御殿雲龍黄金簪	１本	〃	〃
	三線江戸与那	１丁	〃	〃
	枝梅竹文赤絵碗	１口	昭54．９．３	〃
	線彫染付魚文皿	〃	〃	〃
	色象嵌粟絵菊花皿	〃	〃	〃
	象嵌色差面取抱瓶	〃	〃	〃
	梵鐘（旧霊応寺鐘）	〃	昭60．６．18	〃
	梵鐘（旧普門禅寺鐘）	〃	〃	〃
	梵鐘（旧天竜精舎鐘）	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天尊殿鐘）	〃	〃	〃
	銅鐘（旧天妃宮鐘）	〃	〃	〃
	銅鐘（旧一品権現鐘）	〃	〃	〃
	梵鐘　旧大安禅寺鐘（一名　護国寺の鐘）	〃	昭63．１．12	〃
	梵鐘（旧永福寺鐘）	１口	平２．２．６	〃
	黒漆山水楼閣人物螺鈿机	１基	〃	〃
	白密陀山水楼閣人物漆絵箔絵角盆	１枚	〃	〃
	朱漆山水楼閣人物箔絵丸型東道盆	１合	〃	〃
	黒漆薔薇堆錦軸盆	１枚	〃	〃
	朱漆巴紋牡丹沈金大御供飯	１合	〃	〃

種　別	名　　称	員　数	指定年月日	所有者
工芸品	三線盛嶋開鐘附胴	１丁	平６．３．15	〃
	三線真壁型銘西平	１丁	平６．３．15	〃
	三線与那城型銘玉城與那	１丁	平６．３．15	〃
書　跡	程順則の書	１巻	昭42．４．11	〃
	扁額徳高　鄭元偉書	１面	平元．９．29	〃
	扁額凌雲　林麟焻書	１面	〃	〃
古文書	宮古島下地の首里大屋子への辞令書	１幅	昭31.12.14	〃
	伊平屋島仲田の首里大屋子への辞令書	１通	昭53．４．１	〃
	羽地間切の屋我のろへの辞令書	１幅	昭56．３．30	〃
歴史資料	銅鐘残欠（旧波上宮朝鮮鐘）	１点	昭60．６．18	〃

５ 修理事業

琉球王国時代の美術資料のなかには類例がない資料が多くある。資料は適正な温湿度管理のもと収蔵庫で大切に保存しているが、経年による変化で修復が必要な状態になっているものが多くある。当館では、限られた予算の範囲で沖縄の歴史・文化史上重要な資料の修理事業を実施している。令和３年度は新型コロナウイルス感染拡大に伴い予算減額されたが、展示公開の頻度や展示効果の高さを考慮して優先順位をつけて資料を選定・修理を実施した。また、令和２年度より住友財団の文化財維持・修復事業を活用し、朱漆巴紋沈金御供飯の修理事業を開始、令和３年度に修理を完了した。住友財団には、この場を借り、深く感謝の意をここに記す。

【事業内容】
（１）美術工芸・歴史資料修理
　予算執行額：1,072,614円
　修理件数：４件４点
　　①伝自了筆「寿老人」（１件）美術工芸（絵画）
　　②神扇（鳳凰牡丹）（１件２点）民俗
　　③神扇（鳳凰牡丹）（１件２点）民俗
　　④雲龍堆錦箱（１件１点）美術工芸（漆器）
（２）館蔵朱漆巴紋沈金御供飯修理事業
　予算執行額：4,881,250円（内3,500,000円は住友財団の助成による）
　　⑤朱漆巴紋沈金御供飯（１件１点）美術工芸（漆器）

【修理内容】
①強い横折れや経年の汚れ、表具の剥離などが見られた。そのため、本紙を総裏打ちしなおし、表具・太巻・桐箱を新調した。
②③ノロ家から寄贈された神扇だが、②は扇の骨がなく、③は骨の一部が欠損していた。また経年の汚れや破れなどが多数見られたことから、表と裏を分け裏打ちし、今後扇の状態に戻せるように修理した。
④漆塗膜や堆錦の剥離や割れが確認されたため、塗膜押さえなどをして対処した。
⑤令和２年度に引き続き、構造や塗膜部分を主とする修理を行い、蓋表などの目立つ部分には補彩を行った。

【修理業者】①～③石川堂、④琉球漆工藝舎、⑤目白漆芸文化財研究所

（伊禮　拓郎）

６ 資料保存管理事業　レプリカ・剥製製作（生物資料）

資料収集･保存は、博物館の大きな役割のひとつである。本事業は、県立の博物館施設として、沖縄県に現存する貴重な動植物を剥製やレプリカにして保存することで、その役割の一部を、継続的かつ半永久的に果たしてゆくことを目的としている。本館所蔵のレプリカ・剥製の数、種類は未だ十分とは言えず、今後も展示や研究を視野に入れながら、少しずつ増やしてゆくことが望まれる。

剥製製作予定の標本は、多くが交通事故死等により滅失したものを、拾得者が本館へ寄贈してくれたものである。遺体は剥製にするまで冷凍室で保存している。現在、冷凍室には数百の標本が保管されているため、状

態の良い物や保存価値のあるもの（希少性の高いもの）から順に、剥製（またはレプリカ）として再生してゆく。

令和３年度は、以下の動植物についてレプリカ及び封入標本を委託製作した。なお、ホントウアカヒゲおよびノグチゲラのタッチカービングの製作にあたっては、（一財）全国科学博物館振興財団の助成を受けた。

名　　称	提　　供	委託製作
ホントウアカヒゲ　タッチカービング		内山春雄氏
ノグチゲラ　タッチカービング		内山春雄氏
ノグチゲラ（ひな）タッチカービング		内山春雄氏
ハブ封入標本	池原　盛浩　氏	国陽工芸株式会社
ヤクシマスミレ封入標本	沖縄美ら島財団総合研究センター	国陽工芸株式会社
かたつむりリアルフィギュア16点		立体造形　八月社

（菊川　章）

７ 資料収集事業

（１）資料収集

資料収集事業は文化財の収集活動によって沖縄の遺産を保存管理し、調査研究を踏まえた展示を通して、本県の教育文化の振興・向上をめざした事業である。常設展示等において魅力ある展示を構成する上で、資料収集事業は不可欠である。

令和３年度には、米国から沖縄に戻った釣鐘１口を収蔵した。本鐘の元の所有者は米国フロリダ州在のメラニー・リー・カーティス氏であり、NPO法人琉米歴史研究会の喜舎場静夫理事長が調査や返還交渉を重ねた上で、当館に収蔵される運びとなった。

カーティス氏は、沖縄戦で従軍したロイ・スタンレー・ガイガー氏の孫娘に当たる人物である。この鐘は、自身が生まれる前から自宅にあり、家族の特別な行事に鳴らす等、思い出深い大切なものであったが、沖縄のためにふるさとへ戻すべきという考えに至ったそうである。

カーティス氏の証言によって、本鐘が沖縄戦当時に沖縄から持ち出されたものであることはわかったが、製作時期や製作地、沖縄戦前の保管場所はわかっていない。本鐘は沖縄の歴史や文化史を示す貴重な資料であるため、今後さらに、沖縄を中心とした東アジア地域を含めた鐘の調査・研究や、沖縄戦前の保管場所等の調査を行う必要がある。

なお、令和３年11月２日（火）には本鐘の返還式典を博物館屋外展示場で実施した。本式典には、NPO法人琉米歴史研究会の喜舎場理事長や、沖縄県立博物館友の会の仲間会長、修学旅行で来館した国頭村の奥・安田・安波小学校の児童の皆様にご出席いただいた。

（崎原　恭子）

（２）基金

当館の収蔵品は、沖縄の歴史・文化を後世に伝える貴重な資料である。特に先の大戦で戦火を免れた琉球王国時代の資料は現存数が少ないことに加え、文化的・歴史的に非常に価値が高い。当館ではこのような資料を収集し、常設展や企画展において展示公開の機会を設けることにより、沖縄県の文化振興に寄与すると共に県民の学びの場を提供し、豊かな沖縄の創造を目指している。

資料収集活動の一つである沖縄県美術品等取得基金（以下「基金」という）は、貴重な資料を購入し、県外および国外に流失させないことを目的の一つとしている。当館では、調査研究や展示の充実を図るために、沖縄の歴史・文化の豊かさを表す資料を基金により継続的に収集している。なお収集にあたって外部の有識者による収集委員会を招集し、意見を求めて購入の可否を判断している。本年度の新規購入はなく、平成29年度購入分の買戻しの充当にあてた。

（篠原　あかね）

８ 資料貸出

○事 業 名：国立歴史民俗博物館　特集展示「海の帝国琉球－八重山・宮古・奄美からみた中世－」
主　　催：国立歴史民俗博物館
会　　場：国立歴史民俗博物館　企画展示室Ａ
貸出期間：2021年２月15日～５月25日
貸出資料：円覚寺殿中鐘、宮古島下地の首里大屋子への辞令書、御物城跡出土陶磁器、首里那覇港図屏風　他計17件

○事 業 名：アンモナイト化石の展示
借 用 先：ネオパークオキナワ
貸出期間：①2021年４月１日（木）～５月19日（水）
②2022年３月14日（月）～３月31日（木）貸出継続中
貸出資料：アンモナイト化石（土橋寄託資料）一式

○事 業 名：常設展示一部リニューアル
主　　催：久米島博物館
会　　場：久米島博物館常設展示室
貸出期間：2021年４月１日～2022年３月31日
貸出資料：体験キット・貝匙　２点

○事 業 名：展示「むんだすいぬやーぬ」
主　　催：城西大学水田美術館
会　　場：城西大学水田美術館展示室
貸出期間：2021年７月15日～９月３日
貸出資料：多和田真淳コレクション（首里城表採瓦）30点

○事 業 名：埋蔵文化財公開活用事業に伴う市来式土器模型製作
主　　催：浦添市教育委員会
目　　的：レプリカ制作
貸出期間：2021年８月23日～2022年２月２日
貸出資料：浦添貝塚出土土器（市来式土器）　１点

○事 業 名：第60回記念黎明館企画特別展「ほこらしゃ奄美～海と山の織りなすシマの世界～」
主　　催：令和３年度黎明館企画特別展実行委員会
会　　場：鹿児島県歴史・美術センター黎明館
貸出期間：2021年８月26日～11月20日
貸出資料：尚家本おもろさうし第一・第十三、尚家本おもろさうし第十三（複製）　計３件

○事 業 名：特定地域特別振興事業建設工事（展示）
主　　催：嘉手納町教育委員会
貸出期間：2021年９月28日～10月15日
目　　的：レプリカ制作
貸出資料：荻堂式土器深鉢形・壺形土器（嘉手納貝塚）２点、蝶形骨器（嘉手納貝塚）１点

○事 業 名：展示会「沖縄と世界の昆虫展示」
主　　催：（一財）沖縄美ら島財団
場　　所：国営沖縄記念公園　海洋博覧会地区　熱帯ドリームセンター
貸出期間：2021年10月１日～10月31日
貸出資料：アングレカムの花（樹脂封入標本）

○事 業 名：令和３年度那覇市立壺屋焼物博物館特別展「うちなー赤瓦ものがたり）」
主　　催：那覇市立壺屋焼物博物館
会　　場：那覇市立壺屋焼物博物館　３階企画展示室
貸出期間：2021年10月11日～2022年１月24日
貸出資料：厨子（喜納焼）

○事 業 名：企画展「発見！日本の生物多様性～標本から読み解く、未来への光～」
主　　催：国立科学博物館
場　　所：国立科学博物館日本館１階企画展示室
貸出期間：2021年12月６日～2022年３月23日
貸出資料：イリオモテヤマネコ本剥製（OPM-Ma-103）

○事 業 名：フジテレビ「世界の何だコレ！？ミステリー」
主　　催：株式会社オクタゴン

目　　的：株式会社パレオ・ラボにて非破壊分析を実施。
貸出期間：令和3年12月10日～14日
貸出資料：線刻石板（北谷町内発見）１点

○事 業 名：令和３年第３期常設展「士(サムレー)の嗜み(たしなみ)とお洒落をみようー琉球の士、日本の武士ー」
会　　場：浦添市美術館
貸出期間：2022年２月４日(金)～５月11日(水)
貸出資料：琉球切手原画（「執心鐘入」「二童敵打」「人盗人」「銘苅子」「孝行の巻」）

○事 業 名：近代沖縄史料デジタル化事業
主　　催：沖縄県教育委員会
貸出期間：2022年３月16日～３月17日
貸出資料：坂口資料（戦前新聞）『琉球新報』1925年（大正14）３月25日（３-４面）

○事 業 名：国立科学博物館調査研究事業
期　　間：2019年７月８日（月）～2022年３月31日（木）貸出継続中
借 用 先：国立科学博物館
貸出資料：粟国層群筆ん崎層中の植物化石標本　１点

９ 写真貸出

博物館・美術館では、県民の財産である収蔵資料の普及的活用の一環として、資料の写真画像等の貸出も行っている。毎年、多くの写真借用・資料撮影関連の依頼があり、2021年度（令和３）は博物館班に311件の申請があった。

【利用区分】は、「１．写真原板（デジタルデータ）」、「２．撮影」、「３．掲載」に分けられる。内訳は、１．写真原板（デジタルデータ）は、161件、２．撮影は27件、３．掲載は182件となっている（※件数は重複する）。

【目的・事項】は、「出版物」が155件、「映画」は３件、「テレビ」が47件、「DVD」が12件、「CD」は３件、「その他」が162件で、「その他」の利用に関しては、調査研究のための資料収集、展示会パネル、インターネット、講演会への使用などがあげられる。ほか「複製の製作」が２件となっている。

申請依頼先は、出版社関係が多く、次いでテレビ番組や映像製作会社、博物館・資料館などの各機関、広告関連会社となっている。

昨年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策の影響で、休館期間中は撮影の対応が制限された。開館後も撮影受け入れに関しては、少人数で、短時間という制限をもうけて対応した。

画像の貸出では、美術工芸の絵画や歴史分野の資料が多くをしめているが、ここ数年、人類分野が行っているサキタリ洞遺跡の発掘調査の成果を記者発表にて県民に向けて行っており、それら発掘に関する画像貸し出しが増えている。

また、年度の後半からは、復帰50年に向けての画像利用希望が増え、また、東京国立博物館、九州国立博物館で開催される「琉球」展関連の問い合わせや展示資料の画像貸し出しが増加している。

（勝連　涼子）

美 術 館

Ⅰ 調査研究等の活動
Ⅱ 展示活動
Ⅲ 教育普及活動
Ⅳ 資料収集・保存管理

Ⅰ 調査研究等の活動

１ 調査研究の概要

調査研究事業（以下、本事業とする）を美術館活動の根幹と捉え、開館準備の頃より収集作品調査及び、企画展開催に伴う調査研究に重点を置いて積極的に取り組んできた。

しかし、今年度はコロナ禍の影響で、他府県及び離島への渡航禁止など調査に制限がかかったこと、さらに館内での機器故障による予算の補填が求められたことから、研究紀要の発行は次年度と合併し刊行することとなった。

前年度に引き続き、各学芸員の調査研究については、コレクション展・企画展の展覧会計画に基づいて、数年にかかる中長期的な調査研究のビジョンを共有し、研究の深度を改善できるよう努めた。

（１） 調査研究の事業内容

①美術品の収集に関すること
②美術品の保存科学に関すること
③美術品の修復に関すること
④展示技術に関すること
⑤教育普及に関すること
⑥美術情報提供システムの活用に関すること
⑦ボランティア育成支援に関すること
⑧美術館の振興に関すること

（２） 学芸員研究

研究テーマを設定し、一年ないしは数年をかけて調査研究に取り組み研究紀要にまとめる。

（３） 調査研究体制

調査研究活動は学芸員及び美術品調査員で実施した。画像を含む調査によって得られたデータは研究用データベースに保存しており、展覧会事業、収集事業といった内部資料はもとより、個人情報保護の範疇にないものに限り、外部のレファレンスにも対応するよう心掛けている。その場合は熟覧申請等、正式な申請をふまえている。

（４） 外部からのレファレンス対応

① Clitical Asian Studies「琉球の横顔」展取材（2022年１月５日）

（豊見山　愛）

２ 調査・研究・講演・著作論文等

玉城　早苗（主任学芸員／教育普及担当）

○調査・研究
・教育普及に関する他美術館の資料収集・調査（徳島県・香川県・福岡県）（2022年３月１日～３日）
○著作・論文等
・『沖縄県立博物館・美術館　美術館教育普及報告書　2021年度』沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

豊見山　愛（主任学芸員）

○調査・研究　（主として研究課題が展覧会企画業務に関わるものを選定し記述）
・川平惠造展に関する調査（2021年４月６日～26日）
・屋部憲に関する聞き取り調査（2021年４月23日～25日）
・企画展「琉球の横顔」（遠藤薫）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（喜屋武千恵）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（砂川喜代）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（胡宮ゆきな）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（泉川のはな）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（仁添まりな）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（上原よし）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（西村立子）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（寺田健人）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（石垣克子）出品に関する調査（2021年４月～11月）

・企画展「琉球の横顔」（ローラ・キナ）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（エミリー・ハナコ・モモハラ）出品に関する調査（2021年４月～11月）
・企画展「琉球の横顔」（池原清子）出品に関する調査（2021年４月～11月）

○講演・発表等
・秋田公立美術大学「複合芸術ピクニック」講師及びパネリスト（2021年９月18日、オンライン参加）
・[We ACT アクト ３・８国際女性デー]女性たちに聞く（２）豊見山愛さん　沖縄の女性美術研究（沖縄タイムス、2021年３月３日）
・「琉球の横顔」展キュレータートーク（2022年１月８日　企画ギャラリー１、２）

○著作・論文等
・「クリマとローカリズムー画家・大城精徳の仕事」『大城精徳画集』現代中国藝術センター當銘藤子発行 2021年６月
・「福島と沖縄つなぐ月ー与那覇大智展展評」沖縄タイムス、2021年10月27日、文化面
・「藤田嗣治《辻美人》解題ー沖縄美術史研究を通して」『沖縄県立博物館・美術館　美術館紀要第10号』2022年３月

梶原　正史（学芸員）（令和３年７月19日より令和４年３月31日まで保健医療部感染症対策課兼務）

○調査・研究
・平良孝七に関する作品調査（名護市）（2021年４月３日、５月28日、６月４日、11日、25日、７月16日、30日、８月５日）
・仁添まりなに関する作品調査(北谷町)(2021年５月18日)
・公開承認施設に関する研修(オンライン)(2021年６月３日)
・川平惠造展出品作品へのアーティスト本人による補彩、剥落部への再接着作業立ち会い（美術館展示室）（2021年７月７日）
・収蔵品に関する修復作業進捗確認、展覧会調査（京都市）(2021年10月13、14日)
・彫刻作品に関する外部調査(糸満市)(2021年11月13日)
・石川真生展出品作品に関する返却作業(豊見城市)(2021年12月２日)
・儀間比呂志に関する作品調査(那覇市)(2021年12月14日)
・田中興八に関する作品調査(那覇市)(2021年12月25日)
・勇崎哲史に関する作品調査（宜野湾市）（2021年10月12日、19日、11月16日、11月25日）
・大城皓也に関する作品調査(那覇市)(2022年２月４日、９日)
・波多野泉に関する作品調査(那覇市)(2022年２月２日)
・新垣安雄に関する作品調査(豊見城市)(2022年２月８日、17日、３月４日)
・彫刻作品に関する作品調査(糸満市)(2022年３月21日)
・収蔵品に関する修復作業進捗確認、美術館保存修復に関する調査（京都市、三重県津市、東京）（2022年３月22～25日）
・高嶺剛に関する作品調査(糸満市)(2022年３月30日)

○講演・発表等
・名　　称：ミュージアムツアー
　日　　時：2021年11月21日
　場　　所：美術館バックヤード
・名　　称：美術館学芸員講座「美術品の保存修復について～保存修復の現場から～」
　日　　時：2021年６月５日(※新型コロナ感染拡大に伴う休館期間中のため中止)
　場　　所：美術館講座室

○著作・論文等
・「沖縄県立博物館・美術館における浮遊カビ数の推移について　ーデータを通しての考察Ｉー」『沖縄県立博物館・美術館　美術館紀要第10号』沖縄県立博物館・美術館　2022年３月

亀海　史明（学芸員）

○調査・研究
・石川文洋に関する文献調査（沖縄県）（2021年４月２日、５月18日）
・平良孝七に関する文献調査（沖縄県、東京特別区）（2021年４月２日、11月17日、12月17日、１月６日、2022年１月25日、３月10日）
・平良孝七に関する作品調査（名護市）（2021年４月６日、５月21日、28日、６月４日、11日、25日、７月16日、30日、８月５日、13日、19日、８月27日、９月３日、10日、17日、24日、10月１日、14日、27日、11月17日、2022年１月７日）
・勇崎哲史に関する作品調査（那覇市、宜野湾市）（2021年７月20～23日、30日、８月２日、17日、９月

14日、16日、28日、29日、10月５日、12日、19日、11月16日、25日、2022年１月19日）
・山城知佳子に関する展覧会調査（東京特別区、青森県）（2021年10月８日、９日）
・写真展覧会調査（東京特別区、神奈川県横浜市、茨城県水戸市）（2021年10月８日、10日、12月18日、19日）
・平良孝七に関する文献調査（東京特別区）（2021年11月10日）※自費
・収集事業に関する他館事例調査（東京特別区）（2021年11月10日）※自費
・美術館発信基盤整備事業に関する他館事例調査（東京特別区）（2021年11月11日）※自費
・石川竜一に関する展覧会調査（東京特別区）（2021年12月18日）
・平良孝七に関する聞き取り調査（名護市）（2022年１月15日、28日）
・金城哲夫に関する文献調査（那覇市）（2022年２月17日）
・平良孝七に関する聞き取り調査（南風原市）（2022年３月３日）
・美術館資源発信基盤整備事業に関する聞き取り調査（大阪府大阪市、兵庫県神戸市、高知県高知市）（2022年３月17-21日）
・石川真生に関する取材対応（那覇市）（2021年４月21日、６月29日、2022年１月５日）
・石川文洋に関する取材対応（那覇市）（2021年７月14日）

○講演・発表等
・名　　称：「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」ギャラリートーク
　日　　時：2021年４月17日、５月８日、22日
　場　　所：美術館企画ギャラリー１、２
・名　　称：「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」シンポジウム
　日　　時：2021年５月９日
　場　　所：講堂
・名　　称：「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」オンラインギャラリートーク
　日　　時：2021年６月20日
　場　　所：美術館企画ギャラリー１、２、オンラインにて同時配信
・名　　称：「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」エンディングトーク
　日　　時：2021年６月27日
　場　　所：美術館企画ギャラリー１、２、オンラインにて同時配信
・名　　称：「Mao Ishikawa: Human Empathy and Its Questions」（Jejak 旅Tabi Exchange: Wandering Asian Contemporary Performance 2021 NAHA における、フィリピン側キュレーターおよびアーティストのトークセッション）
　日　　時：2021年７月16日
　場　　所：オンライン配信
・名　　称：「石川文洋とベトナム戦争」上映会
　日　　時：2021年10月23日
　場　　所：美術館講座室
・名　　称：「石川文洋とベトナム戦争」キュレータートーク
　日　　時：2021年11月６日
　場　　所：美術館講座室
・名　　称：「石川文洋とベトナム戦争」上映会＋アフタートーク
　日　　時：2021年11月20日
　場　　所：博物館講座室
・名　　称：「おきみゅーシネマラボ」
　日　　時：2022年２月20日
　場　　所：講堂
・名　　称：学芸員講座「展覧会とアーカイブー美術館の現場から」
　日　　時：2022年３月18日
　場　　所：美術館講座室

○著作・論文等
・「石川真生展に寄せて」琉球新報、2021年４月21日
・「石川真生試論ー演じることと写すこと」『越境広場 第９号』2021年７月
・「視線を誘う仕掛け」『画廊沖縄ギャラリーボイス 第63号』2021年９月
・「Jejak 旅 Tabi Exchange 報告書（英語）」https://jejak-tabi.org/naha-ja-2021/　2021年９月29日公開
・「Jejak 旅 Tabi Exchange 報告書（日本語）」https://jejak-tabi.org/naha2021/　2021年10月５日公開

大城　さゆり（学芸員）

○調査・研究

・［収集関連］仁添まりな作品調査（嘉手納町）（2021年５月18日）
・［収蔵作家］稲嶺成祚展覧会調査（那覇市）（2021年６月18日）
・［企画展関連］砂川喜代作品調査（沖縄市）（2021年７月20日）
・［収集関連］真喜志勉作品調査（浦添市）（2021年９月８日）
・［収蔵作家］山城知佳子展覧会調査（東京都）（2021年10月７日）
・［収蔵作家］ゴヤ・フリオ展覧会調査（那覇市）（2021年12月17日）
・［収蔵作家］山城知佳子展覧会調査（青森県）（2021年12月22日）
・［収蔵作家］平良優季、仁添まりな展覧会調査（愛知県）（2021年12月23日）
・［収集関連］大城皓也作品調査（那覇市）（2022年２月４、９日）
・［復帰展関連］新垣安雄作品調査（南風原町）（2022年２月８、17、24日、3月4日）
・［収蔵作家］石田尚志展覧会調査（石川県）（2022年３月20日）
・［収蔵作家］山城知佳子展覧会調査（東京都）（2022年３月21日）
・［復帰展関連］高嶺剛作品調査（糸満市）（2022年３月30日）

○講演・発表等

・名　　称：琉球の横顔オンライン対談「泉川のはな×大城さゆり」
　日　　時：2021年12月19日
　場　　所：オンライン配信
・名　　称：REFLECTIONS－時代を見る眼「学芸員講座＋キュレータートーク」
　日　　時：2022年３月５日
　場　　所：美術館講座室、コレクションギャラリー

○著作・論文等

・「展評 TOM MAX EXHIBITION Vol.4 2000-2005」沖縄タイムス・文化面（９）2021年９月24日
・「しまをよむ－結い合わされたオキナワイメージを読みほどく試み－」『泉川のはな／八木恵梨二人展 しまをかく、しまにあう』web review、ホテルアンテルーム那覇　2021年11月
・「展評　喜屋武千恵個展　いのちのいろかたち」沖縄タイムス・文化面（19）2021年11月26日
・「展評　照屋勇賢展－Roots－線と色とかたち」琉球新報・文化面　2021年12月２日
・「鴿子、槍、還有獅子　世界各處潛藏著奇美拉」（鳩と銃、そして獅子。世界は「キメラ」であふれている。）『平安平安平―胡宮雪娜創作展』パンフレット　2021年12月

Ⅱ 展示活動

１ 展示活動概要

美術館のコレクション展は、テーマ展示もしくは個展の形式で収蔵作品及び寄託作品を公開している。例年３期に分けて展示替えを行うが、2021年度は、2020年度に続き新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言に伴う臨時休館となる可能性を考慮し、各展覧会期を延長。展示替えを２期へと変更した。コレクションギャラリー１では映像や写真を紹介し、コレクションギャラリー２では絵画や立体作品、アジア美術等を展示、コレクションギャラリー３では近現代の美術作品を時系列に展示して沖縄の美術史を紹介した。

企画展は学芸員の調査研究を基に、郷土の芸術家や、沖縄ゆかりの国内外の優れた芸術家、あるいは現在活躍する現代美術作家に関する自主企画展を行うほか、他館との連携なども行いながら展示公開している。

（大城さゆり）

２ コレクション展（常設展）

（1） コレクションギャラリー１

①タイトル：「沖縄美術の流れ（写真）山田實〈こどもたちのオキナワ〉」【写真】

会　　期：中期　2021年１月13日（水）～2021年４月４日（日）
　　後期　2021年４月６日（火）～2021年６月27日（日）
担　　当：亀海史明
内　　容：山田實（やまだ・みのる　1918-2017）は沖縄県那覇市出身の写真家で、沖縄に住むこどもたちを数多く撮影している。召集を受けて戦地に赴き、戦後、抑留を経て生還した山田は、戦火による荒廃から復興する沖縄を巡り、苦境にありながらも健気に生きるこどもたちを撮り続けた。今回のコレクション展では、当館所蔵の山田實作品から〈こどもたちのオキナワ〉シリーズを紹介した。

②タイトル：「沖縄美術の流れ（写真）石川文洋とベトナム戦争」【写真】
会　　期：※新型コロナウイルス対策による休館措置のため、以下の通り会期を延長した
前期　2021年７月10日（土）～2021年11月21日（日）
後期　2021年11月23日（火）～2022年１月23日（日）
担　　当：亀海史明
内　　容：石川文洋（いしかわ・ぶんよう、1938-）は、沖縄生まれの写真家。1964年、毎日映画社を辞めて「無銭旅行」をしていた石川が香港に滞在していた頃、「トンキン湾事件」が発生、これをきっかけにアメリカはベトナム戦争への介入を深める。翌年から石川はフリーカメラマンとして米軍、南ベトナム政府軍に同行し、ベトナム戦争を撮りはじめ、帰国後も同地を撮り続けた。本展では、石川がベトナムに滞在していた頃に撮影された写真を中心に紹介した。

（２）　コレクションギャラリー２
①タイトル：「子どもの情景」【絵画・写真・彫刻】
会　　期：後期　2021年３月５日（金）～2021年６月27日（日）
担　　当：豊見山愛
内　　容：本展覧会は当館のコレクションから、アジアコレクションを含む、子どもと社会とのかかわりをテーマにした38点の美術作品を選び、展示した。
出品作品から見てみると、中国（内モンゴル自治区）出身の現代美術家・ウェイ・ドン（魏東）は、内モンゴル自治区の出身で、子供時代に中国の文化大革命（1966-1976）のため外出がままならず、絵ばかり描いて過ごしていた。《芸術家と風景（権力が大人の遊びであるように羽子は子供の遊びである。）》は、ウェイのように社会状況に翻弄される、子どもの姿を表す。しかし子どもの姿は時に、希望の象徴として描かれる。
戦後沖縄を牽引したニシムイの画家の一人、安谷屋正義が《まんま》を描いた1951年は、那覇市首里儀保町にコンセット（仮設住宅）で生活をしていた。描かれた少女のモデルは長女であり、安谷屋は生命感をこの絵で表現している。
以上のように、本展覧会では、国や時代の違う18作家による表現を、２つの章「子どもへのまなざし」と「子どもからのまなざし」に分けて紹介した。

②タイトル：「川平惠造展」【絵画】
会　　期：※12月５日（日）までの会期だったが、2022年１月23日（日）まで会期を延長した
2021年７月10日（土）～2022年１月23日（日）
担　　当：豊見山愛
内　　容：1949年に沖縄県那覇市で生まれた川平惠造は、「沖展」に加えて、全国規模で構成する新象作家協会が主催の「新象展」を発表の場とする画家である。小学校教員であった父・惠二が彫刻を作っていた影響を受けながら育つ。那覇高等學校の美術部に入部し、その顧問であった陶芸家の大城宏捷と、美術家の山城見信に指導を受け、川平は高校二年生で第19回沖展へ出品、絵画と彫刻の2部門で入選を果たす。その後、琉球大学美術工芸科で、ニシムイの美術家・玉那覇正吉に彫刻を学び、在学中の第24回沖展に《はたち》を出品、彫刻部門の奨励賞を受賞した。しかし大学卒業を機に、川平は、彫刻から絵画へと表現方法を転向する。3年間の補充教員の後、美咲特別支援学校で教員初任となり恩師の山城見信と再会を果たしてからは、影響を受けた。1972年に27年間に及んだアメリカ統治が終わりを告げ、沖縄は日本に復帰した。川平はこの政治的な世替わりを、日常の風景から感じ取った。当館で初となる本個展では、2020年度の新収蔵作品17点も併せ、1976年から2013年までの作品21点を展示したが、時代性をテーマとする細密描写の《Now…》シリーズは、社会の変化をシュルレアリスティックに表現し、時代性を追求する。1980年代後半からは本格的に抽象絵画を追求し、叙情的な表現となる《夏》シリーズに変化を遂げていく。

③タイトル：「REFLECTIONS －時代を見る眼－」【絵画・版画・写真】
会　　期：※新型コロナウイルス対策による休館措置のため、以下の通り会期を変更した。
2022年１月29日（土）～ 2022年６月26日（日）
担　　当：大城さゆり
内　　容：生きるうえで、社会や時代と無関係でいられる人はいない。作家もまた、自らが生きる時代をとらえ、時に批評し、問いかけるような作品を生み出している。本展覧会では、「沖縄戦」「ベトナム戦争」「国家」そして「越境」のテーマに分け、当館がコレクションする沖縄、日本（本土）、アジアの現代美術作品から、それぞれの置かれた時代を見つめた作品を紹介した。
［出品作家（順不同）］
知花均/ 大嶺政寛/ 新垣安雄/ 山元恵一/ 小橋川秀男/ 儀間比呂志/ 安谷屋正義/城間喜宏 / 大城皓也/稲嶺成

祚/ ファム・ヴァン・ドン/ 宮城和邦/ フェン・メンボー（馮夢波）/ ユエ・ミンジュン（岳敏君）/ 柳幸典/ 与儀達治/ イメルダ・カヒーペ=エンダーヤ/ 照屋勇賢/ ワン・グァンイー（王廣義）/ アマンダ・ヘン

（３） コレクションギャラリー３

①タイトル：2020年度「沖縄美術の流れ」【絵画・彫刻・写真・映像・現代美術】
会　　期：後期　2021年３月５日（金）～2021年６月27日（日）
担　　当：富原圭子
内　　容：沖縄には、その風土や歴史から育まれてきた独特な文化があり、沖縄の美術も時代や置かれた立場や状況に大きく影響されながら培われてきた。本展では、沖縄の近現代美術の流れを概観した。なかでも、戦後沖縄美術を牽引したひとりである安谷屋正義（あだにや・まさよし、1921－1967）に焦点をあて、その作品を紹介した。

②タイトル：2021年度「沖縄美術の流れ」【絵画・彫刻・写真・映像・現代美術】
会　　期：※新型コロナウイルス対策による休館措置のため、以下の通り会期を変更した
前期　2021年７月10日（土）～2022年１月23日（日）
後期　2022年１月29日（土）～ 2022年６月26日（日）
担　　当：玉城早苗・梶原正史
内　　容：沖縄にはその風土や歴史から生まれてきた独特な文化があり、美術も時代や置かれた状況に大きく影響されながら培われてきた。コレクションギャラリー３では、「沖縄美術の流れ」として、戦前、戦後復興、本土復帰後、移民、そして現代美術に章を分け、沖縄の近現代美術を時系列に紹介した。

３ 企画展　「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」

会　　期：2021年３月５日（金）～2021年６月６日（日）
（会期を６月27日まで延期も、新型コロナウイルス感染症対策のため５月23日（日）より休館）
会　　場：美術館企画ギャラリー１、２
観 覧 料：一般1,200円（960円）高校・大学生800円（640円）中学生以下無料
※（ ）内は前売・団体料金。※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方１名は半額。
フリーパス2,400円（会期中入場可能）
観覧者数：3,710名

※前年度会期中（2021年３月５日～３月31日）の記録については、年報№14（令和２年度実績報告）を参照。

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館
協　　力：nap gallery
後　　援：NPO法人沖縄県立美術館支援会happ、一般社団法人沖縄県美術家連盟、沖縄タイムス社、琉球新報社、沖縄テレビ放送、琉球放送、琉球朝日放送、エフエム沖縄、エフエム那覇、ラジオ沖縄（順不同）

【開催趣旨】
海外でも広く紹介され、いまなお精力的な制作活動を続ける写真家・石川真生（いしかわ・まお 1953-）。その写真には、立場に囚われ矛盾や葛藤を抱えながらも、個人としてどう生きるべきかを問いかける、人々の生そのものの力強さが写されている。
本展では、作家が所蔵している発表当時のヴィンテージプリントを中心に、初期から最新作までの各シリーズから作品を選び、総数約500点の作品を紹介する。

【関連催事】
（１）シンポジウム
日　　時：2021年５月９日（木）14:00～17:00
会　　場：講堂
参 加 者：80名
講　　師：天野太郎（フリーキュレーター）、仲里効（批評家）、グレッグ・ドボルザーク（早稲田大学教授）、友利真由美（石川真生世話役）
（２）ギャラリートーク
日　　時：2021年４月17日、５月８日、22日（土）14:00～15:00

会　　場：企画展示室
参 加 者：169名（合計）
講　　師：石川真生

（３）エンディングトーク　※オンライン配信にて実施
日　　時：2021年６月27日（日）17:00～18:00
会　　場：企画展示室
講　　師：石川真生、伊波リンダ

会場風景

※【展示平面図】は、年報№14（令和２年度　実績報告）に掲載

（亀海　史明）

４ 企画展「琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発」

会　　期： 2021年11月３日（水） ～ 2022年１月16日（日）
会　　場：美術館企画ギャラリー１、２
観 覧 料：一般　1,100円（880円）、高校・大学生　500円（400円）、小・中学生　200円（160円）
※（ ）内は前売・団体料金。※障がい者手帳をお持ちの方と介助者の方１名は半額。
観覧者数：3,282名

【開催形式】
主　　催：沖縄県立博物館・美術館
企画協力：居原田遥（インディペンデント・キュレーター）
後　　援：一社）沖縄県美術家連盟、（一社）沖縄県文化協会、那覇市文化協会、沖縄女流美術家協会、沖縄造形教育連盟、NHK沖縄放送局、沖縄テレビ放送、琉球放送株式会社、琉球朝日放送株式会社、株式会社エフエム沖縄、株式会社ラジオ沖縄、沖縄タイムス社、琉球新報社、エフエム那覇、FMレキオ、（一財）沖縄観光コンベンションビューロー、NPO法人沖縄県立美術館支援会happ（順不同）

【開催趣旨】
アジア諸国と交易をおこなっていた琉球王国時代から、沖縄は独自の文化を形成してきた。しかし、日本の一部となった後の1932年、沖縄出身の久志芙沙子の小説『滅びゆく琉球女の手記（原題は「片隅の悲哀」）』が婦人公論に掲載されると、ハジチなどの習俗に対する表現をめぐり、在京の沖縄県学生会から抗議が起こり、未完のままとなった。
本展覧会は、89年前に久志がすくった「弱者への差別や偏見」という問題を21世紀の今日に受け止め、表現の限界に迫る方法論を実践するアーティストを取り上げた。沖縄系ハワイ移民をルーツに持つアメリカの作家や1977年に発足した沖縄女流美術家協会の作家、沖縄県立芸術大学などで学んだ作家の作品など、約50点を展示して、沖縄美術の多文化的な側面と可能性とアートの新たな展開を楽しんでいただく内容を心がけた。(出品作家)池原清子、久場とよ、中島イソ子、西村立子、上原よし、砂川喜代、石垣克子、ローラ・キナ、エミリー・ハナコ・モモハラ、喜屋武千恵、山川さやか、遠藤薫、胡宮ゆきな、泉川のはな、寺田健人、仁添まりな

【関連催事】
（１）マスコミ向け内覧会
日　　時：2021年11月２日　午後３時～４時　企画ギャラリー１、２
企画者説明：担当学芸員・豊見山愛
アーティストトーク：中島イソ子、上原よし、石垣克子、喜屋武千恵、遠藤薫、胡宮ゆきな、泉川のはな、寺田健人、仁添まりな

（２）オンライン対談（HPにて視聴可能）
①11月28日（日）11:00～11:50　遠藤薫（アーティスト）×沢山遼（美術批評家）
②11月28日（日）15:00～15:50　石垣克子（アーティスト）×土屋誠一（美術批評家／沖縄県立芸術大学准教授）
③12月５日（日）11:00～11:50　タイトル　「花鳥で描く南の島の楽園」仁添まりな（アーティスト）×平川信幸（沖縄県教育庁文化財課主任専門員）

④12月11日（土）11:00～11:50　喜屋武千恵（アーティスト）×賀数仁然（琉球歴史文化研究所 クボウグランデ）
⑤12月19日（日）10:30～11:20　タイトル「ごっこ遊びと変態」寺田健人（アーティスト）×高田冬彦（アーティスト）
⑥12月19日（日）12:30～13:20　タイトル「平和は昼飯のあとで」胡宮ゆきな（アーティスト）×居原田遥（インディペンデント・キュレーター）
⑦12月19日（日）14:30～15:20　山川さやか（アーティスト）×豊見山 愛（展覧会担当学芸員）
⑧12月19日（日）16:30～17:20　泉川のはな（アーティスト）×大城さゆり（当館学芸員）

（３）琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発　展示解説会
日　　時：2021年１月８日（日）14:00～15:30
会　　場：企画ギャラリー１、２
講　　師：豊見山 愛（展覧会担当学芸員）

会場風景

【イベントの様子】

【展示平面図】

（豊見山　愛）

Ⅲ 教育普及活動

１ 美術館教育普及活動の概要

美術館の教育普及活動は、「鑑賞活動の支援プログラム」「実技体験の支援プログラム」「発表活動の支援プログラム」という３つの柱に沿って展開している。

鑑賞活動のプログラムでは、これまで、ガイドボランティアによる「対話による鑑賞」を展開し、作品の解説だけではなく、初めて美術館に来る子供たちのために対話の中で作品の楽しみ方を伝えてきた。しかし、本年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で休館期間が長期に及んだため、従来から当館が取り組んでいるガイドボランティアによる「対話による鑑賞」や、バスを手配し美術館に招待する学校団体プログラム「美術館へ行こう」、学校に出向いて先生方に向けた鑑賞授業のサポートを行う「出前授業」を残念ながら実施することができなかった。2020年から、新型コロナウイルス感染拡大の影響で、学校の授業形態は大きく変化している。今後は、美術館と学校を繋げるための取り組みを今一度見直し、リモートを活用したオンライン発信を行うなど、時代や情勢の変化に応じた新たなプログラムを立ちあげ、創意工夫しながら内容の充実を図りたい。

実技体験では、「子どもフェスタ秋」において多彩なプログラムに多くの児童生徒が参加し、大人も子どもも参加出来るワークショップ「OKINAWAアートワークショップ」も、それぞれ当初の予定とは時期をずらしての開催となったが、大変好評で今後も新しいプログラムを開拓する予定である。

その他、学芸員によるキュレータートーク、作家やその関係者によるアーティストトークやギャラリートークなどを美術館講座室と展示室でコロナ対策を徹底しながら実施した。

発表活動の支援プログラムでは、５回目の開催となる児童・生徒を対象とした「アートコンクール」に、1,638点もの応募がありこれまでの最高記録を更新した。

引き続きの取り組みとして、昨年完成した複製画は、今年度、首里中・伊良波中での鑑賞の授業で活用され、那覇市立壷屋焼博物館では「うちなー赤瓦ものがたり」という展示会で、大嶺政寛の「八重山風景」が展示された。このことは、当館の収蔵作品の紹介とともに、沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となった。また、公民館で活動するグループからの要望で「ニシムイ美術村」について出前授業を行ったことは、生涯学習に取り組む大人の皆さんとの新たな出会いの場となった。

２ 鑑賞活動支援

作品の鑑賞をより深めるために各展示担当によるキュレータートークや、作品の制作を行った作家や関係者を招き、アーティストトーク、ギャラリートークを行った。

豊見山 愛 学芸員

（1）キュレータートーク･学芸員講座

展覧会を企画した担当学芸員が、作家や作品、展示に関する意図、また、開催するにあたり進めてきた調査・研究の内容を語る場である。

観覧者にとって、学芸員の話を聞くことにより「美術作品」への関心を高め、より作品理解を深めることができる。また学芸員にとっては、観覧者に展示会がどう伝わったかを知る重要な機会となり、今後の展覧会への向けての情報収集となる。

（2）アーティスト（ギャラリー）トーク

アーティストトーク、ギャラリートークは、作家自身や作家とゆかりがある、あるいは研究している方から話しを聞く機会である。作家自身から作品、制作に関することや思いを直接伺い、ゆかりがある方から作家の人柄や思想、歩んできた人生、客観的な事実や制作スタイル、モチーフの変遷などについて聞くことで、作品や作家に対して、新たな気付きや理解がより深まることに繋がっていく。

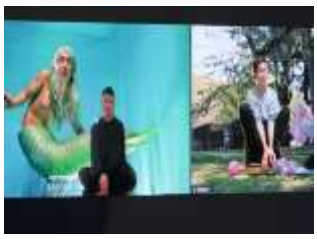
川平惠造氏×豊見山愛

石川真生氏

粟国　久直氏

石垣克子氏×土屋誠一氏

喜屋武千恵氏×賀数仁然氏



寺田健人氏×高田冬彦氏

回	月　日	展覧会名	参加者
1	４月17日（土）	「石川真生」関連催事　ギャラリートーク　講師：石川真生（写真家）	55
2	５月８日（土）	「石川真生」関連催事　ギャラリートーク　講師：石川真生（写真家）	44
3	５月22日（土）	「石川真生」関連催事　ギャラリートーク　講師：石川真生（写真家） ※YouTubeライブ視聴数325件（その後、展覧会会期中公開）	70
4	６月６日（日）	「石川真生」関連催事　ギャラリートーク　講師：石川真生（写真家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止	—
5	６月27日（日）	「石川真生」関連催事　エンディングトーク 講師：石川真生（写真家）伊波リンダ（写真家） ※緊急事態宣言が発令され臨時休館中のため、YouTubeでのライブ配信	視聴数 84
6	９月３日（金）	コレクションギャラリー２「川平惠造展」関連催事 ギャラリートーク 講師：川平惠造（画家） ※新型コロナウイルス感染拡大防止のため事前に撮影したインタビュー映像を館内と当館Webサイトで公開	—
7	11月28日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：遠藤 薫（アーティスト）、沢山 遼（美術批評家）	視聴数 524
8	11月28日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：石垣克子（画家）、土屋誠一（美術批評家・沖縄県立芸術大学准教授）	視聴数 345
9	12月５日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：仁添まりな（画家）、平川信幸（沖縄県教育庁文化財課主任専門員）	視聴数 414
10	12月11日（土）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：喜屋武千恵（アーティスト）、賀数仁然（琉球歴史文化研究所 クボウグランデ）	視聴数 333
11	12月19日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：寺田健人（アーティスト）、高田冬彦（アーティスト）	視聴数 282
12	12月19日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：胡宮ゆきな（アーティスト）、居原田 遥（インディペンデント・キュレーター）	視聴数 166
13	12月19日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：山川さやか（アーティスト）、豊見山 愛（展覧会担当）	視聴数 199
14	12月19日（日）	「琉球の横顔 描かれた「私」からの出発」オンライン対談 講師：泉川のはな（アーティスト）、大城さゆり（展覧会サブ担当）	視聴数 181
15	１月29日（土）	「REFLECTIONS－時代を見る眼－」関連催事 アーティストトーク 講師：栗国久直（アーティスト）	20
16	２月11日（金）	「REFLECTIONS－時代を見る眼－」関連催事　福地リコ上映会 講師：福地リコ（映画監督）	53

（３）学校団体対応

学校団体に対して展示作品の鑑賞を支援するプログラムを行った。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の影響で休館期間が長期化し、ボランティアによる解説を行うことができなかった為、団体見学希望の学校には、主に美術館の役割についての講話や、バックヤード見学、自由鑑賞という内容での対応となった。

美術館について講話

鑑賞の様子

バックヤード見学の様子

	学校名	来館日	参加(名)
1	沖縄県立首里高等学校	11月30日（火）	7
2	南城市立玉城小学校	12月１日（水）	75
3	阿波連小学校	12月９日（木）	6
4	沖縄県立浦添工業高等学校・デザイン科	12月17日（金）	78
5	那覇市立宇栄原小学校	12月23日（木）	115

３ ミュージアム・ツアー

収蔵庫や修復室、工作室といった通常一般開放していない美術館のバックヤードを案内する事業。学芸員の仕事や美術作品に対する保存、展示についても学ぶ機会となっている。前年度からコレクションギュラリーの鑑賞と合わせて行っている。内容は、＊トラックヤード＊一時保管庫＊収蔵庫＊工作室＊修復室＊展示室作品鑑賞

回	月　日	内　容	担　当	参加人数
1	５月22日	調べる（調査研究）	豊見山 愛	5
2	７月24日	みせる（展示公開）	大城さゆり	コロナ拡大防止のため中止
3	９月18日	集める（資料収集）	亀海史明	コロナ拡大防止のため中止
4	11月21日	まもる（保存・修復）	梶原正史	12
5	１月22日	伝える（教育普及）	玉城早苗	5

豊見山学芸員（調査研究･調べる）

梶原学芸員（修復保存・守る）

玉城学芸員（教育普及・伝える）

４ コレクション・企画展関連催事

（１）沖縄美術の流れ（写真）：「石川文洋とベトナム戦争」

会　　期：2021年７月10日（土）～2021年12月５日（日）
※会期を2022年１月23日（日）まで延長

① キュレータートーク
【日　時】2021年10月23日（土）
【会　場】美術館講座室
【講　師】亀海史明
【参加者】13 名
【内　容】「日曜スペシャル　海を渡った沖縄人たちの戦争　写真家・石川文洋の記録」
（ギャラクシー賞第38回奨励賞受賞番組、NHK、2000年12月10日放送、60分）を上映。

② キュレータートーク

【日　時】2021年11月６日（土）
【会　場】美術館講座室
【講　師】亀海史明
【参加者】15名
【内　容】ベトナム戦争は数多くの写真家が現に赴き、軍隊に同行して写真を撮っていた。同時代の写真家の作品を見ながら、石川文洋氏の写真の魅力を紹介した。

③ キュレータートーク

【日　時】2021年11月20日（土）
【会　場】博物館講座室
【講　師】亀海史明
【参加者】47名
【内　容】「日曜スペシャル　海を渡った沖縄人たちの戦争　写真家・石川文洋の記録」
（ギャラクシー賞　第38回奨励賞受賞番組、NHK、2000年12月10日放送、60分）を上映後、講話を行った。

講話の様子

（２）「川平惠造」展

会　　期：2021年7月10日（土）～2021年12月５日（日）
※会期を2022年１月23日（日）まで延長

展示解説の様子

① ギャラリートーク

【日　時】2021年10月23日（土）
【会　場】コレクションギャラリー・ホワイエ
【講　師】川平惠造×豊見山愛
【内　容】ホームページでの公開と、１階エントランスでの映像上映を目的に展示会場でインタビュー映像を撮影。絵を描き始めた動機と二つのシリーズ「Now」と「夏」についてお聞きした。

インタビュー映像撮影の様子

（３）REFLECTIONS－時代を見る眼

会　　期：2021年１月29日（土）～2022年６月26日（日）

① ギャラリートーク

【日　時】2022年１月29日（土）
【会　場】美術館　ホワイエ
【講　師】栗国久直×大城さゆり
【参加者】20名
【内　容】展示会場で作品について解説

② 関連催事「福地リコ作品上映会」

【日　時】2022年２月11日（金）
【会　場】博物館講座室
【講　師】福地リコ×大城さゆり
【参加者】53名
【内　容】《クリア》《BOUNDARIES》の上映後、作品についてトークを実施

③ キュレータトーク

【日　時】2022年３月５日（土）
【会　場】美術館講座室
【講　師】大城さゆり
【参加者】25名
【内　容】展覧会の内容や示作品について解説

粟国久直氏

福地リコ氏

キュレータートークの様子

（４）沖縄美術の流れ

会　　期　前期：2021年７月10日（土）～2022年１月23日（日）
　　後期：2021年１月29日（土）～2022年６月26日（日）

【前期・展示内容】
第１章　戦前の沖縄美術　- 1945
第２章　戦後復興期の美術　1945－1972
第３章　復帰からアイデンティティーの希求　1972－
第４章　沖縄系移民のアーティスト
第５章　沖縄と現代美術　1995

【後期・展示内容】
第１章　戦前の沖縄美術　－1945
第２章　戦後復興期の美術　1945－1972
第３章　復帰からアイデンティティーの希求　1972－
第４章　沖縄系移民や県外・海外で活躍する沖縄のアーティスト
　　県外出身アーティスト

（５）「石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。」

会　　期：2021年３月５日（土）～2021年６月６日（日）
　　※会期を６月27日（日）まで延長するも、５月23日（日）から休館

① ギャラリートーク

出品作家の石川真生をお招きし、会場内にて、作品の制作に関するエピソードを紹介。昨年度に実施したものを合わせて計６回実施（今年度は４回実施）。ただし、６回目については、コロナ禍による休館期間中にオンライン配信にて実施した。

【日　時】2021年４月17日（土）・５月８日（土）・22日（土）14:00～15:00
　　６月27日（日）17:00～18:00
【会　場】企画ギャラリー２
【講　師】石川真生（展覧会出品作家）
【参加者】169名

② シンポジウム

石川真生にゆかりのある講師の方をお招きし、それぞれの現場から見える真生さんの写真についてお話しいただく機会とした。海外でも広く紹介されている真生さんの写真の魅力を、様々なテーマを通して紹介した。

【日　時】2021年５月９日（日）14:00～17:00
【会　場】講堂
【講　師】天野太郎（フリーキュレーター）、仲里効（批評家）、グレッグ・ドボルザーク（早稲田大学教授）、友利真由美（石川真生相談役）
【参加者】80名

ギャラリートーク

エンディングトーク

シンポジウム

（６）　琉球の横顔―描かれた「私」からの出発

会　　期：2021年11月３日（水）～2022年１月16日（日）

遠藤　薫氏×沢山　遼氏

① オンライン対談

	月日（曜）	講師氏名
1	11月28日（日）	遠藤 薫（アーティスト）× 沢山 遼（美術批評家）
2	11月28日（日）	石垣克子（アーティスト）× 土屋誠一（美術批評家・沖縄県立芸術大学准教授）
3	12月５日（日）	仁添まりな（アーティスト）× 平川信幸（沖縄県教育庁文化財課主任専門員）
4	12月11日（土）	喜屋武千恵（アーティスト）× 賀数仁然（琉球歴史文化研究所 クボウグランデ）
5	12月19日（日）	寺田健人（アーティスト）× 高田冬彦（アーティスト）
6	12月19日（日）	胡宮ゆきな（アーティスト）× 居原田 遥（インディペンデント・キュレーター）
7	12月19日（日）	山川さやか（アーティスト）× 豊見山 愛（展覧会担当）
8	12月19日（日）	泉川のはな（アーティスト）× 大城さゆり（展覧会サブ担当）

② キュレータートーク

【日　時】2022年１月８日（土）14：00～15：00
【会　場】コレクションギャラリー１、２
【参加者】16名
【講　師】豊見山　愛
【内　容】展示作品の解説

展示解説の様子

５ ワークショップ

（１）OKINAWAアートワークショップ2021

沖縄県立美術館のアトリエには、充実した造形活動が出来るスペースがあり、様々な創造活動を体験することが出来る。2017年度より、「知っているようで知らない《おきなわ》を触って作って再発見！」をテーマに沖縄の地域素材を生かした、大人も子どもも楽しめるワークショップを実施した。

身近なモノでモノづくりが出来る素晴らしさや、アイデア・発想につながる考え方の修得を目指したワークショップを集結した。

① OKINAWAアートワークショップ「琉球漆器　沈金を楽しもう」

【日　時】2021年４月17日（土）９：30～12：00
【内　容】琉球漆器の歴史や制作工程、道具など様々な角度から漆器について学び、沈金制作に挑戦
【講　師】森田哲也、森田敦子（工房ぬりトン）
【対　象】小学校４年から一般
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】10名

② OKINAWAアートワークショップ「漆喰シーサーに挑戦！」

【日　時】2021年11月６日（土）、７（日）10：00～15：00
【内　容】首里城の破損瓦を使い、職人の手ほどきを受けながら本格的な漆喰シーサーを制作
【講　師】山城富函（現代の名工）、大城幸祐（現代の名工）、城間盛行、田端 忠、神里善則（沖縄県琉球赤瓦漆喰施工協同組合）
【対　象】小学校５年から一般
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】14名

③ OKINAWAアートワークショップ「沖縄の植物（クロトン）を使って押し花アートを楽しもう！」

【日　時】2021年11月20日（土）９:30～12:30
【内　容】身近にあるクロトンやブーゲンビリアなど、沖縄の植物で押し花の作品を制作
【講　師】伊是名教子、中島トモ子、眞部迪子（ふしぎな花倶楽部 沖縄ガイア押花会）
【対　象】小学校1年から一般
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】６名

④ OKINAWAアートワークショップ「干支紅型でお正月支度」

【日　時】2021年12月18日（土）10：00～12：00
【内　容】紅型の歴史や技法を学びながら、2022年の干支「寅」の紅型づくりを楽しむ
【講　師】吉濱 愛、山城信吾（城紅型染工房 ぐすくびんがたそめこうぼう）
【対　象】５才から一般
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】15名

⑤ OKINAWAアートワークショップ「不思議な金属『錫』で豆皿づくり」

【日　時】2022年２月19日（土）①10:00～12:00
【内　容】琉球王朝時代から重宝されていた錫を使って手のひらサイズの豆皿作りに挑戦
【講　師】上原俊展（金細工まつ）
【対　象】小学校３年から一般
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】※新型コロナウイルスの影響で次年度へ延期

（2）夏休みこどもフェスタ→「こどもフェスタ秋」

毎年恒例となっている夏休みこどもフェスタは、未就学児から中学生まで幅広い層の参加があり、各種実技指導を通して、子どもたちに造形的な技能及び表現力を身につけさせ、子どもたちと美術館との関わりを深めることを目的としている。今年度は7月25・26・27日に予定していたが、新型コロナウイルスの影響で延期となり、少し落ち着いた秋に「子どもフェスタ秋」として、予定していた内容を実施することができた。

①「筆づくり×色あそび」

【日　時】2021年10月16日（土）９:30～12:00
【内　容】タコノキの実や琉球松の葉を使って筆を作り、墨や絵具で掛け軸を制作
【講　師】屋宜久美子、大中原千陽（confetti project）
【対　象】４才から中学校３年
【会　場】県民アトリエ、こどもアトリエ
【参加者】11名

②「雨の日もルンルン！世界にひとつだけのumbrellaをつくろう！」

【日　時】2021年10月16日（土）13:30～15:30
【内　容】透明なビニール傘に絵を描き、オリジナルの雨傘を制作
【講　師】玉城早苗（教育普及担当）、保久村智恵（教育普及担当）
【対　象】小学校１年から６年
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】８名

③「ハリガネで好きな形を作ってみよう！」

【日　時】2021年10月17日（日）9:30～12:30
【内　容】ハリガネの曲げ方、留め方などの基本を学び、立体作品やオーナメントなど、自由に制作
【講　師】doodlecraft
【対　象】小学校4年から中学校３年
【会　場】県民アトリエ、こどもアトリエ
【参加者】９名

④「家族や大切な人を守る！疫病よけのお札をつくろう！」

【日　時】2021年10月17日（日）13:30～15:30
【内　容】オリジナルの守り神を考え、願い事を書き添えた本格的なお札を制作
【講　師】玉城早苗（教育普及担当）、保久村智恵（教育普及担当）
【対　象】未就学児から中学校３年
【会　場】こどもアトリエ、県民アトリエ
【参加者】８名

６ アートコンクール

2017年より､児童･生徒にアートコンクールへの参加の機会を提供し､親しめる美術館づくりを目指している。今年度は、テーマを「沖縄」として募集したところ、約1,638点の素晴らしい作品が集まった。嬉しいことに年々参加者が増え、作品の中から特に色彩豊かで独創性に優れた作品が入賞し、11月３日に表彰式を挙行した。当日は、入賞者のご家族に列席いただき、晴れやかな表彰式となった。

表彰式の様子

展示の様子

令和３年度　沖縄県立博物館・美術館企画　　第3回アートコンクール　入賞者

（展示期間　2021/11/２～11/21）

賞	小学校の部	中学校の部	高校の部	特別支援の部
最優秀賞	◎當眞　杏奈 読谷村立古堅小６年	◎上原　美春 宮古島立西辺中２年	◎勝馬　瑠衣 県立首里高３年	◎久高　旺輝 県立名護特別支援学校高等部１年
優秀賞	◎花城　くるみ 南城市立船越小６年 ◎仲宗根　梨乃 うるま市立伊波小１年	◎盛口　海 NPO法人珊瑚舎スコーレ中学校部３年 ◎山城　大空 国頭村立国頭中１年	◎長谷川　梨子 県立首里高３年 ◎中川　かん奈 県立真和志高３年	◎徳元　柚希 豊見城市立ゆたか小特別支援学級２年 ◎生駒　志温 県立大平特別支援学校高等部３年
優良賞	◎与座　翼 宮古島市立伊良部島小６年 ◎池原　杏璃愛 豊見城市立ゆたか小２年 ◎白石　明日美 私立カトリック学園海星小２年	◎平良　笑花 那覇市立首里中２年 ◎比屋根　佳奈 那覇市立首里中２年 ◎金城　花音 浦添市立浦西中３年	◎山下　蘭 県立知念高１年 ◎黄金　蒼生 県立首里高３年 ◎宮城　響 県立真和志高３年	◎名城　美莉愛 豊見城市立ゆたか小特別支援学級１年 ◎比嘉　琉翔 豊見城市立ゆたか小特別支援学級２年 ◎喜屋武　祥人 県立はなさき支援学校高等部１年
団体賞	・南城市立船越小学校 ・豊見城市立ゆたか小学校 ・伊江村立伊江小学校 ・那覇市立仲井真小学校	・浦添市立浦西中学校 ・那覇市立石田中学校 ・沖縄市立美里中学校 ・嘉手納町立嘉手納中学校 ・国頭村率国頭中学校	・沖縄県立真和志高等学校 ・沖縄県立首里高等学校 ・沖縄県立知念高等学校	・豊見城市立ゆたか小学校 ・沖縄県立はなさき支援学校

７　教職員講座・実技研修会

図工・美術における授業の指導力向上や美術館を利用した鑑賞授業の方法などを紹介し、学校現場での美術教育に役立ててもらうことを目的とし、沖縄県造形教育連盟と共催で、県内の中学校美術教愉、並びに小学校・幼稚園教諭を対象として、館内の施設において図画工作・美術に関する研修を定期的に開催している。

今年度は、第58回沖縄県造形教育研究大会（ワークショップ・授業改善研修会）の会場として活用される予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴う緊急事態宣言延期の為、残念ながら中止となり、会員のみの参加（午前：中学校/午後：小学校）及び、内容についてはホームページ等で配信することとなった。

●第58回沖縄県造形教育研究大会（ワークショップ・授業改善研修会）※中止

【日　時】2021年８月４日（水）
【会　場】沖縄県立博物館・美術館　（美術館講座室、博物館実習室）
【参加者】小学校・中学校・画工美術関係者
【後　援】沖縄県教育委員会・那覇市教育委員会・沖縄県立博物館・美術館
【協　賛】ぺんてる株式会社
【内　容】①ワークショップ　②実践研究発表
※予定していた内容は下記の通り

小学校の部	中学校の部
10:00～12：00　ワークショップ「絵具指導について」 ※実技講座「用具の使い方、混色の仕方等」	授業改善研修会Ⅰ（実践事例発表） ①地域とつながるデザイン ②身近なデザインの観賞
13：00～15：00　ワークショップ「絵具指導について」 ※実技講座「用具の使い方、混色の仕方等」	授業改善研修会Ⅱ（提案・講義） ③対話を生む授業づくり ④美術科における指導と評価の一体化

【研修の様子】

8 職場体験

職場体験とは、生徒が一般企業などで働く人たちとコミュニケーションを取りながら、実際に仕事を体験する学習活動である。当館では、団体鑑賞プログラムの対応、資料整理など学芸員のサポート業務と、展覧会会場の交流員やもぎり、ミュージアムショップでの接客など、来館者の対応にも挑戦するプログラムを提供している。今年度も実施に向け、県内の中学・高校と調整を進めていたが、新型コロナウイルスの影響で中止になった。

【過去の職場体験の様子】

9 「ニシムイ出前講座」

那覇市牧志駅前ほしぞら公民館にて活動している、「はまなすの会」の皆さんからの依頼で「ニシムイ美術村」について出前講座を実施した。今回の講座は、生涯学習に取り組む一般の方々との新たな出会いの場となった。また、今後、「ニシムイ美術村」跡地へ実際に足を運び、フィールドワークを実施する計画も考案中である。

●出前講座
【内　容】「ニシムイ美術村」について講話
【場　所】那覇市立ほしぞら公民館
【日　時】2021年11月29日（月）15：30～17：30
【参加人数】12名

10 慰霊の日関連催事

沖縄戦の体験者も高齢となり，私たちの身近にも悲惨な地上戦について語ってくれる人が少なくなってきた。学校現場でも，年々沖縄戦を主とした「平和教育」を実践することが難しくなっているのではないだろうか。当館では2017年より、博物館・美術館連携事業として慰霊の日関連催事を行っている。戦争の愚かさと命の大切さを絵本の読み聞かせを通して伝え、あらためて平和について考える機会とすることを目的としている。例年エントランスやギャラリーで読み聞かせを行っているが、今年度は新型コロナウイルスの影響で、催事開催が厳しい

状況であったため、昨年録画した読み聞かせの映像をエントランスにおいてモニター上映する予定であったが、休館期間が長期に至った為、開催することはできなかった。下記、予定内容を記しておく。

【場　所】沖縄県立博物館・美術館　１階　エントランス
【日　時】2021年６月15日（金）～６月27日（日）※読み聞かせ映像上映予定
【内　容】博物館・美術館教育普及連携催事で、館内エントランスにTVモニターを設置し、平和関連の絵本の読み聞かせ映像の上映と、昨年に続き、沖縄県立図書館協力のもと、本の紹介も行う。
①平和に関する絵本の読み聞かせ映像（美術館）
②本の紹介資料（沖縄県立図書館）
【読み手】宮城アケミ　沖縄大学教授・沖縄県立博物館・美術館鑑賞ボランティア
【作　品】①『つるちゃん』金城明美・作
②『へいわってどんなこと？ 』浜田桂子・作
【対　象】一般、参加無料
【展示の様子】

11 複製画使用報告

現在美術館が収蔵する各種美術品は、保存管理の面から館外持ち出しを制限しているため、収蔵品を見るためには当館へ直接来館してもらうしか方法がない。美術館教育普及事業の一つとして実施している「美術館出前授業」においても、美術館収蔵作品を紹介する必要性がある。

一昨年度より進められてきた複製画計画は、関係者間で何度も意見交換と作品選定を行った上で制作し、「美術館出前授業」・「移動展」での活用が実現した。昨年度は、その第２弾として、作品３点を選定し制作にあたった。完成した複製画は、今年度、貸し出しを行ったが、首里中・伊良波中での鑑賞の授業で活用され、那覇市立壷屋焼博物館では「うちなー赤瓦ものがたり」という展示会で、大嶺政寛の「八重山風景」を展示することで多くの来館者が鑑賞することとなった。このことは、当館の収蔵作品の紹介とともに、沖縄の美術作家への興味・関心につながる機会となった。

那覇市立壷屋焼物博物館･展示の様子

首里中学校・授業の様子

Ⅳ 資料収集・保存管理

1 収蔵作品現在高

2022年３月31日　現在

分　類	購　入	寄　贈	移　管	その他	小　計	寄　託	総　計
平　面	372	1,466	64	2	1,904	202	2,106
立　体	34	241	0	8	283	15	298
写真・映像	394 (映像:20)	2,204 (映像:6)	0	0	2,598 (映像:26)	767 (映像:0)	3,365 (映像:26)
その他	13	12	1	3	29	41	70
総　計	813	3,923	65	13	4,814	1,025	5,839

※「写真・映像」の収蔵数に含まれる、映像作品数をカッコ内に記した。

2 2021年度（令和３）新収蔵作品高

分　類	購　入	寄　贈	移　管	小　計	寄　託	総　計
平　面	2	7	0	9	3	12
立　体	2	0	0	2	0	2
写真・映像	2	1	0	3	0	3
その他	0	0	0	0	0	0
総　計	6	8	0	14	3	17

3 2021年度（令和３）新収蔵作品目録

【購　入】

分　類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量
写真・映像	写真	エミリー・ハナコ・モモハラ	赤い土	2018年	写真	1
		エミリー・ハナコ・モモハラ	労働者	2018年	写真	1
立体		エミリー・ハナコ・モモハラ	移動中	2016-2018年	顔料プリント、木、時計、金泥	1
		エミリー・ハナコ・モモハラ	金のグローブ	2018年	ステレオグラフ、顔料プリント	1
平面	絵画	ローラ・キナ	ブルーハワイ・ピーホヌア	2013年	油彩、キャンバス	1
		ローラ・キナ	ウチナーンチュ・ハジチ	2016年	キャンバスにアクリル、パッチワークキルト、Tシャツ	1

【寄　贈】

分　類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
平面	絵画	ローラ・キナ	ブルーハワイ・サトウキビ畑の労働者たち	2013年	油彩、キャンバス	1	ローラ・キナ
		ローラ・キナ	ブルーハワイ･少年自警団	2013年	油彩、キャンバス	1	ローラ・キナ
		ローラ・キナ	家族の肖像	2013年	油彩、キャンバス	1	ローラ・キナ
		ローラ・キナ	ウチナーンチュ・オリオン	2016年	油彩、キャンバス	1	ローラ・キナ
		仁添　まりな	それは楽園の鍵	2016年	絹本彩色	1	仁添　まりな
		仁添　まりな	人魚塚	2018年	絹本彩色	1	仁添　まりな
		仁添　まりな	神獣図	2019年	絹本彩色	1	仁添　まりな

分　類		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	寄贈者
写真・映像	写真	奈良原　一高	〈消滅した時間〉より	1975年	ゼラチン・シルバー・プリント	1	楢原　恵子

【寄託】

分　野		作家名	作品名	制作年	技法・素材	数量	所有者
平面	絵画	仁添　まりな	火願	2020年	絹本彩色	1	仁添　まりな
		喜屋武　千恵	白澤	2002年	紙本彩色	1	喜屋武　千恵
		喜屋武　千恵	母の詩	2012年	紙本彩色	1	喜屋武　千恵

４ 作品収集事業

本美術館は、県民に多様な芸術鑑賞の機会や創造性を高める場を提供し、地域の文化芸術の拠点となると同時に、芸術文化活動を通じて、アジア地域や沖縄の発展に貢献する国際化の拠点となることを目的としている。収集事業は、本県独自で個性あるコレクションを形成するために不可欠な事業である。

2021年度は、１回の美術品等収集委員会を実施した。作品の収集に当たっては、事前調査をもとに、美術館学芸会議で審査を行い、県内の有識者で構成された収集委員会で審議した。その結果を参考に所定の手続きを経て、収集した。今回は購入、寄贈ともに、絵画、写真などの分類にわたったが、特に海外作家からの購入を行なうことができたことは特筆に値する。寄託は、県内外で活躍する新進作家の作品が揃った。

（亀海　史明）

５ 保存管理事業

（１）保存環境の整備

沖縄県民の財産である収蔵美術作品の適切な保存を目的として、収蔵庫及び展示スペース内の温湿度が年間を通して一定に維持されるよう管理を徹底し、保存環境の整備を行う。具体的には、IPM管理の徹底による虫菌害予防（ペストコントロールを含む）が、まず挙げられる。収集等の際に、新たな美術作品を館に入れる前の消毒など、対策の強化を重点的に行っている。さらに収蔵作品においては効率的な状態調査を計画し、実施することで、今後の修復計画をよりスムーズかつ安全に行うよう配慮している。

（２）収蔵作品の保存修復

収蔵作品のコンディション調査を行い、生物劣化や物理劣化、化学劣化等に応じた修復計画を立てて、その作業内容に沿った修復家への依頼、招聘を行い、当館保存修復室にて共同で修復作業を行うこととしている。本年度の外部委託の依頼はなかった。

企画及び常設展へ出品するための状態チェック、修復作業、額装及び吊り金具等整備作業、版画作品のマウント作業、借用作品の状態チェックなどを行った。保存修復内容の詳細は以下の通りである。

（３） 収蔵品修復（館内処置）

作家名	作品名	技法・素材	処置の内容	備考
安谷屋正義	花と少女	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。木枠とキャンバスを分離し、裏面の乾式洗浄。裏面の染み出し固化したニスの除去。裏面より破れ部分に和紙と合成樹脂によるパッチの接着。画面への合成樹脂の塗布。裏面に合成樹脂シートを使用したホットテーブルによる裏打ち。新しい木枠への張り込み。画面洗浄。剥落部分の充てん、水彩絵の具、補彩用絵具による充てん部の補彩。ニス吹付。額装の改善。	当館収蔵作品

作家名	作品名	技法・素材	処置の内容	備考
大城皓也	月食	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。木枠とキャンバスを分離し、裏面の乾式洗浄。画面への合成樹脂の塗布。ホットテーブルによるプレス。ストリップライニング。新しい木枠への張り込み。画面洗浄。剥落部分の充てん、水彩絵の具、補彩用絵具による充てん部の補彩。ニス吹付。額装の改善。	当館収蔵作品
大城皓也	首里風景	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。画面洗浄。剥落部分の充てん、水彩絵の具、補彩用絵具による充てん部の補彩。額装の改善。	当館収蔵作品
嘉数能愛	第不詳	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。木枠とキャンバスを分離し、裏面の乾式洗浄。画面への合成樹脂の塗布。ホットテーブルによるプレス。ストリップライニング。新しい木枠への張り込み。画面洗浄。額装の改善。	当館収蔵作品
斧山万次郎	風景（1） 風景（2） 風景（3） 風景（4）	油彩・ボード	吊り金具交換・額装の改善。	R３年度常設展
藤田嗣治	子を抱く母	リトグラフ・洋紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
北川民次	エンジンルーム	水彩・洋紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
古城宏一	壺屋風景	油彩・板	吊り金具交換、額装改善。	R３年度常設展
山田真山	加賀之千代女	紙本・着彩	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
具志堅聖児	紅型	紙本・着彩	吊り金具交換、額装の改善。	R３年度常設展
具志堅聖児	泉のほとり	紙本・着彩	吊り金具交換・額装の改善。	R３年度常設展
東松照明	伊良部島1983	インクジェットプリント・印画紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
東松照明	那覇市2008	インクジェットプリント・印画紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
兼城賢章	和服の婦人像	水彩・洋紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
阿部浩	Creation　創造	リトグラフ・洋紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
阿部浩	見えない二つの世界	リトグラフ・洋紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。額装の改善。	R３年度常設展
川平惠造	夏シリーズ（ピスタチオ）	ミクストメディア・キャンバス	画面より剥落しているピスタチオの殻を再接着。	R３年度常設展
川平惠造	Now・・・（1980）	油彩・キャンバス	画面洗浄（アンモニア水１％程度） 画面に付着した黴の除去・殺菌（エタノール水）	R３年度常設展
川平惠造	NOW・・・（1976）	油彩・キャンバス	画面洗浄（アンモニア水１％程度） 画面に付着した黴の除去・殺菌（エタノール水） 額装の改善。	R３年度常設展

作家名	作品名	技法・素材	処置の内容	備考
川平惠造	Now・・・（２）	油彩・キャンバス	絵具層の浮き上がりと剥落周縁の固着。	Ｒ３年度 常設展
川平惠造	Key Stone	油彩・キャンバス	裏面の乾式洗浄。	Ｒ３年度 常設展
マイ・ロン+ ダン・バイ	タイグェン民兵	彫漆	額装の改善。	Ｒ３年度 常設展
グェン・ヒィ・ヒェン	解放された海	漆絵	額装の改善。	Ｒ３年度 常設展
ファム・ヴァン・ドン	常設出品作品10点 (前・後期含む)	多色木版・紙	ブックマウント、作品固定方法の改善。	Ｒ３年度 常設展
石川文洋	常設展出品作品50点 (前・後期含む)	ゼラチン・シルバープリント	ブックマウント、作品固定方法の改善。	Ｒ３年度 常設展

※額装の新調や展示方法などの改善は含まない

注記

・館内処置について

作品における処置は全て当館保存修復学芸員　梶原正史が行った。

額装の改善とは主に入れ子へのフェルト貼りや、スペーサー装着、額縁裏面・泥足の補強、ぐらつき防止のネジ止め、割れの接着、汚損の除去など。

・修復に使用した材料について

作品に悪影響を及ぼすことがないこと、材質的に安定していて、将来的に除去が可能なことを前提に、様々な作品状態にあったものを使用している。

６ 作品貸出

美術館では、借用先のファシリティーズレポートの提出と、温湿度管理に関する情報提供を求めた後に、厳正な審査の下で可否を決定している。また、輸送会社へ貸出作品の状態に合わせた梱包仕様の提案を行い、作品貸出及び返却作業には、美術館職員と借用先職員の両者が立ち合い、作品状態の点検を行っている。なお2021年度、美術館収蔵作品の作品貸出はなかった。

（梶原　正史）

一般財団法人
沖縄美ら島財団
（指定管理者）

Ⅰ　沖縄美ら島財団の概要
Ⅱ　運営方針
Ⅲ　組織
Ⅳ　展示活動
Ⅴ　教育・イベント活動
Ⅵ　広報事業に関する業務
Ⅶ　調査・研究・講演・著作論文等の活動
Ⅷ　その他

Ⅰ 沖縄美ら島財団概要

【沿　革】

1976年（昭和51）７月、海洋博覧会記念公園管理財団発足。同年８月１日、国営沖縄海洋博覧会記念公園維持管理業務受託開始。1991年（平成３）首里城基金を設立。1992年（平成４）11月、首里城公園（国営沖縄記念公園首里城地区、県営公園の一部、城郭）の維持管理業務受託開始。同年営業契約により特定公園施設（正殿、南殿・番所、北殿、奉神門、御庭等）の管理運営を開始。2002（平成14）11月、営業契約により特定公園施設（沖縄美ら海水族館）の管理運営を開始。2004年（平成16）12月、ISO14001認証取得。2008年（平成20）12月、総合研究センター発足。2012年（平成24）10月１日、一般財団法人沖縄美ら島財団に改称。

【業務内容】

1976年（昭和51）８月開園以来海洋博公園の維持管理業務、1992年（平成４）11月開園以来首里城公園国営公園部分と首里城城郭を含む県営公園部分の維持管理業務の受託を行っている。首里城有料区域及び沖縄美ら海水族館については、独立行政法人都市再生機構との営業契約で運営していたが、2019年（平成31）２月から沖縄県が管理者となったことから、「沖縄県国営沖縄記念公園内施設（首里城地区内施設）」及び、「沖縄県国営沖縄記念公園内施設（海洋博覧会地区内施設）」の指定管理者として運営している。2006年度（平成18）からは指定管理者として県営首里城公園、2013年度（平成25）から県立名護青少年の家、2014年（平成26）からなごアグリパーク（名護市農産物６次産業支援拠点施設）の管理運営を行うほか、2015年（平成27）より名護市の小学校跡地に沖縄の自然に関する調査研究・普及啓発活動の拠点施設として「美ら島自然学校」を開校し運営している。2014年より国際通りの沖縄美ら海水族館アンテナショップ「うみちゅらら」、2015年より、なごアグリパーク内に設置された沖縄本島北部の農産物加工品や健康食品等を扱うショップ「しまちゅらら」を開店・運営している。また、2008年（平成20）に「総合研究センター」を設立し、海洋生物や亜熱帯植物、海洋文化、首里城等琉球王朝文化の調査・研究普及啓発、社会貢献・地域連携活動を行い、2014年には文部科学省により科学研究費補助金取扱規程に定める研究機関に指定された。2016年（平成28）４月より沖縄県立博物館・美術館の指定管理者として同館の管理・運営にあたっている。指定期間は、１期目が2016年（平成28）４月～2021年（令和３）３月までの５年間。２期目が2021年４月～2026年（令和８）３月までの５年間。

Ⅱ 運営方針

１ 管理運営の基本方針

（1） 基本的な考え方

沖縄県や地域社会、県民など多様な主体と連携・協働し、「沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例」及び「沖縄県立博物館・美術館中長期計画」が示す本館の使命と役割を果たします。

以下に示す管理運営方針のもとで効率的な業務運営に取り組み、当財団の調査研究部門との連携を強化し、沖縄の自然・歴史・文化の拠点である博物館・美術館の機能の発揮に努めます。

なお、新型コロナウイルスは収束の見通しが立たず、長期にわたり大幅な収入減少を余儀なくされると想定されます。沖縄県とのリスク分担表に基づく協議を行った結果、収支均衡を保てない恐れがあると判断した場合は、事業計画書の提案内容を変更し、事業縮小策を講じます。

２ 管理運営方針

方針１：沖縄の宝を守り育み、多くの方へ、そして未来へつなぎます。

・総合研究センターの調査・研究・普及啓発活動を社会に還元

総合研究センターの研究成果や人材、ネットワークを活かし、本館が行う資料の保管や展示、調査研究、教育普及事業をサポートし、沖縄県の文化芸術や教育学習の発展、調査研究の推進に寄与します。

・豊富な学芸員人材により県の展覧会や教育普及活動をサポート

博物館での業務経験豊富な学芸員有資格者を多数配置し、県の活動をサポートするとともに、自主事業等を積極的に展開し、沖縄県を代表する博物館・美術館に相応しい学びと鑑賞の機会を提供します。

・沖縄固有の自然・歴史・文化の継承・発展を支援

世界遺産登録が期待される『奄美大島、徳之島、沖縄島北部及び西表島』、令和１年に日本遺産に認定された『琉球王国時代から連綿と続く沖縄の伝統的な「琉球料理」と「泡盛」、そして「芸能」』や、漆器をはじめとした沖縄県の伝統工芸品を普及・継承・支援するための取り組みを行います。

方針２：おもてなしの心と親しみあふれる開かれた博物館・美術館を目指します。

・お客様の立場に立ったサービス提供

礼節を重んじる「守礼の心」を大切に、ホスピタリティ溢れる接客とサービスにより顧客満足度を高めます。また、お客様の声を業務に反映させる仕組みにより継続的にサービスの質を向上させます。

・全ての方が快適に過ごせる利用環境の整備

身体の不自由な方や外国人、社会的弱者の方を含め、全てのお客様が快適に利用できる施設を目指し、ソフトとハードの両面から取り組みを行います。

・万人に開かれた存在になるためのブランディング活動

令和１年度に策定した本館のブランドスローガン「あなたの沖縄に出会う」を軸に、一貫性のある情報発信とサービス提供を行います。また、本館が目指すアジアや世界に開かれたミュージアムの実現をサポートします。

方針３：誰もが安全・安心・快適に過ごせる適切な運営を行います。

・豊富な経験とノウハウに基づく適切な施設維持管理

当財団による総合管理のもと、開館以来本館の維持管理を担う専門会社が施設維持管理を行います。また予防保全の観点に立った施設の長寿命化と安全確保に努めます。

・文化財保護施設に相応しい万全の危機管理体制を構築

想定される緊急事態を洗い出し、独自の危機管理マニュアルに定める予防及び発生時の対策を用意するとともに、定期的な訓練により実践的な対応力を強化します。

・新型コロナウイルス等の感染症拡大防止策を徹底

県内及び国内の感染状況に応じて的確に対策を講じるとともに、入口での水際対策や消毒、３つの密（密閉、密集、密接）を避ける対策を徹底し、お客様が安心して利用できる環境を整えます。

方針４：観光客の来館を増やし、沖縄観光の推進に寄与します。

・質・量ともに優れた誘客・広報活動

当財団が持つ豊富な情報発信資源と、これまで蓄積してきたマーケティングノウハウを活かし、顧客のニーズを捉えた誘客広報活動を展開します。観光客の主要な情報収集手段となっているWEBサイトやSNS等を積極活用し、時代の変化に適応した情報発信を行います。

・県内外ネットワークの活用と沖縄美ら海水族館や首里城公園との連携

当財団が県内外の観光業界において持つネットワークを活用するほか、沖縄県の二大観光施設と連携するなど当財団ならではの広報資源を活用して誘客を行います。

・沖縄固有の歴史文化を楽しく鑑賞・体験できる情報提供

観光客のニーズに適応した情報発信を行い、本館が観光客にとって沖縄の自然・歴史・文化に触れ、沖縄観光を楽しむための出発点として、また知的好奇心を充足させる観光施設として定着するよう努めます。

方針５：地域に愛され、人々が集う文化・芸術拠点を目指します。

・行催事で地域の皆様の発表・講師の場を提供

年間を通じて地域の皆様に参加いただけるイベントを開催し、披露したい人と楽しみたい人、教えたい人と学びたい人をつなげる場を創出します。

・音楽イベントの開催により来館と交流を促進

本館の立地特性や空間の雰囲気を活かし、音楽鑑賞の機会を創出します。県内アーティストによるコンサートや県内大学生による芸能披露を開催します。

・地域の多様な主体と連携

那覇新都心通り会や近隣の小学校をはじめ、本館周辺の企業や団体と互いに協力し合える関係を築き、地域活動に参加することで、豊かな地域づくりに貢献します。

方針６：本館の総合力を最大限に活用し、多様なニーズに応えます。

・本館の複合機能を活かした滞在体験の提供

博物館、美術館、情報センター、貸施設、ショップ、カフェなど多様な機能を有する施設の強みを活かし、お客様が見て、触れて、学べる体験や快適な滞在サービスを提供します。

・本館の特長を活かした自主事業を新たに実施

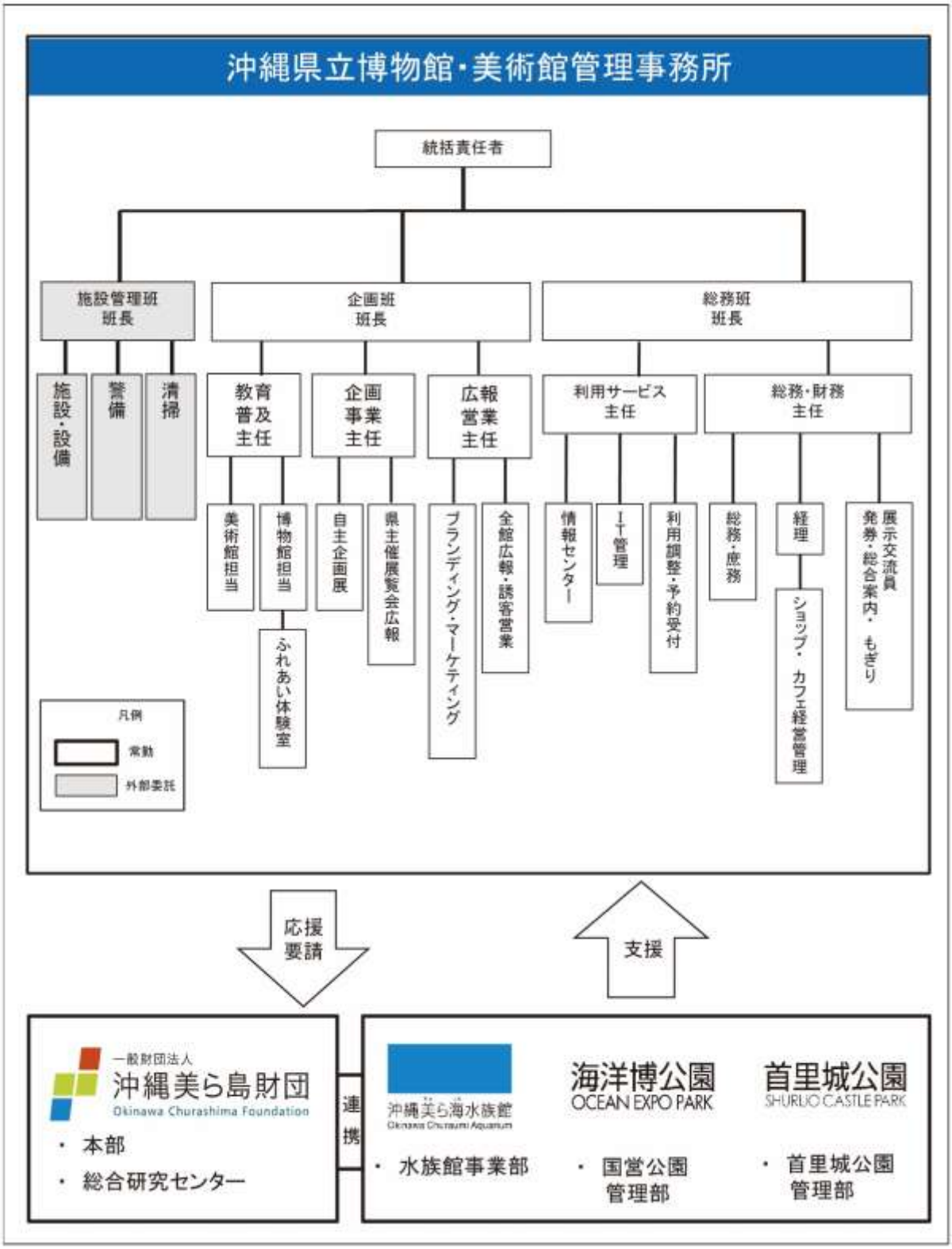
本館が有するスペース、知名度、集客力といった有形無形の資源に、当財団の人材、ノウハウ、発信力を掛け合わせることで新たな自主事業を展開します。

・博物館常設展、美術館コレクション展の来館動機を高めるプロジェクト

複合的な機能を有する本館の施設特性を活用し、博物館常設展の「目玉」を広める「万國津梁の鐘」プロジェクト、アート鑑賞の素晴らしさを伝える「アートを身近に！」プロジェクトを推進します。

Ⅲ 組織

1 管理組織図


沖縄県立博物館・美術館管理事務所
統括責任者
施設管理班
班長
企画班
班長
総務班
班長
施設・設備
警備
清掃
教育普及主任
企画事業主任
広報営業主任
利用サービス主任
総務・財務主任
美術館担当
博物館担当
ふれあい体験室
自主企画展
県主催展覧会広報
ブランディング・マーケティング
全館広報・誘客営業
情報センター
IT管理
利用調整・予約受付
総務・庶務
経理
ショップ・カフェ経営管理
展示交流員
発券・総合案内・もぎり
凡例
常勤
外部委託
応援要請
支援
一般財団法人
沖縄美ら島財団
Okinawa Churashima Foundation
・本部
・総合研究センター
連携
沖縄美ら海水族館
Okinawa Churaumi Aquarium
・水族館事業部
海洋博公園
OCEAN EXPO PARK
・国営公園管理部
首里城公園
SHURIJO CASTLE PARK
・首里城公園管理部

２ 職員構成

2022年３月31日　現在

		氏　　名	担　当　業　務
統　括		木下　龍太	指定管理業務の統括に関すること
総務班	総務・経理	平良　亜紀子	総務全般、予算、申請事務、人事管理に関すること ショップ、カフェの管理に関すること
		仲里　沙也加	報告書作成、契約事務やその他総務全般に関すること
	利用サービス	具志堅　春樹	施設貸出に関すること、施設維持管理、危機管理に関すること
		花城　喬	施設貸出に関すること、情報システムに関すること
		宮里　宗彦	施設貸出に関すること
		仲宗根　めぐみ	情報センターの管理・運営に関すること
		野口　真弓	情報センターの管理・運営に関すること
企画班	学芸業務	金城　美奈子	企画展、自主事業、広報業務に関すること
		國吉　貴奈	企画展、自主事業、広報業務に関すること
		渡久地　雅代	企画展、自主事業、広報業務に関すること
		川島　祥子	企画展、自主事業、広報業務に関すること
	教育普及	大濵　萌子	教育普及（博物館・美術館業務）に関すること
		保久村　智恵	教育普及（美物館業務）に関すること
		植田　瑞生	教育普及（博物館）に関すること
		比嘉　麻乃	ふれあい体験室、教育普及に関すること
	広報	福治　広規	営業、広報業務に関すること
		金城　正仁	営業、広報業務に関すること

【人事異動】　2022年３月31日　現在

	氏　　名	適　　用
転　　出	名嘉　百恵 植田　瑞生 福治　広規	2021年12月19日　退職 2022年３月31日　退職 2022年３月31日　首里城公園管理事務所

Ⅳ 展示活動

１ 展示活動概要

2021年度は指定管理２期目スタートの年であるため、自主企画展の実施なし。

Ⅴ 教育・イベント活動

子どもから大人まで幅広い世代の方が気軽に参加でき、楽しみながら学べるプログラムを企画立案し、実施した。ただし一部のイベントは新型コロナ感染拡大防止のため中止した。

１ ワークショップ・イベント等

（1） ふれあい体験室ワークショップ

体験キットおよび展覧会の充実・発展を目的に、博物館の学芸員や専門の指導者と協力して３つのプログラムを開催した。今回「ふれたい博士の星座万華鏡づくり」の付帯催事として「おきみゅー de 冬の星空観察会」を企画するなど、ワークショップの学びをより深める新たな取り組みを行った。

・場　　所：ふれあい体験室前エントランスホール

・講　　師：比嘉麻乃、保久村智恵（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）
・開催日数：26日（全50日）※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部日程中止
・参加者数：229名

①「ふれたい博士のてづくりおもちゃ」

体験キットNo.19「いろいろな玩具」に関連して、沖縄の昔ながらの草編み玩具を画用紙やソフトテープを使って制作した。
・日　　時：2021年４月～６月の毎週土曜日（全13回）
　　10:00／10:30／11:00／11:30
・参 加 費：300円
・参加者数：４月３日３名、10日３名、17日１名、24日11名
　　５月１日19名、８日０名、15日９名、22日９名、29日０名
　　６月５日０名、12日０名、19日０名、26日０名
・合　　計：55名（定員各日24名）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため５月29日～６月26日中止

②「ふれたい博士の葉脈標本」

体験キットNo.７「いろいろな木と草」に関連して、葉脈のしくみや働きについて解説し、リュウキュウコクタンやシークヮーサーなどの植物の葉を使って葉脈標本のしおりを制作した。なお、７月～９月中止のため、10月～12月まで延長して実施した。
・日　　時：2021年７月～12月の毎週土曜日（全25回）10:00／10:45／11:30
・参 加 費：400円
・参加者数：７月10日０名、17日０名、24日０名、31日０名
　　８月７日０名、14日０名、21日０名、28日０名
　　９月４日０名、11日０名、18日０名、25日０名
　　10月２日３名、９日12名、16日６名、23日５名、30日５名
　　11月６日４名、13日17名、20日２名、27日７名、
　　12月４日９名、11日12名、18日13名、25日２名
・合　　計：97名（定員各日18名）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため７月10日～９月25日中止

③「ふれたい博士の星座万華鏡づくり」

体験キットNo.９「見える星座、見えない星座」に関連して、沖縄の夜空で見られる星座について学びながら、星座の万華鏡を制作した。
・日　　時：2022年１月～３月の毎週土曜日（全12回）10:00／10:45／11:30
・参 加 費：300円
・参加者数：１月８日０名、15日０名、22日０名、29日０名
　　２月５日０名、12日０名、19日０名、26日８名
　　３月５日16名、12日17名、19日18名、26日18名
・合　　計：77名（定員各日18名）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため１月８日～２月19日中止

④ ふれたい博士の星座万華鏡づくり関連催事「おきみゅー de 冬の星空観察会」
「ふれたい博士の星座万華鏡づくり」の付帯催事として、天体望遠鏡を使用して星の観察を行う。冬の夜空に輝く惑星や星座、月の観察を通して、星空への興味・関心を高める。
・日　　時：2022年１月12日（水）、１月27日（木）18:00～20:00
・場　　所：３階ホワイエ、屋上
・講　　師：宇佐美 賢（沖縄県立博物館・美術館 地学担当学芸員）
・参 加 費：500円
・参加者数：０名（定員各日15名）
※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

（比嘉　麻乃）

（２） 沖縄県立芸術大学琉球古典音楽演奏会

沖縄県立芸術大学と連携した人材育成事業として、教授及び学生が主体となって行う琉球古典音楽演奏会を

実施した。
・日　　時：2022年３月６日（日）①14：00～14：30　②15：00～15：30
・場　　所：屋外展示場（民家）
・出 演 者：①大城希里、名嘉真蒼織　②照屋綺恵、石川両子、宮里ひなた
・参加者数：①27名　②33名（定員各回10名）　※参加者数は立ち見の観客も含む
・担 当 者：植田瑞生

（３）　沖縄美ら島財団 総合研究センター連携事業「美ら島普及啓発イベント」

①『深層サメ学』出版記念講演会
　『深層サメ学』の出版記念として、著者の二人が最新のサメ研究について講演した。沖縄美ら海水族館が取り組む世界初のサメの人工子宮についての話もあり、先端の研究成果を知る機会となった。
・日　　時：2021年10月30日（土）14:00～15:30
・場　　所：講堂
・講　　師：佐藤圭一（一般財団法人沖縄美ら島財団 沖縄美ら海水族館 統括）
　　冨田武照（一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター 動物研究室 主任研究員）
・参 加 費：500円
・参加者数：89名（定員100名）※サイン会参加者数30名
・担 当 者：國吉貴奈

② 大人のための島野菜・伝統野菜講座「消えゆく沖縄の島野菜・在来作物を救え！」

　財団総合研究センター植物研究室と連携し、伝統的農産物(島野菜)やその他の作物の中でも、栽培を放棄され希少種となった品目について、現在の栽培の様子や生育、頒布について紹介した。
・日　　時：2021年11月１日（月・琉球歴史文化の日）14:00～15:30
・場　　所：博物館講座室
・講　　師：高江洲賢文（一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター参与）
・参 加 費：500円
・参加者数：57名（定員60名）
・担 当 者：植田瑞生

③ シリーズ植物散歩「浦添城跡で植物観察！ ～身近な場所にもたくさんの植物が！」

　財団総合研究センター植物研究室と連携し、浦添城跡周辺を中心に身近なスポットに自生する植物の観察会を実施した。
・日　　時：2022年２月26日（土）13:00～15:30
・場　　所：浦添城跡周辺
・講　　師：天野正晴（一般財団法人沖縄美ら島財団 総合研究センター 植物研究室主任研究員）
・参 加 費：500円
・参加者数：19名（定員20名）
・担 当 者：比嘉麻乃

（保久村　智恵）

（４）　「万國津梁の鐘」プロジェクト

　国指定重要文化財である「万國津梁の鐘（旧首里城正殿鐘）」を目玉展示の一つとして位置づけ、鐘の魅力を発信し博物館常設展来場動機とするプロジェクトを実施。

① 解体梵鐘 vol. 1　「万國津梁の鐘のナゾに迫る！」
　歴史探求家、賀数仁然氏を招いて「万國津梁の鐘」にまつわる歴史講話を実施。当イベントは「おきみゅー誕生祭」のイベントの一つとして位置づけた。賀数氏の軽妙な語り口で語られる琉球・沖縄史に参加者は熱心に耳を傾けていた。講演は盛況で実施後のアンケートでも93.3%が「期待通りだった」と回答し、96.7%の方が「講演を聞いて万國津梁の鐘に興味が湧いた」と答えていた。
・日　　時：2021年11月３日（水・文化の日）14:00～15:30
・場　　所：講堂
・講　　師：賀数仁然（歴史探求家）
・参 加 費：入場無料

・参加者数：120名（定員100名）

② 解体梵鐘 vol. 2　「鐘の見どころ、徹底解説！」

歴史担当の崎原学芸員による展示解説会。はじめに「万國津梁の鐘」プロジェクトの主旨を説明し、崎原学芸員が配布資料を一通り説明したのち、参加者を展示室へと案内した。博物館常設展示室内へ移動後は約40分間にわたって、当館収蔵の和鐘について明らかになっていること、見どころポイントなどが紹介された。所定の時間をやや超えたが質疑応答も盛況となった。事後アンケート（回答率87%）では解説会の内容についてすべての人が「期待通りだった」と回答し、銘文の解説を希望する声も多かった。

・日　　時：①2021年11月20日（土）14:00～15:00
　　②2021年12月19日（日）10:30～11:30　※好評に付きアンコール開催
・場　　所：博物館常設展示室
・講　　師：崎原恭子（沖縄県立博物館・美術館 歴史担当学芸員）
・参 加 費：博物館常設展観覧料
・参加者数：①11名、②12名（定員各回15名）

③ 解体梵鐘 vol. 3　「万國津梁の鐘の音をサイエンス！」

万國津梁の鐘の「音」に着目したワークショップで物理教諭の金城靖信氏、金細工職人の上原俊展氏による音と金属についてのサイエンス実験を実施した。参加者のほとんどは家族での参加で、うち小中学生は４名参加した。音が響く形を探求する実習では、真鍮の棒の打音を骨伝導で聞き「音が体感できた」と参加者からは感動の声があがった。さらに、真鍮の棒を梵鐘の形に曲げることで、音が共鳴、うなってより梵鐘に近い響きが得られることがわかり、梵鐘の形と音との関係について興味を喚起することができた。

万国津梁の鐘の音をサイエンス

・日　　時：2021年11月27日（土）10:00～12:00
・場　　所：博物館実習室
・講　　師：金城靖信（沖縄県立北中城高等学校 教頭）
　　上原俊展（金細工まつ）
・参 加 費：500円
・参加者数：11名（定員20名）

④ 解体梵鐘 vol. 4　「万國津梁の鐘　銘文の秘密」

万國津梁の鐘の銘文を一字一句確認しながら臨書するワークショップで、書家の運天南暘氏を招いて４回に渡る連続講座を実施した。いずれの回も15～20分程度を銘文の解説とし、30～40分で一字一句文字の書き方を説明し、残りの１時間で自主練習をしながら運天氏の添削を受ける形式とした。運天氏の丁寧な指導と添削により、参加者は集中してワークショップに取り組み、最後の回ではそれぞれ月桃紙に銘文の臨書を書き上げた。

・日　　時：2022年　①３月５日（土）、②３月12日（土）、③３月19日（土）、④３月26日（土）
　　各回10:00～12:00
・場　　所：県民アトリエ、博物館実習室
・講　　師：運天南暘（運天書道教室主宰）
・参 加 費：2,000円（４回8,000円）
・参加者数：①３名、②５名、③５名、④８名（定員各回15名）

⑤ 解体梵鐘 vol. 5　「万國津梁の鐘の時代」

万國津梁の鐘が鋳造された時代について、田名真之館長による講演。琉球王国時代多くの鐘が鋳造されたが万國津梁の鐘のみ唯一無二の銘文が刻まれており、異質で特別な鐘であったことなどが説明された。講演では会場から質疑が上がり、万國津梁の鐘の時代について関心の高さが伺われた。事後アンケート（回答率60%）では83.0%の方が講演の内容について「期待通りだった」と回答し、今後万國津梁の鐘にまつわるイベントを開催したら参加したいか？という質問に対しては77.4%の方が「参加してみたい」と回答した。

・日　　時：2022年３月11日（金）18:00～19:30
・場　　所：講堂
・講　　師：田名真之（沖縄県立博物館・美術館 館長）
・参 加 費：500円
・参加者数：88名（定員140名）

（渡久地　雅代）

（5）「 アートを身近に！」プロジェクト

アートをより身近に感じ、美術館に親しみをもってもらうことを目的に、ものづくりワークショップや講座、展示や音声ガイドの提供を通して、誰でもアートを楽しめる仕組みや機会を提供した。

① 世界の名画に親しもう

海外の７つの美術館の作品データを、実寸大に出力して展示室に展示した。美術鑑賞の敷居を低くすることを目的に、全作品に作家や作品の鑑賞法など、詳しい解説文と子ども向けの解説文を付けた。

・展 示 数：ルーブル美術館３点、ウィーン美術史美術館５点、アムステルダム国立美術館３点、ワシントンナショナルギャラリー３点、メトロポリタン美術館５点、シカゴアートインスティテュート４点、オスロ国立美術館２点

・会　　期：2021年10月１日（金）～10月９日（土）（開催日数８日）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため日程を変更して実施（当初会期：８月１日（日）～10月９日（土））

・場　　所：美術館企画ギャラリー１

・観 覧 料：入場無料

・観 覧 者：1,656名（１日平均207名）

世界の名画に親しもう

② 美術館コレクション展音声ガイド

来場者の満足度を高め、美術館への再訪を促す事を目的として、沖縄の歴史や美術の知識が無くても作品を楽しむ事が出来る音声ガイドを製作した。また、コロナ禍でも安心して利用できるように、来館者自身のスマートフォンやタブレットを使ってガイドが聞ける仕組みを作り、提供した。

・期　　間：2022年１月29日（土）～2022年３月31日（木）

③ 夜な夜なワークショップ

創作体験を通じて、アートを楽しむきっかけを提供する目的で、ビギナーを対象としたワークショップを実施した。

・場　　所：県民アトリエ、こどもアトリエ

・参 加 費：1,000円

ａ）「色であそぼう！なないろカレンダー」

・日　　時：2021年11月19日（金）17:30～19:30

・講　　師：植田瑞生（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）

・参加者数：７名（定員15名）

ｂ）「煌めくコンパクトミラー」

・日　　時：2021年12月17日（金）18:00～19:00

・講　　師：植田瑞生（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）

・参加者数：８名（定員15名）

きらめくコンパクトミラー

ｃ）「塗り絵みたいな刺繍でオーナメント」

・日　　時：2022年１月14日（金）、21日（金）17:30～19:30

・講　　師：保久村智恵（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）

・参加者数：０名（定員15名）

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

④ 13才からのアート講座

アートをより楽しく身近に感じられる情報や知識を提供し、県民が美術作品や美術館に興味を持つきっかけをつくる目的で、当財団企画班の学芸員がそれぞれの得意分野を活かし、若年層やアートビギナーにも分かりやすい講座を実施した。

・場　　所：美術館講座室

・参 加 費：500円

ａ）「デザインとは、何か？」

・日　　時：2021年12月３日（金）18:00～19:30

・講　　師：渡久地雅代（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）

・参加者数：14名（定員35名）

ｂ）「画題で愉しむ日本の絵画」
・日　　時：2022年３月４日（金）18:00～19:30
・講　　師：金城美奈子（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）
・参加者数：18名（定員35名）

ｃ）「西洋絵画入門」
・日　　時：2022年３月20日（日）14:00～15:30　※２月４日（日）から延期
・講　　師：國吉貴奈（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）
・参加者数：27名（定員35名）

ｄ）「戦後沖縄美術の出発点」
・日　　時：2022年３月25日（金）18:00～19:30　※１月28日（金）から延期
・講　　師：川島祥子（一般財団法人沖縄美ら島財団 学芸員）
・参加者数：15名（定員35名）

西洋絵画入門

（保久村　智恵）

Ⅵ　広報事業に関する業務

2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴う臨時休館（５月23日～７月11日、７月22日～９月30日）や展覧会・催事等の中止・変更、開館再開のお知らせなどを当館ウェブサイトやSNS（当館Facebook、Instagram、Twitter、LINE、財団Facebook）、屋外掲示板で告知。マスコミや県内観光施設、ホテル、レンタカー営業所向けにはニュースリリースを配信し、県民や観光客へ最新の開館情報が行き渡るように努めた。また来館者が安心・安全に観覧できるように、密を避ける対策や感染症対策の取組みを当館ウェブサイト、SNS、館外掲示板、正面入口前パネルなどで告知した。

2021年度から新たに博物館常設展及び美術館コレクション展の魅力を高める集客施策として「万国津梁の鐘」プロジェクト、「アートを身近に！」プロジェクトを実施した。「万国津梁の鐘」プロジェクトでは「万国津梁の鐘（旧首里城正殿鐘）」を当館の目玉展示の一つとして位置づけ、鐘の魅力を発信し博物館常設展の来場者増を目的に、「アートを身近に！」プロジェクトではワークショップや講座、音声ガイドの提供を通して、誰でもアートを楽しめる仕組みをつくり美術館コレクション展の来場者増を目的とした。その他、博物館常設展において沖縄の通史が基礎から学べる「博物館常設展モデルコース ガイドMAP」を制作した。本ガイドMAPでは滞在時間が限られたお客様がスムーズに観覧できるように展示構成や動線が一目でわかる展示室マップにもなっている。

展覧会誘客広報では、チラシやポスターを県内文化施設や各自治体、教育機関、銀行、病院など県内全域に郵送し周知を図った。特に「みんなの進化展」では、子ども向けにチラシを新たに制作し、那覇・浦添地区の全小学校をはじめ、本島中南部の小学校へクラスごとにチラシを配布（全103校、３学年以上を対象に約45,000名に配布）し、メインターゲットである県内の子どもたちへ本展の周知を図った。また、「みんなの進化展」関連商品として図録の他、県の担当学芸員の協力を得て、指定管理者独自に「かるた」「系統樹ポスター」「系統樹ステッカー」「クリアファイル」「缶バッジ」などオリジナル商品の開発に取り組んだ。しかし、「みんなの進化展」は開幕２日目から臨時休館となり、再開されることなく閉幕を迎えたが、休館中もオンラインイベントや動画コンテンツを公開し、こうした取組みが９月21日放送のRBCニュースで「コロナ禍の博物館 今できることを」と題し、「みんなの進化展」とともに特集された。

（１）　年間行事案内

年度初めに展覧会の会期や内容、講座や解説会の日時などの年間の行事案内を掲載した「2021年度 展覧会の案内」（リーフレット15,000部）を作成し、県内外の文化・観光施設やホテル、レンタカー会社、那覇空港案内所、旅行会社などへ郵送した。

（２）　チラシ・ポスター

県内の学校や県内文化施設や各自治体、教育機関、銀行、病院などに展覧会ごとのチラシやポスターなどを配布し告知を行った。また沖縄美ら島財団独自のネットワーク約700か所にも展覧会チラシを発送した。「海とジュゴンと貝塚人」「琉球の横顔」では両展覧会ポスターを、県民の生活動線上で通行量が多い場所にある那覇市街地の公共掲示板28か所に掲示し、展覧会の周知を図った。

（３） 懸垂幕

館外正面入口側に横２ｍ×縦６ｍの懸垂幕を設置し、博物館企画展・特別展や美術館企画展の告知を行った。

（４） 館内外ターポリン

館内では博物館企画展示室入口付近に横３ｍ×縦3.8ｍのターポリンを、美術館企画展示室入口付近に横3.6ｍ×縦3.4ｍのターポリンを掲出した。館外には多目的広場付近に博物館（左側）、美術館（右側）２か所に横2.85ｍ×縦3.4ｍのターポリンを掲出した。

（５） 沖縄美ら海水族館・首里城公園との連携（トートトリップキャンペーン）

沖縄美ら島財団が管理運営する二大観光施設である「沖縄美ら海水族館」「首里城公園」と連携し誘客促進に努めた。両施設のどちらかの半券提示でミュージアムショップゆいむいでガチャを回してノベルティグッズが当たるキャンペーンを実施。両施設からの誘客促進を図り年間728名（昨年度740名）の来館者増に繋がった。「首里城公園」では「首里杜館県内文化施設情報コーナー」を設置し、全館告知や展覧会告知を実施した。

（６） モノレール駅内広告

沖縄都市モノレール（ゆいレール）では県庁前駅ドアステッカー広告（Ｂ２/２枠）で主に展覧会情報を告知した。また、おもろまち駅改札外出口付近に館までの誘導サインとして港川人の立て看板とチラシラックを設置し、当館の情報を発信した。

県庁駅前ドアステッカー

改札出口正面

（７） 新聞紙面（無料）・新聞広告（有料） 掲載428回（前年度実績478回）

沖縄タイムス社「インフォ」、副読紙「週刊ほーむぷらざ」、琉球新報社「情報市場」、副読紙「週刊レキオ」の無料告知枠（パブリシティ）へ展覧会情報やイベント情報を提供し紙面での告知を図った。新聞広告では琉球新報社と共催の「悠久のシルクロード展」で計６回（本誌／副読紙）掲載した。

（８） テレビ 放送31回（前年度実績53回） ※放送回数は取材のみカウント

展覧会や関連催事情報のニュースリリースを配信し、ニュース番組や情報番組などで紹介してもらえるように努めた。「みんなの進化展」では臨時休館中のオンラインイベントや動画コンテンツ公開等の取組みについて、RBCのニュースで「コロナ禍の博物館 今できることを」と題し、特集された。

今年度の実績ではNHK沖縄放送局「お昼のニュース」「おきなわHOTeye」「沖縄ちゅらテレビ」、沖縄テレビ「OTV Live News イット！」「ひーぷー☆ホップ」、琉球放送「RBC NEWS Link」琉球朝日放送「QAB NEWS Headline」、OCN「OCNインフォメーション」などがある。

９月21日放送　RBCニュース特集

（９） ラジオ　放送７回（前年度実績７回）

展覧会や関連催事情報のニュースリリースを配信し、ラジオ番組内で紹介された。

（10） 雑誌、情報誌 掲載60回（前年度実績67回）

雑誌社や出版社の取材には積極的に応じ、様々な媒体への露出を高めるよう努めた。県民への告知を目的として県内情報誌「オキナワグラフ」「箆柄暦」「話くわっちー」「モモト」などに展覧会の情報掲載。また沖縄美ら島財団の広告枠を利用し在沖米軍向けの「StripesOkinawa」「SAMURAI GATE」で「みんなの進化展」「海とジュゴンと貝塚人」「琉球の横顔」の告知を行った。

（11） WEBサイト 掲載137回（前年度実績125回）

館全体の告知では「おきなわ物語」「じゃらんnet」「るるぶWEB」「インターネットミュージアム」「星野リゾート みちくさガイド（沖縄編）」などで掲載。個別の展覧会の告知を目的として「ミュージアムカフェ」「CALEND-OKINAWA」「箆柄暦」「Internet Museum」「Art Agenda」「美術手帖WEB」などに掲載し告知を行った。

（12） 動画コンテンツ

展覧会の解説動画などを制作し「おきみゅーYoutubeチャンネル」やエントランスのモニター、SNSなどで公開した。（合計44本）

「川平恵造展」作家による作品解説

「海とジュゴンと貝塚人」教えて山崎先生

（13） 誘客パンフレット

各言語の誘客パンフレットは県内ホテルやレンタカー営業所、ゆいレールおもろまち駅などの約200か所に設置。「日本語誘客パンフレット」の表紙デザインを一新（一部内容を最新情報に変更）し、20,000部増刷した。

日本語版誘客パンフレット

海外用誘客パンフレット【英・繁・簡・韓】

（14） プレイガイド

前売券の販売及びチラシ・ポスターの設置場所としてプレイガイド（ミュージアムショップゆいむい、リウボウサービスカウンター、コープあぷれ、ファミリーマート各店（イープラス）、ローソン各店、セブンイレブン各店、ジュンク堂書店那覇店など）で販売を行った。

（15） SNS

新型コロナウイルス感染拡大に伴う感染症対策や開館情報をはじめ、展覧会情報やイベント情報などをFacebookやInstagram、Twitter、LINEで発信した。Facebookの「いいね！」（ファン数）は今年度約8,900名（昨年度比／約400名増）、Instagramフォロワーは約6,800名（昨年度比／約1,100名増）、Twitterフォロワー1,900人（昨年度比／約200名増）とLINEフォロワー2,800名（昨年度比／約100名減）となった。「みんなの進化展」では新規で同展専用Twitterアカウント「港川おじさん@みんなの進化展」を立ち上げ、開幕140日前（５月２日）から展覧会会期終了日（９月20日）まで毎日記事を投稿したほか、 FacebookやInstagramの有料SNSバナー広告や記事広告を配信し、情報拡散および誘客促進を図った。その他、「石川真生展」「世界の切手でみるランの物語」「琉球の横顔」「首里城美術工芸品の現状とこれから」では、作品または作者の紹介記事をFacebookおよびInstagramで連載した。

（16） ココみて！ナイン９

屋外の展示（「旧大聖禅寺鐘」「シーシ」「民家」「涌田窯」「灯籠」「CONCRETE AND STEEL」「太陽と月のロマンス」）や館内のモチーフをめぐる周遊ラリーを11月末から２月末まで実施した。ウェブサイトでは展示解説を掲載した。（参加人数：144組）

（17） １DAY PASSPORT

開催中の全ての展覧会が観覧できるお得な一日利用券として「１DAY PASSPOOT」を販売。2021年度販売数6,074枚(前年度比134%)。

（18） GWイベント「GWはみんなでおきみゅークエスト！」（５月１日～５月５日）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため規模を縮小し、来館者が楽しみながら学べるように博物館常設展のワークシートを宝箱型のボックスに設置、催事の場所を広く取るなど、家族や友人と安心して参加してもらえる仕組みづくりに努めた。また、今回はチラシでの告知は行わず、ウェブサイト・SNS中心で広報した。参加者数：

292名（目標350名／目標達成率83%）。

(19)　おきみゅー誕生祭（10月30日～11月３日）

テレビやチラシ、新聞での情報発信など事前広報が功を奏し、誕生祭期間中の総入館者数は5,620人を記録した。特に11月３日に実施した展示室を巡るクイズラリーは好評で、無料開放となる博物館常設展／美術館コレクション展の観覧者数を大きく伸ばすことに成功した《11月３日観覧者数 常設展1,961人（前年比137%）、美コレ1,366人（前年比190%）》。

(20)　プロムナードコンサート（８回開催 総観客数680名／平均85名）

2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響を受けることを考慮し、月１回程度の開催スケジュールを組み立てた。６～９月は緊急事態宣言下の休館により開催延期を余儀なくされたが、10月以降で日程を調整し、計８回実施した。開催前には観覧者の氏名・連絡先・健康状態の聞き取りやマスクの着用・ソーシャルディスタンスを確保するアナウンスを行うなど感染症対策を徹底し開催した。

(21)　展覧会オリジナルグッズ（商品）開発

「みんなの進化展」関連商品の図録の他、県学芸員の協力を得て、指定管理者独自に「かるた」「系統樹ポスター」「系統樹ステッカー」「クリアファイル」「缶バッジ」などオリジナルグッズの開発に取り組んだ。開催予定だった会期のほとんどが臨時休館となってしまったため、館内での販売ができなかったが、ジュンク堂書店那覇店や沖縄美ら海水族館で販売した。本展を心待ちしていたお客様に対し、少しでも展覧会に触れていただく機会を提供することができた。

ジュンク堂書店の販売コーナー

(22)　博物館常設展モデルコース ガイドMAP

博物館常設展において沖縄の通史が基礎から学べる「博物館常設展モデルコース ガイドMAP」を制作した。本ガイドMAPでは「沖縄２億年の歴史を１時間で旅するシート」と題し、滞在時間が限られたお客様がスムーズに観覧できるように展示構成や動線が一目でわかる展示室のマップにもなっている。

博物館常設展モデルコース　ガイドMAP

（金城　正仁）

Ⅶ　調査・研究・講演・著作論文等の活動

１ 調査・研究等

金城美奈子（企画班長／学芸員）

○講演・発表等

・名　　称：アートを身近に！プロジェクト「13歳からのアート講座」第２回「画題で愉しむ日本の絵画」
　日　　時：2022年３月４日（金）18:00～19:30
　場　　所：美術館講座室

○著作論文等

・「描かれた女性像―琉球絵画とその後」『琉球の横顔　描かれた「私」からの出発』沖縄県立博物館・美術館刊行　2021年11月

國吉貴奈（学芸業務担当主任／学芸員）

○講演・発表等

・名　　称：アートを身近に！プロジェクト「13歳からのアート講座」第３回「西洋絵画入門」
　日　　時：2022年３月20日（日）14:00～15:30
　場　　所：美術館講座室

渡久地雅代（学芸業務担当／学芸員）

○講演・発表等

・名　　称：アートを身近に！プロジェクト「13歳からのアート講座」第１回「デザインとは、何か？」
　日　　時：2021年12月３日（金）18:00～19:30
　場　　所：美術館講座室

川島祥子（学芸業務担当／学芸員）

○講演・発表等

・名　　称：アートを身近に！プロジェクト「13才からのアート講座」第４回「戦後沖縄美術の出発点」
　日　　時：2022年３月25日（金）18:00～19:30
　場　　所：美術館講座室

２ 職員研修（研修会）

金城美奈子（企画班長／学芸員）

○研修会

・一般社団法人路上博物館主催「企画展に新しい客を呼ぶ方法を学ぶ講座」（オンライン／2021年５月15日、22日）
・文化庁主催「令和３年度公開承認施設連絡会議」（オンライン／2021年６月３日）
・公益財団法人文化財虫菌害研究所主催「文化財コーディネータ資格更新のための郵送方式試験」（2021年11月１日～11月30日）
・文化庁主催「令和３年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会」（オンライン／2021年12月16日）
・独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター主催「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」（オンライン／2022年２月10日）
・沖縄県主催「障害理解促進講座」（オンライン／2022年３月７日）

國吉貴奈（学芸業務担当主任／学芸員）

○研修会

・一般社団法人路上博物館主催「企画展に新しい客を呼ぶ方法を学ぶ講座」（オンライン／2021年５月15日、22日）
・文化庁主催「令和３年度公開承認施設連絡会議」（オンライン／2021年６月３日）
・文化庁主催「令和３年度　国宝・重要文化財（美術工芸品）防災・防犯対策研修会」（オンライン／2021年６月４日）
・文化庁主催「令和３年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会」（オンライン／2021年12月16日）
・沖縄県主催「障害理解促進講座」（オンライン／2022年３月７日）

渡久地雅代（学芸業務担当／学芸員）

○研修会

・一般社団法人路上博物館主催「企画展に新しい客を呼ぶ方法を学ぶ講座」（オンライン／2021年５月15日、22日）
・沖縄県博物館協会主催「令和３年度 沖縄県博物館協会研修会」（オンライン／2021年12月16日）

川島祥子（学芸業務担当／学芸員）

○研修会

・文化庁主催「令和３年度公開承認施設連絡会議」（オンライン／2021年６月３日）
・文化庁主催「令和３年度文化財（美術工芸品）保存修理講習会」（オンライン／2021年12月16日）

大濵萌子（教育普及担当主任／学芸員）

○研修会

・沖縄県博物館協会主催「令和３年度 沖縄県博物館協会研修会」（オンライン／2021年12月16日）
・沖縄県主催「障害理解促進講座」（オンライン／2022年３月７日）

保久村智恵（教育普及担当／学芸員）

○研修会

・独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター主催「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」（オンライン／2022年２月10日）

・沖縄県主催「障害理解促進講座」（オンライン／2022年３月７日）

・沖縄県博物館協会主催「令和３年度 沖縄県博物館協会研修会」（オンライン／2021年12月16日）

比嘉麻乃（教育普及担当／学芸員）

○研修会

・沖縄県主催「障害理解促進講座」（オンライン／2022年３月７日）

福治広規（広報営業担当主任）

○研修会

・独立行政法人国立文化財機構文化財活用センター主催「ミュージアムをめぐるファンドレイジング」（オンライン／2022年２月10日）

金城正仁（広報営業担当）

○研修会

・一般社団法人路上博物館主催「企画展に新しい客を呼ぶ方法を学ぶ講座」（オンライン／2021年５月15日、22日）

・沖縄県博物館協会主催「令和３年度 沖縄県博物館協会研修会」（オンライン／2021年12月16日）

全館共通事業

Ⅰ 学芸員実習
Ⅱ 国際博物館の日
Ⅲ 移動展
Ⅳ 燻蒸・消毒処理
Ⅴ 全体研修
Ⅵ 刊行物
Ⅶ 展覧会一覧

Ⅰ 学芸員実習

１　博物館実習

当館では、1969年（昭和44）に最初の実習生を受け入れてから、2006～2007年度の新館準備のための休止年度を除き毎年学芸員実習を実施してきた。2000年度までは、実習生の在籍する大学毎に個別に実習期間を設置して対応してきたが、2001年度以降は年２回（６月、８月）に実施している。

しかし、2020年度に続き2021年度も新型コロナウイルス感染症防止のため、学芸員実習の実施方法を大幅に縮小せざる得なくなった。例年通りの６月と８月の開催ができず、前期を８月、後期を９月に実施した。また、１回あたりの実習期間を１週間（３日～５日間）に短縮し、実習生の数も例年15名程度よりも少ない９名に限定した。実習内容は、従来であれば２週間の実習期間中に実習生を数グループに分けてミニ展覧会を開催しているが、2021年度は実習生各自がテーマを決め、資料研究及び展示や教育普及活動等の実施案を作り、これを学芸員全員の前で発表してもらう方法で対応した。

2021年度の実習期間は、前期（８月23日～27日）、後期（８月30日～９月３日）までで、実習生各自の課題研究のテーマは、以下のとおりである。

（１）博物館学芸員実習カリキュラム

		実習内容（午前）	実習内容（午後）
第１日	（月）	開講式、オリエンテーション、IPM 特別展案内	博物館活動の概要説明、収蔵庫等施設案内 教育普及実習
第２日	（火）	資料取扱い実習①	資料取扱い実習②
第３日	（水）	資料取扱い実習③ 資料調査演習の担当決めとミーティング	資料調査演習・課題研究
第４日	（木）	資料調査演習・課題研究	資料調査演習・課題研究
第５日	（金）	資料調査演習・課題研究、学芸員ゼミ参加	課題発表、終了式

（２）実習生

前期

	氏　名	大学名	課題研究テーマ	指導
1	赤嶺　瑞祐	沖縄国際大学	東南アジアの織物と子ども向けの展示方法について	與那嶺
2	長間　優奈		竹細工を作ってみよう	阿利
3	比嘉　七星		「戦災文化財」を用いた平和教育～艦砲ぬ喰ぇー残さ～	宮城
4	宮田　和々	西南学院大学	海に！祭に！海の生活と共にあるウェーク（櫂）	阿利
5	上間さくら	琉球大学	同じ染料、違う色	大湾
6	鳥谷部恭太		美術工芸品に描かれた生物について	篠原
7	柴田　莉奈		港川人の顔を現在によみがえらせよう	澤浦
8	泉水　優花		一石二鳥！カタッパーフゾー	阿利
9	加藤　花月		江戸立ち～200年間通り続けたルートとは？	山本

後期

	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
1	鈴木　陽樹	琉球大学	抱瓶の魅力を幅広く伝える	伊禮
2	大塚虎之介		パンデミックと体験型学習	宇佐美
3	西嶋　　櫻		環境に適応する生物のからだ－琉球の絶滅シカ類頭蓋骨の特徴－	澤浦
4	辺士名朝暉		ソーミナーグーの魅力	大湾
5	鹿村　信雄		カモノハシ（カモノハシ科カモノハシ属）の紹介	菊川
6	大久保　樹	沖縄県立芸術大学	背守りからみる沖縄の紅型子ども衣装	與那嶺
7	國吉　志乃		紅型 in カゴ展～じゅうかごといろ～	與那嶺

	氏名	大学名	課題研究テーマ	指導
8	仲宗根　萌	沖縄県立芸術大学	つかって・みて・みてミーゾーキー	阿利
9	宮里望明瑠	沖縄国際大学	ミニ企画展「土器をさわってみよう」	山本

２　美術館実習

美術館では、開館３年目の2009年から実習受入を行っている。例年受け入れにあたっては、学芸員資格養成課程を有する県内の大学を優先し、人員枠にゆとりがある場合、県外大学に在籍する県出身の学生を優先的に受け入れ、定員は10名以内としている。時期は８月中旬から２週間で、美術館学芸員全員でそれぞれの専門分野の講義にあたっている。しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響により実習時期をずらし、一部内容の変更と期間を短縮し実施した。また、県内の沖縄県立芸術大学の10名を受け入れた。
期間：８/30～９/１（実施）→　課題提出９/30締切

【美術館学芸員実習カリキュラム】

	実習内容（午前）	実習内容（午後）
第１日 ８/30（月）	開講式、オリエンテーション、学芸員実習計画、教育普及事業Ⅰ	調査・研究の概要、作品調査の方法（収集・展示等のための調査）、常設展示の実際
第２日 ８/31（火）	資料収集事業の概要、資料の分類・情報処理、平面資料の取り扱い、資料調査実習	常設展示の構成（展示意図・構成について）展示企画について、常設展示の実際
第３日 ９/１（水）	常設展示の実際、美術館施設案内、博物館常設展見学	各自資料収集等、課題まとめ、ミーティング

開講式

開講式

教育普及講座

調査研究講座

資料収集講座

展示公開講座

３ 職場体験

毎年、指定管理者が窓口となって中学校・高等学校などを対象に職場体験の受け入れを行っているが、2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、受け入れを見送った。

（保久村　智恵）

Ⅱ　国際博物館の日

名　　称：「国際博物館の日 2021」
会　　期：2021年５月11日（火）～５月30日（日）（20日間）
会　　場：パネル展／エントランスホールおよびパネル掲載情報の当館HP上での公開

【開催趣旨】

毎年５月18日は、全世界で博物館活動の普及と向上を目的に、国際博物館会議（通称ICOM：アイコム）によって「国際博物館の日」と定められています。日本博物館協会の会員である当博物館・美術館もこれに伴い、より多くの人々に博物館・美術館活動を広く報せ、博物館・美術館に対してより興味・関心、親近感を抱かせるとともに、博物館・美術館や社会教育の意義をさらに普及・啓発するために行うものです。

【実施内容】
博物館・美術館の活動を広く一般県民に伝えるために、エントランスホールにてパネル展を開催するとともに関連イベントを実施した。また無料入館日を設定し、常設展示を広く一般に開放した。

国際博物館の日　2021パネル展

○パネル展 2021年５月11日（火）～５月30日（日）
ICOM・「国際博物館の日」の説明、（一財）沖縄美ら島財団紹介、指定管理者自主企画催事の紹介、博物館学芸員の活動紹介・美術館の活動紹介

○無料入館日 2018年５月22日（土）
※博物館常設展示室・美術館コレクション展のみ無料、企画展・特別展は有料

（山崎　真治）

Ⅲ　移動展

令和３年度の移動展は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、次年度に延期。2023年１月に開催予定。予定地は、前年度延期となった渡嘉敷村を予定している。

Ⅳ 燻蒸・消毒処理

2021年度は、2007年度から実施している総合的有害生物管理（IPM）の運用を継続して行い、収蔵資料の適正な保存管理に努めた。主な活動は、年１回の全館を休館しての燻蒸・消毒処理、簡易燻蒸・消毒処理、IPMモニタリング等のほか、毎月１回のIPM全体会議にて連絡・報告などを行った。

（１）2021年度　全館燻蒸・消毒処理
○第１回　全館燻蒸・消毒
期　　間：2021年６月28日（月）～７月６日(火) ９日間
使用薬剤：シフェノトリン（商品名：ブンガノン）
処理方法：シフェノトリンを気化し、害虫に呼吸毒として作用させ殺虫

（２）簡易燻蒸・消毒処理
各トラックヤードに自動噴霧装置設置（博物館３か所、美術館２か所、県民ギャラリー搬入口１か所）を設置、毎日深夜にて散布（スミスリン乳剤）を行い、開閉する場所の害虫駆除を実施している。
又、必要に応じて作品等の燻蒸・消毒を「ふくろうくん（商品名）」（二酸化炭素）を実施している。

（宮里　宗彦）

Ⅴ　刊行物

（全　体）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　容
1	沖縄県立博物館・美術館　年報（令和２年度実績報告）No.14	定 期	300	Ａ４（196）	前年度の博物館・美術館活動報告

（博物館班）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　容
1	企画展「新収蔵品展　－令和２年度収蔵資料－」	定期	300	Ａ４（22）	企画展図録
2	みんなの進化展－命はつながっている－	不定期	500	Ａ４（100）	特別展図録
3	海とジュゴンと貝塚人	不定期	500	Ａ４（119）	企画展図録
4	沖縄県立博物館・美術館　博物館紀要第15号	定期	500	Ａ４（166）	博物館学芸員の調査研究報告書

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　容
5	令和３年度　博物館教育普及活動報告書	定期	600	Ａ４（84）	博物館教育普及活動報告
6	普及パンフ　体験キットリーフレット	不定期	3,000	Ａ３（二つ折り）	博物館教育普及借用資料一覧紹介
7	普及パンフ　けんぱくリーフレット	不定期	6,000	Ａ３（二つ折り）	博物館教育普及借用資料一覧紹介
8	琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書 第一巻　総論編	不定期	270	Ａ４（129）	沖縄振興特別推進交付金「琉球王国文化遺産集積・再興事業」報告書
9	琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書 第二巻　絵画・陶芸・金工編	不定期	250	Ａ４（624）	沖縄振興特別推進交付金「琉球王国文化遺産集積・再興事業」報告書
10	琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書 第三巻　木彫・石彫・漆芸・三線編	不定期	250	Ａ４（553）	沖縄振興特別推進交付金「琉球王国文化遺産集積・再興事業」報告書
11	琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書 第四巻　染織Ⅰ	不定期	250	Ａ４（522）	沖縄振興特別推進交付金「琉球王国文化遺産集積・再興事業」報告書
12	琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書 第五巻　染織Ⅱ	不定期	270	Ａ４（486）	沖縄振興特別推進交付金「琉球王国文化遺産集積・再興事業」報告書
13	琉球王国文化遺産集積・再興事業報告書 第六巻　染織Ⅲ	不定期	270	Ａ４（520）	沖縄振興特別推進交付金「琉球王国文化遺産集積・再興事業」報告書

（美術館班）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　容
1	企画展「琉球の横顔：描かれた「私」からの出発」カタログ	不定期	500	Ｂ５（200）	企画展図録
2	沖縄県立博物館・美術館　美術館紀要 第10号	〃	500	Ａ４（28）	美術館学芸員の調査研究報告書
3	教育普及報告書	〃	700	Ｂ５（42）	美術館教育普及活動報告書

（指定管理者）

	刊　行　物　名	種類	部数	規格（頁）	内　容
1	2021年度沖縄県立博物館・美術館展覧会のご案内	年１回	15,000	蛇腹折（14頁）	年間展覧会スケジュール
2	沖縄県立博物館・美術館 誘客パンフレット（日本語）	不定期	20,000	観音折（８頁）	パンフレット
3	2021GWはみんなでおきみゅークエスト！	年１回	10,000	Ａ４	イベント告知チラシ
4	おきみゅー誕生祭2021	年１回	10,000	Ａ４	イベント告知チラシ
5	おきみゅー誕生祭2021 博物館常設展・美術館コレクション展 クイズラリー	年１回	1,000	Ａ５	ワークシート
6	おきみゅー誕生祭ペーパークラフト「海とジュゴンと貝塚人」	年１回	1,000	Ａ４	ペーパークラフト
7	おきみゅー貸施設案内 チラシ	不定期	6,000	Ａ４	パンフレット
8	博物館常設展モデルコース ガイドMAP	不定期	8,000	Ａ３	博物館常設展ガイドMAP
9	みんなの進化展 チラシ（増刷分）	不定期	30,000	Ａ５	チラシ
10	博物館常設展誘客 子ども向けチラシ「こども学芸員と動く展示物からの挑戦状！」	不定期	20,000	Ａ３	チラシ（マンガ）
11	12匹のアタク（オキナワキノボリトカゲ）をさがせ！（生物）	不定期	3,000	Ａ４	博物館常設展ワークシート
12	港川人を解析せよ（人類）	不定期	3,000	Ａ４	博物館常設展ワークシート

Ⅵ　展覧会一覧（2021年度）

	展　示　会　名	場　所	主　催	期　間
1	博物館常設展　海と島に生きる －豊かさ、美しさ、平和を求めて－	博物館常設展示室 総合展示室	沖縄県（博物館班）	通年
2	沖縄美術の流れ	美術館コレクション ギャラリー３	沖縄県（美術館班）	通年
3	博物館常設展部門展示　正月、清明、ユッカヌヒー、旧盆、十五夜、ムーチー、冬至（仏前供物替え）	博物館常設展示室 民俗部門展示室	沖縄県（博物館班）	各時季
4	沖縄美術の流れ（写真）　山田實〈こどもたちのオキナワ〉	美術館コレクション ギャラリー１	沖縄県（美術館班）	中期：1/13～4/4 後期：4/6～6/27
5	博物館常設展部門展示 「刻まれた歴史－石碑・拓本－」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	３/４～６/27
6	石川真生展：醜くも美しい人の一生、私は人間が好きだ。	美術館企画ギャラリー１、２	沖縄県（美術館班）	３/５～６/27 （5/23から休館）
7	子どもの情景	美術館コレクション ギャラリー２	沖縄県（美術館班）	後期：３/５～ ６/27
8	明和津波襲来250年　博物館エントランスミニ展示「大津波の痕跡を探る－発掘調査で確認された明和津浪の痕跡－」	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	４/20～６/13
9	国際博物館の日　2021	エントランスホール	沖縄県／指定管理者	５/10～５/30
10	企画展「新収蔵品展　－令和２年度収蔵資料」	企画展示室、特別展示室１	沖縄県（博物館班）	５/18～６/20 （5/23から休館）
11	生きものたちの進化をまねる展！	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	６/15～８/29 （7/22から休館）
12	小さなエイリアン展～沖縄に潜む小さな侵略者	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	７/７～８/29
13	沖縄美術の流れ（写真）石川文洋とベトナム戦争	美術館コレクション ギャラリー１	沖縄県（美術館班）	７/10～１/23
14	川平惠造展	美術館コレクション ギャラリー２	沖縄県（美術館班）	７/10～１/23
15	博物館常設展部門展示 「那覇港～往来する人とモノ～」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	７/13～11/18
16	「国立自然史博物館を沖縄に」パネル展	３Ｆホワイエ	沖縄県（博物館班）	７/20～９/20
17	特別展「みんなの進化展　～命はつながっている」	企画展示室、特別展示室１、２	沖縄県（博物館班）	７/21～９/20
18	企画展「海とジュゴンと貝塚人　－貝塚が語る9000年のくらし－」	特別展示室１、２	沖縄県（博物館班）	10/15～12/５
19	琉球の横顔 ― 描かれた「私」からの出発	美術館企画ギャラリー１、２	沖縄県（美術館班）	11/３～１/16
20	中城城跡国史跡指定50周年記念特集展「中城のグスク～中城グスクと新垣グスク～」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	11/30～１/10
21	海図150年記念　エントランスパネル展	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	12/７～１/10
22	漂着軽石ミニ展示　奇跡の大型漂着軽石～1300kmを旅した軽石は何を語る？～	エントランスホール・博物館常設展示室入口・自然観察コーナー	沖縄県（博物館班）	12/14～２/27
23	企画展「ゆる～いかたつむり展　ラセンに秘められた沢山の不思議」	特別展示室２	沖縄県（博物館班）	12/21～２/15
24	ミニ企画展「琉球古刺繍ってなあに？」	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	１/12～２/６
25	特集展「平成の首里城復元－彫刻家・今英男－」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	１/19～３/６
26	REFLECTIONS －時代を見る眼－	美術館コレクション ギャラリー１、２	沖縄県（美術館班）	１/29～６/26
27	沖縄の生物多様性を守ろう展	エントランスホール	沖縄県（博物館班）	２/22～３/13

	展　示　会　名	場　所	主　催	期　間
28	特集展「復帰50年　沖縄復帰前展」	博物館常設展示室 歴史部門展示室	沖縄県（博物館班）	３/18～８/21

その他の活動

Ⅰ　沖縄県博物館協会
Ⅱ　全国組織との関わり
Ⅲ　沖縄県立博物館友の会
Ⅳ　NPO 法人沖縄県立美術館支援会 happ

Ⅰ　沖縄県博物館協会

【総会及び春の研修会】
期　　日：2021年５月20日～21日→開催中止、書面開催
場　　所：新型コロナ感染症予防のため、総会は書面決議、春の研修会は中止。
内　　容：議案第１号　令和２年度事業実施報告について
議案第２号　令和２年度収支決算報告について
議案第３号　令和３年度事業計画案について
議案第４号　令和３年度予算案について
議案第５号　役員の改選について
議案第６号　沖縄県博物館協会・春の研修会及び秋の研修会の割り当てについて
その他　　新規加入について
事務局からの連絡事項

【秋の研修会】
期　　日：2021年12月16日（木）～17日（金）
場　　所：公益財団法人沖縄こどもの国（沖縄市）※現地及びオンライン研修
参 加 者：田名真之館長、外間一先、宮城修、宇佐美賢
内　　容：テーマ「新たな博物館のあり方」
〇12月16日　・基調講演　「博物館法とこれからの博物館教育」
高田浩二（海と博物館研究所 所長）
・報告１　「沖縄こどもの国について～博物館相当施設としての取り組みとコロナ禍における新たな取り組みについて～」
呉屋博典（沖縄こどもの国 経営みらい課 課長）
・報告２　「コロナ禍における沖縄県博物館協会各館の課題・改善策、アイディアの共有」
金尾由恵（沖縄こどもの国 経営みらい課 主事）
〇12月17日　沖縄こどもの国ワンダーミュージアム及び動物園見学
Aコース：ワンダーミュージアム→ライオンフィールド→動物病院
Bコース：琉球弧動物エリア→里山エリア→ゾウ舎→動物病院→ライオンフィールド→ワンダーミュージアム
Cコース：オンラインツアー

Ⅱ　全国の組織との関わり

1　日本博物館協会

（1）令和３年度全国博物館長会議（第28回）
日　時：2021年６月１日（火）
場　所：オンライン会議（事前申込）

（2）第69回全国博物館大会
「博物館法制定70周年記念大会　文化の多様性をつなぐ博物館」
日　時：2021年11月17日(水)～11月18日（木）
場　所：北海道札幌市「かでる2.7（北海道立道民活動センター）」
参加者：外間一先

2　九州博物館協議会

（1）九州博物館協議会理事会・総会・現地研修
日　時：2021年5月20年～21日予定→開催中止、書面開催
場　所：福岡県

（2）九州博物館協議会秋季研修会
日　時：2021年11月4日～5日→開催中止

場　所：熊本県

３ 全国歴史民俗系博物館協議会

（１）令和３年度総会

日　時：開催中止、書面開催

場　所：宮城県（東北歴史博物館）→令和４年度以降の開催地については再調整を行う

Ⅲ 沖縄県立博物館友の会

沖縄県立博物館友の会は、「博物館の事業に積極的に参加、協力し、さらに会員相互の教養を高め、親睦をはかる」ことを目的として1980年（昭和55年）に発足した。

本年度の会員の内訳は、一般会員249名、家族会員39家族（81名）、賛助会員３か所。
博物館・美術館の諸事業に積極的に参加し、博物館ボランティア活動への支援、広く県民を対象とした文化講演会や会員を対象とした研修会を開催し、博物館常設展示室への展示交流員事業を実施した。

2021年度（令和３）の事業内容は以下のとおり。

	事業名及び事業内容	
1	【文化講演会】　開催日：2021年９月	新型コロナウィルスの影響で中止
2	【展示交流員研修】　『展示交流員研修・懇親会』 開催日：2021年10月	新型コロナウィルスの影響で中止
3	【地域文化散策】　開催日：2021年10月	新型コロナウィルスの影響で中止
4	【地域文化散策】　『泊散策道と周辺の文化財巡り』 開催日：2021年12月13日（月） 講　師：真栄田和子（NPO那覇市街角ガイド・泊婦人会会員・友の会会員） 内　容：崇元寺石門→崇元寺下馬碑→馬鞭の御嶽→浮縄の御嶽→神良御川→泊散策道（ノロ殿内・安里大親拝所、その他）→隠居の御嶽→泊大阿母拝所→黄金森御嶽→タカマサイ公園（解散） 参加者　：　18名	
5	【地域文化散策】　『弁之御嶽を巡る』 開催日：2022年３月28日（月） 講　師：　高里盛国（友の会会員・元高校教師） 内　容：首里公民館→国王領徳碑（かたのはなの碑）→弁之御嶽→弁之井泉→弁之小嶽→斎場御嶽遥拝所→沖縄神社→火立毛→解散 参加者：18名	
6	【県外研修】　開催日：2022年２月	新型コロナウィルスの影響で中止
7	【自然観察会】　開催日：2022年３月	新型コロナウィルスの影響で中止
8	【後援】　『琉球の銭をつくって尚泰久王に見せに行こう！』 主　催：沖縄県立玉城青少年の家 開催日：2022年３月13日（日） 講　師：山本正昭主任学芸員 スタッフ：　友の会会員２名	

（1）会誌発行
年１回『博友』

（2）会員への情報提供
①友の会通信「ちゃーびら」隔月発行・送付
②友の会事業の講演会・研修旅行・印刷物の案内及び文書発送

（3）サークル活動
家譜サークル（毎月１回勉強会実施）
辺境＆市場サークル（海外研修の実施）

（4）博物館サポート
①博物館常設展示室展示交流員の配置業務
②文化講演会および学芸員講座当日の資料整理と受付
③「ボランティア通信」発送、支援
④博物館・美術館移動展支援

Ⅳ happ（特定非営利活動法人 沖縄県立美術館支援会happ）

happは2005年（平成17年）に沖縄県立美術館の活躍をサポートする組織として誕生。スカンジナビア語の「happ（幸運）」が由来。h=happiness（しあわせ）・happening（できごと）、a=art（アート）p=people（人々）、p=place（場所）。

１ 基本理念

沖縄県立美術館と連携し、優れた文化芸術に触れる活動や文化を創造する活動に参加できる機会を広く提供することにより、地域に根ざした魅力ある美術館づくりに寄与することを目指す。

２ 基本方針

（1）「沖縄県立美術館との連携」
①美術館側の学芸員や副館長との連携の強化を図る。
②展示企画を行う指定管理者との連携の強化を図る。
③美術館に多くの来客を呼び込み、楽しんで頂けるように互いの協力体制の強化を目指す。

（2）「文化を創造する活動に参加出来る機会を広く提供する」
①日頃から交流員ならびに、財団および学芸員との協力体制を整える
②来館者および、会員、クリエーター（作家）に対し、文化を創造する活動へ参加する機会の創出を目指す。

（3）「地域に根ざした魅力ある美術館づくりに寄与する」
①美術館の館内において、より魅力を感じ、楽しんで頂ける企画を立案する。
②多くの方々に美術館に通って頂き「私の美術館、僕の美術館」と言われるような美術館づくりに寄与することを目指す。

３ 2021年度　事業報告（総括表）2021年４月１日～2022年３月31日

（1）自主事業

事業名	事業内容	日時	開催場所
沖縄県立芸術大学芸術振興財団助成事業	「happデジタルコンテンツ強化事業」	11月～3月	happウェブサイト
Webサイト制作情報発進事業	Webサイト制作情報発進事業	11月～3月	happウェブサイト
物品販売事業	関連冊子の販売	通年	ショップゆいむい

（2）共催・協力事業

事業名	事業内容	日時	開催場所
【協力】沖縄県立博物館・美術館　企画展覧会	石川真生展 醜くも美しい人の一生 私は人間が好きだ 広報協力：SNS情報発信	３月５日～６月27日	美術館 企画展示室
【協力】沖縄県立博物館・美術館　企画展覧会	琉球の横顔 描かれた「私」からの出発 広報協力：SNS情報発信	11月3日～1月１６日	美術館 企画展示室
【協力】沖縄県立博物館・美術館　企画展覧会	第33回沖縄県立芸術大学・大学院造形芸術研究科卒業・修了作品展 広報協力：SNS情報発信	２月16日～20日	美術館 企画展示室
【協力】プロムナードコンサート事業	おきみゅープロムナードコンサート 広報協力：SNS情報発信	４/４、５/９、11/６、12/18、19、12/25、３/21、３/20	エントランスホール
【協力】ゆんたくミュージアム事業	沖縄美ら島財団主催 ゆんたくデー 対話型鑑賞ツアー	COVID-19の影響により中止	―
【協力】なは紙ヒコーキ大会事業	なは紙ヒコーキ大会 似顔絵コーナー出展	COVID-19の影響により中止	―

（3） 委託事業

事業名	事業内容	日時	開催場所
【委託】監視ボランティア事業	展示交流員、展示監視業務	通年	美術館コレクションギャラリー
【委託】監視事業	沖縄しまたて協会主催 写真コンクール受付・展示監視業務	12月７日～11日	県民ギャラリー
【委託】こどもフェスタ事業	夏休み！こどもフェスタ 似顔絵を描こう	COVID-19の影響により中止	―
【委託】沖縄県芸術文化祭事業	沖縄県文化振興会主催 美術体験教室似顔絵体験教室	COVID-19の影響により中止	―

（4）各諸会議

事業名	事業内容	日時	開催場所
総会	通常総会	令和３年５月22日	オンライン
理事会	事業計画、運営のための会議等	令和３年４月～令和４年３月	美術館講座室/オンライン

関係法規抄録

○博物館法
○博物館法施行令
○博物館法施行規則
○博物館の登録に関する規則
○沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則
○沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織に関する規則
○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例
○沖縄県立博物館・美術館管理規則
○沖縄県立博物館保管資料の利用に関する取扱要領
○沖縄県立博物館･美術館共催及び後援等に関する取扱要領
○沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会設置要綱

関係法規抄録

○博物館法（抄）　　昭和26年12月１日　法律第285号
〔最終改正〕令和元年６月７日　法律第 26号

第１章　総則

（この法律の目的）
第１条　この法律は、社会教育法（昭和24年法律第207号）の精神に基き、博物館の設置及び運営に関して必要な事項を定め、その健全な発達を図り、もつて国民の教育、学術及び文化の発展に寄与することを目的とする。
（定　義）
第２条　この法律において「博物館」とは、歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料を収集し、保管（育成を含む。以下同じ。）し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせてこれらの資料に関する調査研究をすることを目的とする機関（社会教育法 による公民館及び図書館法（昭和25年法律第118号）による図書館を除く。）のうち、地方公共団体、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は政令で定めるその他の法人（独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第２条第１項 に規定する独立行政法人をいう。第29条において同じ。）を除く。）が設置するもので次章の規定による登録を受けたものをいう。
２　この法律において、「公立博物館」とは、地方公共団体の設置する博物館をいい、「私立博物館」とは、一般社団法人若しくは一般財団法人、宗教法人又は前項の政令で定める法人の設置する博物館をいう。
３　この法律において「博物館資料」とは、博物館が収集し、保管し、又は展示する資料（電磁的記録（電子的方式、磁気的方式その他人の知覚によっては認識することができない方式で作られた記録をいう。）を含む。）をいう。
（博物館の事業）
第３条　博物館は、前条第１項に規定する目的を達成するため、おおむね次に掲げる事業を行う。
（１）実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の博物館資料を豊富に収集し、保管し、及び展示すること。
（２）分館を設置し、又は博物館資料を当該博物館外で展示すること。
（３）一般公衆に対して、博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行い、又は研究室、実験室、工作室、図書室等を設置してこれを利用させること。
（４）博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
（５）博物館資料の保管及び展示等に関する技術的研究を行うこと。
（６）博物館資料に関する案内書、解説書、目録、図録、年報、調査研究の報告書等を作成し、及び頒布すること。
（７）博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等を主催し、及びその開催を援助すること。
（８）当該博物館の所在地又はその周辺にある文化財保護法（昭和二十五年法律第二百十四号）の適用を受ける文化財について、解説書又は目録を作成する等一般公衆の当該文化財の利用の便を図ること。
（９）社会教育における学習の機会を利用して行った学習の成果を活用して行う教育活動その他の活動の機会を提供し、及びその提供を奨励すること。
(10) 他の博物館、博物館と同一の目的を有する国の施設等と緊密に連絡し、協力し、刊行物及び情報の交換、博物館資料の相互貸借等を行うこと。
(11) 学校、図書館、研究所、公民館等の教育、学術又は文化に関する諸施設と協力し、その活動を援助すること。
２　博物館は、その事業を行うに当つては、土地の事情を考慮し、国民の実生活の向上に資し、更に学校教育を援助し得るようにも留意しなければならない。
（館長、学芸員その他の職員）
第４条　博物館に、館長を置く。
２　館長は、館務を掌理し、所属職員を監督して、博物館の任務の達成に努める。
３　博物館に、専門的職員として学芸員を置く。
４　学芸員は、博物館資料の収集、保管、展示及び調査研究その他これと関連する事業についての専門的事項をつかさどる。
５　博物館に、館長及び学芸員のほか、学芸員補その他の職員を置くことができる。
６　学芸員補は、学芸員の職務を助ける。
（学芸員の資格）
第５条　次の各号のいずれかに該当する者は、学芸員となる資格を有する。
（１）　学士の学位（学校教育法（昭和22年法律第26号）第104条第２項に規定する文部科学大臣の定める学位（専門職大学を卒業した者に対して授与されるものに限る。）を含む。）を有する者で、大学において文部科学省令で定める博物館に関する科目の単位を修得したもの
（２）　大学に２年以上在学し、前号の博物館に関する科目の単位を含めて62単位以上を修得した者で、３年以上学芸員補の職にあつたもの
（３）　文部科学大臣が、文部科学省令で定めるところにより、前二号に掲げる者と同等以上の学力及び経験を有する者と認めた者
２　前項第２号の学芸員補の職には、官公署、学校又は社会教育施設（博物館の事業に類する事業を行う施設を含む。）における職で、社会教育主事、司書その他の学芸員補の職と同等以上の職として文部科学大臣が指定するものを含むものとする。
（学芸員補の資格）
第６条　学校教育法第90条第１項 の規定により大学に入学することのできる者は、学芸員補となる資格を有する。
（学芸員及び学芸員補の研修）
第７条　文部科学大臣及び都道府県の教育委員会は、学芸員及び学芸員補に対し、その資質の向上のために必要な研修を行うよう努めるものとする。
（設置及び運営上望ましい基準）
第８条　文部科学大臣は、博物館の健全な発達を図るために、博物館の設置及び運営上望ましい基準を定め、これを公表するものとする。
（運営の状況に関する評価等）
第９条　博物館は、当該博物館の運営の状況について評価を行うとともに、その結果に基づき博物館の運営の改善を図るため必要な措置を講ずるよう努めなければならない。
（運営の状況に関する情報の提供）
第９条の２　博物館は、当該博物館の事業に関する地域住民その他の関係者の理解を深めるとともに、これらの者との連携及び協力の推進に資するため、当該博物館の運営の状況に関する情報を積極的に提供するよう努めなければならない。

第２章　登録

（登　録）
第10条　博物館を設置しようとする者は、当該博物館について、当該博物館の所在する都道府県の教育委員会（当該博物館（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第第１項の指定都市をいう。以下この条及び第29条において同じ。）の区域内に所在する場合にあっては、当該指定都市の教育委員会。同条を除き、以下同じ。）に備える博物館登録原簿に登録を受けるものとする。

（登録の申請）
第11条　前条の規定による登録を受けようとする者は、設置しようとする博物館について、左に掲げる事項を記載した登録申請書を都道府県の教育委員会に提出しなければならない。
（１）　設置者の名称及び私立博物館にあつては設置者の住所
（２）　名称
（３）　所在地
２　前項の登録申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。
（１）　公立博物館にあつては、設置条例の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び予算の歳出の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面
（２）　私立博物館にあつては、当該法人の定款の写し又は当該宗教法人の規則の写し、館則の写し、直接博物館の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及びその図面、当該年度における事業計画書及び収支の見積りに関する書類、博物館資料の目録並びに館長及び学芸員の氏名を記載した書面

（登録要件の審査）
第12条　都道府県の教育委員会は、前条の規定による登録の申請があつた場合においては、当該申請に係る博物館が左に掲げる要件を備えているかどうかを審査し、備えていると認めたときは、同条第一項各号に掲げる事項及び登録の年月日を博物館登録原簿に登録するとともに登録した旨を当該登録申請者に通知し、備えていないと認めたときは、登録しない旨をその理由を附記した書面で当該登録申請者に通知しなければならない。
（１）　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な博物館資料があること。
（２）　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な学芸員その他の職員を有すること。
（３）　第２条第１項に規定する目的を達成するために必要な建物及び土地があること。
（４）　１年を通じて150日以上開館すること。

（登録事項等の変更）
第13条　博物館の設置者は、第11条第１項各号に掲げる事項について変更があつたとき、又は同条第２項に規定する添付書類の記載事項について重要な変更があつたときは、その旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。
２　都道府県の教育委員会は、第11条第１項各号に掲げる事項に変更があつたことを知つたときは、当該博物館に係る登録事項の変更登録をしなければならない。

（登録の取消）
第14条　都道府県の教育委員会は、博物館が第12条各号に掲げる要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて登録した事実を発見したときは、当該博物館に係る登録を取り消さなければならない。但し、博物館が天災その他やむを得ない事由により要件を欠くに至つた場合においては、その要件を欠くに至つた日から２年間はこの限りでない。
２　都道府県の教育委員会は、前項の規定により登録の取消しをしたときは、当該博物館の設置者に対し、速やかにその旨を通知しなければならない。

（博物館の廃止）
第15条　博物館の設置者は、博物館を廃止したときは、すみやかにその旨を都道府県の教育委員会に届け出なければならない。
２　都道府県の教育委員会は、博物館の設置者が当該博物館を廃止したときは、当該博物館に係る登録をまつ消しなければならない。

（規則への委任）
第16条　この章に定めるものを除くほか、博物館の登録に関し必要な事項は、都道府県の教育委員会の規則で定める。
第17条　削除

第３章　公立博物館

（設　置）
第18条　公立博物館の設置に関する事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。

（所　管）
第19条　公立博物館は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会（地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第23条第１項の条例に定めるところにより地方公共団体の長がその設置、管理及び廃止に関する事務を管理し、及び執行することとされた博物館にあつては、当該地方公共団体の長。第21条において同じ。）の所管に属する。

（博物館協議会）
第20条　公立博物館に、博物館協議会を置くことができる。
２　博物館協議会は、博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関とする。
第21条　博物館協議会の委員は、当該博物館を設置する地方公共団体の教育委員会が任命する。
第22条　博物館協議会の設置、その委員の任命の基準、定数及び任期その他博物館協議会に関し必要な事項は、当該博物館を設置する地方公共団体の条例で定めなければならない。この場合において、委員の任命の基準については、文部科学省令で定める基準を参酌するものとする。

（入館料等）
第23条　公立博物館は、入館料その他博物館資料の利用に対する対価を徴収してはならない。但し、博物館の維持運営のためにやむを得ない事情のある場合は、必要な対価を徴収することができる。

（博物館の補助）
第24条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し、予算の範囲内において、博物館の施設、設備に要する経費その他必要な経費の一部を補助することができる。
２　前項の補助金の交付に関し必要な事項は、政令で定める。
第25条　　削除

（補助金の交付中止及び補助金の返還）
第26条　国は、博物館を設置する地方公共団体に対し第24条の規定による補助金の交付をした場合において、左の各号の一に該当するときは、当該年度におけるその後の補助金の交付をやめるとともに、第一号の場合の取消が虚偽の申請に基いて登録した事実の発見に因るものである場合には、既に交付した補助金を、第三号及び第四号に該当する場合には、既に交付した当該年度の補助金を返還させなければならない。

（1）　当該博物館について、第十四条の規定による登録の取消があつたとき。
（2）　地方公共団体が当該博物館を廃止したとき。
（3）　地方公共団体が補助金の交付の条件に違反したとき。
（4）　地方公共団体が虚偽の方法で補助金の交付を受けたとき。

第４章　私立博物館

（都道府県の教育委員会との関係）
第27条　都道府県の教育委員会は、博物館に関する指導資料の作成及び調査研究のために、私立博物館に対し必要な報告を求めることができる。
２　都道府県の教育委員会は、私立博物館に対し、その求めに応じて、私立博物館の設置及び運営に関して、専門的、技術的の指導又は助言を与えることができる。
（国及び地方公共団体との関係）
第28条　国及び地方公共団体は、私立博物館に対し、その求めに応じて、必要な物資の確保につき援助を与えることができる。

第５章　雑則

（博物館に相当する施設）
第29条　博物館の事業に類する事業を行う施設で、国又は独立行政法人が設置する施設にあつては文部科学大臣が、その他の施設にあつては当該施設の所在する都道府県の教育委員会（当該施設（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市の区域内に所在する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会）が、文部科学省令で定めるところにより、博物館に相当する施設として指定したものについては、第27条第２項の規定を準用する。
附　則
（施行期日）
１　この法律は、公布の日から起算して３箇月を経過した日から施行する。
（経過規定）
２　第６条に規定する者には、旧中等学校令（昭和18年勅令第36号）、旧高等学校令又は旧青年学校令（昭和14年勅令第254号）の規定による中等学校、高等学校尋常科又は青年学校本科を卒業し、又は修了した者及び文部省令でこれらの者と同等以上の資格を有するものと定めた者を含むものとする。
附　則（昭和27年８月14日　法律第305号）抄
（施行期日）
１　この法律は、附則第６項及び附則第16項から附則第26項までの規定を除き、公布の日から施行し、附則第６項及び附則第16項から附則第26項までの規定は、公布の日から起算して６箇月をこえない期間内において政令で定める日から施行する。
附　則（昭和30年７月22日　法律第81号）
（施行期日）
１　この法律は、公布の日から施行する。
（経過規定）
２　改正前の博物館法（以下「旧法」という。）第５条第１項第２号、第４号又は第５号に該当する者は、改正後の博物館法（以下「新法」という。）第５条の規定にかかわらず、学芸員となる資格を有するものとする。
３　旧法附則第６項の規定により人文科学学芸員又は自然科学学芸員となる資格を有していた者は、新法第５条の規定にかかわらず、この法律の施行の日から起算して１年間は、学芸員となる資格を有するものとする。
４　新法第５条第２号の学芸員補の職には、旧法附則第４項に規定する学芸員補の職に相当する職又はこれと同等以上の職を含むものとする。
附　則（昭和31年６月30日　法律第163号）抄
（施行期日）
１　この法律は、昭和31年10月１日から施行する。
附　則（昭和34年４月30日　法律第158号）抄
（施行期日）
１　この法律は、公布の日から施行する。
附　則（昭和46年６月１日　法律第96号）抄
（施行期日等）
１　この法律は、公布の日から施行する。
（経過措置）
５　この法律の施行前に第13条の規定による改定前の博物館法第29条の規定により文部大臣がした指定は、第13条の規定による改正後の博物館法第29条の規定により文部大臣又は都道府県の教育委員会がした指定とみなす。
附　則（昭和58年12月２日　法律第78号）抄
１　この法律（第１条を除く。）は、昭和59年７月１日から施行する。
附　則（昭和61年12月４日　法律第93号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、昭和62年４月１日から施行する。
（政令への委任）
第42条　附則第２条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。
附　則（平成３年４月２日　法律第23号）抄
（施行期日）
１　この法律は、平成３年７月１日から施行する。
附　則（平成３年４月２日　法律第25号）抄
（施行期日）
１　この法律は、平成３年７月１日から施行する。
附　則（平成５年11月12日　法律第89号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、行政手続法（平成５年法律第88号）の施行の日から施行する。
（諮問等がされた不利益処分に関する経過措置）
第２条　この法律の施行前に法令に基づき審議会その他の合議制の機関に対し行政手続法第13条に規定する聴聞又は弁明の機会の付与の手続その他の意見陳述のための手続に相当する手続を執るべきことの諮問その他の求めがされた場合においては、当該諮問その他の求めに係る不利益処分の手続に関しては、この法律による改正後の関係法律の規定にかかわらず、なお従前の例による。

（政令への委任）
第15条　附則第２条から前条までに定めるもののほか、この法律の施行に関して必要な経過措置は、政令で定める。
附　則（平成11年７月16日　法律第87号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、平成12年４月１日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、該当各号に定める日から施行する。
（１）　第１条中地方自治法第250条の次に５条、節名並びに２款及び款名を加える改正規定（同法第250条の９第１項に係る部分（両議院の同意を得ることに係る部分に限る。）に限る。）、第40条中自然公園法附則第９号及び第10項の改正規定（同法附則第10項に係る部分に限る。）、第244条の規定（農業改良助長法第14条の３の改正規定に係る部分を除く。）並びに第472条の規定（市町村の合併の特例に関する法律第６条、第８条及び第17条の改正規定に係る部分を除く。）並びに附則第７条、第10条、第12条、第59条ただし書、第60条第４項及び第５項、第73条、第77条、第157条第４項から第６項まで、第160条、第163条、第164条並びに第202条の規定　公布の日
（国等の事務）
第159条　この法律による改正前のそれぞれの法律に規定するもののほか、この法律の施行前において、地方公共団体の機関が法律又はこれに基づく政令により管理し又は執行する国、他の地方公共団体その他公共団体の事務（附則第161条において「国等の事務」という。）は、この法律の施行後は、地方公共団体が法律又はこれに基づく政令により該当地方公共団体の事務として処理するものとする。
（処分、申請に関する経過措置）
第160条　この法律（附則第１条各号に掲げる規定については、該当各規定。以下この条及び附則第163条において同じ。）の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定によりされた許可等の処分その他の行為（以下この条において「処分等の行為」という。）又はこの法律の施行の際現に改正前のそれぞれの法律の規定によりされている許可等の申請その他の行為（以下この条において「申請等の行為」という。）で、この法律の施行の日においてこれらの行為に係る行政事務を行うべき者が異なることとなるものは、附則第２条から前条までの規定又は改正後のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。）の過程措置に関する規定に定めるものを除き、この法律の施行の日以後における改正後のそれぞれの法律の適用については、改正後のそれぞれの法律の相当規定によりされた処分等の行為又は申請等の行為とみなす。
２　この法律の施行前に改正前のそれぞれの法律の規定により国又は地方公共団体の機関に対し報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、この法律及びこれに基づく政令に別段の定めがあるもののほか、これを、改正後のそれぞれの法律の相当規定により国又は地方公共団体の機関に対して報告、届け出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、この法律による改正後のそれぞれの法律の適用をする。
（不服申立てに関する経過措置）
第161条　施行日前にされた国等の事務に係る処分であって、当該処分をした行政庁（以下この条において「処分庁」という。）に施行日前に行政不服審査法に規定する上級行政庁（以下この条において「上級行政庁」という。）があったものについての同法による不服申立てについては、施行日以後においても、該当処分庁に引き続き上級行政庁があるものとみなして、行政不服審査法の規定を適用する。この場合において、当該処分庁の上級行政庁とみなされる行政庁は、施行日前に該当処分庁の上級行政庁であった行政庁とする。
２　前項の場合において、上級行政庁とみなされる行政庁が地方公共団体の機関であるときは、該当機関が行政不服審査法の規定により処分することとされる事務は、新地方自治法第２条第９項第１号法定受託事務とする。
（その他の経過措置の政令への委任）
第164条　この附則に規定するもののほか、この法律の施行に伴い必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。
（検討）
第250条　新地方自治法第２条第９条１号に規定する第１号法廷受託事務については、できる限り新たに設けることのないようにするとともに、新地方自治法別表第１に掲げるもの及び新地方自治法に基づく政令に示すものについては、地方分権を推進する観点から検討を加え、適宜、適切な見直しを行うものとする。
第251条　政府は、地方公共団体が行う事務及び事業を自主的かつ自律的に執行できるよう、国と地方公共団体との役割分担に応じた地方財源の充実確保の方途について、経済情勢の推移等を勘案しつつ検討し、その結果に基づいて必要な措置を講ずるものとする。
附　則（平成11年12月22日　法律第160号）抄
（施行期日）
第１条　この法律（第２条及び第３条を除く。）は、平成13年１月６日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
（１）　第995条（核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律の一部を改正する法律附則の改正規定に係る部分に限る。）、第1305条、第1306条、第1324条第２項、第1326条第２項及び第1344条の規定　公布の日
附　則（平成11年12月22日　法律第220号）抄
（施行期日）
第１条　この法律（第１条を除く。）は、平成13年１月６日から施行する。
（政令への委任）
第４条　前２条に定めるもののほか、この法律の施行に関し必要な事項は、政令で定める。
附　則（平成13年７月11日　法律第105号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、公布の日から施行する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
（１）　略
（２）　第56条に１項を加える改正規定、第57条第３項の改正規定、第67条に１項を加える改正規定並びに第73条の３及び第82条の10の改正規定並びに次条及び附則第５条から第16条までの規定　平成14年４月１日
附　則（平成18年６月２日　法律第50号）抄
この法律は、一般社団・財団法人法の施行の日から施行する。
附　則（平成19年６月27日　法律第96号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、公布の日から起算して６月を越えない範囲内において政令で定める日から施行する。
附　則（平成20年６月11日　法律第59号）抄
（施行期日）
（１）　この法律は、公布の日から施行する。
附　則（平成23年６月22日　法律第70号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、平成24年４月１日から施行する。ただし、次条の規定は公布の日から、附則第17条の規定は地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律（平成23年法律第105号）の公布の日又はこの法律の公布の日のいずれか遅い日から施行する。
附　則（平成23年６月24日　法律第74号）抄

（施行期日）
第１条　この法律は、公布の日から起算して20日を経過した日から施行する。
附　則（平成23年８月30日　法律第105号）抄
（施行期日）
（１）　略
（２）　第２条、第10条（構造改革特別区域法第18条の改正規定に限る。）、第14条（地方自治法第252条の19、第260条並びに別表第１騒音規制法（昭和43年法律第98号）の項、都市計画法（昭和43年法律第100号）の項、都市再開発法（昭和44年法律第38号）の項、環境基本法（平成５年法律第91号）の項及び密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（平成９年法律第49号）の項並びに別表第２都市再開発法（昭和44年法律第38号）の項、公有地の拡大の推進に関する法律（昭和47年法律第66号）の項、大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法（昭和50年法律第67号）の項、密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律（平成９年法律第49号）の項及びマンションの建替えの円滑化等に関する法律（平成14年法律第78号）の項の改正規定に限る。）、第17条から第19条まで、第22条（児童福祉法第21条の５の６、第21条の５の15、第21条の５の23、第24条の９、第24条の17、第24条の28及び第24条の36の改正規定に限る。）、第23条から第27条まで、第29条から第33条まで、第34条（社会福祉法第62条、第65条及び第71条の改正規定に限る。）、第35条、第37条、第38条（水道法第46条、第48条の２、第50条及び第50条の２の改正規定を除く。）、第39条、第43条（職業能力開発促進法第19条、第23条、第28条及び第30条の２の改正規定に限る。）、第51条（感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第64条の改正規定に限る。）、第54条（障害者自立支援法第88条及び第89条の改正規定を除く。）、第65条（農地法第３条第１項第９号、第４条、第５条及び第57条の改正規定を除く。）、第87条から第92条まで、第99条（道路法第24条の３及び第48条の３の改正規定に限る。）、第101条（土地区画整理法第76条の改正規定に限る。）、第102条（道路整備特別措置法第18条から第21条まで、第27条、第49条及び第50条の改正規定に限る。）、第103条、第105条（駐車場法第４条の改正規定を除く。）、第107条、第108条、第115条（首都圏近郊緑地保全法第15条及び第17条の改正規定に限る。）、第106条（流通業務市街地の整備に関する法律第３条の２の改正規定を除く。）、第108条（近畿圏の保全区域の整備に関する法律第16条及び第18条の改正規定に限る。）、第120条（都市計画法第６条の２、第８条、第10条の２から第12条の２まで、第12条の４、第12条の５、第12条の10、第14条、第20条、第23条、第33条及び第58条の２の改正規定を除く。）、第121条（都市再開発法第７条の４から第７条の７まで、第60条から第62条まで、第66条、第98条、第99条の８、第139条の３、第141条の２及び第142条の改正規定に限る。）、第125条（公有地の拡大の推進に関する法律第９条の改正規定を除く。）、第128条（都市緑地法第20条及び第39条の改正規定を除く。）、第131条（大都市地域における住宅及び住宅地の供給の促進に関する特別措置法第７条、第26条、第64条、第67条、第104条及び第109条の２の改正規定に限る。）、第142条（地方拠点都市地域の整備及び産業業務施設の再配置の促進に関する法律第18条及び第21条から第23条までの改正規定に限る。）、第145条、第146条（被災市街地復興特別措置法第５条及び第７条第３項の改正規定を除く。）、第149条（密集市街地における防災街区の整備の促進に関する法律第20条、第21条、第191条、第192条、第197条、第233条、第241条、第283条、第311条及び第318条の改正規定に限る。）、第155条（都市再生特別措置法第51条第４項の改正規定に限る。）、第156条（マンションの建替えの円滑化等に関する法律第102条の改正規定を除く。）、第157条、第158条（景観法第57条の改正規定に限る。）、第160条（地域における多様な需要に応じた公的賃貸住宅等の整備等に関する特別措置法第６条第５項の改正規定（「第２項第２号イ」に改める部分を除く。）並びに同法第11条及び第13条の改正規定に限る。）、第162条（高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律第10条、第12条、第13条、第36条第２項及び第56条の改正規定に限る。）、第165条（地域における歴史的風致の維持及び向上に関する法律第24条及び第29条の改正規定に限る。）、第169条、第171条（廃棄物の処理及び清掃に関する法律だお21条の改正規定に限る。）、第174条、第178条、第182条（環境基本法第16条及び第40条の２の改正規定に限る。）及び第187条（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律第15条の改正規定、同法第28条第９項の改正規定（「第４条第３項」を「第４条第４項」に改める部分を除く。）、同法第29条第４項の改正規定（「第４条第３項」を「第４条第４項」）に改める部分を除く。）並びに同法第34条及び第35条の改正規定に限る。）の規定並びに附則第13条、第15条から第24条まで、第25条第１項、第26条、第27条第１項から第３項まで、第30条から第32条まで、第38条、第44条、第46条第１項及び第４項、第47条から第49条まで、第51条から第53条まで、第55条、第58条、第59条、第61条から第69条まで、第71条、第72条第１項から第３項まで、第74条から第76条まで、第78条、第80条第１項及び第３項、第83条、第87条（地方税法第587条の２及び附則第11条の改正規定を除く。）、第89条、第90条、第92条（高速自動車国道法第25条の改正規定に限る。）、第101条、第102条、第105条から第107条まで、第112条、第117条（地方における多様な主体の連携による生物の多様性の保全のための活動の促進等に関する法律（平成22年法律第72号）第４条第８項の改正規定に限る。）、第119条、第121条の２並びに第123条第２項の規定　平成24年４月１日
（政令への委任）
第82条　この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。
附　則（平成23年12月14日　法律第122号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、公布の日から起算して２月を越えない範囲内において政令で定める日から施工する。ただし、次の各号に掲げる規定は、当該各号に定める日から施行する。
（１）　附則第６条、第８条、第９条及び第13条の規定　公布の日
附　則（平成26年６月４日　法律第51号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、平成27年４月１日から施行する。
（処分、申請等に関する経過措置）
第７条　この法律（附則第１条各号に掲げる規定については、当該各規定。以下この条及び次条において同じ。）の施行前にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定によりされた許可等の処分その他の行為（以下この項において「処分等の行為」という。）又はこの法律の施行の際現にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定によりされている許可等の申請その他の行為（以下この項において「申請等の行為」という。）で、この法律の施行の日においてこれらの行為に係る行政事務を行うべき者が異なることとなるものは、附則第２条から前条までの規定又はこの法律による改正後のそれぞれの法律（これに基づく命令を含む。）の経過措置に関する規定に定めるものを除き、この法律の施行の日以後におけるこの法律による改正後のそれぞれの法律の適応については、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当規定によりされた処分等の行為又は申請等の行為とみなす。
（２）　この法律の施行前にこの法律による改正前のそれぞれの法律の規定により国又は地方公共団体の機関に対し報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項で、この法律の施行の日前にその手続がされていないものについては、この法律及びこれに基づく政令に別段の定めがあるもののほか、これを、この法律による改正後のそれぞれの法律の相当規定により国又は地方公共団体の相当の機関に対して報告、届出、提出その他の手続をしなければならない事項についてその手続がされていないものとみなして、この法律による改正後のそれぞれの法律の規定を適用する。
（政令への委任）
第９条　附則第２条から前条までに規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。
附　則（平成29年５月31日　法律第41号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、平成31年４月１日から施行する。ただし、次条及び附則第48条の規定は、公布の日から施行する。

（政令への委任）
第48条　この附則に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置は、政令で定める。
附　則（令和元年６月７日　法律第26号）抄
（施行期日）
第１条　この法律は、公布の日から施行する。
（政令への委任）
第４条　前２条に規定するもののほか、この法律の施行に関し必要な経過措置（罰則に関する経過措置を含む。）は、政令で定める。

○博物館法施行令

昭和27年３月20日　政令第 47号
〔最終改正〕昭和34年４月30日　政令第157号

内閣は、博物館法（昭和26年法律第285号）第25条第２項の規定に基き、及び同条の規定を実施するため、この政令を制定する。
（政令で定める法人）
第１条　博物館法（以下「法」という。）第２条第１項の政令で定める法人は、次に掲げるものとする。
１　日本赤十字社。
２　日本放送協会。
（施設、設備に要する経費の範囲）
第２条　法第24条第１項に規定する博物館の施設、設備に要する経費の範囲は、次に掲げるものとする。
１　施設費　施設の建築に要する本工事費、附帯工事費及び事務費
２　設備費　博物館に備えつける博物館資料及びその利用のための器材器具の購入に要する経費。
附　則
この政令は、公布の日から施行する。
附　則（昭和30年８月24日　政令第192号）　抄
１　この政令は、公布の日から施行し、昭和30年７月22日から適用する。
附　則（昭和31年６月30日　政令第222号）　抄
（施行期日）
１　この政令は、昭和31年10月１日から施行する。
附　則（昭和34年４月30日　政令第157号）　抄
（施行期日）
１　この政令は、公布の日から施行する。

○博物館法施行規則

昭和30年10月４日　文部省令第24号
〔最終改正〕令和元年７月１日　文部科学省令第９号

博物館法（昭和26年法律第285号）第５条及び第29条の規定に基き、博物館法施行規則（昭和27年文部省令第11号）の全部を改正する省令を次のように定める。
目次
第１章　博物館に関する科目の単位（第１条・第２条）
第２章　学芸員の資格認定（第３条―第17条）
第３章　博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるにあたって参酌すべき基準（第18条）
第４章　博物館に相当する施設の指定（第19条―第24条）
第５章　雑則（第25条―第29条）
附則

第１章　博物館に関する科目の単位

（博物館に関する科目の単位）
第１条　博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第５条第１項第１号に規定する博物館に関する科目の単位は、次の表に掲げるものとする。

科目	単位数
生涯学習概論	2
博物館概論	2
博物館経営論	2
博物館資料論	2
博物館資料保存論	2
博物館展示論	2
博物館教育論	2
博物館情報・メディア論	2
博物館実習	3

２　博物館に関する科目の単位のうち、すでに大学において修得した科目の単位又は第６条第３項に規定する試験科目について合格点を得ている科目は、これをもつて、前項の規定により修得すべき科目の単位に替えることができる。
（博物館実習）
第２条　前条に掲げる博物館実習は、博物館（法第２条第１項に規定する博物館をいう。以下同じ。）又は法第29条の規定に基づき文部科学大臣若しくは都道府県若しくは指定都市（地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第１項の指定都市をいう。以下同じ。）の教育委員会の指定した博物館に相当する施設（大学においてこれに準ずると認めた施設を含む。）における実習により修得するものとする。
２　博物館実習には、大学における博物館実習に係る事前及び事後の指導を含むものとする。

第２章　学芸員の資格認定

（資格認定）
第３条　法第５条第１項第３号の規定により学芸員となる資格を有する者と同等以上の学力及び経験を有する者と認められる者は、この章に定める試験認定又は審査認定（以下「資格認定」という。）の合格者とする。
（資格認定の施行期日等）
第４条　資格認定は、毎年少なくとも各１回、文部科学大臣が行う。

２　資格認定の施行期日、場所及び出願の期限等は、あらかじめ、官報で公告する。ただし、特別の事情がある場合には、適宜な方法によつて公示するものとする。

（試験認定の受験資格）

第５条　次の各号のいずれかに該当する者は、試験認定を受けることができる。

（１）　学士の学位（学位規則（昭和28年文部省令第９号）第２条の２の表に規定する専門職大学を卒業した者に授与する学位を含む。第９条第３号イにおいて同じ。）を有する者

（２）　大学に２年以上在学して62単位以上を修得した者で２年以上学芸員補の職（法第５条第２項に規定する職を含む。以下同じ。）にあつた者

（３）　教育職員免許法（昭和24年法律第147号）第２条第１項に規定する教育職員の普通免許状を有し、２年以上教育職員の職にあつた者

（４）　４年以上学芸員補の職にあつた者

（５）　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（試験認定の方法及び試験科目）

第６条　試験認定は、大学卒業の程度において、筆記の方法により行う。

２　試験認定は、２回以上にわたり、それぞれ１以上の試験科目について受けることができる。

３　試験科目は、次表に定めるとおりとする。

試験科目	試験認定の必要科目	
必須科目	生涯学習概論	上記科目の全科目
	博物館概論	
	博物館経営論	
	博物館資料論	
	博物館資料保存論	
	博物館展示論	
	博物館教育論	
	博物館情報・メディア論	
選択科目	文化史	上記科目のうちから受験者の選択する２科目
	美術史	
	考古学	
	民俗学	
	自然科学史	
	物理	
	化学	
	生物学	
	地学	

（試験科目の免除）

第７条　大学において前条に規定する試験科目に相当する科目の単位を修得した者又は文部科学大臣が別に定めるところにより前条に規定する試験科目に相当する学修を修了した者に対しては、その願い出により、当該科目についての試験を免除する。

第８条　削除

（審査認定の受験資格）

第９条　次の各号のいずれかに該当する者は、審査認定を受けることができる。

（１）　学位規則による修士若しくは博士の学位又は専門職学位を有する者であつて、２年以上学芸員補の職にあつた者

（２）　大学において博物館に関する科目（生涯学習概論を除く。）に関し２年以上教授、准教授、助教又は講師の職にあつた者であつて、２年以上学芸員補の職にあつた者

（３）　次のいずれかに該当する者であつて、都道府県の教育委員会の推薦する者

イ　学士の学位を有する者であつて、４年以上学芸員補の職にあつた者

ロ　大学に２年以上在学し、62単位以上を修得した者であつて、６年以上学芸員補の職にあつた者

ハ　学校教育法（昭和22年法律第26号）第90条第１項の規定により大学に入学することのできる者であつて、８年以上学芸員補の職にあつた者

ニ　その他11年以上学芸員補の職にあつた者

（４）　その他文部科学大臣が前各号に掲げる者と同等以上の資格を有すると認めた者

（審査認定の方法）

第10条　審査認定は、次条の規定により願い出た者について、博物館に関する学識及び業績を審査して行うものとする。

（受験の手続）

第11条　資格認定を受けようとする者は、受験願書（別記第１号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、文部科学大臣に願い出なければならない。この場合において、住民基本台帳法（昭和42年法律第81号）第30条の９の規定により機構保存本人確認事項（同法第７条第８号の２に規定する個人番号を除く。）の提供を受けて文部科学大臣が資格認定を受けようとする者の氏名、生年月日及び住所を確認することができるときは、第３号に掲げる住民票の写しを添付することを要しない。

（１）　受験資格を証明する書類

（２）　履歴書（別記第２号様式により作成したもの）

（３）　戸籍抄本又は住民票の写し（いずれも出願前６月以内に交付を受けたもの）

（４）　写真（出願前６月以内に撮影した無帽かつ正面上半身のもの）

２　前項に掲げる書類は、やむを得ない事由があると文部科学大臣が特に認めた場合においては、他の証明書をもつて代えることができる。

３　第７条の規定に基づき試験認定の試験科目の免除を願い出る者については、その免除を受ける資格を証明する書類を提出しなければならない。

４　審査認定を願い出る者については、第１項各号に掲げるもののほか、次に掲げる資料又は書類を提出しなければならない。

（１）　第９条第１号又は同条第２号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等

（２）　第９条第３号により出願する者にあつては、博物館に関する著書、論文、報告等又は博物館に関する顕著な実績を証明する書類

（３）　第９条第４号により出願する者にあつては、前２号に準ずる資料又は書類

（試験認定合格者）

第12条　試験科目（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）の全部について合格点を得た者（試験科目の全部について試験の免除を受けた者を含む。以下、「筆記試験合格者」という。）であつて、１年間学芸員補の職にあつた後に文部科学大臣が認定した者を試験認定合格者とする。
２　筆記試験合格者が試験認定合格者になるためには、試験認定合格申請書（別記第３号様式によるもの）を文部科学大臣に提出しなければならない。

（審査認定合格者）

第13条　第10条の規定による審査に合格した者を審査認定合格者とする。

（合格証書の授与等）

第14条　試験認定合格者及び審査認定合格者に対しては、合格証書（別記第４号様式によるもの）を授与する。
２　筆記試験合格者に対しては、筆記試験合格証書（別記第５号様式によるもの）を授与する。
３　合格証書を有する者が、その氏名を変更し、又は合格証書を破損し、若しくは紛失した場合において、その事由をしるして願い出たときは、合格証書を書き換え又は再交付する。

（合格証明書の交付等）

第15条　試験認定合格者又は審査認定合格者が、その合格の証明を願い出たときは、合格証明書（別記第６号様式によるもの）を交付する。
２　筆記試験合格者が、その合格の証明を申請したときは、筆記試験合格証明書（別記第７号様式によるもの）を交付する。
３　１以上の試験科目について合格点を得た者（筆記試験合格者を除く。次条及び第17条において「筆記試験科目合格者」という。）がその科目合格の照明を願い出たときは、筆記試験科目合格証明書（別記第８号様式によるもの）を交付する。

（手数料）

第16条　次表の上欄に掲げる者は、それぞれその下欄に掲げる額の手数料を納付しなければならない。

上欄	下欄
１　試験認定を願い出る者	一科目につき1,300円
２　審査認定を願い出る者	3,800円
３　試験認定の試験科目の全部について免除を願い出る者	800円
４　合格証書の書換え又は再交付を願い出る者	700円
５　合格証明書の交付を願い出る者	700円
６　筆記試験合格証明書の交付を願い出る者	700円
７　筆記試験科目合格証明書を願い出る者	700円

２　前項の規定によつて納付すべき手数料は、収入印紙を用い、収入印紙は、各願書にはるものとする。ただし、行政手続等における情報通信の技術の利用に関する法律（平成14年法律第151号）第３条第１項の規定により申請等を行つた場合は、当該申請等により得られた納付情報により手数料を納付しなければならない。
３　納付した手数料は、これを返還しない。

（不正の行為を行つた者等に対する処分）

第17条　虚偽若しくは不正の方法により資格認定を受け、又は資格認定を受けるにあたり不正の行為を行つた者に対しては、受験を停止し、既に受けた資格認定の成績を無効にするとともに、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。
２　試験認定合格者、審査認定合格者、筆記試験合格者又は筆記試験科目合格者について前項の事実があつたことが明らかになつたときは、その合格を無効にするとともに、既に授与し、又は交付した合格証書その他当該合格を証明する書類を取り上げ、かつ、期間を定めてその後の資格認定を受けさせないことができる。
３　前２項の処分をしたときは、処分を受けた者の氏名及び住所を官報に公告する。

第３章　博物館協議会の委員の任命の基準を条例で定めるに当たつて参酌すべき基準

第18条　法第22条の文部科学省令で定める基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

第４章　博物館に相当する施設の指定

（申請の手続）

第19条　法第29条の規定により博物館に相当する施設として文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会の指定を受けようとする場合は、博物館相当施設指定申請書（別記第９号様式により作成したもの）に次に掲げる書類等を添えて、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人（独立行政法人通則法（平成11年法律第103号）第２号第１項に規定する独立行政法人をいう。第21条において同じ。）が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県又は指定都市が設置する施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会（当該施設（都道府県が設置するものを除く。）が指定都市の区域内に所在する場合にあつては、当該指定都市の教育委員会。第21条において同じ。）に、それぞれ提出しなければならない。
（１）　当該施設の有する資料の目録
（２）　直接当該施設の用に供する建物及び土地の面積を記載した書面及び図面
（３）　当該年度における事業計画書及び予算の収支の見積に関する書類
（４）　当該施設の長及び学芸員に相当する職員の氏名を記載した書類

（指定要件の審査）

第20条　文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会は、博物館に相当する施設として指定しようとするときは、申請に係る施設が、次の各号に掲げる要件を備えているかどうかを審査するものとする。
（１）　博物館の事業に類する事業を達成するために必要な資料を整備していること。
（２）　博物館の事業に類する事業を達成するために必要な専用の施設及び設備を有すること。
（３）　学芸員に相当する職員がいること。
（４）　一般公衆の利用のために当該施設及び設備を公開すること。
（４）　１年を通じて100日以上開館すること。
２　前項に規定する指定の審査に当つては、必要に応じて当該施設の実地について審査するものとする。

第21条　文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会の指定する博物館に相当する施設（以下「博物館相当施設」という。）が第20条第１項に規定する要件を欠くに至つたときは、直ちにその旨を、国立の施設にあつては当該施設の長が、独立行政法人が設置する施設にあつては当該独立行政法人の長が文部科学大臣に、都道府県又は指定都市が設置する施設にあつては当該施設の長（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が、その他の施設にあつては当該施設を設置する者（大学に附属する施設にあつては当該大学の長）が当該施設の所在する都道府県の教育委員会に、それぞれ報告しなければならない。

第22条　削除
第23条　文部科学大臣又は都道府県若しくは指定都市の教育委員会は、その指定した博物館相当施設に対し、第20条第１項に規定する要件に関し、必要な報告を求めることができる。
（指定の取消）
第24条　文部科学大臣又は都道府県の教育委員会は、その指定した博物館相当施設が第20条第１項に規定する要件を欠くに至つたものと認めたとき、又は虚偽の申請に基いて指定した事実を発見したときは、当該指定を取り消すものとする。

第５章　雑則

（学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）
第25条　第５条第１号及び第９条第３号イに規定する学士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。
（１）　旧大学令（大正７年勅令第388号）による学士の称号を有する者
（２）　学校教育法施行規則（昭和22年文部省令第11号）第155条第１項第２号から第８号までのいずれかに該当する者
（短期大学士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）
第26条　第５条第２号及び第９条第３号ロに規定する大学に２年以上在学し、62単位以上を修得した者には、次に掲げる者を含むものとする。
（１）　旧大学令、旧高等学校令（大正７年勅令第389号）、旧専門学校令（明治36年勅令第61号）又は旧教員養成諸学校官制（昭和21年勅令第208号）の規定による大学予科、高等学校高等科、専門学校又は教員養成諸学校を修了し、又は卒業した者
（２）　学校教育法施行規則第155条第２項各号のいずれかに該当する者
（修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）
第27条　第９条第１号に規定する修士の学位を有する者には、学校教育法施行規則第156条各号のいずれかに該当する者を含むものとする。
（博士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）
第28条　第９条第１号に規定する博士の学位を有する者には、次に掲げる者を含むものとする。
（１）　旧学位令（大正９年勅令第200号）による博士の称号を有する者
（２）　外国において博士の学位に相当する学位を授与された者
（専門職学位を有する者と同等以上の学力があると認められる者）
第29条　第９条第１号に規定する専門職学位を有する者には、外国において専門職学位に相当する学位を授与された者を含むものとする。
附則
１　この省令は、公布の日から施行する。
２　試験認定を受ける者のうち、博物館法の一部を改正する法律（昭和30年法律第81号）附則第３項の規定により学芸員となる資格を有する者にあつては、第６条第２項の規定にかかわらず、選択科目の試験を免除する。
附則（昭和41年11月２日文部省令第42号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（昭和42年11月９日文部省令第19号）抄
（施行期日）
１　この省令は、昭和42年11月10日から施行する。
附則（昭和46年６月１日文部省令第22号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（昭和47年４月27日文部省令第16号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（昭和50年７月26日文部省令第27号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（昭和56年３月23日文部省令第８号）
この省令は、昭和56年４月１日から施行する。
附則（昭和58年５月10日文部省令第21号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（昭和59年３月23日文部省令第２号）
この省令は、昭和59年４月１日から施行する。
附則（昭和62年３月28日文部省令第４号）
この省令は、昭和62年４月１日から施行する。
附則（平成元年３月29日文部省令第８号）
この省令は、平成元年４月１日から施行する。
附則（平成元年４月１日文部省令第18号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（平成３年３月16日文部省令第３号）
この省令は、平成３年４月１日から施行する。
附則（平成３年６月19日文部省令第31号）
この省令は、平成３年７月１日から施行する。
附則（平成５年４月23日文部省令第24号）
１　この省令は、公布の日から施行する。
２　この省令による改正後の学位規則第12条の規定にかかわらず、同条に規定する報告の様式については、平成６年３月31日までの間は、なお従前の例によることができる。
附則（平成６年３月22日文部省令第４号）
この省令は、平成６年４月１日から施行する。
附則（平成８年８月28日文部省令第28号）
１　この省令は、平成９年４月１日から施行する。
２　この省令の施行の日前に、改正前の博物館法施行規則（以下「旧規則」という。）第１条第１項に規定する科目の単位の全部を習得した者は、改正後の博物館法施行規則（以下「新規則」という。）第１条に規定する科目の単位の全部を修得したものとみなす。
３　この省令の施行の日前に、次の表の上欄に掲げる旧規則第１条第１項に規定する科目の単位を修得した者は、下欄に掲げる新基礎k第１条に規定する科目の単位を修得したものとみなす。

社会教育概論	１単位	生涯学習概論	１単位
博物館学	４単位	博物館概論	２単位

		博物館経営論	１単位
		博物館資料論	２単位
		博物館情報論	１単位
視聴覚教育	１単位	視聴覚教育メディア論	１単位
教育原理	１単位	教育学概論	１単位

４　この省令の施行の日前に、次の表の上欄に掲げる旧規則第６条第２項に規定する試験科目に合格した者は、下欄に掲げる新規則第６条第２項に規定する試験科目に合格したものとみなす。

社会教育概論	生涯学習概論
視聴覚教育	視聴覚教育メディア論
教育原理	教育学概論

附則（平成９年３月18日文部省令第１号）

この省令は、平成９月４月１日から施行する。

附則（平成10年12月18日文部省令第45号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成12年２月29日文部省令第７号）

この省令は、平成12年４月１日から施行する。

附則（平成12年10月31日文部省令第53号）　抄

（施行期日）

第１条　この省令は、内閣法の一部を改正する法律（平成11年法律第88号）の施行の日（平成13年１月６日）から施行する。

附則（平成15年３月28日文部科学省令第10号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成15年３月31日文部科学省令第15号）　抄

（施行期日）

第１条　この省令は、平成15年４月１日から施行する。

附則（平成15年12月19日文部科学省令第56号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成16年３月30日文部科学省令第13号）

この省令は、平成16年４月１日から施行する。

附則（平成16年３月31日文部科学省令第15号）　抄

（施行期日）

第１条　この省令は、平成16年４月１日から施行する。

附則（平成18年３月31日文部科学省令第11号）　抄

（施行期日）

第１条　この省令は、平成19年４月１日から施行する。

（助教授の在職に関する経過措置）

第２条　この省令の規定による改正後の次に掲げる省令の規定の適用については、この省令の施行前における助教授としての在職は、准教授としての在職とみなす。

（１）　略

（２）　博物館法施行規則第９条第２号

附則（平成20年６月11日文部科学省令第18号）

この省令は、社会教育法等の一部を改正する法律（平成20年法律第59号）の施行の日（平成20年６月11日）から施行する。

附則（平成21年４月30日文部科学省令第22号）

１　この省令は、平成24年４月１日から施行する。

２　この省令の施行の日前に、改正前の博物館法施行規則（以下「旧規則」という。）第１条に規定する博物館に関する科目（以下「旧科目」）という。）の単位の全部を修得した者は、改正後の博物館法施行規則（以下「新規則」という。）第一条に規定する博物館に関する科目（以下「新規則」という。）の単位の全部を修得したものとみなす。

３　この省令の施行の日前から引き続き大学に在学している者で、該当大学を卒業するまでに旧科目の単位の全部を取得した者は、新科目の単位の全部を修得したものとみなす。

４　この省令の施行の日前から引き続き大学に在学しているもので、当該大学を卒業するまでに次の表中新科目の欄に掲げる科目の単位を修得した者は、当該科目に相当する旧科目の欄に掲げる科目の単位を修得したものとみなす。

新科目	単位数	旧科目	単位数
生涯学習概論	2	生涯学習概論	1
博物館概論	2	博物館概論	2
博物館経営論	2	博物館経営論	1
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館教育論	2	博物館概論	1
博物館情報・メディア論	2	博物館情報論	1
		視聴覚教育メディア論	1
博物館実習	3	博物館実習	3
博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報・メディア論	2 2 2 2	博物館学 視聴覚教育メディア論	6 1
博物館経営論 博物館資料論 博物館情報・メディア論	2 2 2	博物館学各論 視聴覚教育メディア論	4 1

５　この省令の施行の日前に、次の表中旧科目の欄に掲げる科目の単位を修得した者が、新たに学芸員となる資格を得ようとする場合には、すでに修得した旧科目の単位は、当該科目に相当する新科目の単位とみなす。

旧科目	単位数	新科目	単位数
生涯学習概論	1	生涯学習概論	2
博物館概論	2	博物館概論	2

博物館経営論	1	博物館経営論	2
博物館資料論	2	博物館資料論	2
博物館情報論	1	博物館情報・メディア論	2
視聴覚教育メディア論	1		
博物館実習	3	博物館実習	3
博物館学	6	博物館概論	2
		博物館経営論	2
		博物館資料論	2
博物館学 視聴覚教育メディア論	6 1	博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報論・メディア論	2 2 2 2
博物館学各論	4	博物館経営論 博物館資料論	2 2
博物館学各論 視聴覚教育メディア論	4 1	博物館経営論 博物館資料論 博物館情報・メディア論	2 2 2

6　この省令の施行の日前に、旧規則第６条第２項に規定する試験科目（以下「旧試験科目」という。）の全部（試験科目の免除を受けた者については、その免除を受けた科目を除く。）に合格した者は、新規則第６条第３項に規定する試験科目（以下「新試験科目」という。）の全部に合格したものとみなす。

7　この省令の施行の日前から引き続き大学に在学している者のうち次に掲げる要件のいずれかに該当する者は、その願い出により、新試験科目の全部に合格したものとみなす。

（1）　該当大学を卒業するまでに、旧試験科目のすべてについて、それらに相当する科目の単位を大学において修得していること。

（2）　該当大学を卒業するまでに、旧試験科目のうち次に掲げるもの以外のものについて、それらに相当する科目の単位を大学において修得していること。

イ　この省令の施行の日前における旧規則第７条第１項の講習等の修了により、当該科目についての試験を免除することとされていた旧試験科目

ロ　この省令の施行の日前における旧規則第６条第２項の規定による試験において、合格点を得た旧試験科目

8　この省令の施行の日前から引き続き専修学校の専門課程（旧規則第７条第１項の講習等を提供していたものに限る。以下この項及び第11項において同じ。）に在学している者のうち次に掲げる要件のいずれかに該当する者は、その願い出により、新試験科目の全部に合格したものとみなす。

（1）　該当専修学校の専門課程を卒業するまでに、旧試験科目のすべてについて、それらに相当する講習等を専修学校の専門課程において修了していること。

（2）　当該専修学校の専門課程を卒業するまでに、旧試験科目のうち次に掲げるもの以外のものについて、それらに相当する講習等を専修学校の専門課程において修了していること。

イ　この省令の施行の日前に、大学において、当該科目に相当する科目の単位を修得している旧試験科目

ロ　この省令の施行の日前における旧規則第７条第１項の講習等の修了により、該当科目についての試験を免除することとされていた旧試験科目

ハ　この省令の施行の日前に受けた旧規則第６条第２項の規定による試験において、合格点を得た旧試験科目

9　この省令の施行の日前に、次の表中旧試験科目の欄に掲げる科目に合格した者は、当該試験科目に相当する新試験科目の欄に掲げる科目に合格したものとみなす。

旧試験科目	新試験科目
生涯学習概論	生涯学習概論
博物館学	博物館概論 博物館経営論 博物館資料論
博物館学 視聴覚教育メディア論	博物館概論 博物館経営論 博物館資料論 博物館情報・メディア論
文化史	文化史
美術史	美術史
考古学	考古学
民俗学	民俗学
自然科学史	自然科学史
物理	物理
科学	科学
生物学	生物学
地学	地学

10　この省令の施行の日から平成24年12月31日までの間に行う新規則第２章に定める試験認定において、旧規則第５条第２号から第４号までのいずれかに該当する者が、新規則第12条第１項の筆記試験合格者となった場合は、新規則第12条第１項の規定にかかわらず、文部科学大臣の認定を受けるに当たり、筆記試験合格者となった後から１年間学芸員補の職にあることを要しない。

11　この省令の公布の日前から引き続き専修学校の専門課程に在職している者が、当該専修学校の専門課程を卒業して新規則第12条第１項の筆記試験合格者となった場合は、新規則第12条第１項の規定にかかわらず、文部科学大臣の認定を受けるに当たり、筆記試験合格者音なった後から１年間学芸員補の職にあることを要しない。

附則（平成23年12月１日文部科学省令第44号）　抄

（施行期日）

1　この省令は、平成24年４月１日から施行する。

附則（平成24年３月30日文部科学省令第16号）

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成24年６月29日文部科学省令第24号）
（施行期日）
１　この省令は、住民基本台帳法の一部を改正する法律（平成21年法律第77号）の一部及び出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律（平成21年法律第79号）の施行の日（平成24年７月９日）から施行する。
（経過措置）
２　この省令の施行の日から起算して６月を経過する日までの間における改正後の博物館法施行規則第11条第１項第3号の規定の適用については、同号中「住民票の写し」とあるのは、「住民票の写し（日本の国籍を有しない者にあつては、住民票の写し又は出入国管理及び難民認定法及び日本国との平和条約に基づき日本の国籍を離脱した者等の出入国管理に関する特例法の一部を改正する等の法律第４条の規定による廃止前の外国人登録法(昭和27年法律第125号)に規定する登録原票の写し若しくは登録原票記載事項証明書)」とする。
附則（平成26年９月３日文部科学省令第26号）
この省令は、平成27年４月１日から施行する。
附則（平成27年10月２日文部科学省令第34号）　抄
（施行期日）
１　この省令は、平成27年10月５日から施行する。
附則（平成29年10月31日文部科学省令第39号）
この省令は、平成31年４月１日から施行する。
附則（令和元年６月21日文部科学省令第５号）
この省令は、公布の日から施行する。
附則（令和元年７月１日文部科学省令第９号）
（施行期日）
１　この省令は、公布の日から施行する。
（経過措置）
２　この省令の施行の際、現に存する改正前の様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。
別記第１号様式　※記載省略
別記第２号様式　※記載省略
別記第３号様式　※記載省略
別記第４号様式　※記載省略
別記第５号様式　※記載省略
別記第６号様式　※記載省略
別記第７号様式　※記載省略
別記第８号様式　※記載省略
別記第９号様式　※記載省略

○博物館の登録に関する規則

昭和50年５月８日　教育委員会規則第５号
昭和56年３月30日　教育委員会規則第４号
平成６年３月31日　教育委員会規則第２号
〔最終改正〕令和３年３月26日　教育委員会規則第２号

博物館の登録に関する規則をここに公布する。
（趣　旨）
第１条　この規則は、博物館法（昭和26年法律第285号。以下「法」という。）第16条の規定に基づき博物館の登録に関し、必要な事項を定めるものとする。
（登録原簿等の様式）
第２条　法第10条、第11条第１項及び第11条第２項に規定する登録原簿等の名称及び様式は、次の表に掲げるとおりとする。

根拠条項	名称	様式
法第10条	博物館登録原簿	第１号様式
法第11条第１項	博物館登録申請書	第２号様式
法第11条第２項	博物館資料目録	第３号様式

（博物館登録申請書の添付書類）
第３条　博物館登録申請書には、法第11条第２項に規定する書類のほか、職員名簿（第４号様式）を添付するものとする。
（登録要件の審査）
第４条　法第12条の規定による登録要件の審査及び法第14条第１項の規定による登録の取消しを県教育委員会が行う場合は、当該博物館に対し、必要な資料を求め実地調査及び学識経験者の意見を聴くことができる。
（登録事項等の変更）
第５条　法第13条第１項の規定による変更の届出は、そのつど博物館登録事項等変更届出書（第５号様式）によつて行うものとする。ただし、博物館資料目録の軽微な変更については、毎年３月末日に届け出るものとする。
（博物館の廃止）
第６条　法第15条の規定による博物館の廃止の届出は、博物館廃止届（第６号様式）により行うものとする。
（公　示）
第７条　県教育委員会は、博物館の登録若しくは登録事項等の変更があつたとき、又は登録の取消し若しくはまつ消を行つたときは、その旨を沖縄県公報により公示するものとする。
附　則
この規則は、公布の日から施行し、昭和50年４月１日から適用する。
附　則（昭和56年３月30日教育委員会規則第４号）
この規則は、公布の日から施行する。
附　則（平成６年３月31日教育委員会規則第２号）
この規則は、平成６年４月１日から施行する。
附　則（令和３年３月26日教育委員会規則第２号）
この規則は、令和３年４月１日から施行する。

第１号様式
（第２条関係）

№.

博物館登録原簿

備考	所在地	名称	※設置者の名称及び住所	事項		
				記号番号	年月日	登録
				第号	年月日	
				年月日		登録変更
				年月日		
				年月日		登録変更
				年月日		

（※公立の場合は設置者の名称のみ記入）　（Ａ４版）

第２号様式
（第２条関係）

博物館登録申請書

文書番号
年　月　日

沖縄県教育委員会　殿

申請者　氏名

博物館法第11条第１項の規定により、下記施設を博物館として登録されるよう別添関係書類等を添えて申請します。

記

設置者の名称

私立博物館設置者の住所

名称

所在地

備考　この申請書には、次の書類を添付すること。
（１）　公立博物館にあつては設置条例の写し、私立博物館にあつては、法人の定款若しくは寄附行為の写し又は宗教法人の規則の写し
（２）　館則の写し
（３）　直接博物館の用に供する建物及び面積を記載した書面並びにその図面
（４）　当該年度における事業計画書及び公立博物館にあつては予算の歳出の見積り、私立博物館にあつては収支の見積りに関する書類
（５）　博物館資料の目録並びに館長の氏名及び学芸員の種類ごとの氏名を記載した書面
（６）　学芸員は、その資格を有することを証するにたる書類

第３号様式
（第２条関係）

博物館資料目録

博物館名

資　料　の　種　別			資料の種類及び数量				
自然科学に関する資料							
人文科学に関する資料							
種別	番号	名称	規格	品質	数量	取得年月日	備考

（Ａ４版）

第４号様式
（第３条関係）

職員名簿

博物館名

番号	氏名	職名	最終学歴	博物館職員としての勤務年数	担当職務	備考

（Ａ４版）

第５号様式
（第５条関係）

博物館登録事項変更届出書

文　書　番　号
年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

施　設　名
届出者氏名

博物館法第１３条第１項の規定により、下記のとおり変更届を提出します。

記

変　更　年　月　日		年　　月　　日
変　更　の　理　由		
変 更 事 項 の 種 類		
変更事項の内容	旧	
	新	

（Ａ４版）

第６号様式
（第６条関係）

博物館廃止届

文　書　番　号
年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

施　設　名
届出者氏名

博物館法第１５条第１項の規定により、下記のとおり届けます。

記

廃　止　年　月　日	年　　月　　日
廃　止　し　た　理　由	
廃 止 後 の 財 産 処 分	
その他参考となるべき事項	

（Ａ４版）

○沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則

平成23年３月31日　教育委員会規則第２号

沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則をここに公布する。

（趣　旨）

第１条　この規則は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第180条の７の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任することに関し、必要な事項を定めるものとする。

（委　任）

第２条　沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務のうち、次に掲げる事務以外の事務を沖縄県部等設置条例（昭和47年沖縄県条例第32号）第２条第８号の規定により設置される文化観光スポーツ部の長（以下「部長」という。）に委任する。ただし、沖縄県立博物館・美術館管理規則（平成19年沖縄県教育委員会規則第１号）第２条第３項ただし書の規定による認定に関する事務にあつては、知事が定める沖縄県立博物館・美術館の組織に関する規則の規定により設置される館長に委任する。

（１）　沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号）及び沖縄県立博物館・美術館管理規則（以下「条例等」という。）の改正及び廃止に関すること。

（２）　博物館法（昭和26年法律第285号）第21条及び沖縄県立博物館・美術館管理規則第12条第1項の規定による博物館・美術館協議会の委員の任免に関すること。

（合議等）

第３条　前条の規定により事務の委任を受ける者は、当該事務の執行について、この規則以外の教育委員会規則その他の規定により教育委員会又はその補助職員に対し、合議、協議、報告等（以下「合議等」という。）を要する定めのある事務については、合議等をしなければならない。

２　前条の規定にかかわらず、委任された事務に関し、重要かつ異例の事態が生じたときは、あらかじめ、その処理方針について、教育委員会の承認を受けなければならない。

附　則

（施行期日）

１　この規則は、平成23年4月1日から施行する。

（経過措置）

２　この規則の施行の際条例等の規定により教育委員会がした処分その他の行為で現にその効力を有するもの又はこの規則の施行の日（以下「施行日」という。）前に条例等の規定により教育委員会に対してなされた申請その他の行為で、施行日以後においては部長に委任されることとなる事務に係るものは、施行日以後における条例等の適用については、部長がした処分その他の行為又は部長に対してなされた申請その他の行為とみなす。

（沖縄県教育庁組織規則の一部改正）

３　沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第１号）の一部を次のように改正する。

第11条第８号を次のように改める。

（８）　博物館・美術館に関すること（沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則（平成23年沖縄県教育委員会規則第２号）により委任される事務に関するものを除く。）。

（沖縄県立教育機関組織規則の一部改正）

４　沖縄県立教育機関組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第２号）の一部を次のように改正する。

第１条中「、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号）」を削る。

第４条を削り、第４条の２を第４条とする。

第６条を次のように改める。

（職制等）

第６条　総合教育センター、図書館、埋蔵文化財センター及び青少年の家（以下「教育機関」という。）に、所長又は館長（以下「所長等」という。）を置く。

２　所長等は、上司の命を受け、当該教育機関が所掌する事務を掌理する。

第７条及び第８条を削り、第９条を第７条とする。

第９条の２の表中「総合教育センター（総務班を除く。）　博物館・美術館」を「総合教育センター（総務班を除く。）」に改め、同条を第８条とする。

第10条を第９条とし、第11条を第10条とし、第11条の２を第11条とする。

第12条第１項中「及び博物館・美術館」を削る。

第21条を第23条とし、第20条を第22条とし、第19条を第21条とする。

第18条中「第７条から第16条まで」を「第６条から第18条まで」に改め、同条の表中

「	学芸員	上司の命を受け、博物館・美術館の専門的事務に従事する。」

及び

「	学芸員補	上司の命を受け、学芸員の職務を助ける。」

を削り、同条を第20条とする。

第17条を第19条とする。

第16条中「第７条」を「第６条」に改め、同条を第18条とする。

第15条を第17条とし、第14条を第16条とし、第13条を削り、第12条の４を第15条とする。

第12条の３第１項中「、博物館・美術館」を削り、同条を第14条とする。

第12条の２を第13条とする。

（沖縄県教育委員会の所管する職員の勤務時間及び勤務時間の割り振り等に関する規則の一部改正）

５　沖縄県教育委員会の所管する職員の勤務時間及び勤務時間の割り振り等に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第22号）の一部を次のように改正する。

第４条第２項中「沖縄県立博物館・美術館、沖縄県立埋蔵文化財センター、」を「沖縄県立埋蔵文化財センター及び」に改める。

○沖縄県博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織等に関する規則

平成23年３月31日　規則第８号

〔一部改正〕令和２年３月31日　規則第29号

沖縄県立博物館・美術館の管理に関する事務を執行するための組織等に関する規則をここに公布する。

（趣　旨）

第１条　この規則は、沖縄県教育委員会の権限事務の一部を知事の補助機関である職員及びその管理に属する行政機関の長に委任する規則（平成23年沖縄県教育委員会規則第２号。以下「教育委員会事務委任規則」という。）第2条の規定により知事の補助職員に委任された沖縄県立博物館・美術館（沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成19年沖縄県条例第72号）で設置された沖縄県立博物館・美術館をいう。以下「博物館・美術館」という。）の管理に関する事務を執行するため

の組織その他必要な事項について定めるものとする。

（博物館・美術館の管理に関する事務の所掌）

第２条　博物館・美術館の管理に関する事務のうち、教育委員会事務委任規則第2条本文の規定により文化観光スポーツ部の長（以下「文化観光スポーツ部長」という。）に委任された事務は、沖縄県行政組織規則（昭和49年沖縄県規則第18号。以下「行政組織規則」という。）第76条の規定により設置する文化観光スポーツ部文化振興課が所掌する。

２　博物館・美術館の管理に関する事務のうち、前項に定める事務以外の事務は、博物館・美術館が所掌する。

（内部組織）

第３条　博物館・美術館に総務班、博物館班及び美術館班を置く。

（所掌事務）

第４条　総務班の分掌事務は、次のとおりとする。

（１）　予算、決算その他会計事務に関すること。

（２）　公印の保管に関すること。

（３）　職員の服務及び福利厚生に関すること。

（４）　博物館・美術館協議会に関すること。

（５）　指定管理者との連絡調整に関すること。

（６）　他班の所掌に属さない事務に関すること。

２　博物館班の分掌事務は、次のとおりとする。

（１）　博物館・美術館の博物館施設に係る資料（以下「博物館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。

（２）　博物館資料の利用に関すること。

（３）　博物館施設及びその他施設の利用に関すること。

（４）　博物館資料の調査研究に関すること。

（５）　博物館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。

（６）　博物館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

（７）　他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理するものを除く。）。

（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理するものを除く。）。

３　美術館班の分掌事務は、次のとおりとする。

（１）　博物館・美術館の美術館施設に係る資料（以下「美術館資料」という。）の収集、保管及び展示に関すること。

（２）　美術館資料の利用に関すること。

（３）　美術館施設の利用に関すること。

（４）　美術館資料の調査研究に関すること。

（５）　美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。

（６）　美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

（７）　他の博物館等との相互協力に関すること（美術館班が分掌して処理するものに限る。）。

（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること（美術館班が分掌して処理するものに限る。）。

（職の設置）

第５条　博物館・美術館に、館長、副館長、班長、主査、主事及び学芸員を置く。

２　博物館・美術館に、特に必要と認められるときは、主任学芸員、主任専門員、主任、専門員及びその他の職員を置くことができる。

（職の職務内容）

第６条　前条に掲げる職の職務内容は、上司の命を受けて次の各号に掲げるとおりとする。

（１）　館長は、博物館・美術館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

（２）　副館長は、博物館・美術館の事務を整理し、館長を補佐する。

（３）　班長は、班の事務を処理する。

（４）　主査は、博物館・美術館の特定事務を分掌する。

（５）　主事は、一般的な事務を処理する。

（６）　学芸員は、学芸業務に従事する。

（７）　主任学芸員は、学芸業務を処理する。

（８）　主任専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。

（９）　主任は、一般的な事務を分掌する。

(10)　専門員は、博物館・美術館の専門的業務に従事する。

（その他組織に関する事項）

第７条　第３条から前条までに定めるもののほか、博物館・美術館の組織に関し必要な事項は、博物館・美術館を行政組織規則第５条に規定する公の施設を管理する機関とみなして、同規則の規定を適用する。

一部改正〔令和２年規則29号〕

（委任された事務に係る決裁等）

第８条　教育委員会事務委任規則第２条本文の規定により、文化観光スポーツ部長に委任された事務は、沖縄県事務決裁規定（昭和48年沖縄県訓令第89号）の規定の例により文化観光スポーツ部長が決裁するものとする。

２　教育委員会事務委任規則第２条ただし書の規定により、館長に委任された事務の決裁は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則（昭和53年沖縄県規則第67号）の規定（第３条、第５条及び第13条を除く。）を準用する。この場合において、同規則の規定中「知事」とあるのは「沖縄県教育委員会」と、「所長等」とあるのは「館長」と読み替えるものとする。

３　前２項に定めるもののほか、文化観光スポーツ部長及び館長は、教育委員会事務委任規則第２条の規定により委任された事務の執行に関し重大な疑義が生じたときは、沖縄県教育委員会に協議する等をして適正に事務を処理しなければならない。

４　館長は、前２項の規定又は教育委員会事務委任規則第３条の規定が適用される事務については、文化観光スポーツ部長を経由して同条に規定する手続きを講ずるものとする。

（委任された事務以外の事務の委任及び決裁）

第９条　博物館・美術館の管理に関する事務を執行する組織及び職員の管理その他必要な事務の処理は、館長を沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則第２条第１項第１号に規定する所長等とみなして、同規則の規定を適用する。この場合において、館長は、沖縄県出先機関の長に対する事務の委任及び決裁に関する規則の規定の適用に関し疑義を生じたときは、知事に協議しなければならない。

（委　任）

第10条　この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関する事務の執行に関し必要な事項は、文化観光スポーツ部長に委任された事務については文化観光スポーツ部長が、館長に委任された事務については館長がそれぞれ定める。

附　則
この規則は、平成23年４月１日から施行する。
附　則（令和２年３月31日規則第29号抄）
（施行期日）
１　この規則は、令和２年４月１日から施行する。（後略）

○沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例

平成18年12月27日　条例第72号
〔最終改正〕平成31年３月29日　条例第５号

沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例をここに公布する。

（設　置）
第１条　歴史、芸術、民俗、産業、自然科学等に関する資料（以下「博物館・美術館資料」という。）を収集し、保管し、展示して教育的配慮の下に一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行い、あわせて博物館・美術館資料に関する調査研究を行うため、博物館法（昭和26年法律第285号）第２条第１項に規定する博物館として沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）を設置する。
（位置及び施設）
第２条　博物館・美術館の位置は、那覇市おもろまち３丁目１番１号とする。
２　博物館・美術館は、次に掲げる施設をもって構成する。
（１）　博物館施設
（２）　美術館施設
（３）　その他施設
（事　業）
第３条　博物館・美術館は、次に掲げる事業を行う。
（１）　博物館・美術館資料の収集、保管及び展示に関すること。
（２）　博物館・美術館資料の利用に関すること。
（３）　博物館・美術館の施設の利用に関すること。
（４）　博物館・美術館資料の調査研究に関すること。
（５）　博物館・美術館資料の目録、図録、案内書、解説書、調査研究報告書等の作成及び頒布に関すること。
（６）　博物館・美術館資料についての講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
（７）　他の博物館等との相互協力に関すること。
（８）　教育、学術又は文化に関する施設への協力及びその活動の支援に関すること。
（９）　前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために必要な事業に関すること。
（博物館・美術館の管理）
第４条　博物館・美術館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の２第３項の規定により、法人その他の団体であって教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせるものとする。
（指定管理者の業務）
第５条　指定管理者は、次に掲げる業務を行うものとする。
（１）　博物館・美術館の設置の目的を達成するために教育委員会が必要と認める事業の実施に関する業務
（２）　第11条の規定による観覧料の収受に関する業務、第12条の規定による観覧料の減免に関する業務、第13条ただし書の規定による観覧料の返還に関する業務その他の観覧料の収受に関する業務
（３）　第14条の規定による利用の許可に関する業務、第17条の規定による利用の許可の取消し等に関する業務、第18条第２項の規定による原状回復命令に関する業務その他の利用の許可に関する業務
（４）　第19条及び同条第３項において準用する第11条第５項から第７項までの規定による利用料金の収受に関する業務、第19条第３項において準用する第12条の規定による利用料金の減免に関する業務、第19条第３項において準用する第13条ただし書の規定による利用料金の返還に関する業務その他の利用料金の収受に関する業務
（５）　博物館・美術館の施設及び附属設備の維持及び修繕に関する業務
（６）　前各号に掲げるもののほか、博物館・美術館の管理運営に関して、教育委員会が必要と認める業務
（指定管理者の指定の申請）
第６条　第４条の規定による指定を受けようとするものは、教育委員会規則で定める申請書に事業計画書その他教育委員会則で定める書類（以下「事業計画書等」という。）を添えて、教育委員会に提出しなければならない。
（指定管理者の指定）
第７条　教育委員会は、前条の規定による申請があったときは、次に掲げる基準により審査し、最も適切に博物館・美術館の管理を行うことができると認めるものを候補者として選定し、議会の議決を経て指定管理者を指定するものとする。
（１）　事業計画書等の内容が、県民の公平な利用を確保できるものであること。
（２）　事業計画書等の内容が、博物館・美術館の効用を最大限に発揮させるものであるとともに、効率的な管理がなされるものであること。
（３）　事業計画書に沿った管理を安定して行う物的及び人的能力を有するものであること。
（４）　前３号に掲げるもののほか、博物館・美術館の設置の目的を達成するために十分な能力を有するものであること。
（指定管理者の指定等の告示）
第８条　教育委員会は、前条の規定により、指定管理者を指定したときは、その旨を告示しなければならない。
２　前項の規定は、地方自治法第244条の２第11項の規定により、指定管理者の指定を取り消し、又は期間を定めて管理の業務の全部若しくは一部の停止を命じた場合に準用する。
（休館日）
第９条　博物館・美術館の休館日は、次に掲げるとおりとする。
（１）　月曜日
（２）　12月29日から翌年の１月３日までの日
２　前項第１号に規定する休館日が国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日又は沖縄県慰霊の日を定める条例（昭和49年沖縄県条例第42号）第２条に規定する慰霊の日に当たるときは、その日の後日において最も近い休館日でない日をもって、これに替えるものとする。
３　前２項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、臨時に休館日に開館し、又は休館日以外の日に休館することができる。
（開館時間）
第10条　博物館・美術館の開館時間は、午前９時から午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）までとする。
２　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、必要があると認めるときは、教育委員会の承認を得て、開館時間を臨時

に変更することができる。

（観覧料）

第11条　常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする者は、観覧料を指定管理者に納めなければならない。

２　常設展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第１に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

３　企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、3,150円を超えない範囲内で、その都度指定管理者が定めるものとする。

４　前２項の規定にかかわらず、１年間を通して常設展、企画展又は特別展を観覧しようとする場合の観覧料は、別表第２に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

５　指定管理者は、第２項から前項までの規定により、観覧料を定めようとするときは、あらかじめ教育委員会の承認を受けなければならない。観覧料を変更しようとするときも、同様とする。

６　教育委員会は、前項の承認をしたときは、これを告示するものとする。

７　観覧料は、指定管理者の収入とする。

一部改正〔平成26年条例11号・第31年５号〕

（観覧料の減免）

第12条　指定管理者は、公益上その他特別の理由があると認めるときは、観覧料を減額し、又は免除することができる。

２　前項の規定にかかわらず、指定管理者は、教育委員会規則で定める場合は、教育委員会規則で定めるところにより、観覧料を減額し、又は免除するものとする。

（観覧料の返還）

第13条　既に納付した観覧料は、返還しない。ただし、必要があると認められる場合は、指定管理者は、その全部又は一部を返還することができる。

（利用の許可）

第14条　別表第３に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備（以下「施設等」という。）を利用しようとする者は、あらかじめ指定管理者の許可を受けなければならない。許可を受けた者（以下「利用者」という。）が許可を受けた事項を変更しようとするときも、同様とする。

２　指定管理者は、博物館・美術館の管理上必要があると認めたときは、前項の許可をするに当たり、条件を付することができる。

３　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当するときは、第１項の許可をしないことができる。

（１）　公の秩序を乱し、又は善良な風俗を害するおそれがあると認められるとき。

（２）　公益を害するおそれがあると認められるとき。

（３）　施設等を汚損し、損傷し、又は滅失するおそれがあると認められるとき。

（４）　前３号に掲げるもののほか、施設等の管理上支障があると認められるとき。

（利用期間）

第15条　施設等を引き続いて利用することができる期間は、教育委員会規則で施設等ごとに定める日数以内とする。ただし、指定管理者が特別の理由があると認めるときは、教育委員会規則で定めるところにより、当該期間を変更することができる。

（権利の譲渡等の禁止）

第16条　利用者は、施設等を利用する権利を譲渡し、又は転貸してはならない。

（許可の取消し等）

第17条　指定管理者は、利用者が次の各号のいずれかに該当するときは、第14条第１項の許可を取り消し、又は施設等の利用を制限し、若しくはその停止を命ずることができる。

（１）　この条例若しくはこの条例に基づく規則又はこれらに基づく指示に違反したとき。

（２）　偽りその他不正な手段により許可を受けたとき。

（３）　許可に付した条件に違反したとき。

（４）　第14条第３項各号のいずれかに該当するに至ったとき。

（原状回復の義務）

第18条　利用者は、施設等の利用を終えたとき、又は前条各号のいずれかの規定に該当することにより利用の許可を取り消されたときは、速やかに施設等を原状に回復しなければならない。

２　指定管理者は、利用者が前項の義務を履行しないときは、その原状回復に必要な措置をとるべきことを命ずることができる。

（利用料金）

第19条　利用者は、施設等の利用に係る料金（以下「利用料金」という。）を指定管理者に納めなければならない。

２　利用料金は、別表第３に定める基準額に100分の70を乗じて得た額から当該基準額に100分の130を乗じて得た額までの範囲内で、指定管理者が定めるものとする。

３　第11条第５項から第７項まで、第12条及び第13条の規定は、利用料金について準用する。

（事業報告書の提出）

第20条　指定管理者は、毎年度終了後30日以内に、教育委員会規則で定めるところにより、事業報告書を作成し、教育委員会に提出しなければならない。

（博物館・美術館協議会）

第21条　博物館・美術館に、博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会の委員（以下「委員」という。）の任命の基準は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から任命することとする。

３　委員の定数は、15人以内とする。

４　委員の任期は、２年とする。ただし、欠員が生じた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

５　委員は、再任されることができる。

６　第２項から前項までに定めるもののほか、協議会の組織及び運営に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

一部改正〔平成24年条例46号〕

（教育委員会規則への委任）

第22条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

（施行期日）

１　この条例は、公布の日から起算して１年を超えない範囲内において教育委員会規則で定める日から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

（平成19年６月教育委員会規則第11号で、同19年11月１日から施行）

（準備行為）
２　第７条の規定による指定管理者の指定、第11条第５項の規定による観覧料の承認及び第19条第３項において準用する第11条第５項の規定による利用料金の承認並びにこれらに関し必要な手続その他の行為は、この条例の施行前においても、第６条から第８条まで、第11条第２項から第６項まで並びに第19条第２項並びに同条第３項において準用する第11条第５項及び第６項の規定の例により行うことができる。
（沖縄県立教育機関設置条例の一部改正）
３　沖縄県立教育機関設置条例（昭和47年沖縄県条例第24号）の一部を次のように改正する。
第１条中「、図書館法」を「及び図書館法」に改め、「及び博物館法（昭和26年法律第285号）第18条」を削り、「必要な事項」を「、必要な事項」に改める。
第５条及び第６条を削り、第６条の２を第５条とし、第７条を第６条とし、第７条の２を第７条とする。
第８条中「、第５条及び第６条の２」を「及び第５条」に改める。
（沖縄県立教育機関使用料徴収条例の一部改正）
４　沖縄県立教育機関使用料徴収条例（昭和47年沖縄県条例第37号）の一部を次のように改正する。
第２条第１項中「別表第１又は別表第２」を「別表」に改め、同条第２項を削る。
別表第１を削り、別表第２を別表とする。
附　則（平成24年３月30日条例第46号）
この条例は、平成24年４月１日から施行する。
附　則（平成26年３月31日条例第11号抄）
（施行期日）
１　この条例は、平成26年４月１日から施行する。
附　則（平成31年３月29日条例第５号）
（施行期日）
１　この条例は、平成31年10月１日から施行する。
（経過措置）
２　この条例による改正後のそれぞれの条例規定は、この条例の施行の日以後に徴収し、又は納めるべき使用料、採取料、占用料、着陸料等及び駐車料について適用し、同日前に徴収し、又は納めるべき使用料、採取料、占用料、着陸料等及び駐車料については、なお従前の例による。

別表第１（第11条関係）

区分		基準額（１人につき）	
		個人の場合	団体の場合
博物館施設	一般	420円	340円
	大学生及び高校生	270円	210円
	中学生及び小学生	150円（県外の中学生及び小学生に限る。）	120円（県外の中学生及び小学生に限る。）
美術館施設	一般	320円	260円
	大学生及び高校生	210円	170円
	中学生及び小学生	100円（県外の中学生及び小学生に限る。）	80円（県外の中学生及び小学生に限る。）

備考
１　「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
２　「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
３　「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
４　「団体の場合」とは、20人以上の団体で観覧する場合及び教育委員会規則で定める場合をいう。
一部改正〔平成26年条例11号・31年５号〕

別表第２（第11条関係）

区分		基準額（１人につき）		
		一般	大学生及び高校生	中学生及び小学生
博物館施設	常設展	1,250円	780円	470円（県外の中学生及び小学生に限る。）
	常設展、企画展及び特別展	4,400円	2,720円	1,680円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,180円）
美術館施設	常設展	950円	630円	320円（県外の中学生及び小学生に限る。）
	常設展及び企画展	4,080円	2,720円	1,370円（県内の中学生及び小学生にあっては、1,030円）

備考
１　「一般」とは、「大学生及び高校生」及び「中学生及び小学生」のいずれにも該当しない者（小学校就学の始期に達するまでの者を除く。）をいう。
２　「大学生及び高校生」とは、大学の学生及び高等学校の生徒その他これらに準ずる者をいう。
３　「中学生及び小学生」とは、中学校の生徒及び小学校の児童その他これらに準ずる者をいう。
一部改正〔平成26年条例11号・31年５号〕

別表第３（第14条、第19条関係）
１　施設利用料金
（１）　博物館施設利用料金

区分		基準額（１日につき）
企画展示室	入場料を徴収しない場合	30,480円
	入場料を徴収する場合	91,450円
特別展示室	入場料を徴収しない場合	29,920円
	入場料を徴収する場合	119,750円
実習室	入場料を徴収しない場合	9,430円

	入場料を徴収する場合	28,280円
講座室	入場料を徴収しない場合	16,650円
	入場料を徴収する場合	49,970円

（２） 美術館施設利用料金

区分		基準額（１日につき）
県民ギャラリー１		8,480円
県民ギャラリー２		7,850円
県民ギャラリー３		7,850円
県民ギャラリースタジオ		8,590円
県民アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,330円
	入場料を徴収する場合	22,000円
子供アトリエ	入場料を徴収しない場合	7,850円
	入場料を徴収する場合	23,570円
企画展示室１	入場料を徴収しない場合	34,370円
	入場料を徴収する場合	103,080円
企画展示室２	入場料を徴収しない場合	42,640円
	入場料を徴収する場合	127,920円
講座室	入場料を徴収しない場合	9,530円
	入場料を徴収する場合	28,600円

（３） その他施設利用料金

区分		基準額（１時間につき）
講堂	入場料を徴収しない場合	3,570円
	入場料を徴収する場合	10,680円

２ 附属設備利用料金

種別	単位	基準額
舞台器具	１回１点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
音響器具	１回１点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
照明器具	１回１点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額
冷房設備	１時間につき	3,000円以内で教育委員会規則で定める額
その他教育委員会規則で定める附属設備	１回１点又は一式につき	10,000円以内で教育委員会規則で定める額

備考

１ 「入場料」とは、入場料、会費、会場整理費その他名称のいかんを問わず、入場の対価として徴収するものをいう。

２ 利用料金の基準額が１時間を単位として定められている施設等の利用者が許可された利用時間を超過して当該施設等を利用する場合における利用料金の基準額は、この表の区分に従い、次のとおりとする。

（１） 午前９時から午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）までの間は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の２分の１の額に100分の120を乗じて得た額

（２） 午後６時（金曜日及び土曜日にあっては、午後８時）後は、超過時間30分間（30分間に満たない端数は、これを30分間とする。）につき、当該区分に定める基準額の２分の１の額に100分の150を乗じて得た額

一部改正〔平成26年条例11号・31年５号〕

○沖縄県立博物館・美術館管理規則

平成19年３月16日 教育委員会規則第１号
平成24年２月21日 教育委員会規則第１号
平成26年３月31日 教育委員会規則第６号
平成27年３月24日 教育委員会規則第４号
平成31年３月29日 教育委員会規則第２号
〔最終改正〕令和３年３月26日 教育委員会規則第２号

沖縄県立博物館・美術館管理規則をここに公布する。

（趣 旨）

第１条 この規則は、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例（平成18年沖縄県条例第72号。以下「条例」という。）の規定並びに地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第21条第１号及び博物館法（昭和26年法律第285号）第19条の規定に基づき、沖縄県立博物館・美術館（以下「博物館・美術館」という。）の管理に関し必要な事項を定めるものとする。

（寄贈及び寄託）

第２条 博物館・美術館に資料を寄贈又は寄託しようとする者は、博物館・美術館資料寄贈申込書（第１号様式）又は博物館・美術館資料寄託申請書（第２号様式）を提出しなければならない。

２　受贈又は受託を決定したものについては、博物館・美術館資料受贈受諾書（第３号様式）又は博物館・美術館資料受託承認書（第４号様式）を交付するものとする。
３　寄贈又は寄託に要する経費は、寄贈者又は寄託者の負担とする。ただし、博物館・美術館の館長（以下「館長」という。）が必要と認めた場合はこの限りでない。
４　第２項の規定により寄贈を受けた資料は、理由のいかんにかかわらず返却しない。
５　第２項の規定により寄託を受けた資料は、寄託者の請求又は博物館・美術館の都合により返付する。

（寄贈資料及び寄託資料の管理等）

第３条　寄託された資料の管理は、博物館・美術館所蔵の資料の管理に準ずるものとする。
２　寄託資料が火災その他の不可抗力により、滅失し、汚損し、又は損傷したときは、県及び館長並びに指定管理者は、損害賠償の責任を負わないものとする。

（指定管理者の指定の申請）

第４条　条例第６条の規則で定める申請書は、指定管理者指定申請書（第５号様式）によるものとする。
２　条例第６条の規則で定める書類は、次に掲げる書類とする。
（１）　法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書
（２）　法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る。）
（３）　申請に係る業務の実施の方法を記載した書類
（４）　最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他の経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日の属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）
（５）　役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類
（６）　前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

（観覧券の交付）

第５条　指定管理者は、博物館・美術館の展示品を観覧しようとする者が所定の観覧料を納付した場合又は指定管理者により後納が認められた場合は、観覧券を交付するものとする。

（観覧料の免除）

第６条　条例第12条第１項の規定により観覧料の免除を受けようとする者は、あらかじめ観覧料免除申請書（第６号様式）を指定管理者に提出し、その承認を受けなければならない。
２　条例第12条第２項の規定により観覧料を免除することができる場合は、次のとおりとする。
（１）　県内の中学校の生徒及び小学校の児童並びにその他これらに準ずる者の引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
（２）　県内の高等学校の生徒、その他これらに準ずる者及びその引率者が教育課程に基づく教育活動として博物館・美術館の常設展を観覧する場合
（３）　70歳以上の者が常設展を観覧する場合
（４）　身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第４項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合
（５）　知的障害者で都道府県知事又は地方自治法（昭和22年法律第67号）第252条の19第１項の指定都市の市長から療育手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合
（６）　精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第２項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者及びその介護者が常設展を観覧する場合

（入館の禁止等）

第７条　指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する者に対して入館を禁じ、又は退館を命ずることができる。
（１）　館内の秩序を乱すおそれがあると認められる者
（２）　その他指定管理者が適当でないと認める者

（施設利用の許可等）

第８条　条例別表第３に掲げる博物館・美術館の施設又は附属設備を利用しようとする者は、あらかじめ博物館・美術館施設利用許可申請書（第７号様式）を提出しなければならない。

（利用期間）

第９条　条例第15条本文に規定する教育委員会規則で施設等ごとに定める日数は、次の各号に掲げる施設等の区分に応じ当該各号に定める日数とする。
（１）　博物館施設の企画展示室及び特別展示室並びに美術館施設の企画展示室１及び企画展示室２並びにこれらの施設の冷房設備　６月
（２）　前号に掲げる施設等以外の施設　７日
２　条例第15条ただし書の規定により利用期間を変更しようとする者は、沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願（第８号様式）を指定管理者に提出しなければならない。

（利用料金の免除）

第10条　条例第19条第３項において準用する第12条第２項の規定により利用料金を免除することができる場合は、沖縄県が条例第３条各号に掲げる事業を行うために利用する場合とする。
２　条例第19条第３項において準用する第12条第２項の規定により利用料金の免除を受けようとする者は、博物館・美術館施設利用許可申請書を提出する際に、併せて沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書（第９号様式）を指定管理者に提出しなければならない。
３　指定管理者は、利用料金の免除を承認したときは、沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書（第10号様式）を利用者に交付するものとする。

（事業報告書の内容等）

第11条　条例第20条の事業報告書は、次に掲げる事項を記載して提出するものとする。
（１）　博物館・美術館の管理運営に関する業務（以下「業務」という。）の実施状況
（２）　業務に係る収支状況
（３）　博物館・美術館の利用状況
（４）　前３号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める事項

（博物館・美術館協議会の組織等）

第12条　博物館・美術館協議会（以下「協議会」という。）の委員は、沖縄県教育委員会が任命する。
２　協議会に会長及び副会長を置き、委員のうちから互選する。
３　会長は協議会を代表し、会務を総理する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。
５　協議会の会議は、会長が招集し、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
６　会議の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。
７　協議会は協議のため必要があると認める場合は、調査を行い、又は専門家その他の関係者の出席を求め、意見若しくは説明を聴くことができる。
８　協議会の委員は、職務上知り得た秘密を漏らしてはならない。その職を退いた後も、同様とする。
９　協議会の庶務は、博物館・美術館において処理する。
10　その他協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

（観覧料の割引）

第13条　条例別表第１備考４に規定する教育委員会規則で定める場合は、博物館施設又は美術館施設の常設展を観覧しようとする日と同じ日に博物館・美術館が行う他の展示と併せて観覧する場合とする。ただし、併せて観覧する他の展示の観覧料が無料の場合は、この限りでない。

（附属設備の利用料金の基準額）

第14条　条例別表第３第２項の表に規定する教育委員会規則で定める額は、別表に掲げるとおりとする。

（補　則）

第15条　この規則に定めるもののほか、博物館・美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会が別に定める。

附　則

（施行期日）

１　この規則は、条例の施行の日〔平成19年11月１日〕から施行する。ただし、次項の規定は、公布の日から施行する。

（準備行為として行う申請に必要な申請書等）

２　条例附則第２項の規定により準備行為として行う指定管理者の指定の申請に必要な申請書及び書類については、第４条の規定の例による。

（沖縄県立博物館の管理に関する規則等の廃止）

３　次に掲げる規則は、廃止する。
（１）　沖縄県立博物館の管理に関する規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第13号）
（２）　沖縄県立博物館協議会規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第29号）

（沖縄県教育庁組織規則の一部改正）

４　沖縄県教育庁組織規則（昭和47年沖縄県教育委員会規則第１号）の一部を次のように改正する。
第31条第３号中「沖縄県立博物館」を「沖縄県立博物館・美術館」に改める。
第33条第４号中「沖縄県立博物協議会」を「博物館・美術館協議会」に改める。

附　則（平成24年２月21日教育委員会規則第１号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成26年３月31日教育委員会規則第６号）

この規則は、平成26年４月１日から施行する。

附　則（平成27年３月24日教育委員会規則第４号抄）

（施行期日）

１　この規則は、平成27年４月１日から施行する

附　則（平成31年３月29日教育委員会規則第２号）

この規則は、平成31年10月１日から施行する。

附　則（令和３年３月26日教育委員会規則第２号）

この規則は、令和３年４月１日から施行する。

別表（第14条関係）

１　附属設備（冷房設備を除く。）の利用料金

種別	品名	単位	基準額
舞台器具	演台	１台	320円
	花台	１台	100円
	司会台	１台	150円
音響器具	メインスピーカー	１式	1,050円
	コンデンサーマイク	１本	320円
	ワイヤレスマイク	１本	630円
	ダイナミックマイク	１本	210円
	ビデオテープレコーダー	１台	730円
	ＤＶＤプレーヤー	１台	1,310円
	ＣＤ、ＭＤプレーヤー	１台	420円
	ＨＤ／ＤＶＤレコーダー	１台	1,310円
照明器具	ボーダーライト	１列	320円
	サスペンションライト	１列	520円
	アッパーホリゾントライト	１列	730円
	シーリングライト	１列	630円
	センターピンスポットライト	１台	420円
その他	書画カメラ	１台	840円
	ビデオプロジェクター	１台	1,470円
	電動スクリーン	１式	1,150円
	35ミリフィルム映写機	１式	5,240円

備考　附属設備利用料金の基準額は、１ステージごとの額とする。ただし、長時間連続して利用する場合は、４時間ごとに１ステージとみなす。

２　冷房設備の利用料金

区分		単位	基準額
博物館施設	企画展示室	１時間までごとに	660円
	特別展示室	１時間までごとに	870円
	実習室	１時間までごとに	200円

	講座室	１時間までごとに	360円
美術館施設	県民ギャラリー１	１時間までごとに	180円
	県民ギャラリー２	１時間までごとに	170円
	県民ギャラリー３	１時間までごとに	170円
	県民ギャラリースタジオ	１時間までごとに	190円
	県民アトリエ	１時間までごとに	150円
	子供アトリエ	１時間までごとに	170円
	企画展示室１	１時間までごとに	740円
	企画展示室２	１時間までごとに	930円
	講座室	１時間までごとに	210円
その他施設	講堂	１時間までごとに	620円

第１号様式（第２条関係）

博物館・美術館資料寄贈申込書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申込者
住　　所
氏　　名

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄贈したいので、受領されるよう申込みます。

記

1　種　別

2　作者名

3　作品名

4　製作年月日

5　附属品

6　資料所在地

7　時価見積額

8　寄贈の理由

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第２号様式（第２条関係）

博物館・美術館資料寄託申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

申請者
住　　所
氏　　名

私所有の下記の資料を沖縄県立博物館・美術館へ寄託したいので、受託されるよう申請します。

記

1　種　別

2　作者名

3　作品名

4　製作年月日

5　附属品

6　資料所在地

7　寄託期間　　年　　月　　日　から
年　　月　　日　まで

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第３号様式（第２条関係）

博物館・美術館資料受贈受諾書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長　　印

年　　月　　日付け申込のあった博物館・美術館資料の寄贈については下記により受諾します。ただし、寄贈を受けた資料については、沖縄県立博物館・美術館管理規則第２条第４項の規定により返却されません。

記

1　種別

2　作者名

3　作品名

4　製作年月日

5　附属品

6　資料所在地

7　時価見積額

8　寄贈の理由

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第４号様式（第２条関係）

博物館・美術館資料受託承認書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長　　印

年　　月　　日付け申請のあった博物館・美術館資料の寄託については下記により受託します。

記

1　種別

2　作者名

3　作品名

4　製作年月日

5　附属品

6　受託期間　　年　　月　　日　から
年　　月　　日　まで

7　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第５号様式（第４条関係）

年　　月　　日

沖縄県教育委員会　殿

申請者　所　在　地

団体の名称

代表者の氏名

指 定 管 理 者 指 定 申 請 書

沖縄県立博物館・美術館の管理に係る指定管理者の指定を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館の設置及び管理に関する条例第６条の規定により申請します。

添付書類

１　事業計画書

２　法人である団体にあっては、定款又は寄附行為及び登記事項証明書

３　法人でない団体にあっては、定款又は寄附行為に相当する書類及び代表者の身分証明書（市区町村長が発行するものに限る）

４　申請に係る業務の実施の方法を記載した書類

５　最近の事業年度における事業報告書、貸借対照表、収支決算書、財産目録その他経理的基礎を有することを明らかにする書類（申請の日に属する事業年度に設立された法人にあっては、その設立時における財産目録）

６　役員の氏名、住所及び履歴を記載した書類

７　前各号に掲げるもののほか、教育委員会が必要と認める書類

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第６号様式（第６条関係）

観 覧 料 免 除 申 請 書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館

指定管理者　　殿

申請者住所

氏名

電話

下記の理由により博物館・美術館観覧料の免除を受けたいので、沖縄県立博物館・美術館管理規則第６条第１項の規定に基づき申請します。

記

１　観覧者　団体名

引率者名

２　観覧者数　　人

３　観覧日時　　年　　月　　日（　　曜日）　　時～　　時

４　申請理由

承　　認　　証

殿

年　　月　　日付け申請の博物館・美術館の観覧料免除の件、申請どおり承認します。

年　　月　　日　　沖縄県立博物館・美術館

指定管理者　　印

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第７号様式（第８条関係）

博物館・美術館施設利用許可申請書

沖縄県立博物館・美術館　　年　　月　　日

指定管理者　　殿

申請者氏名

電　話

下記により貴館施設を利用したいので、申請します。

記

１　利用者　団体名

代表者名　　印　　職業（　　）

住　　所　　電話

２　利用目的

３　利用する施設

４　利用する日時及び期間

自：　　年　　月　　日　　時　　分

至：　　年　　月　　日　　時　　分

（　　）日間

５　予定参加人数　　人

許　　可　　証

月　　日付け申請の（　　）使用の件、申請どおり許可します。

年　　月　　日　　沖縄県立博物館・美術館

指定管理者　　印

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第８号様式（第９条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用期間変更願

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館

指定管理者　　殿

申　請　者

住　　所

団　体　名

代表者氏名

電 話 番 号

沖縄県立博物館・美術館管理規則第９条第２項の規定により次のとおり利用期間の変更を願い出ます。

記

１　催物の名称

２　利用する日時及び期間

自：　　年　　月　　日　　時　　分

至：　　年　　月　　日　　時　　分

（　　）日間

３　利用期間の変更を願い出る理由

４　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第９号様式（第10条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除申請書

年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　殿

申　請　者
住　　所
団　体　名
代表者氏名
電 話 番 号

次のとおり利用料金の免除を申請します。

記

1　催物の名称

2　利用目的

3　催物の内容

4　利用する日時及び期間

自：　　年　　月　　日　　時　　分
至：　　年　　月　　日　　時　　分
（　　）日間

5　減額・免除を申請する理由

6　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

第10号様式（第10条関係）

沖縄県立博物館・美術館利用料金免除承認書

年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館
指定管理者　　印

次のとおり利用料金の免除を承認します。

記

1　催物の名称

2　利用目的

3　催物の内容

4　利用する日時及び期間

自：　　年　　月　　日　　時　　分
至：　　年　　月　　日　　時　　分
（　　）日間

5　利用料金免除額

6　備考

備考　用紙の大きさは、日本工業規格A列４判とする。

○沖縄県立博物館・美術館保管資料の利用に関する取扱要領

平成14年３月14日　教育長決裁
平成28年12月28日　　最終改正

（目　的）

第１条　この要領は、沖縄県立博物館が保管する資料（以下「資料」という。）の利用について必要な事項を定めるものとする。

（定　義）

第２条　この要領において利用とは、次の各号に掲げることをいう。

（１）　展示会等における原資料等の借用。
（２）　同資料の撮影。
（３）　原資料等を被写体として製作された写真原板や印画などの借用。
（４）　撮影等による複製品の製作。
（５）　原資料等の閲覧。
（６）　教育普及資料の借用。

（許可の基準）

第３条　博物館長（以下「館長」という。）は、教育・学術・文化等に係わる事業、学術研究の推進並びに文化の向上に資する事業、又は館長が特に必要と認めた場合において資料の利用を許可することができる。ただし、次の各号の一に掲げる事項はこの限りでない。

（１）　資料の保存に悪影響が生じると認められる場合。
（２）　好ましくない用途に供されると認められる場合。
（３）　館の事務処理に支障が生じると認められる場合。
（４）　資料のうち、ほかに権利を有する者があるものについて、事前に書面による同意を得ていない場合。
（５）　過去に目的外使用の事実又は許可条件に違反する事実があると認められる場合。
（６）　その他、許可することが適当でないと認められる場合。

（許可申請の手続き）

第４条　資料の利用を希望する者は、以下の各号に応じ、資料利用申請書（以下「申請書」という。）に事業の趣旨や主体者、事業計画等を記載した企画書等を添えて館長に利用開始14日前までに、申請しなければならない。

（１）　原資料等の借用（第１号様式）
（２）　写真撮影、原板・印画の借用（第２号様式）
（３）　複製品の製作（第３号様式）
（４）　原資料等の閲覧（第４号様式）
（５）　教育普及資料の借用（第５号様式）

（審査及び決定）

第５条　前条の規定による申請があつた場合、館長は次の各号に掲げる事項について、審査し、許可するかどうかを決定しなければならない。

（１）　事業の趣旨及び内容。
（２）　事業の主体者。
（３）　事業計画。
（４）　その他必要な事項。

（許可書の交付）

第６条　資料利用を許可する決定を行つたときは、次の各号により当該申請者に対し別表のとおりの条件を付した資料利用許可書（以下「許可書」という。）を交付するものとする。ただし、館長が特に必要と認めた軽微なものについては、その限りでない。

（１）　原資料等の借用（第１－１号様式）
（２）　写真撮影、原板・印画の借用（第２－１号様式）
（３）　複製品の製作（第３－１号様式）
（４）　原資料等の閲覧（第４－１号様式）
（５）　教育普及資料の借用（第５－１号様式）

２　館長は前項のほか、必要と認められる場合は、別に条件を付することができる。

附　則

この要領は、平成14年４月１日から実施する。

附　則

この要領は、平成19年11月１日から実施する。

別表（第６条関係）各申請の資料利用の許可条件

利用申請の内容 （各申請様式）	資　料　利　用　の　許　可　条　件	
	共　通　条　件	個　別　条　件
原資料等の借用 （第１号様式）	①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。 ②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館所蔵」と明記すること。 ③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。 ④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。 ⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。	①資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。 ④借用によつて生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
写真撮影、原板・印画の借用 （第２号様式）		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ③写真原板の貸与期間は３週間以内とする。 ④郵送費は申請者が負担すること。 ⑤資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
複製品の製作 （第３号様式）		①撮影は原則として休館日の午後に行うこと。 ②撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。 ③製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。 ④製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。 ⑤写真原板の貸与期間は３週間以内とする。 ⑥資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
原資料等の閲覧 （第４号様式）		①展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。 ②閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。 ③閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
教育普及資料の借用 （第５号様式）		①貸与期間は１週間以内とする。 ②資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。 ③資料の利用にあたつては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。 ④万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。

第１号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（原資料等の借用）

令和　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により原資料等の館外利用を許可くださるようお願いします。

記

事　業　名			
借用希望期間	年　　月　　日　～　　月　　日		
目　　的			
展示等場所			
資　料　名		員　数	備　考
１． ２． ３． ４．			

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。
⑨借用によつて生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第１－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（原資料等の借用）

博　美　第　　号
令和　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

令和　　年　　月　　日付けで申請のあつた資料の館外利用については、下記により許可します。

記

事　業　名			
借 用 期 間	年　　月　　日　～　　月　　日		
目　　的			
展示等場所			
資　料　名		員　数	備　考
１． ２． ３． ４．			

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥資料の梱包または輸送、借用期間の保存管理については申請者が一切の責任を負うこと。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧貸与期間は原則として２ヶ月以内とする。
⑨借用によつて生じた成果品を当館に１部（１点）を納付すること。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第２号様式　（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（写真撮影、原板・印画の借用）

令和　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により資料の写真撮影、原板・印画の利用を許可くださるようお願いします。

記

利　用　区　分		１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※○で囲む			
希望日時・期間		年　　月　　日　～　月　　日　　時　～　　時			
目的	事　項	名　　称	部　数	制作予定日	備　　考
	出版物 映　画 テレビ ＤＶＤ Ｃ　Ｄ その他				
資　　料　　名			数　量	仕　様	備　　考
１． ２． ３．					

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑧写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑨郵送費は申請者が負担すること。
⑩資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第２－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（写真撮影、原板・印画の借用）

博　美　第　　号
令和　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

令和　　年　　月　　日付けで申請のあつた資料の利用については、下記により許可します。

記

利　用　区　分		１　写真原板使用　　２　撮影　　３　掲載　　※○で囲む			
日　時・期　間		年　　月　　日　～　月　　日　　時　～　　時			
目的	事　項	名　　称	部　数	制作予定日	備　　考
	出版物 映　画 テレビ ＤＶＤ Ｃ　Ｄ その他				
資　　料　　名			数　量	仕　様	備　　考
１． ２． ３．					

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑧写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑨郵送費は申請者が負担すること。
⑩資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第３号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（複製品の製作）

令和　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により複製品製作のため資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	１　写真原板使用　２　撮影　３　掲載　※○で囲む				
希望日時・期間	年　月　日 ～ 月　日　時 ～ 時				
目　的					
製 作 仕 様					
製 作 予 定 日	令 和　年　月　日	製作点数	点	販 売 価 格	円

資　料　名	数　量	仕　様	備　考
１． ２． ３．			

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
⑨製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑩写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑪資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第３－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（複製品の製作）

博　美　第　　号
令和　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館･美術館長

令和　　年　　月　　日付けで申請のあつた特別利用については、下記により許可します。

記

利 用 区 分	１　写真原板使用　２　撮影　３　掲載　※○で囲む				
日 時 ・ 期 間	年　月　日 ～ 月　日　時 ～ 時				
目　的					
製 作 仕 様					
製 作 予 定 日	令 和　年　月　日	製作点数	点	販 売 価 格	円

資　料　名	数　量	仕　様	備　考
１． ２． ３．			

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥撮影は原則として休館日の午後に行うこと。
⑦撮影等製作過程における事故等によつて与えた損傷は、申請者が一切の責任を負うこと。
⑧製作工程表、製作記録など当館の指示するものを提出すること。
⑨製作された写真デュープやビデオ、ＣＤ等を当館に無償で１部（１点）納付すること。納付された製作品は当館が展示等で自由に使うことができる。
⑩写真原板の貸与期間は３週間以内とする。
⑪資料利用によつて製作されたものは、登録商標化等により独占しないものとし、所有権を侵害しないものとする。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第４号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（原資料等の閲覧）

令和　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により原資料等の閲覧を許可くださるようお願いします。

記

目　　的				
閲覧希望日時	令和　　年　　月　　日　　時～　　時		閲覧人員	
資料名		員数	備考	
１． ２． ３． ４． ５．				

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
⑦閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。
⑧閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第４－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（原資料等の閲覧）

博　美　第　　号
令和　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館・美術館長

令和　　年　　月　　日付けで申請のあつた資料の閲覧については、下記により許可します。

記

目　　的				
閲 覧 日 時	令和　　年　　月　　日　　時～ 時		閲覧人員	
担 当 学 芸 員				
資料名		員数	備考	
１． ２． ３． ４． ５．				

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること
⑥展示資料の閲覧は休館日の午後に行うこと。
⑦閲覧する資料は、原則として１日５点以内とする。
⑧閲覧によつて得られた成果（論文や著作等）は、当館に１部（１点）納付すること。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第５号様式（第４条関係）

資 料 利 用 申 請 書
（教育普及資料の借用）

令和　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館長　殿

代表者名：　　印
申請者　団 体 名：
（担当者氏名　　）
住　　所：〒
TEL：
FAX：

下記により教育普及資料の利用を許可くださるようお願いします。

記

利 用 区 分	１学校（学年・学級）行事　　２地域・団体行事　　３その他		
希望日時・期間	年　月　日（　時）～　年　月　日（　時）		
行 事 名		参 加 人 員	
目 的			

資料名	数量	備考
１． ２． ３． ４．		

※留意事項
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥貸与期間は１週間以内とする。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧資料の利用にあたつては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

第５－１号様式（第６条関係）

資 料 利 用 許 可 書
（教育普及資料の借用）

博　美　第　　号
令和　　年　　月　　日

殿

沖縄県立博物館･美術館長

令和　　年　　月　　日付けで申請のあつた資料利用については、下記により許可します。

記

利 用 区 分	１学校（学年・学級）行事　　２地域・団体行事　　３その他		
日 時 ・ 期 間	年　月　日（　時）～　年　月　日（　時）		
行 事 名		参 加 人 員	
目 的			

資料名	数量	備考
１． ２． ３． ４．		

※許可条件
①当館学芸員の指示に従い、館員の勤務時間内に行うこと。
②資料の利用に当たつては、必要に応じ「沖縄県立博物館・美術館所蔵」と明記すること。
③資料の紛失あるいは損傷を与えた場合は、修理、製作等に係る実費を負担すること。
④資料のうち、当館以外に所有権者がいる場合は、当該者の同意書を添付すること。
⑤申請の際には、返信用封筒（切手貼付）を添えること。
⑥貸与期間は１週間以内とする。
⑦資料の運搬その他費用を要する場合は、申請者が負担すること。
⑧資料の利用にあたつては、事故が生じないよう取り扱いに十分留意すること。
⑨万一の事故等については、申請者が一切の責任を負うこと。
前項に違反した行為があつたときは、この許可を取り消すことがある。

○沖縄県立博物館･美術館共催及び後援等に関する取扱要領

平成23年５月23日　部長決裁

(目的)

第１条　この要領は、沖縄県立博物館･美術館が共催又は後援等を行う事業について必要な事項を定めるものとする。

(用語の定義)

第２条　この要領において、次の各号に定める用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

（１）　共催事業の企画､運営に参画し､また経費の一部を負担するなど､当該事業について責任の一部を負担することをいう。

（２）　後援等、後援、協力、協賛等で、当該事業の趣旨に賛同し、事業の実施について協力することをいう。

(名義)

第３条　この要領による共催又は後援等の名義は｢沖縄県立博物館･美術館｣とする。

(承認基準)

第４条　共催又は後援等の承認基準は別表１のとおりとする。

２　前項の規定にかかわらず、博物館活動の見地から館長が特に必要があると認めるものについては、共催又は後援等の承認をすることができるものとする。

(申請手続き)

第５条　共催又は後援等の承認を受けようとするものは、別記第１号様式又は次の事項を記載した書面を、原則として事業開催の14日前までに、沖縄県立博物館･美術館長に提出するものとする。

（１）　事業の名称、目的及び内容

（２）　主催者の職、氏名及び事務局等連絡先

（３）　開催日時(期間)及び開催場所

（４）　参加対象者及び参加見込者数

（５）　他の共催者及び後援者等(予定者を含む)

（６）　参加料金その他参考事項

(決定)

第６条　前条の規定による申請があった場合、沖縄県立博物館･美術館長はその内容を審査し、適当と認められるときは別記第２号様式の回答書により、承認できないときはその旨を、それぞれ当該申請者に通知するものとする。

(事業計画の変更)

第７条　共催又は後援を承認した事業であっても、申請時の事業計画を変更し、又は中止しようとするときは、申請者は速やかに当該変更又は中止に係る内容について届け出なければならない。

(承認の取消)

第８条　共催又は後援等を承認した事業であっても、その内容が第４条の承認基準に該当しなくなったときは、その承認を取り消すものとする。

２　前項の規定による承認の取消については、第６条の規定を準用する。

(事業の完了報告)

第９条　共催又は後援等を承認した事業のうち、必要があると認める場合は、別記第３号様式もしくはそれに変わる書面で報告を求めることができる。

(雑則)

第10条　共催又は後援の承認の手続きを経ずに、第３条に規定する名義を無断使用した場合（承認前に既に印刷し、公表した場合を含む。）は、警告書を出すとともに、以後の共催又は後援等の承認は認めないものとする。

附　則

この要領は、平成23年５月23日から施行する。

別表１(第４条関係)

共催又は後援等の承認基準

主催者についての承認基準	１　国、地方公共団体及びこれらの機関並びにその連合体 ２　教育機関及び教育研究団体 ３　新聞社、放送局等報道関係 ４　公益法人その他教育、芸術、文化又はスポーツの向上普及に寄与する事業を行う団体(宗教団体又は政治団体をく。)
事業内容についての承認基準	１　県及び県教育委員会の運営方針に反しないものであり、教育施策上からの効果が期待できるものであること。 ２　博物館･美術館の所掌業務と関連するもので､高い公益性を有すると認められるもの。 ３　政治的、宗教的又は商業的活動に関する宣伝、勧誘等を意図するものでないこと。 ４　特定の団体の利益を目的とするものでないこと。 ５　事業の内容及び規模からみて、営利を目的とするものでないと客観的に判断されるものであること。

備考

１　主催者については、主催者についての承認基準の１から４までのいずれかに該当するものでなければならない。

２　事業内容については、事業内容についての承認基準のすべての項目に該当するものでなければならない。

第１号様式

第　　号
令和　　年　　月　　日

沖縄県立博物館・美術館
館長　殿

申請者
代表者名　　印
団体名
所在地
（電話　　）

行事の共催、後援等について（申請）

次のとおり行事を開催するについて、沖縄県立博物館・美術館の共催（後援）（協力）（協賛）の承認を得たいので、申請します。

記

１　事　業　名	
２　事業の趣旨・内容（なるべく具体的に記入すること。）	
３　主催者、共催者及び後援者	
４　参加者及び参加方法	
５　参　加　者　数	
６　開催日時及び場所	
７　経費負担の区分	
８　その他の必要事項	

第２号様式

博　美　第　　号
令和　年　月　日

殿

沖縄県立博物館・美術館
館長

の　について（回答）

令和年月日付け第号で申請のあった標記のことについては、以下の条件を付して承認します。

記

１　事　業　名

２　名義使用の方法

３　名義使用の期間

４　経　　費

５　実施結果の報告の有無

６　その他

第３号様式

第　　号
令和　年　月　日

沖縄県立博物館･美術館殿

申請者
代表者名
団体名　　印
所在地
（電話　　）

の結果について（報告）

令和年月日付博美第　　号により承認のあった標記の事業の結果について、次のとおり報告します。

記

Ⅰ事業報告

１ 事　業　名	
２ 事業の概要	
３ 参　加　者	
４ 日時及び場所	
５ 所　　見 （事業の効果等を含む）	
６ 備　　考	

Ⅱ収支決算

1）収入の部		2）支出の部	
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
	円		円
合計	円		円

○沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会設置要綱

平成20年２月19日　教育長決裁

（設　置）

第１条　沖縄県立博物館・美術館が収取しようとする美術品等（以下「美術品等」という。）に関し、必要な事項を検討するため、沖縄県立博物館・美術館美術品等収集委員会（以下「委員会」という。）を設置する

（任　務）

第２条　委員は次の事項について意見を述べる。

（１）　美術品等の評価に関すること。

（２）　その他美術品等の収集に関すること。

（組　織）

第３条　委員会は、委員７人以内で組織する。

２　委員は次の各号にそれぞれ該当する者のうちから、会議ごとに教育長が選任する。

（１）　美術品等について専門的な知識及び学識経験を有する者。

（２）　美術品等と利害関係が無く、公正な判断ができる者。

（会長及び副会長）

第４条　委員会に、会長及び副会長を置く。

２　会長及び副会長は、委員の互選によってこれを定める。

３　会長は、会務を総理し、委員会を代表する。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある場合には、その職務を代理する。

（会　議）

第５条　委員会は教育長が招集する。

２　委員会は、委員の過半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

（守秘義務）

第６条　委員は、職務上知りえた秘密を他に漏らしてはならない。

（庶　務）

第７条　委員会の庶務は、沖縄県立博物館・美術館において処理する。

（雑　則）

第８条　この要綱に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、沖縄県立博物館・美術館長が別に定める。

附　則

この要領は、平成20年２月19日から実施する。

○『沖縄県立博物館・美術館（令和２年度　実績報告）№14』の23頁掲載「１　総入館者集計」に間違いがありましたので、訂正いたします。

Ⅰ　入館者統計

１　総入館者集計

（単位：人）

年	月	博物館												美術館									全体				総入館者	開館日数	一日平均入館者数
		常設展			企画展			特別展			全体			コレクション展			企画展			全体			展示室合計			展示以外（共有）			
		有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	小計	有料	無料	小計	有料	無料	合計	有料	無料	合計				
2020（令和2）	4	303	97	400	0	0	0	0	0	0	303	97	400	125	49	174	990	119	1,109	1,115	168	1,283	1,418	265	1,683	1,850	3,389	8	424
	5	245	290	535	290	194	484	0	0	0	535	484	1,019	110	195	305	0	0	0	110	195	305	645	679	1,324	642	1,774	10	177
	6	1,078	552	1,630	848	335	1,183	0	0	0	1,926	887	2,813	545	162	707	0	0	0	545	162	707	2,471	1,049	3,520	4,649	7,272	24	303
	7	1,606	707	2,313	1,379	475	1,854	0	0	0	2,985	1,182	4,167	762	219	981	403	216	619	1,165	435	1,600	4,150	1,617	5,767	5,000	9,116	21	434
	8	67	34	101	69	31	100	0	0	0	136	65	201	24	10	34	29	15	44	53	25	78	189	90	279	97	316	1	316
	9	1,367	432	1,799	0	0	0	1,333	449	1,782	2,700	881	3,581	594	151	745	655	171	826	1,249	322	1,571	3,949	1,203	5,152	4,303	8,558	21	408
	10	1.833	1,180	3,013	0	0	0	1,999	1,053	3,052	3,832	2,233	6,065	628	573	1,201	1,196	565	1,761	1,824	1,138	2,962	5,656	3,371	9,027	7,843	15,428	27	571
	11	2,224	3,356	5,580	0	0	0	1,737	1,031	2,768	3,961	4,387	8,348	1,230	1,235	2,465	312	151	463	1,542	1,386	2,928	5,503	5,773	11,276	9,968	20,395	25	816
	12	2,546	1,666	4,212	3,333	806	4,139	0	0	0	5,879	2,472	8,351	1,065	666	1,731	5,454	205	5,659	6,519	871	7,390	12,398	3,343	15,741	8,610	21,949	26	844
2021（令和3）	1	1,847	1,160	3,007	2,653	920	3,573	0	0	0	4,500	2,080	6,580	902	440	1,342	18,788	846	19,634	19,690	1,286	20,976	24,190	3,366	27,556	3,594	28,544	27	1,057
	2	1,564	683	2,247	5,320	434	5,754	0	0	0	6,884	1,117	8,001	897	335	1,232	0	0	0	897	335	1,232	7,781	1,452	9,233	8,753	16,848	24	702
	3	2,995	987	3,982	7,777	1,081	8,858	0	0	0	10,772	2,068	12,840	917	425	1,342	1,327	209	1,536	2,244	634	2,878	13,016	2,702	15,718	6,719	23,090	25	924
合計		17,675	11,144	28,819	21,669	4,276	25,945	5,069	2,533	7,602	44,413	17,953	62,366	7,799	4,460	12,259	29,154	2,497	31,651	36,953	6,957	43,910	81,366	24,910	106,276	62,028	156,679	239	656
目標		82,592			36,125			6,739			125,456			28,809			47,183			75,992			201,448						
達成率(%)		21.40%			59.98%			75.22%			51.18%			27.07%			61.79%			48.63%			40.39%						

沖縄県立博物館・美術館年報　No.15（令和３年度実績）
2022 年（令和４）12 月 23 日

編集・発行：沖縄県立博物館・美術館
住　　所：〒900-0006
沖縄県那覇市おもろまち３丁目１番１号
Ｔ　Ｅ　Ｌ：098-941-8200（代表）
Ｆ　Ａ　Ｘ：098-941-2392（代表）
ホームページ：https://okimu.jp
（沖縄県立博物館・美術館ホームページ）
印　　刷：新星出版株式会社
住　　所：那覇市港町 2-16-1（琉球新報開発ビル２Ｆ）